



国立国語研究所報告 30—1 (付録A)

日本語地図解説

— 方 法 —

国立国語研究所

1966 (初版)

1981 (縮刷版)

まえがき

この「日本言語地図解説——方法——」では、主として、調査について述べ、研究室における地図編集の方法については、ほとんどふれなかった。後者については、すべての地図が完成する時をまって、あらためてまとめたいと思う。なお、調査については、別に「国立国語研究所年報7（昭和30年）」から「国立国語研究所年報16（昭和39年）」までに関連する部分があるから、参照されたい。

本編英文に関しては、非常勤職員 W. A. グロータースの協力を受けた。

徳川宗賢

目 次

調査の目的	1
調査の方法	1
あらし(1), 質問形式(2), 質問の方法(2), 同行調査(3)	
調査票	3
調査項目	4
あらし(4), 内容(4), 調査項目の履歴(7), 調査項目の選定(16)	
調査地点	18
あらし(18), 島(21), 地点の産業(21), 調査地点の選定(22), 調査地点の決定(23)	
被調査者	24
あらし(24), 被調査者の条件(24), 被調査者の決定(26)	
調査の実態	29
資料の性格と整理の方針	31
あらし(31), 表記(31), 分類(31), 地図への記載(32), 方言調査基礎図(33), その他の資料(34)	
沿革と経過	35
日本の言語地理学の歴史(35), 日本語地図の経過(36), 分担者(36)	
Introduction	39
付 録	
1. 調査地点一覧	47
2. 調査票その他(付図—119・調査の手引き—131)	103

調 査 の 目 的

われわれは、日本語地図を作成することによって、さらに、それを通しての言語地理学の研究によって、限られた資料の範囲からではあるが、次の2点を明らかにしようとする。

(1) 現代日本語の基礎とその成立過程——現代日本語標準語は、江戸、19世紀後半からは、近代国家日本の首都となった東京のことばを中心として成立しつつある。20世紀初頭に確立した現代日本文学語も、東京の新しさを中核とした。

しかし、このことが、関東地方の方言を基礎としているのか、あるいは、どの程度他地方の方言を加味しているのかは、現在かならずしも明らかでない。さらに、標準語と同じ表現を前方として使う地域が、どこに、どのくらいの広さで分布するのか、また、他のいかなる表現と対立しつつ分布するのかは、ほとんど知られていない。

日本語地図の完成によって、選ばれた標準語の全国分布が明らかになり、その範囲内で、日本語標準語が、各地で、さまざまな競争者とのように戦い、いかなる経過をたどって成立しつつあるかが、言語地理学的に解明さ

れるであろう。また、二つ(あるいはそれ以上)の語形が唯一の標準語形の優を争うものについては、その地理的背景を、一目のもとに知ることができる。

(2) 日本語の地理的差異の成立と、各種方言語形の歴史——標準語と方言の対立を後述しても、日本語に多様な地域語の存在することはよく知られている。

しかし、これらのさまざまな変種が、いかに成立し、現在どのように流動しつつあるか、たとえば、現代の問題として、関西経済圏の中心地大阪の影響力が、言語的に、どのように周辺に及んでいるか、などは、ほとんど明らかでない。また、焦点を各方言語形の生成・発展・衰亡の歴史にしばってみても、その解明は今後にかまされていく。

日本語地図は、日本の言語地理学の最初の基本的な文献として、各方面の利用に供せられるであろう。すでに、従来の言語地理学が、それぞれの言語について明らかにしつつあるような、言語変化の諸形式、言語変化に及ぼす外的諸要因、地理的分布の各種の類型が、明らかになると考えられる。

調 査 の 方 法

1地点1名を選んだ。調査地点の総数は、2,400地点である。

1. あ ら ま し

日本語地図作成のための資料は、すべて調査者自身(計65名。20ページあるいは96ページ参照)が現地へ赴いて、もともと適当と考えられる被調査者を選び、直接面接して、所定の手続きにより、主として、顔に關する所定の調査票(28頁の質問項目を含む)、および付録(28頁)を使って集めたものである。すなわち、厳密に統一ある調査によって得られた新資料といえることができる。

被調査者の条件は別に示す通りであるが、原則として

調査の対象となることばは、被調査者自身の使用語とし、特に、日常のくつろいだ雰囲気中で、親しい人々と話す時などに使うことばを第一とした。この場合、標準語と一致する表現を除外しないことは、言うまでもない。以前に使ったことがあるが、今は使わないことばや、指定以外の状況でしか使わないことばには、注記を加えることとした。さらに、被調査者の使わないことば(古いことばやごく新しいことばなど)を答えた場合は、付記することばとした。被調査者のことばを、音声学的に、できるだけ忠実に記録しようとしたことは、もちろんであ

る。
被調査者が答えたときの状況は次のような符号によって示し、区別することとした。

- ① 笑いながら答えた。
- ② 自信なさそうに答えた。
- ③ はにかきそうに答えた。
- ④ だいたい答えてから答えた。
- * 訂正した新しい答え。

2. 質問形式

(1) 一定の質問・なぜなら式質問——日本音節地図作成のための資料は、一定の質問文によって求めた。さらに、必要に応じて、特定の身振り手振りを利用する項目もある。統一を求めたのは、多数の調査者の共同調査であることを考えたためであった。

質問文は、限定した意味内容を示して語形を求め、いかわる、なぜなら式質問を原則とした。各質問文の下には、必要と認められた場合、注意事項が示してある。

- 例：070 足の裏とかみかきの下などをそっとかくと、妙な笑いたくなるような感じがします。その感じがどんなだと言いますか。

〈クダグタイ〉

- 071 こういうふうに足を組んで座につくことを、どうすると言いますか(あぐらをかいて座っている人の絵を示す)。

〈アグラクナク〉

標準語形を示して翻訳させたり、あらかじめ準備した予想語形を示して答えを求めるとは避けた。これは、被調査者が所定の質問を聞いて答えるにそうにしている場合も同様である。翻訳文をとななかったのは、現代日本における標準語と方言の共存状況を考えたためと、標準語形と方言語形の分担する意味分野が、かならずしも一致しない場合のあることを考えたからである。標準語の1アザと2ホケウを、ともにアザと言う地域や、1ホケウと、2アザと言う地域がある。標準語のコホル、水が流るると、濡れた手拭などが流るの意味分野を、これらと、コホルとシムルに言い分ける地域がある。これらの場合、アザを何と言う、コホルを何と言うと尋ねては、よい結果を期待できない。

予想語形を示す方法をとならなかったのは、各地の予想

語形を、公平にあらかじめ用意する自信がなかったからである。

(2) S式質問——なぜなら式質問のほかにも、日本音節地図作成のために、語形を示して、それに対する意味分野を求めると新しい形式の質問を加えた。調査表で項目番号の次にSを付した43項目が、それである。この調査表では、この形式の質問を〈S式〉質問と呼んだ(SはsemanticのS)。

〈S式〉質問には、二種類のものがある。1は、Xという語形をどういう意味で使うかという質問であり、2は、Xという語形を*という意味で使うかという質問である。

1の例：

141S 家の「にわ」と言ったらどんな所のことですか。

2の例：

142S 土間、つまり家の中床の張っていない所を、

「にわ」と言いますか。

Xを、そのまま用いないが、類似した語形をたら、かくかこの意味で使うという場合の取り扱いなどについては、別に考へた。

(3) C式質問——このほか、標準語形に二形以上の同義語があるもの(キレーダ・ウツクシなど)について、いずれを使うか尋ねる項目が五つある。調査表で、項目番号の次にCを付したものが、それである。この調査では、この形式の質問を〈C式〉質問と呼んだ(CはchoiceのC)。

例：250C 味のいい食べものを食べて、「ああキツイ」と言いますか*か「ああウマイ」と言いますか*それとも別の言い方をしますか。

(4) 音声調査項目——さらに、音声の特徴に注目して調べる項目が18ある。これは、調査時の注目点を示すところが違いますが、質問形式はなぜなら式と同じである。

例：290 この広い所(音中を身振りで示す)を何と言いますか。

〈注目点も、セナカ〉

3. 質問の方法

資料を集める直接の行動は、質問文、および所定の絵や身振りによって行ない、ほかのことは発聲しないことを原則とした。しかし、質問文を自然に話したときには言

いかえたり、方言文脈を適当に加味することは、さしつかえないこととした。

なお、質問中に起こるいろいろな場合の処理については、次のようにきめた。

- a. 答えがなかなか出ないとき——質問文をくりかえしたり、また質問文の範囲内で解説する。それでも答えないときは無答と見做してみる。
- b. 標準語で答え、あるいは方言が出ないとき——別の言い方はありませんか、土地のこともほかではどう言いますが、などと聞いてみる。それでも答えないときは、答えた語形と取りあえる。
- c. 求める語彙で答えないとき——もう少し追求めてみる。適当な答えがでないときは、そのまま採用する。
- d. 二つ以上の答えの出たとき——意味・用法上の違いをかならず確かめて注記する。
- e. 答え以外の被調査者の発言——民間語源など、必要の認められるものは、記録する。
- f. 質問の対象が被調査者の生活圏内になくと思われるとき——補かめる。
- g. 見当りのまちがった答えをしたとき——質問文をくりかえし、または質問文の範囲内で解説して誤解を解

く。所定とそれより違った質問で得た答えは、質問文を記録する。それでも求める答えがでない場合、明らかに誤りは無答と同じ扱いとし、誤りらしいがそうでないかもしれないものは、調査者の察いを行って記録する。

h. 第三者の発言——第三者が、被調査者の発言を、善意にてもさまざまな事柄は極力助産する。調査の相手は被調査者本人だから、第三者の答えを記録するにしても、かならず注記が必要である。

4. 同行調査

調査の統一については、万全を期するために、各地方研究員について、1回はある地点で地方音節研究家員の集りが(同行調査)を行ない、調査視察でおこなうさまざまな事柄について打ち合わせ、統一をはかるように努めた。何年度に、どの地方研究員について、どの研究員がどこで同行調査を行なったかについては、「国立国語研究所年報」を参照されたい。例外として、沖縄を担当した2名の地方研究員については、調査の理由から、この同行調査を実行することができなかった。

調 査 票

この調査に使用した調査票については、項目に關して別項で説明し、またその全文を付録(105ページ以下)に示すので、ここでは次の4点のみを指摘しておく。

第1調査票	(表紙)	(使用年度—原則)*
a 第1調査票(30項目)	草色	第1~第3年度に使用
b 新第1調査票(25項目)	碧色	第4~第5年度に使用
c 改訂第1調査票(18項目)**	空白	第6~第8年度に使用
第2調査票		
a 第2調査票(200項目)	灰色	第1~第3年度に使用
b 新第2調査票(194項目)	灰色	第4~第5年度に使用

* たとえば第5年度にも第2調査票を使用したところにより、原則と異なる調査票を使った地点もある。また、沖縄・奄美諸島では地域の特性を考慮して原則として8年制。第1・第2調査票に關しては、aまたはbを使用し、cは使わなかった。各地点での使用調査票の詳細は、付録の調査地点一覧参照。
** この印のある3種の調査票の中には、地域によって調査しなくてもいい項目を含んでいる。詳細は調査項目の説明の、最後のところ(15ページ)参照。

昨晚 <106>
 今日(きょう) <102>
 今晚 <112>
 明日(あした) <108>
 明晩(あしたのばん) <113>
 明後日(あさって) <109>
 明々後日(しあさって) <110>
 明々後日(今のあさって) <111>
 正月(syūgata) <274>
 七月(syūgata) <276>
 元日(ganzitu) <278>
 七日(なのか) <238>
 九日(このか) <239>
天 地
 東(higari) <274>
 太陽 <114>
 月 <116>
 いい天気だ <270>
 雨 <117>
 梅雨(つゆ) <118>
 夕立 <119>
 雷(かみなり) <120>
 雷が落ちる <122>
 ゴロゴロ(雷鳴) <121>
 稲光(いなびき) <122>
 虹 <124>
 雪 <125>
 氷 <126>
 氷る <127>
 凍る <128>
 氷柱(つらら) <129>
 嵐(kaze) <272>
 嵐風(つむじかぜ) <130>
 煙 <271>
 湯気 <152, 153>
 埃 <133>
 塵芥(ごみ) <131, 132, 134>
 灰 <130, 131>
 タナル <172 S>
 嵐(kage) <279>
 地煙 <135>
 霞 <138>

モリ <140 S>
 林 <136>
 ハヤシ <169 S>
 ハヤシナマ <137 S>
獣・鳥
 馬 <213>
 牡馬 <214>
 牝馬 <215>
 仔馬 <216>
 騾(たがのみ) <217>
 牛 <218>
 牝牛 <219>
 牝牛 <220>
 仔牛 <221>
 モオモオ(牛の鳴声) <222>
 太陽 <114>
 鹿(か) <223>
 鹿(か) <224>
 モオモオ(鹿の鳴声) <225>
 熊(くま) <226>
 チョッチョ(熊の鳴声) <227>
 雀 <228>
 チュンチュン(雀の鳴声) <229>
 雀冠(なつか) <230>
魚・虫
 魚 <234>
 ウオ <235 S>
 ナカナ <236 S>
 鯉(うろこ) <276>
 鮎(かまゆ) <206>
 鮎(ひがえる) <209>
 鯉(あたまじゃく) <207>
 鮎(kaze) <272>
 鮎(あたまじゃく) <201>
 鮎(あたまじゃく) <202>
 鮎(あたまじゃく) <203>
 鮎(あたまじゃく) <204>
 鮎(あたまじゃく) <205>
 鮎(あたまじゃく) <206>
 鮎(あたまじゃく) <207>
 鮎(あたまじゃく) <208>
 鮎(あたまじゃく) <209>
 鮎(あたまじゃく) <210>
 鮎(あたまじゃく) <211>
 鮎(あたまじゃく) <212>
 鮎(あたまじゃく) <213>
 鮎(あたまじゃく) <214>
 鮎(あたまじゃく) <215>
 鮎(あたまじゃく) <216>
 鮎(あたまじゃく) <217>
 鮎(あたまじゃく) <218>
 鮎(あたまじゃく) <219>
 鮎(あたまじゃく) <220>
 鮎(あたまじゃく) <221>
 鮎(あたまじゃく) <222>
 鮎(あたまじゃく) <223>
 鮎(あたまじゃく) <224>
 鮎(あたまじゃく) <225>
 鮎(あたまじゃく) <226>
 鮎(あたまじゃく) <227>
 鮎(あたまじゃく) <228>
 鮎(あたまじゃく) <229>
 鮎(あたまじゃく) <230>

鷹(はえ) <297>
 鷹(かまきり) <301>
植物
 米 <173>
 粟(うるち) <174>
 穂(もろこし) <175>
 粟米 <176>
 粟(もみ) <178>
 穂(むか) <179>
 玉蜀黍(とうもろこし) <180>
 粟(さといも) <187>
 甘藷(さつまいも) <188>
 馬鈴薯(じゃがいも) <189>
 イモ <189 S>
 茄子(なす) <282>
 唐辛子(とうがらし) <283>
 南瓜(かぼちゃ) <191>
 西瓜(anika) <281>
野生植物
 松笠 <197>
 竹 <198>
 葦(あし) <192>
 蒲公英(たんぽぽ) <193>
 萩草(どくだみ) <196>
 杉草(すぎな) <195>
 土筆(つし) <194>
 葎(きのこ) <279>
 コケ <277 S, 278 S>
 蕨(け) <199, 200>
C. 動詞・形容詞・その他
動 詞(50音順)
 胡蝶(あぐら)をか <207>
 鹿(あさ)ができる <209>
 アズカ <207 S, 208 S>
 蝶(いびき)をか <204>
 鹿 <208 C>
 蝶(うそ)をつ <202>
 鹿(あ)が落ちる <212>
 オナク <201 S>
 オドロク <208 S, 209 S, 303 S>
 おんぶする <201 C>

(胡蝶を)か <207>
 (蝶を)か <204>
 (む)を <204 C>
 伏す <100>
 眠る <092, 093>
 片足眠る <087>
 担(か)つ <283, 284, 285, 286>
 カツケル <101 S>
 雷(か)が落ちる <122>
 雷(か) <099>
 尖(か)す <022>
 クナル <172 S>
 鹿(か)す <234>
 眠(か)る <096>
 眠(か)る <127>
 凍(か)る <128>
 背負(か)う <282>
 (先を)す <022>
 捨(か)てる <235>
 ステル <202 S>
 坐(か)する <072>
 味(か)する <055>
 センタクスル <170 S, 171 S>
 炊(か)く <148>
 (種を)つ <021>
 伴(か)る <023, 024>
 ナオス <025 S, 026 S, 027 S>
 匂(か)を嗅ぐ <042>
 煮(か)る <149>
 煮(か)る <231>
 ハンズル <211 S, 212 S>

吃(か)ぶ <286>
 肥(か)ふ <287>
 買(か)う <094>
 満(か)る <096>
形容詞(50音順)
 アオイ <200 S>
 赤い <018>
 アカイ <019 S>
 甘い <052>
 悪い <052>
 いい(天気だ) <270>
 (味が)薄い <051>
 美味しい <258 C>
 大きい <158>
 辛い <050>
 黄色い <017>
 きな臭い <040>
 濃(か)す <270>
 きな臭い <041>
 スチル <163>
 こまかい <051>
 コワイ <203 S, 204 S, 205 S, 206 S>
 (風)辛い <049>
 西向い <283>
 酸(か)い <053>
 小さい <159>
 ない <209>
 太い <160>
 細い(は) <161>

粒(か)ぶしい <115>
 その他(50音順)
 いくつ <014, 016>
 いくら <015>
 雨(か) <250 C>
 雨(か) <249 C>
 ケチダ <207 S, 208 S, 209 S, 210 S>
 ゴロゴロ(雷鳴) <121>
 チョッチョ(熊の鳴声) <227>
 チュンチュン(雀の鳴声) <229>
 モオモオ(鳥の鳴声) <225>
 モオモオ(牛の鳴声) <222>
**D. 音声調査項目(50音順・カッ
 コ内は注目点)**
 汗(せ) <259>
 鹿(か) <250>
 雀(か) <279>
 火(か) <277>
 元日(か) <278>
 正月(か) <274>
 西瓜(か) <281>
 飯(か) <278>
 音(か) <280>
 東(か) <273>
 藍(か) <258>

3. 調査項目の履歴

285項目を8年間、全地点で調査したわけではない。
 途中で打ち切った項目もあれば、追加した項目もある。
 初年度、第1, 第2調査票で発生した当時は、230項目であった。第4年度第3調査票として追加したものは27項目で、第5年度第4調査票として追加したものは27項目で、
 一方、第3年度を終わって、第一回の第1, 第2調査票改訂時に打ち切ったもの11項目、第5年度を終わって、第二回の改訂時に打ち切ったもの55項目、第5年度を終わって、第3・4調査票を収録する際に打ち切ったもの4項目であった。
 別に、第6年度以降(すなわち後期計画)、38項目について、調査する地域と調査しない地域を分けた。以下に、項目ごとの履歴を、どの調査票に載っているかという観点から示す(ここでは50音順に配列した)。
 新第1, 改訂第1調査票で除いた。
 改訂第2調査票で除いた。

アオイ(青い) <200 S>
 アカ(箱) <074>

アカイ (赤い) <018>
アカイ (明るい) <019S>
アグラオカク <071>
アゴ (鰯) <232>
アザ (痘) <058>
アザ <062S>
アザガケル (アザケル) <059>
アヤチ <109>
アシタ (明日) <108>
アシタノバン (明晩) <113>
アズケル (与える) <097S>
アズケル (与える) <098S>
アセ (汗) <259>
アセ (嘘) <182>
アタマ (頭) <031>
アマイ (甘い) <052>
アメ (甜) <117>
アライ (粗い) <162>
イケンキダ <270>
イクツ (年齢) <014>
イクツ (回数) <016>
イクツ (値段) <015>
イチャクバン <107>
イト (糸) <166>
イフ (井戸) <147>
イビカリ <122>
イビキオカク <054>
イモ (芋・薯・薯) <189S>
イル (居る) <268C>
ウオ (魚) <255S>
ウダ (牛) <218>
ウスイ (味) <031>
ウソオツク <021>
ウチ (家祖) <244>
ウチ (家祖・家祖) <245S>
ウチ (家祖・家祖) <246S>
ウマ (馬) <213>
ウルチ (肥) <174>
ウロコ (鱗) <078>
オイシイ <253C>
オキキイ <156>
オウシ (牡牛) <219>

改訂第1調査票で除いた。
改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第3, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
新第2, 改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
新第2, 改訂第2調査票で除いた。
第4, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
新第2, 改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

第4, 第3・4調査票で加えた。
第3, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第1調査票で除いた。
第3, 第3・4調査票で加えた。
第3調査票で加え, 第3・4調査票で除いた。
第3調査票で加え, 第3・4調査票で除いた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

オウマ (牡馬) <214>
オホネ (鐵) <090>
オジイサン (祖父) <242>
オタマジャクシ <007>
オナル (降りる) <201S>
オトリ (釣針) <091>
オナダマ <055>
オナダマ(アソビ) <084>
オトコ <080>
オトイ <104>
オドロク (目覚める) <028S>
オドロク (目覚める) <029S>
オドロク (吃驚する) <030S>
オニゴッコ <068>
オヤニビ <063>
オリイト (鐵糸) <169>
オンナ <081>
オンズル <261>
カエル (蛙) <008>
カオ (籠) <057>
カカシ (栗山子) <185>
カカト <059>
カガミ <290>
カクレボ <089>
カゲ (籠) <279>
カジダ (火事た) <277>
カセ (貸付) <100>
カズ (風) <272>
カズニル (鏡) <092>
カズニル (物) <098>
カタアシトビスル <087>
カタダルマ <086>
カタムリ <005>
カツダ (荷物) <263>
カツダ (穂) <254>
カツダ (天秤) <265>
カツダ (二人で) <266>
カツケル (借りてくる) <101S>
カド <144S>
カド (屋外) <145S>
カド (網籠) <146S>
カナヘビ <013>

第3, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
新第1, 改訂第1調査票で除いた。
新第1, 改訂第1調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第4, 第3・4調査票で加えた。

第4, 第3・4調査票で加えた。

第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。

カボチャ <191>
カマキリ <901>
カミナリ <130>
カミナリガオチル <123>
カタイ (堅かしい) <949>
カタイ (辛い) <650>
カワル (掛り) <999>
ガソジツ <275>
キイロイ <917>
キナクサイ <940>
キスイト <167>
キノオ <103>
キノコ <979>
キウオスエル <922>
キョオ (今日) <102>
キレダ (美しい) <250 C>
キレニ (清潔に) <249 C>
クサル (濡れる) <172 S>
クスグタイ <970>
クスグル <234>
クスリユビ <966>
クナ (口) <944>
クナビル <947>
クモ (蜘蛛) <902>
クモノイト <903>
クモノス <904>
クムブツ <235>
クレル (呉れる) <996>
クチダ <207 S>
クチダ (不都合) <208 S>
クチダ (不思議) <209 S>
クチダ (香附) <210 S>
クムリ <271>
クウシ (仔牛) <221>
クウマ (仔馬) <216>
クオリ (米) <136>
コキル (氷る) <127>
コキル (凍る) <128>
コケ <977 S>
コケ (耶) <978 S>
コダクサイ <941>
コノカ <289>

改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第1調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第3, 第3・4調査票で加えた。
第3, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で除いた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第1調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第1調査票で除いた。
改訂第1調査票で除いた。
第3, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
第4, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で除いた。
新第2, 改訂第2調査票で除いた。

第3, 第3・4調査票で加えた。

コマカイ <163>
ゴミ <131>
ゴミ <132>
ゴミ <134>
コマ (米) <173>
コマビツ <177>
コニビ <907>
ゴロゴロ (雷鳴) <121>
コワイ <203 S>
コワイ (危れる) <204 S>
コワイ (悪い) <205 S>
コワイ (恐しい) <206 S>
コワイ (恐しい) <207>
コンバン <112>
サカナ <254>
サカナ (魚) <256 S>
サキオトイ <105>
サクバン <106>
サツマイモ <188>
サトイモ <187>
シアサッチ <110>
シオカワイ→カライ
シクタイ <233>
ジシン (地面) <135>
シヤ (舌) <948>
シヤグフ <276>
シヤヤケ <968>
ジャガイモ <185>
ショウ (賣良) <262>
ショウガフ <274>
スイカ <281>
スギナ <195>
スズメ <228>
スギイ <963>
ステル (失ふ) <202 S>
ステル <235>
スミレ <192>
スリゴギ <196>
スリバチ <158>
スワル <972>
ゼイキン <273>
セキオスル <955>

改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。

新第2, 改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
第3, 第3・4調査票で加えた。

第3, 第3・4調査票で加えた。
第3, 第3・4調査票で加えた。

第4, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。

第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。
第4, 第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

スギイ <963>
改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
第3, 第3・4調査票で加えた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。
改訂第2調査票で除いた。

第4, 第3・4調査票で加えた。

ホクロ (061)
 ホコリ (188)
 ホソイ (161)
 ホホ (086)
 マツカサ (197)
 マナイト (154)
 マブシイ (115)
 マムシ (011)
 マユビ (083)
 マワタ (165)
 メウシ (220)
 メウマ (215)
 ミズオチ (073)
 ミミ (043)
 メ (094)
 モオモオ (222)
 モグラ (225)
 モチゴメ (176)

改訂第2調査票で除いた。
 改訂第2調査票で除いた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
 改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

改訂第2調査票で除いた。

項目	地域	北海道	北海道	青森	岩手	秋田	山形	福島	茨城	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川県	新潟	富山	石川	福井	
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	XV	XVI	XVII	XVIII
あか	い	019S	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
い	く	058	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
あ	ず	097S	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
す	け	031		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
い	く	014		×	×								×	×	×				×
い	く	016		×	×				×				×	×					
い	く	015		×	×								×	×					
	糸	166											×	×					
井	戸	147	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	牛	218	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
お	ち	201S	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
お	ど	028S	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	女	081						×	×	×	×	×	×	×					
貸	十	100	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
か	一	101S	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
っ	る	099	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
借	り	099						×	×	×	×	×	×	×					
尖	を	022											×	×					
今	日	102	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	口	044	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
類	雑	002						×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

モノモライ (086)
 モミガラ (178)
 モミツト (168)
 モラウ (094)
 モリ (138)
 モリ (140S)
 ヤシゴ (文部) (241)
 ヤノアツチ (111)
 ヤル (遊) (096)
 ヤンマ (255)
 ヌダチ (119)
 ニキ (125)
 ニゲ (152)
 ニゲ (153)
 ニダレ (045)
 ワタ (164)

改訂第2調査票で除いた。
 改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
 改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
 改訂第2調査票で除いた。
 第3、第3・4調査票で加えた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。
 第4調査票で加え、第3・4調査票で除いた。

改訂第2調査票で調査を打ち切る地域の指定がある。

38項目の特例 第6年度以降(すなわち後期計画)とを分けて指定した38項目と、地域の関係は、次表の通り。×印は、調査しない地域を示す。

山	長	岐	豊	三	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	山	徳	香	愛	高	橋	佐	長	熊	大	宮	鹿	児	
山	長	岐	豊	三	滋	京	大	兵	奈	和	鳥	島	岡	山	徳	香	愛	高	橋	佐	長	熊	大	宮	鹿	児	
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

項目	地域	調査項目												
		北海道Ⅰ	北海道Ⅱ	青森	岩手	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	千葉	東海	近畿
呉すてす瀬戸	096 228 209S 157	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
田尻たてがさ	180 092 217 230	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
無おす尻	269 036S 150 231	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
耳目ら	043 034 094 138	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
や雪	095 125	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

4. 調査項目の選定

調査項目は、「調査の目的」に合うように考えて選んだ。日常基本語彙のうちから、かなりの数を選んだのは、主として、目的のゆえであった。標準語形を与えて、使うかどうか選べる項目を加えたのも、このためである。目的のゆえには、別の、いくつかの観点を立てた。たとえば、生活の分野や、方言圏の大小、分布の地形など、また、語の変遷がかならずしも個別の語でなく、関連する他の語と相関的に変化するものがあるかもしれないと考えて、単語のセットをいくつか加えたものもこのためである。音声に関するいくつかの項目や、意味の変化に関する項目を加えたのは、山と谷の、両方の目的にかかわると言えよう。

文法に関する項目も、計画当初には考慮したが、調査現場での制約を考慮して、若干の前に関連する項目を除いて、廃棄した。

調査項目は次の材料をもとにして選んだ。

- ① 地方研究員からの提案——1955年、地方言語研究会は、同年度の地方研究員に対して、日本語地図作成に関する資料収集の方法(通信調査か現地調査か)、調査項目の案、音声表記法はいかにすべきか、調査地点の選定と並び、若調査者選定の基準について、意見を求めた。ここにいう地方研究員からの提案とは、その調査項目の案をさす。具体的な項目案のほかは、語彙・単語・単語などの付加的意味のあるもの、語調などのようにいろいろの表現のできるものは除くべきである。同音異義語について、語形を目的に、どんな意味で使われているか調べるべきだという原則の意見もあった。具体的内容は、研究員によってさまざまであったが、次の②以下で集めたもの、ほとんどが覆った。

- ② 全国方言辞典・分県方言辞典——地方研究員に対する委託と平行して、地方言語研究会でも、独自に資料を集めた。全国を対象とする関係上、標記の二辞典を主要資料とした。結局、160項目ほどが、この範囲から選ばれた。

- ③ 基本語資料各種——国立国語研究所の報告書の中で、当時公開されていた「婦人絶跡の用語」地域社会

項目	地域	調査項目															
		山形	長秋	静	愛三	滋京	大兵	奈和	歌	鳥島	岡広	山池	香登	高福	佐長	熊大	宮高
梨野早岡	096 228 209S 157	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
田尻たてがさ	180 092 217 230	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
無おす尻	269 036S 150 231	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
耳目ら	043 034 094 138	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
や雪	095 125	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

の生活言語「談話語の実態」を参照した。結局180項目ほどが、この範囲から選ばれた。なお④との間に65ほどの重複がある。

- ④ その他——各種既刊の方言調査簿・外国の言語地図調査の項目、その他各種方言研究の参考文献を参考にした。この範囲から、ほぼ20項目が選ばれた。

以上の資料から、次のような手続きで、具体的な調査項目にしようとしていた。

- ① 判定——以上の資料から、候補として4,000項目以上が得られた。しかし、その中には、調査者が地域を分担して行なう全国調査の場合、不適当なものかなり含まれていた。全国すべての地点で答えるの得られないもの(特殊な社会、職業、自然環境に関するものなど)や、調査の誤差が、結果に大きく響く可能性のあるもの(語彙・待遇・場面などの付加的意味のあるもの、語調など)のようにいろいろの表現が可能なもの)などである。これらは、あらかじめ除外した。

- ② 準備調査——①でふるいにかけた残りを、数回の準備調査によって精選していった。調査のしやすさ、結果のよき見通しを考えるとともに、全項目が、なるべく

生活の各分野におたるとに配慮した。また、項目相互の関係性を考慮して、いく組かの単語のセットを作ることも心掛けた。項目に関する準備調査は次に示すように、1955年度から1956年度にかけて、5回行なわれた。

1. 中国・四国地方準備調査(使用調査型1,150項目)
2. 新宮市準備調査(540項目)
3. 秋田県七輪町準備調査(320項目)
4. 全国94地点での準備調査(299項目)……1956年度地方研究員委託
5. 宮崎県高城町準備調査(299項目)

以上の結果から、調査開始当時の第1、第2準備調査に盛り込まれた230項目が、次第にかたまると言えよう。なお、これらの準備調査では、項目の選定ばかりを考えていたわけではない。各調査(番号で示す)の結果を考慮した観点では、次の通り。

- ① 項目数——1地点300項目前後が適当であると考えられた。
- ② 質問形式—— $(A \sim Z)$ 形式によることを考えた。

- ② 項目の範囲——音声、文法をひきまず除くことを決めた。
- ③ 質問文・項目の排列——この点に關して、よほど考えねばよい結果を期待できないことがわかった。名詞に特殊な動詞が接するものは(イデキオカなど)まとめて質問する方がいいと考えた。項目相互の関連——項目は個別的でなく、関連的に選定することがよいわかった。
- ④ 質問文・項目の排列——さらに改訂を要することがわかった。
- 付圖——さらに檢封を要することがわかった。
- ⑤ 項目の排列——はばかたまった。
- 付圖——はばかたまった。

1990年度には、第3、第4調査票について次の準備調査を行なった(準備調査の通し番号を付けた)。

6. 全国20地点での準備調査(87項目)……うち地方研究員委託15地点

7. 東京在住各地出身者を対象とした準備調査(87項目)

候補として挙げた項目は、第1、第2調査票を併用調査した項目のうちから、この際調べておきたいもの、東京圏の位置を明らかにするために役立つもの、国際問題に直接関連すると考えられるもの、音声に關する若干

の項目などである。

なお、このほか、1986年度に被調査者を選ぶ方法、被調査者数はひとりでもよいかなどを検討する準備調査も行なったので、付記しておく。

8. 山梨県中巨摩郡豊田村準備調査(項目143)

この調査で、第1調査票を分派することがきまった(29ページ第1調査票の分派の項参照)。また、被調査者は、各地点で1名とすることが決まった。なお、以上の8回の準備調査について、詳しくは、「国立国語研究所年報7・8・12」を見られたい。

③ 打ち切り——途中で打ち切った項目が70あること、および、第6年度以降、地域を限って調査を打ち切った項目が38あること、前にも述べた通りである。これらは、次のような観点によってきめた。

- それまでの調査結果を分布地図に作ってみて、地域差が期待したように得られなかったもの(質問のポイントがなかったもの、標準語と方言のふりかけの困難なものが含まれる)
- 他の質問によって、その項目の内容が覆われるもの
- そこまでの段階で、ほぼ結果の見通しのついたもの

調査地点

65であるから、大まかに言えば12kmごとに1地点と置つてよろしかろう。人口比で言えば100,000人あたり2.5である。各調査地点では、1903年以降出生の男子1名を被調査者として選んだが、1960年度は、この層の人口は、4,800,000人というから、この層に匹敵し、人口比点密度は、50(すなわち10,000人あたり1名)となる。

1. あらまし

8か年の調査期間に調査した地点の総数は、2,400であった。地点の網の目は、全国を覆う。最北端は北海道鶴岡市、最南端は沖縄県入野郡鳥辺町の夜間島である。調査地点の密度は、面積比で言えば1,000km²あたり、

- * 下記の3地点では、第3調査票だけの調査が行なわれた。地点総数には加算しなかったが、これら27項目に關する調査結果は、他と平等に扱った。
- 若手県宮古市横町・崎町目影
- ※ 遠野市土御門大杉
- ※ 彦石市浜町

なお、調査項目によっては、全地点で調査しなかったものもある。22ページの脚注参照。

調査は、主として地方研究員が地域を分担して行ない、各地で毎年網の目をこまかくする方法で進めた。一方、調査センターの地方言語研究員も、随時各地で調査した。

8か年、各年度の行政単位別調査地点数は、次の通り。

行政単位	調査地点数			人口調査 地点数 調査年度	行政単位	調査地点数			人口調査 地点数 調査年度																	
	調査年度	計	調査年度			計																				
	57	58	59	60	61	62	63	64																		
北海道	15	15	12	14	11	9	4	3	83	1,6	1,1	京 都	7	4	5	4	5	3	3	36	1,8	7,8				
青 森	9	10	9	11	10	9	8	8	74	5,0	7,0	大 阪	5	2	1	3	5	1	1	19	0,3	10,6				
岩 手	11	12	12	23	5	9	10	9	91	6,3	6,0	兵 庫	14	20	3	1	10	9	10	4	7	1,8	8,6			
宮 城	7	6	9	9	6	5	7	7	57	3,3	7,8	香 川	8	1	2	4	2	2	2	23	0,6	2,0				
秋 田	8	9	9	14	10	8	9	8	75	5,6	6	福 岡	11	4	4	6	4	4	4	4	4	7	4	8,9		
山 形	5	5	9	7	10	4	4	3	65	4,1	5,0	鳥 取	3	4	4	7	4	3	2	33	5,0	8,6				
福 島	10	11	11	10	13	9	7	9	83	3,9	5,0	島 根	7	7	8	12	6	4	6	57	6,4	8,6				
茨 城	6	11	5	8	8	4	3	3	39	2,4	7,0	岡 山	7	7	8	9	6	5	7	57	3,4	8,1				
栃 木	5	11	4	6	4	4	5	4	43	2,8	6,5	山 西	8	9	9	10	7	7	6	67	3,1	8,0				
群 馬	5	12	6	4	3	4	3	4	41	2,6	6,5	鳥 取	6	7	7	11	7	7	7	59	3,7	9,7				
埼 玉	4	6	3	7	5	1	2	3	31	1,2	8,0	島 根	2	3	5	7	4	3	3	32	3,6	7,6				
千 葉	7	9	10	8	3	4	4	4	49	1,5	9,6	香 川	2	2	3	3	3	3	2	24	2,4	11,6				
東 京	2	4	5	7	3	4	3	4	34	0,4	17,0	愛 媛	6	5	8	10	5	6	4	30	8,4	8,9				
神 奈 川	3	5	3	3	2	2	3	3	23	0,7	9,5	高 知	6	6	9	7	10	5	4	5	8,1	12,0				
新 潟	10	19	10	12	13	7	9	11	91	3,7	6,2	福 岡	5	6	6	7	4	6	4	4	4	1,1	9,0			
富 山	7	2	3	5	4	4	3	3	31	3,0	7,0	佐 賀	2	2	2	5	3	3	2	20	2,1	8,3				
石 川	8	5	5	5	5	5	5	5	43	4,4	10,2	長 崎	7	8	8	14	8	6	8	6	4	3,7	15,4			
福 井	8	3	3	4	2	5	4	3	33	4,4	7,2	熊 本	6	7	7	8	11	6	5	4	5	4	7,2			
山 梨	3	10	3	3	3	2	2	3	29	3,7	6,4	大 分	6	6	7	10	7	6	5	6	5	4	8,4			
長 崎	9	15	10	7	13	9	8	7	78	3,9	5,7	宮 崎	6	7	7	10	7	6	6	6	5	4	9,1			
岐 阜	13	6	9	7	7	7	5	5	61	3,7	5,0	鹿 兒 島	11	11	11	11	13	9	10	9	4	1,6	9,8			
静 岡	7	11	8	9	9	6	6	8	64	2,8	8,2	沖 縄	×	4	13	10	11	7	7	8	60	6,2	25,0			
愛 知	11	5	4	6	5	3	5	5	45	1,1	8,6															
三 重	12	6	4	8	6	5	5	5	52	3,5	9,0															
滋 賀	3	4	4	6	7	3	2	2	31	3,7	7,0															
												全 国	323	309	354	230	240	240	255	240	240	255	240	240	255	240

- * 各地方研究員担当地域は、かならずしも行政単位(都道府県)と一致していない。
- ** いっぽに、言語地理学的調査にあたって、地点の密度を示す符号は、1地点あたりの人口を示すことができるが、ここでは人口10万人あたりの地点数を挙げた。この方が実状をよく示すことができる。低い数字は、地点の粗いことを示し(例:東京・大阪などの密集地域)、高い数字は、地点の網の目の細かいことを示す(例:岩手・秋田・島根・高知などの人口密度の低い地域、沖縄などの言語的に注目すべき地域)。なお、ここでは、1990年度現在の人口を基準としている。
- *** (1地点あたりの面積を示す)か、ここでは、(面積1,000km²あたりの地点数を挙げた)。この方が、人口密度などと、平行して考えることが出来る。低い数字は、地点の粗いことを示し(例:北海道は別格として、山形・福島・長野・岐阜などの山岳無人地帯の多い地域)、高い数字は、地点の網の目の細かいことを示す(例:東京・長崎・沖縄などの島嶼帯が多く、また言語的に注目すべき地域、東京・大阪などの人口密度の高い地域)。

この数字を、世界の主要言語地図と比較すると、次の通り。地点密度の観点からは、全国言語地図として

すまずの状況である(調査地域の広さから、地点の絶対数は極めて多いが、項目数の少ないことが目立つ。

地図名(略称)	編者	地点数	人口地点密度	面積地点密度	項目数
糸魚川言語地図(LAI)**	基田, グローテース, 笠川, 馬場	183	300.0	265.6	385
スイス・ドイツ語地域言語地図(SDS)	Hörsken/Scherle	573	14.3	27.0	2,600
オランダ・ベルギー言語地図(MDA)	Blancquaert	2,020	13.3	38.5	141文
ベルギー・南部言語地図(ALV)	Remacle	300	8.5	17.5	4,150
スイス全国民俗地図(ASV)	Weiss	387	7.0	9.3	150
ニュージーランド言語地図(LANE)	Kurath	431	4.0	1.8	814
日本語地図(LAJ)	国立国語研究所	2,400	2.5	6.5	285
カタロニア言語地図(ALCAT)	Griera	101	2.5	1.7	2,886
ルーマニア言語地図(ALR)	Pop	388	1.9	1.3	2,160
フランス言語地図(ALF)	Gilliéron	639	1.5	1.2	1,920
スペイン・ポルトガル言語地図(APD)	Navarro	528	1.5	0.9	2,000
イタリー・スイス言語地図(AIS)	Jaberg & Jud	407	1.0	1.3	2,000

なお、65名の調査者が、それぞれ何地点ずつ調査したの調査者によって調査されたかは、付録「調査地点一覧」には、次の通り。具体的な各調査地点が、それぞれと参照。

番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数	番号	氏名	地点数
01	五十嵐 三郎	25	18	佐藤 茂	31	35	阿波 隆	53	52	江原 真	15
02	長谷川 清喜	28	19	清水 茂	25	36	宮城 文雄	30	53	須佐 善信	7
03	石垣 福雄	30	20	青木 千代吉	71	37	近石 泰秋	19	54	三浦 秀夫	45
04	北島 正年	07	21	谷岡 石雄	56	38	杉山 正世	45	55	金沢 久人	25
05	小松 代雄	83	22	望月 隆三	58	39	土居 重俊	50	56	藤谷 寿信	27
06	胡堂 敬蔵	7	23	山田 達也	41	40	都築 敏道	40	57	後藤 和彦	17
07	北条 忠雄	71	24	堀田 要治	2	41	小野 志真男	44	58	河瀬 良雄	16
08	後藤 利雄	32	25	奥村 三雄	22	42	西島 安	23	59	佐藤 邦一	18
09	宮野 安	21	26	前田 勇	12	43	秋山 正次	51	60	遠藤 邦生	5
10	宮島 達夫	16	27	和田 実	27	44	赤井 寛一	49	61	外間 守善	15
11	多々良 義男	40	28	阿田 花之輔	38	45	岩木 実	51	66	池川 宗賢	61
12	上野 勇	41	29	西宮 一民	25	46	上村 幸二	82	97	上村 幸雄	55
13	大久保 国三	3	30	村内 英一	38	47	杉浦 茂夫	19	98	野元 菊雄	53
14	加藤 信昭	25	31	成戸 惇	31	48	加藤 正信	51	99	柴田 武	92
15	斎藤 義七郎	6	32	岡 義重	48	49	日野 義雄	26	計		
16	藤持 半一郎	79	33	史明 吉治郎	52	50	寛 大雄	24	65名	2,400	
17	岩井 陸盛	72	34	村岡 誠夫	61	51	村宗 根政	45			

	地点数	項目数
*ドイツ言語地図(DSA)	Wenker 40,736	40文
ドイツ新集地図(DWA)	Mitzka 48,281	200
ドイツ民俗地図(DVS)	Röhr 23,000	243

以上は適宜調査で、すべて比較できないが、傾向的な地点数を挙げています。
**糸魚川言語地図は、出版準備中のものであるが、参考として掲げた。

2. 島

本州・北海道・九州・四国の四つの島以外の島での調査地点は、次の通りである。付録1に示す「調査地点一覧」の地名だけからは、そのいずれが孤島における調査か不明でない場合があるので、参考のために、以下に調査地点の及んだ島名を列挙する。調査地点の網の目の及んだ孤島は、全部で119に達し、孤島での調査地点の総計は244であった。かつこ内の数字は、それぞれ地点数を示す。

- 北海道①
- 奥尻島②, 礼文島①, 利尻島②
- 宮城県③
- 大島①, 江ノ島①, 田代島①
- 山形県④
- 飛島④
- 東京都⑤⑥
- 大島①, 羽島①, 新島②, 神津島①, 三宅島⑤, 八丈島⑤
- 新潟県⑦
- 新潟県⑧
- 飛島①, 佐渡島②
- 石川県⑨
- 能登島①
- 三島原②
- 神島①, 善志島①
- 兵庫県⑩
- 家島①, 淡路島⑩
- 和歌山県⑪
- 大島①
- 沖繩県⑫, 伊平屋島①, 伊表島①②, 伊江島①, 粟島島①, 久米島②, 兼良島①②, 屋久島①②, 平安島①②, 久高島①, 宮古島⑦, 伊良部島④, 池間島①②, 多良島①②, 石垣島⑥, 島島①, 竹富島①, 西表島①, 鳩間島①, 波照間島①, 与那国島①
- 広島県⑬
- 熊島(江田島)⑬, 倉橋島②, 佐木島①, 生口島①
- 岡山⑭, 上瀬島①②, 粟島①, 大崎上島①②, 大崎下島①, 向島①
- 山口県⑮
- 善井島①, 見島①, 相島①, 向島①, 笠戸島①, 青島①

海島①, 壺穴島(周防大島)⑬, 萩島①, 角島①

- 徳島県⑯
- 大宅島①
- 香川県⑰
- 本島①, 伊吹島①, 小豆島⑥, 豊島①
- 愛媛県⑱
- 日置島①, 怒和島①, 中島①, 大三島②, 伯方島①
- 高知県⑲
- 沖島①
- 福岡県⑳
- 大島①
- 佐賀県㉑
- 川渡島①
- 長崎県㉒
- 久賀島①, 平戸島②, 度島①, 平島①, 江ノ島①, 大島(西彼杵郡)①, 野ノ浦島①, 中道島②, 若松島①, 余留島①, 福江島③, 生月島①, 大島(北松浦郡)①, 鷹島①, 福島①, 守久島①, 小値賀島①, 対馬下島④, 対馬上島④, 老成島④
- 熊本県㉓
- 御所浦島①, 大矢野島①, 天草上島③, 天草下島④
- 大分県㉔
- 姫島①
- 鹿児島県㉕
- 長島②, 上郷島①, 下郷島②, 種子島④, 屋久島②, 口永良部島①, 奄美大島⑥, 喜界島②, 加計呂麻島②, 与路島①, 霧島①, 徳之島④, 沖永良部島②, 与論島①
- 沖縄県㉖
- 大島①
- 沖繩県⑫, 伊平屋島①, 伊表島①②, 伊江島①, 粟島島①, 久米島②, 兼良島①②, 屋久島①②, 平安島①②, 久高島①, 宮古島⑦, 伊良部島④, 池間島①②, 多良島①②, 石垣島⑥, 島島①, 竹富島①, 西表島①, 鳩間島①, 波照間島①, 与那国島①

3. 地点の産業

各地点で、被調査者から、土地のおもな産業を求めた。結果は次の通りである。かつこ内は、単業地(たと

えば農漁の)の地点数である。全体を見ると、なんらかの形で農漁に関係を持つ調査地点が、全体の80%を占めることが立つ。なお、総計が2,400を超えるように見えるのは、複葉地(たとえば農と林をかねる地点)が多いためである。

1 島(宮古、牧野、原標を含む一島一町)	1864	(902)
2 林(新沢)	573	(69)
3 漁(海野)	443	(115)
4 工(製材、炭業、製紙、酒造、その他)	237	(53)
5 街(観光、温泉、住宅地、官庁、軍事基地)	493	(164)
6 鉱(宝石)	30	(3)

4. 調査地点の選定

調査地点の総数については、次のように考えた。理想的には、多に越したことはない。しかし人の力には限界がある。1名の調査者が、本務のかたわらに調査できる地点数は、1か年10地点が限度であろう。広大な地域を分組する地方研究員のものと考えねばならない。費用の制約もある。1か年の調査地点の総数は、300地点前後と考えられる。

一方、百部地図一般に要求される地点密度ということがある。あまりまばらでは悪にならない。そこで、世界の主要百部地図数値と比較して、日本の面積・人口を考慮し、全計画で2,000地点程度はぜひ必要ということになった。この調査が、最初7か年の計画で出現した規模である。その後、費用などの関係から、8か年の計画に決定された。沖繩が調査地域に加わったこと、地

方百部研究員による調査地点が加算されたこと、などによって、調査地点の総計は、2,400となった。

調査地点の選定については、前期5か年の計画と、後期8か年の計画については、基準が違ふ。前期では、百部的に特色ある地点を選ぶことをむしろ避けて、全地域に満遍なく地点をばらまくことを考えたのに対して、後期計画では、逆に、百部論・社会的に特色ある地点を選ぶことに重点をおいた。全国の分布地図を作るにあたって、日本語の現状をまず知るために、偏りを避けるようとしたことが、第1の理由である。そうかといって、特色ある地点についての情報を渡らすことも適当でないと考えたことが、第2の理由である。

調査地点の候補は、次の材料をもととして選んだ。
 (1) 地方研究員からの提案——調査項目のところで述べたが、1955年、地方研究員に対して、調査地点の数を増やして意見を求めた。また、1960年・61年にも、後期計画に際しての候補地点を求めた。

- (2) その他——
 a. 建設省地理調査所・総務省統計局「人口分布図」(昭和34年9月発行)
 b. 5万分の1地形図ほかの各種地図
 c. 地方史、交通史関係の文献

以上の資料をもとにして、具体的な調査予定地点を挙げた。

(1) 前期調査——この期間には、主として、全国に満遍なく選ぶことを考へた(目標は1,500地点)。そのため、まず人口分布図が参考となった。人口の集中している所には、できるだけ地点を選ぶ。一方、各地地図を利用して、重要領域(たとえば川筋)にも留意した。地方研究員の意見も大いに参照した。しかし研究員によって20地点の候補を挙げた人もあれば、300地点に及ぶ候補

を挙げた人もあったため、全面的に採用することはできなかった。かくて、1967年初頭にあり、1,485の前期調査地点が生まれた。島一沖繩を除く一については、人口・集落数による一定の基準から、全国で30の島を選び、さらにその規模によって各島の地点数を決定した(1,485の中に含まれる)。そして地方研究員の各担当地域ごとに、分類した表が作られた。

(2) 後期計画——この期間には、百部論・社会的な観点重視して候補を選んだ。目標は700地点とした。前期計画で1,605地点が終わったこともあり、1地点ある19の調査費用もかさむようになったので、毎年の調査地点総数は、230ほどを見た。資料としたものは、地方研究員から寄せられた重要地点に関する意見と、各種の文献によって知ることのできる、古代から近世に至る地方文化の中心地や、陸上・水上の交通の要所などである。もともと、後期計画にはいて、新しい調査項目が加わるために、一面、複雑な基準によって、全国に、満遍なくばらまくことも必要であった。

1962年初頭にあり、全国の視野のもとに、688の後期調査予定地点が決定し、前期計画と同様に表が作られた。このうち、172地点は、ぜひそこで調査したい地点である。

(3) 沖繩——沖繩に関しては、第2年度から、新たに調査に加わった点と、地域の特性(島ごとに、はなはだことばが違ふ)を考へて、1958年初頭に全計画の調査予定地点⑩を決定した。したがって、沖繩に関しては、前期計画、後期計画の違いは関係がない。

5. 調査地点の決定

地方研究員委託分に関しては、配布された候補地点の表を参照して、研究員が具体的に決定することとした。原則として、候補地点の中から選ぶことになっているが、かならずしも候補地点で調査しなくてもよく、付近に適切な地点を選ぶべき。

前期5か年は、直線距離で5km以下の移動を認めた。さらに、具体的な決定に当たって、次の5つの注意点を示した。

- 社会構造、地形形態などの面で、いちじるしく変わっているところは避ける。
- 新開地など、移入者の多いところは、調査者を

得にくく避ける。

- 百部地は、ことさらに認けるべきでない。
- 百部論を怠りしころばかり選んではならない。
- 関係の浅く候補地点のあるものは、その島内で調査すること。他の島や本土に移したりしない。

かくて、前期計画の目的に沿った注意である。後期計画では、予定地点688のうち、172地点については、かならず指定の候補地点で調査するよう依頼した。それらの地点が、そこでぜひ調査したい、百部論・社会的な特色を持つからである。残りの516地点については、都合によっては、直線距離で3km以下の移動を認めた。

前期計画の5kmを3kmにしたのは、①後期計画には、できるだけそこで調査したい地点が含まれること、②大幅な移動を認めると、前期計画で調査済み地点とのバランスが崩れることである。

かくて、8か年で、地方研究員分組の2,189地点が、61名の地方研究員によって具体的に選ばれ、調査が実行された。

研究員分組の調査は、その都府調査され、実行された。これらの調査は、原則として、計画当初に立案された候補地点とは関係がない。ただし、例外として、ある年度、ある地方の地方研究員が、調査に参加できなかったため、研究員が代わって調査した所がいくつかある。

研究員分組の調査地点は、次の観点から選んだ。
 (1) 全国にできるだけ満遍なく選ぶ——全国各地の百部地を主にしにすることにきき、密員による百部論的な資料を省くためである。

(2) 地方研究員委託分の欠を補う——計画当初の立案は、その後の情報によって、多少補強する必要があった。それを、全体のバランスの中で補った。

かくて、8か年で、研究員による211地点(全地点の8.8%)が、具体的に選ばれ、調査が実行された。

被 調 査 者

1. あらまし

各地点で、その土地のこぼれを聞かせる人、すなわち、この調査の被調査者(話者)は、男の老人1名である。調査者は、被調査者に向かつて、その人について、項目全部に関する、本人自身のこぼれを聞く。

老人を選んだのは、これらの人々が、現代日本語の母語となった各地方の言語を、現在もとも純粋に伝えていると考えられたからである。したがって、調査の成果である「日本語地域」は、20世紀後半の平均的日本語をもつ、やや古い層を示していると言うことができよう。

もっとも、細心の注意を払ったとはいへ、作画的な調査を経ていたために、老人たちの自然に使う言語より、いくらか新しい層を示していると言えるかもしれない。

男を選んだのは、まず性別を一定するためであった。ある地点で男女、隣の地点で女を調べれば、比較が困難である。資料の質は、できるだけ統一しておきたい。女を選んだのは、ある地点で生まれ育ち、現在まで生活しているのは、男が多い(女は、結婚のため、生育地を離れる場合が多い)。すなわち、被調査者をさがしやすいためと、男は比較的社会的階級を受けているのに対して、女は外来者の広げられにくい人が多いのではないかと考えたためである。しかし、実際の調査では、どうしても適当な被調査者が得られなかったため、女を被調査者とした地点が、2,400地点中8地点だけあった。

各地点1名としたのは、次のような理由による。(1)2人の被調査者を並べても、往々にして一方の意見に引きずられ、1人の場合と趣のないことが多い。それどころか、圧倒された方の被調査者は、卑屈な気持ちで返答していることがある。被調査者側から言えば、2人を平等視しながら、すなわち2人であることをかまわず調査を進めることがむずかしい。時間がかかる。(2)他人の前では、自分の答えを訂正しにくい場合がある。(3)他人の前では、卑屈といわれるようなものを出さない場合があ

る。(4)逆に、蓋をつけようとして純粋でない答えをする可能性が多い。似たがいに確認しあっても、ほんとうに納得がいったかどうかどうもわからない場合もある。似たがいに否定しあっても、怒りがむずかしい。(5)2人を並べてのではなく、別々に調べることも考えられるが、この場合は倍近くの費用と時間がかかることを考慮しなければならぬ。それくらいなら、費用と時間を、地点数をふやすことに向けるべき。

なお、この被調査者の数をいかにすくすきについては、準備調査が1回行なわれた。また、1地域社会内の個人間の言語差については、別に検証調査を行なった。

2. 被調査者の条件

(1) 生年・性——1908年(明治39年)以前出生の男子。ただし、1897年(明治30年)以降生まれの人が選まれた。1908年としたのは、当初、調査が終了すると考えられた1933年に、歳60歳に達すると考えたからであった。しかし、19世紀最終半以前出生とでもした方がよかったかもしれないと、いまは考えている。さらに高齢者(たとえば1893年以前出生)に限定してもよかったかもしれないが、それでは多分被調査者がさらに選びにくくなるだろう。現に1903年以前とすれば、相当困難であった。また、若年者はいっさいに精神病的調査、知的な作業に適合できない人の率が増加する。5歳を統一したレベルで押さえるためには、60歳を限度と考えた。調査時の年齢(たとえば満60歳以上)を限定しなかったのは、調査開始年と、終了年の間に、かなりの期間があると考えたからである(1957年の満60歳と、1964年の満60歳とは、8年間の隔りがある)。

上限を定めたなかったのは、高齢者で、よい被調査者があったとき、それを切り捨てるにしのびない場合があると考えたからであった。もっとも、明治39年以降生まれの人が選みたいという希望の傾向は、つけ加えておいた。

実際の調査では、この条件にはずれられた被調査者を調べ

た地点が28地点あった。それぞれ、どうしても、条件に合う人が得られなかった地点である。中には、調査者が、調査したのが正式の調査報告としてでなく、参考資料として提出したものが有り、調査センターとして研究室で、ぜひ採用しておきたいと考えて、正式の報告とみなしたものを含まれている。稀妙な1例であるが、昭和11年生まれの子供を被調査者を選んだ地点など。

最年長者は明治元年(調査終了時95歳)の2名であった。しかし、やはり、高齢者はすくない。1903年を含む1894年までの10年間に生まれた被調査者が1,284名で半数をこえる(97.7%)。そして、この期間には、各年ほぼ同数である。それ以前15年間に生まれた被調査者は、938名で、この期間には、高年に向かうにつれて、被調査者数が、次第に減少する(1903年から1879年までの25年間に生まれた被調査者の合計は2,220名で、全体の97%を占める)。

被 調 査 者 生 年

生年	明治 29 年	人
1 8 6 8	1	2
1 8 6 9	2	3
1 8 7 0	3	2
1 8 7 1	4	4
1 8 7 2	5	5
1 8 7 3	6	4
1 8 7 4	7	4
1 8 7 5	8	4
1 8 7 6	9	1
1 8 7 7	10	7
1 8 7 8	11	15
1 8 7 9	12	11
1 8 8 0	13	11
1 8 8 1	14	18
1 8 8 2	15	17
1 8 8 3	16	20
1 8 8 4	17	50
1 8 8 5	18	44
1 8 8 6	19	49
1 8 8 7	20	64
1 8 8 8	21	83
1 8 8 9	22	107
1 8 9 0	23	96
1 8 9 1	24	107
1 8 9 2	25	110
1 8 9 3	26	126
1 8 9 4	27	134
1 8 9 5	28	141

生年	明治 29 年	人
1 8 9 5	28	141
1 8 9 7	30	136
1 8 9 8	31	139
1 8 9 9	32	145
1 9 0 0	33	135
1 9 0 1	34	135
1 9 0 2	35	142
1 9 0 3	36	131
1 9 0 4	37	131
1 9 0 5	38	4
1 9 0 6	39	1
1 9 0 7	40	1
1 9 0 8	41	3
1 9 0 9	42	1
1 9 1 0	43	1
1 9 1 1	44	1
1 9 1 2	大 正 1	1
1 9 1 4	3	1
1 9 3 6	昭 和 11	1

(2) 居住形態——いわゆる言語形成期をすくすく調査地点で生育し、しかも、それ以後も、よそ(その専ら市町村の外)での生活が、異様な一切を含めて30か月を断えないもの。

その地点の言語の代表者としては、その土地を一步も踏み出さない人が望ましいと言えよう。しかし一方、男であるからには、多少の外経歴を持つことも、社会的に異常とは言えない。むしろ、一度も生育地を離れたことのない人は、全体の中で、少数派に属するかもしれない。都会や、農村など、あるいは出稼ぎの盛んな土地を考えれば、なおのことである。また、3か年程度の在外経歴なら、それはどその人の言語に影響を与えないと考えられる。御合によって、在外経歴を持つ人の方が、見知らぬ人(調査者)に心を開くと言えることもあるであろう。在外経歴を3か年を介するものでも被調査者と認められた。ここにある。3か年と限定したのは、一般の徴兵制度による入營期間にプラス1年と考えたからである。なお、言語形成期間に移動のあった人は条件からはずれるとして除外したことは、文字通り当然であろう。

実際の調査で、条件からはずれずるケースの出して来たことは、どうしても避けたい。調査地点を定めた後、その土地に、条件の合う人が現実に居ない場合があるからである。

在外歴
(兵歴を含む)

0	1,264人
1 ~ 12 か 月	256
13 ~ 24 か 月	453
25 ~ 36 か 月	244
37 か 月 以上	53

方言形成期中の在外歴をもつもの
1911年以前

1 ~ 12 歳 以 降	10人	1人
13 歳 以 降	13	2
14 歳 以 降	22	5
15 歳 以 降	21	3

兵 歴

0	1,264人
1 ~ 12 か 月	155
13 ~ 24 か 月	339
25 ~ 36 か 月	101
37 か 月 以上	28

図 8 の他—職業・学歴・階級などについては、特に基準を立てなかった。ただし、できるだけその地点を平均的に代表する人であることが望ましいとした。

つまり、80%職業の集約で、会社を経営している人とか、その土地にひとりふたりしかないような、学歴・階級の特に高い人は望ましくないという意味である。厳しく限定しなかったのは、被調査者選定の困難さを、いくらかでも軽減しようとしたためであったが、一方、居住経歴の条件で、たとえば大学卒業者の大部分ははずれると考えたからである。

被調査者2,400名の職業を分類すると、次のようになった。かっこ内数字は、卒業者(または職業のみ)の人数を示す。なんらかの形で、職業に関係を持つ被調査者が、全体の63%を占めることが目立つ。

1 農(農協、牧畜、果樹を含む—以下同じ)	人 1,214(129%)
2 林(薪炭、狩猟)	143 (6%)
3 漁(沿岸)	194 (12%)
4 工(製材、家具、造業、製糖、酒造、製炭、人形師、仏師)	91 (7%)
5 商(観光、茶店、信託、神職)	495 (48%)
6 鉱(採石、土木)	3 (2%)
7 官(官庁、会社)	178 (17%)
8 地職(不明)	14

この表で、総計が2,400人を越えるようにみえるのは、職業者を含むからである。たとえば農業を営む7つ職業を皆含むものは、1と5の両方に記入されている。学歴を追加すると、次表の通りである。小学校(高等小学校を含む)卒業者の多いことが目立つ。

0	30人	9年	83
(1年未満3を含む)	10年	10年	45
1年	3	11年	65
2年	23	12年	35
3年	30	13年	19
4年	47	14年	5
5年	43	15年	4
6年	57	16年	1
7年	98	不明	1
8年	867		

そのほか、被調査者に関しては、父母の出身地を確かめてある(父母の出身地は、被調査者の条件と考えなかった)。結果を、いまここに示すことはできないが、地誌解釈にあたって、参考となるであろう。

3. 被調査者の決定

具体的に、この人、と決定するのは、調査者の仕事である。この調査の被調査者としては、以上の条件を満たす人であることが当然ながら、しかも次のような人であることが望ましいと考えた。

- 方言感覚が鋭い。意味のニュアンスの違いに敏感で、質問に対して適切な答えをする。また、方言と標準語、敬語と年語、日常語とあまり使わない語や現在使わない語などの区別がはっきりしている。
 - ふだん、その土地のその年齢層の人として、じょうぶな程度に方言を使っている。
 - 精神的・肉体的に欠陥がない(もう耳がいたり、歯が抜けて発音がはっきりしない、舌が短い、顔が見えないなどの人は、被調査者として適当でない)。
 - その他、調査に協力的である。反応が早い、むだ話をしないなど。
- ところが、このaからdにあてはまる人かどうかは、実際に面談した上でなければ、判定できないことが多い。そこで、被調査者の具体的な決定に際して二段階の選別を講じた。

- 事前選別——具体的に心当たりがある場合、あるいは、あらかじめ現地連絡せうし方するブックケースの調査を行なう場合を除いて、知人などの機関(役場・学校など)なりに事前に連絡して、調査の準備を行なうことが多い。その場合、調査の趣旨を説明し、被調査者の目ほしをつけるために、次の二種のプリントを用意して、調査者の利用に供した。

日本語地図を作る調査について

国立国語研究所 地方国語研究室

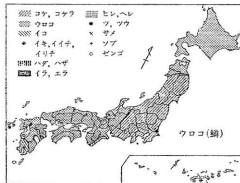
国立国語研究所では、昭和32年度を第1年度として、8か年計画で日本語地図(方言地図)を作るための調査を行なっております。ただし、北は北海道宮城の北限から、南は沖縄の島々まで、全国でほぼ2,400地点を50人の調査員が緊密な連絡をとりながら現地調査をしております。

日本では古くから方言の研究がありますがそれは、各地の研究者がそれぞれ立場で互いに無関係に調べていたと言ってもいい状態で、日本全国を統一のある企画で同じ時期に調べたということは今まで例がありません。外国では、古くはフランス、ドイツ、最近ではアメリカ、ソ連など世界の多くの国々で、こういう方法で調べた方言地図ができていて、その国の言語の歴史とこれからの変化の方向を探る手がかりが考えられています。日本には、これらに比較できるものはありません。

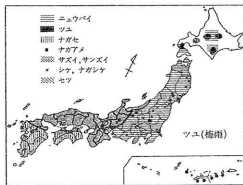
この調査をやりとげて日本の方言地図が完成すれば、まず、現代共通語の基礎になっている東京のことがどういふ性格のものか明らかになります。東京のことばの勢力は現在どの範囲に広がっているか、そして、どのように地方の方言の中に浸透して行っているか、また、東京のことがばに対立した勢力を持つ方言はどの地方の方言が中心になるようおきます。

このことは、標準語を確立する際の有力な資料を提供することになり、また、国語教育に役立つ資料を備えることにもなります。

幸いに、各地の協力を得て、計画どおり、りっぱな日本語地図を作りたと思います。参考までに、第2年度までの調査結果の一部をあげておきます。



この図によって、共通語のフロコは、元来は東京のことがばではなく、関西系のことばであることがわかります。北海道のフロコは、共通語が新しく広がったものと思われま。



この図によっても同様、共通語ツユは、東京固有のことばでないことがわかります。しかし、ウロコときよりもその勢力は強くなります。ウロコに比べると西の方に大きな第3勢力がある点が注目されます。なおツユもウロコも西方向とも、共通語形は、その他の地域にだんだん勢力を広げています。

方言を話す人を御紹介下さい

国立国語研究所 地方言語研究室

国立国語研究所(文部省)では日本語学(国語学)を作るために、いま日本全国で方言調査を行なっています。この調査が成功するかどうかは、調査対象としてい人が得られるかどうかにかかっています。また全国各地で同じ条件の人を調べなければ、結果を一枚の地図にあらわすことはできません。たとえば、男の人と女の人とはことばが違いますから、甲地では女を調べたのでは、地図は書けません。年齢などについても大体同じような人を全国で調べる必要があるわけです。

こんど御地が調査地になりましたので、次の条件に合う人を御紹介したいと思えます。ごめんどうなことで恐縮ですが、よろしくおとりはかりのほど願ひ上げます。

1. どのような人を調べるか。

次のような条件をすべて満たしているおじいさんをひとり調べたいです。

- ① 明治36年以前に生まれたおじいさん(ただしあまり年をとっているかたは避けたい。せいぜい満70歳くらいまで)。
- ② 生まれてから満15歳まではその土地(他の市町村やその字)で生活したことがない。
- ③ それ以後、よそ(他の市町村)で生活したとしても、その期間が3か年までの人(もちろん、兵隊生活も、よそでの生活にはいります)。

必要な条件は以上の三つです。その人の職業・学歴・階級などは特に決めますが、御地の平均からいって、あまり特殊でない人がいいです。いまでもありませんが、老いこんでしまっておけのわからない・耳の遠い人・歯が抜けて発音のはっきりしない人・目の見えないなどは調査には向きません。日常の生活に方言を多く使った人で、以上の条件になかった人ならだんでも結構です。特に方言について研究している人、興味を持っていて人である必要はありません。

調べるのは以上のようにひとりでいいのですが、その人がどつどの遠いなどの場合のために、同じような人をおとす、8人考えておいていただくとお奨めです。最初のひとりで調査が終わってしまえば改めてお助け

いたしませんから、この予備の人にはあらかじめお話ししたくない方がよろしいかと存じます。

2. どのようなことを調べるか

研究所から、または研究所から依頼されて出向いた者が、直接お目にかかって、口頭で質問します。これに対して同じく口頭で答えていただきます。内容は、動物・植物の名や、人事・自然に関する簡単な単語で、それを方言で何というか、というようなことです。たとえば、

(例1) [とんぼの絵を見せて]これを何と言いますか。いろいろ種類がありますが、ひっくり返して何と言いますか。

(例2) [いたどりの絵を見せて]これを何と言いますか。春先に山道などに生えます。竹のように節があって、折ってかじると酸味があります。

(例3) 自分の姓のことを、私のオバと言いますか。

といったものです。この例でもわかるように、むずかしいことではありません。高い学歴の人である必要はないわけですし、読み書きできない人でもさしつかえありません。ふつうの生活をなさっている人なら、どなたにも答えられるものです。

調査にかかる時間は、人によって違いますが、1時間から2時間ぐらい。

3. どこで調べるか

どこでも結構です。御指定のところに参ります。役場なり学校なりへ頼にお呼び出しになる必要はありません。

② 第1調査原の分立——現地で被調査者の候補を選んできていても、その人が、ほんとうに、この調査の被調査者として適当かどうかは、実際に面接して、しかもしばらく調査してみなければわからないことがある。

そこで、調査原について、次のように工夫した。まず、第1調査原について、第1頁に被調査者の氏名・経歴などを聞き記入する欄がある。ここで最初のチェックを行なう。つまり、第1調査原30項目の質問を行なう。30項目の調査のうち、この人が、適当かどうかを判定できるであろう。第1調査原が終わったところで、第2のチェックを行なう。

不適当となれば、その人についての調査は、ここで打ち切り、あらためて別の調査者をさがすことになる(第3回でもおぼえ、第2調査原以下に進む)。

調査を開始して、途中で被調査者が不適当とわかった場合、相手に調査を途中でやめたという印象を与えるこ

とは、おもしろくない。第1調査原を分立したのは、そこを考えたためであった。こうすれば、ともかく1冊の調査原を全部終えたのであるから、相手に悪い感じを考えないで済む。調査者の側についても、1冊目の調査原が終わったところで判定しなければならぬから、漠然とした不満を持ちながら調査を続ける状態に区切りがつけられて、好都合と考えられる。

なお、全調査の終了した現在、被調査者の氏名・経歴などを聞き記入する欄は、第1調査原の最後につけた方がよかつたかもしれないと考えている。面接して、最初に詳しい経歴を聞くことは、調査の準備段階作りをむずかしくすると考えられるからである。また、第1調査原の最後は、調査の流れを中断するそっくりものはいいから、調査者にとって、ここで判定しなければならぬという感じをいっそう強く印象づけることができたらいいかもしれないと考えられている。

調査の実際

実際の調査がどのように行なわれたかについては、次の5点についてだけ述べる。

① 依頼状——調査者が現地調査に先立って、現地の公共機関(役場・教育委員会・学校など)にあてて、所長

発信の依頼状を出す希望のある場合をえて下記様式公文書を用意し、実際にも相当利用された。

国 研 究 第 号 地 圖 () 一 昭和 年 月 日
題 国立国語研究所長 岩 淵 悦 太郎 啓
方言調査に対する協力依頼について 国立国語研究所では、日本語地図を作成するために、全国的な規模で方言調査を実施しております。北は北海道から、南は沖縄の島まで、全国ほぼ2,400地点で調査をいたします。つきましては、このたび、御地を調査地点として選ぶことになり、が 月 日にまいることになりました。御多忙のところ、まことに恐縮ですが、なにぶん御協力を賜りますようお願いいたします。

別に、この調査のあらましを説明し、方言を話してくれる人を調査でもらうために、二種の印刷物を用意したことは、被調査者の決定の項(20ページ)で述べた。

② 調査の場所—現地調査はどこで行なうべきか。特に指定しなかったが、調査者たちは、一般に、被調査者の容えやすい場所を選んだ。次第の通りであるが、個人住宅での調査が多かった(69%)ことがある。

調査の場所	数
被調査者宅	1,432
紹介者などの個人宅	225
旅館など宿泊所	112
学校・役所・公民館などの公共施設	884
神社・寺院	25
調査者自宅	1
煙・灰候室など屋外	4
不明	14

③ 調査の状況—調査者が被調査者を決定するまでには、その条件が狭かったために、多くの地点で曲折があった。また、調査を開始してから、短期に進行した調査が多かった一方、口の悪い人であったり、第三者が同席し口をはさんだり、その他さまざまな理由から決断した場面もあった。いま、調査者の苦心を含めて、その詳細を示すことはできないが、各地点での「調査の状況」が、調査者からの報告の形で、方言研究室に保管されている。

実際の調査の進行を、日録ふうにとまとめたものの一部が、「国立国語研究所年報11」に記載されているので、参照された。

(4) 調査所要時間—第1回開始から最終訪問を終るまでの、いわゆる調査時間は、4時間半以上の場合や、1時間以下のものなど、特例はあったが、ほとんどは、2時間半以上、1時間半以下に集中した。もっとも、各地点で調査項目数が一定でないため、一概には言えない面もある。

調査時間	地点数	調査時間	地点数
0.46—1.00	7	3.01—3.15	87
1.01—1.15	69	3.16—3.30	48
1.16—1.30	241	3.31—3.45	263
1.31—1.45	338	3.46—4.00	18
1.46—2.00	407	4.01—4.15	11
2.01—2.15	386	4.16—4.30	4
2.16—2.30	359	4.31—4.45	3
2.31—2.45	245	4.46—5.00	1
2.46—3.00	142	不明	11

④ 礼状—調査に協力してくれた人に対しては、国立国語研究所として、おすかながらの記念品を用意した。また、調査者の希望がある場合、研究所から礼状(公文文)を出すこととした。調査者個人としても、それぞれ、いろいろな形式によって謝意を表した。

国 研 究 第 号 地 圖 () 一 昭和 年 月 日
題 国立国語研究所長 岩 淵 悦 太郎 啓
さきごろ、当研究所の が御地にまいり、日本語地図を作る ための方言調査をいたしました。その折には、お忙しいところをいろいろと御協力いただき、まことにありがとうございました。貴重な資料を得ることができましたことを、心から感謝しております。ただいま、全国から集まった資料とあわせて整理しておりますが、かならず日本語のために有益な結論が得られることと思ます。 とりあえず、書信をもって御礼申し上げます。

資料の性格と整理の方針

1. あらまし

日本語地図作成のための調査によって得た情報は、調査者によって、1地点ごとに、さらに1質問項目ごとにそれぞれ1枚のカードに記入され、その他の資料とともに、地方言語研究室に集められた。その総数は、約540,000枚である。ここでいうその他の資料とは、

- ① 音声表記法に関する注意書き
- ② 調査地点に関する情報(調査地点の位置を記入した5万分の1地形図を含む)
- ③ 被調査者に関する情報
- ④ 各地点での調査印象・調査全般に関する感想をさす。

カードの様式

1) (項目番号)	日本語標地図 地図()-14	4) (地点番号)
2) (回答)	3) (注記)	

2. 表 記

各調査者の記録した調査結果の表記は(特定の語形の用法に関する項目を除いて)、さまざまであった。国語音声記号(音略的なものから、かなり精密なものまである)によるもの、カナ(音声記号に準じて使えり、補助記号などについて、一定の約束をした)によるものなどがあり、一律でなかった。

なお、各語形のアクセントに関しては報告を求めなかったことを付記する。

3. 分 類

センターでは、これらの回答の分類整理にあたって、音声表記法に関する注意書参照しつつ、調査者間の個人差と認められるものを、まずまとめた。

例:カとkoとka、メーとメエとme:
それ以上の段階での分類・統合は、項目ごとに違う。音声に関する項目では注目した単語・音節などについて、地域的な差の認められるものを、なるべく詳しく区別することとした。その他の一般項目では、音形的な変換まで区別したものを、対応関係にある音変換をまとめた

もの、おろかに並のある語形をまとめたもの、文法的に対応関係にある語形をまとめたもの、さらに、かなり遠い語形でも語法や発音法が共通すればまとめたものなど、分類も細かさについては、いくつもの段階がある。また、1枚の地図の内部でも、あるグループの情報は細かく分類し、他のグループの情報は、大まかに分類した場面がある。

これらの細かさの各段階は、その項目の情報の価値さや、地図の分佈のありさまなどの観点から決定したもので、各段階の分佈のありさま、また、分類・統合に際しては、全国各地から集められたその項目および関連項目に関するすべての情報を全体の関連において取りあつたものであること、および、分類は、比較という観点から行なわれて、厳密な意味での音地理学論の結論を示すものではないことを、付記しておく。

各国の凡例に示した語形が、すなわち分類・統合の結果であるが、その具体的内容（いかなる表記の権限がなされるか）および、地図には示しえなかった主要語の分佈などは、地方言語研究室に保存してある「日本語音地理資料」に記載してある。

凡例に示した語形の表記は、音声および特定語形の用法に関する項目以外の一般項目の場合、大文字のローマ字によって（旧用法については、地図集巻頭の解説を参照のこと）。これは、音声記号でも、音素記号でもない、音声記号で示すとなれば、全国的に受け入れられるような音素記号のうち、いずれによって代表させるか決定している。また、決定できたとしても、具体的な音声記号では、類をまとめる抽象力に欠ける個があるとと思われる。一方、音素記号で示すには、異なった音素体系をもつ各地方音を通じて一貫させることに理論的な困難さがあり、地理的比較の基礎となりにくい面があると考えられるからである。

つまり、この大文字のローマ字表記は、全国各地、異なった音素体系・異なった文法体系の存在に由来しながら分佈する、多くの、しかも関連ある語形の分類・統合の結果を、わかりやすく表示する目的の、音地理学の理論に基づいた特殊な表記ということができよう。したがって、カナによって表わすことも可能である。母音と子音の性質をとりとめて感づくこともできるので、また、国際性も考慮して、ローマ字を用いた。大文字を使ったのは、他の表記（概略的な音声記号や正書法など）と区別するためである。

凡例では区別した語形を、地図の項目や、各項目の説

明でさらに大きくまとめて示す場合には、カタカナ表記を用いた。たとえば、「フタイ」は、凡例に示した HUTOI・HUTTOI・HUTER・HUTHI・HUTOKA などの語形をまとめて示す、いわば代表語形ということができる。

4. 地図への記載

調査者から寄せられた情報は、地方言語研究室で以上のように分類整理されるが、さらに、色および形によって相互に識別される符号に変えられて、「方言調査基礎図」(具体的にはB2版の白地図である)上に記載される。音声記号そのままを記入したり、同じ回答の分佈する地域を塗りつぶしたり、等線線によって分佈地域を示したりする方法はとらなかつた。符号に変えたのは、分類整理の結果を相互関連図に見やすく示すためであり、地域を限って示す方法をとらなかつたのは、各地点からの回答を、できるだけきめこまかく示したかったからである。一個の符号は、特定の調査地点からの一情報を示している。二個以上は、符号が並びへ印でくられているものは、一地点から二以上情報が寄せられたことを示している。無回答の場合も、そのむね符号によって示した。

符号を与えるにあたっては、できるだけ分類の原因を反映するようには考慮し、さらに地理的分佈を表現することができるよう工夫した。すなわち、ある次元による分類は色の区別や濃淡によって示し、他の次元による分類は形の区別によって示し、さらに、別の次元による分類は符号の大きさや方向の違いによって示すように心がけた。また関連する数項目の地図に同じ語形が現われる場合は、できるだけ共通の符号を使うよう、さらに音素上・文法上のある特性が数枚の地図に一貫して現われる場合は、できるだけ一貫の原則によって統一するよう努めた。ただし、たとえば歴史的に同系統の語形に同じ色の符号を与えたと、各一貫して言い語形に、ある一定の傾向の符号を与えたと、標準語と一致する語形は一定の符号によって示すという方針は、とっていない。

研究室に集められた各地点からの情報は、表現の新古や、上品か下品か、共通語的か俗語的かに関する直接的な情報のほかに、補足的な注や、その語形を答える

きの被調査者の状況(笑いやが答えた、自信なさそうに答えた、なかなか思いつけずやっとならした)、調査の場面に思いついた第三者の発言、調査者自身の意見などもある。これらは、そのまま地図上に反映させることはできなかった。しかし、このうち特に注意すべきものは、各項目についての説明で触れ、残りは研究室に保存してある「日本語音地理資料」に記載してある。

ただし、同一地点から二個以上の回答があつて、一方の標準語と一致する回答に、共通語的である・新しい・上品である・改まった場合に使う・まれにしか使わない、およびこれらに準ずる説明がある限り、原則としてその回答を地図に記載しなかつた。したがって、逆説的には、この点に限って地図上に反映させたと考えよう。標準語と一致する表現を、これらの状況でしか使わないというときは、この説明を記載しなかつた他の地点でも同様なことがありう。記録のありなしを根拠に、地図に記載するしないかを決定することは、かえって混雑化をまねくと考えたためである。

標準語と一致する表現には説明がなく、逆に、他方の標準語と一致しない表現の方に、方言的である・古い・下品である・俗語的である・よく使う、およびこれらに準ずる説明がある場合は、上述の場合と同様とも考えられる。多少差はあるが、この場合は、標準語と一致する表現の少なさ(通語的である)などの性格が、いふんなりとも機械的でないと考えて、ともに地図上に示した。

なお、カードに記載された情報を分類整理し、いつかまとめられた情報の順に対してそれぞれ符号を与え、日本語音地理が完成するまでには、研究室において、地図ごとに、幾度かの分類整理の改訂や符号の変更が繰り返されたことを付記しておく。地図完成までの詳しい手順については、機会を改めて解説するつもりである。

5. 方言調査基礎図

ここで、情報を記入した「方言調査基礎図」について説明しておく。ただし、日本語音地理第1巻の巻頭に「参考地図」・調査地点地図の凡例にも説明があるので、ここでは基本的な問題にだけ触れる。

方言調査基礎図とは、いわば、調査地点の番号を全国一貫した方針で付けたシステムである。調査結果を整理して記入するためには、各調査地点にそれぞれ番号を

付けることが便利なることは、言うまでもなからう。地名をそのまま使ったなら、地名で長くてもいいし、位置を見出すのに困難があり、さらに地名には変更があるためである。

ところで、地点の番号は新しく考えるのであるから、いかなるものにも付けることができる。しかし、恣意的な方法より、統一した、組織的な付け方の方がよさそうであると見えてくる。この場合、編か通し番号を付けることも考えられるが、前面を扱う場合には、一定の方針を立てることがむづかしい。また、この方法では、補充調査の地点番号を付けることと異なっている。

そこで、日本語音地理作成に際しては、ひとりの調査に限らず、あらゆる地理的な音節調査、さらに言えば、あらゆる地理的調査に使うことのできる地点番号のシステムを考えた。このシステムによれば、具体的な各々の地点は、いかなる場合に、調査・調査時にかかわらず同じ番号によって見られ、しかも、各地点番号図には一定の組織があり、システムささめみれば、地図上で、たがひにその位置を見出すことができる。

このシステムの思ひは、100法(100分法)を用い、かつ経度・緯度によることとであり、実際には、国土地理院発行の5万分の1地形図を利用するというものである。経度・緯度は、不変と見えていい。また、5万分の1地形図は、正確は、日本全土を覆う、しかも役にたつてもっとも身近な、正確で細かな地図である。

なお、このシステムによる地点番号は、地球表面のある地点を位置とするのではなく、ある面積をもった地域(正確に言えば二つの経緯と二本の緯線によって限られた地域)に与えるものであることを、注意しておく。具体的な問題となるが、現実の調査地点が、二つ以上の網目にまたがる場合は、次のように処理したことを付記する。

- (1) どちらの網目に多く含まれているかによって決定する。

図1の場合は1234.57と認める。

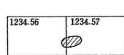


図 1

図 2 どちらともつかぬ場合は、若い番号の網目に含まれているとみなす。

図 2 の場合は 2345.67 と認める。

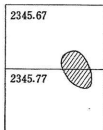


図 2

図 3 三つ以上の網目にまたがる場合も同じ。

図 3 A の場合は 5556.00, 図 3 B の場合は 7777.70 と認める。

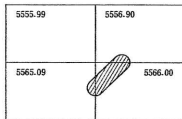


図 3 の A

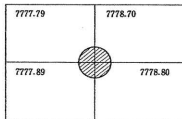


図 3 の B

また、現行の 5 万分の 1 地形図の大部分には、経度によって、10'4 の覆層ズレがあるので、注意を要する。

どの図にズレがあるかは、各図版の経度表示によって、ひとつひとつ確かめなければならない。10'4 のズレとは、若いしかれば、地形図には、基礎地図のます目に対して、わずかに東に寄った地域が記載されているということである。地形図上の 1 点か、何番であるかを知るためには、単純に、地図外枠を基準に 100 分（さらには 10,000 分）してはならない。ズレのある場合は、100 分のます目を 10'4 (3~6 mm)。図によって違う) ずらす必要がある。つまり、ズレのある地形図の図面に、東接する地形図に含まれるべき地域の一部が記載されており、当面の図面に含まれるべき地域の一部が、西接する地形図に移っていることを意味する。

外海の離島については 5 万分の 1 地形図のうち、あるものは、その外枠が、おれおれのシステムと一致しないものがあることに注意したい。例：山形県「熊島」、東京都「八丈島」、鹿児島県「喜界島」など。

さらに 5 万分の 1 地形図の中には、1 枚の図面に、東西 15' 南北 10' の枠からはみだす部分を併せて記載するものがあることに注意したい。例：福島県「相馬町中村」茨城県「麻生」、福井県「福井」、静岡県「浜松」など。これは、現行の 5 万分の 1 地形図が、節約のため例外措置をとったものと考へて、現行地形図面にこれらより、東経 2'30" 南北 1'40" のブロックを 100 分する方式でます目をかけた。

この調査について、各地点に番号を与える仕事は、調査者が、自ら調査地点を記入した 5 万分の 1 地形図をもととして、研究室において行なった。

6. その他の資料

(1) 音声表記法に関する注意書き、(2) 調査地点に関する情報（調査地点の位置を記入した 5 万分の 1 地形図を含む）、(3) 調査者に関する情報、(4) 各地点での調査印表、および調査全般に関する感想などは、すべて研究室に保管されているが、機会を改めて公開したいと思っている。さらに、調査者自身の言語が調査結果に多少と影響する事象があると考へられるので、調査者の経歴と、調査地点に関する調査者自身の言語が記録され、保管されている。

沿革と経過

1. 日本の言語地理学の歴史

日本の言語地理学は、上田万年がドイツ留学から帰朝して企画した 国語調査委員会(1902 年文部省内に設置)の調査にはじまる。1903 年 9 月、同委員会が「主トシテ普通教育ニ於ケル仮名遣ノ改正及ビ標準的発音ノ参考ニ與センガ爲メ」音韻についての調査事項 29 條を、「専ラ標準語制定ノ参考ニ與センガ爲メ」口語法(語)としての文法についての調査事項 33 條条を連ね、全国各府県に、現地のことばの調査を依頼した。報告者は、上田万年主査委員のもとで整理され、とす、1905 年 3 月「音韻調査報告書」1 冊、「音韻分布図」29 冊、ついで、1906 年 12 月「口語法調査報告書」2 冊、「口語法分布図」37 冊が刊行された(1906 年 10 月、「音韻分布図」の 4 冊、「口語法分布図」中の 10 冊の複製を中心とした「日本方言地図」が、吉沢弘文館から刊行されている)。これが、日本語の地域差を地図上に描き出す、日本の言語地理学第一回の調査であり、しかも、この 65 冊の分布地図こそが、「日本言語地図」に先立つ、日本全域を対象とした、現在唯一の方言分布地図である。

国語調査委員会は、引き続き、市郡単位の調査をめざして、1908 年 3 月、音韻について 41 条、口語法について 90 条の調査事項を選んで、ふたたび各府県に調査を依頼した。報告書は、約 900 通のほり、岡田正典が主査となって整理に当たったが、出版の遅延にちなみならず、1923 年 9 月の関東大震災に、報告書、300 冊の分布地図など、この調査に関するすべての資料が焼失してしまった。かえすがえす残念なことであるが、これが、日本の言語地理学第二回の調査である。

その後、20 年間はどの沈滞期を経て、言語地理学は、ふたたび活動を始めた。

スイスから帰朝した藤田国男が、1927 年 4 月以降「人類学雑誌」に「編年考」を連載しはじめたのが契機である。江澤孝郎が、その後、改訂を加えられつつ、1930 年刀江書院から、さらに 1943 年創元社から、単行本として

刊行された。この「編年考」の発表こそ、方言分布を基準として言語の歴史を解明する、日本の言語地理学の、真の誕生と言えようか。明治期の調査は、これと比較すれば、単に、言語の地理的差異の事実を明らかにしたにとどまる。

この研究を契機として、ひきつづきいくつかの言語地理学の研究が発表された。1928 年、東条操の「方言採集手帳」の刊行も、当時の方言研究界に刺激を与えたと考えられる。しかし、当時の調査結果のうち、地図として刊行されたものはかみならず多くもなく、全国を対象とするものは、ほとんどなかった。

また、理論的研究としては、詳細「編年考」と、1934 年以降奥羽方言の調査を行なった小村好日の研究(この結果である「方言語彙の研究」1 冊)の著者の没後 1960 年に公開されたなどを挙げることができる。ヨーロッパの言語地理学研究もいくつか紹介されはしたが、あまり学界の反響を呼ぶことはできなかった。

第 2 次世界大戦をはさんで、学界の活動は、再び沈滞期にはいった。

戦後のあけぼのには、土川正男「言語地理学」(1948 年)であろう。言語地図としてこの期の初編を飾るものは、藤原寿一による、中国・四国地方を対象とした A Dialect-Geographical Study of the Japanese Dialects (1956 年)と、石黒武蔵の「鳥取県方言分布の実態」(1957 年)であろう。かくて、「日本言語地図」作成のための調査は、これらにすぐ続いて開始されることになる。すなわち、20 世紀の後半にあり、日本の言語地理学は、ふたたび活気をとりもどしたと言てよからう。

それ以後のこの学問の発展については、いま詳しく述べないが、各地でいくつかの本格的調査が行なわれ、数十年前の新しい学術論文が発表され、少なからぬ若い研究者が育ちつつあることを記しておく。ただ、この期の調査に、1960 年に来朝し、以来ずっと注目しているペルギーの言語地理学者 W. A. Grootaers の影響が、段に際していることは、忘れられない。

2. 日本言語地図の経緯

1948年12月	国立国語研究所設置(評議員会において、言語地図作成の提案があった)
1955年～1956年度	日本言語地図作成のための準備調査(2か年)
1957年～1964年度	現地調査(8か年)
1957年～1961年度	前期調査(5か年)
1962年～1964年度	後期調査(3か年)
1968年度以降	沖縄が調査地域に加わる
1965年度以降	検証調査
	調査結果の整理・編集・発行

第2次世界大戦終結後間もなく、1948年12月、文部省所轄研究所として、国立国語研究所が設置された。設置法第1条には「国語及び国民の言語生活に関する科学的調査研究を行い、あわせて国語の合理化の確実な基礎を築くために、国立国語研究所を設置する」とある。

この国立国語研究所の事業として「日本言語地図作成の計画が芽生えた時期は、いまつまびらかでない。しかし、日本全国を対象とする言語地図の作成は、久しく学界の理想するところであった。研究所には、評議員会という機関がある。事業計画・調査研究の委託その他重要事項について審議し、所長に助言する機関であるが、ごく初期のある評議員会の席上で、評議員兼承擔者がこれを強く主張し、岡中島健蔵が支持したことが伝えられている(記録では確かでない)。

「日本言語地図」の作成を、国立国語研究所地方言語研究室の事業として、特に、地方研究員が協力によって実現する計画がスタートしたのは、1955年のことであった。年度のはじまる同4月から、二か年の準備調査と、二回にわたる地方研究員に対する委託調査の結果から、次第に実施計画がまともになっていく。

この期間に、地方研究員が一堂に会する「地方研究員全国協議会」が、二回東京で行なわれている。1955年11

月21日と、1956年11月12日とである。1955年の全国協議会には、引き続いて「日本の言語地図学」に関する公開討論会が、国立国語研究所主催で開催された。発議者と題目は次の通り。

日本の言語地図学	柴田 武
調査の地点について	石塚 福雄
言語部の選び方	西宮 一民
調査より調査を	前田 勇
どういう項目を調べよか	進川 宗賢

1957年4月、新しい年度が始まると同時に、本調査に着手することになった。現地調査の皮切りは、同年6月24日、岡田荘之輔の行なった兵庫県朝来郡山崎町矢名郷での調査であった。以降1955年8月14日、加藤正信による鹿児島県鶴毛郡上田久町水良邸島本村での調査まで、8か年の調査が続く。調査地点の網の目は、北海道から沖縄に及び、総計2,400、調査者は65名であった。調査は、1957年～1961年度(5か年)の前期計画と、1962年～1964年(3か年)の後期計画とに分けて行なわれた。沖縄が調査地域に加わったのは、1958年度以降であったことを付記しよう。

なお、1965年度以降は、専ら研究室が行なう調査結果の整理、編集発行が主要な事業となったが、往々に「日本言語地図」の資料の性格を明らかにするための検証調査が、数回にわたって行なわれた。その結果については、別に発表する予定である。

3. 分担者

ここでは、調査の準備段階・実施段階(1955年度～1964年度)の関係者のみを掲げる。それ以降の整理・発行段階の関係者は、発行完了の際に示す予定である。

地方言語研究室長*	柴田 武**
地方言語研究室員***	野村 幸康
	上村 幸康
	進川 宗賢****

地方研究員(準備段階→1955・56年度一のみ関係者7名を含む)

(担当地域)	(氏名)	(番号)	(分担期間)											
			55	56	57	58	59	60	61	62	63	64		
北海道 I	五十嵐 三郎	01	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北海道 II	長谷川 清	02	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北海道 III	石塚 福雄	03	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
青森	森 比呂 正年	04	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岩手	小松 茂 敬一	05	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮城	堀 龍 敬康	06	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	加藤 正信	48				○	○	○	○	○	○	○	○	○
秋田	北 条 忠 雄	07	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山形	後藤 利雄	08	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	佐藤 亮 一	59									○	○	○	○
福島	菅 野 宏	09	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	須佐 善信	58				○								
	三浦 芳夫	54								○	○	○	○	○
茨城	田口 美 雄		○	○										
	宮島 速雄	10			○	○								
	金沢 達 人	55								○	○	○	○	○
群馬	木多々良 頼 男	11	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
群馬	木上 野 忠 男	12	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
埼玉	木久保 忠 國	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	江 原 兼 彦	62								○	○	○	○	○
千葉	大岩 正 伸													
	加藤 信 昭	14			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	後藤 和 彦	57								○	○	○	○	○
東京	斎藤 義 兵衛	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日野 資 純	49				○	○	○	○	○	○	○	○	○
	加藤 信 昭	14												
	馬 渡 良 雄	58								○	○	○	○	○
神奈川	斎藤 義 兵衛	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	日野 資 純	49				○	○	○	○	○	○	○	○	○
新潟	滝 剣 持 幸 一	16	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
富山	大田 栄 太郎		○	○										
	岩井 隆 彦	17				○	○	○	○	○	○	○	○	○
石川	川 岩 井 隆 彦	17	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
福井	井 藤 盛 彦	18	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山梨	柴 清 水 茂 夫	19	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
長野	野 青 木 千 代 吉	20	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜	草 寛 五 百 郎		○											
	谷 岡 石 雄	21	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
静岡	岡 望 月 健 三	22	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

* 林が1964年9月から1965年8月まで事務を取り替った。

** 1964年9月、東京外国語大学に転出した。

*** 往々に北村前が1955年5月まで在職した。

**** 1955年6月から。

INTRODUCTION

(担当地域)	(氏名)	(番号)	(分 担 順 回)											
			55	56	57	58	59	60	61	62	63	64		
愛知	野村正良		○	○										
	山田豊也	23			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
三重	重瀬治夫	24	○	○										
	杉浦茂夫	47			○	○								
滋賀	豊谷直昭	36						○	○	○	○	○		
	熊谷幸城		○	○										
京 都	寛大城	50				○	○	○	○	○	○	○		
	奥村大三	25	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
大 阪	逸藤邦雄	60								○	○	○		
	前田勇男	26	○	○	○	○	○	○	○					
兵 庫	西宮一民	29								○	○	○		
	和田之精	27	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
奈 歌	良西一民	29	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	山村英一	30	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
鳥 取	成戸惇	31	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	岡田謙	32	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
岡 山	成戸惇	31											○	
	山田明吉治郎	33	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
鳥 取	村岡棧夫	34	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	山口渡辺保		○	○										
徳 島	阿波陽	35			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	宮城文雄	36	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
香 川	近石季秋	37	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	榎杉山正世	38	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
愛 媛	知土原重俊	39	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	高知阿部婆頼助	40	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
福 岡	賀小野志真男	41	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	佐賀小野志真男	42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
長 崎	西島安	42	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	小野志真男	41								○	○	○	○	
熊 本	秋山正次	43	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	分亲井寛一	44	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
大 宮	崎岩本英二	45	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	鹿見島上幸二	46	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
津 浦	磯伴宗根政善	51				○	○	○	○					
	外間守善	61											○	

地方言語研究所研究補助員*
白沢 宏枝**

* 別に、1966年3月まで渡辺泰、1966年9月まで山下道代、1966年9月から1967年3月まで石塚朋江が在職した。

** 1967年4月から。

1. Aim of the survey 39
 2. Method of the survey 39
 3. The Questionnaire 39
 4. Localities 41
 5. Informants 42
 6. Dialect Material and Classification ... 43
 7. History 45

stance, the range and the influence exerted by the language of Osaka, as the economic center of western Japan. The birth, the rise and the decline of many dialects have yet to be described.

2. THE METHOD OF THE SURVEY

The Linguistic Atlas of Japan is entirely based on personal interviews; 65 fieldworkers visited personally their allotted area, choose a suitable informant, and using a 285 item questionnaire (when necessary also 88 pictures), asked questions following a determined phraseology. As a rule, only one informant was chosen for each of the 2400 localities covered by the survey.

The aim of the survey was to record the personal speech used by the informant in familiar and daily surroundings. In some cases, the answer could be a dialectal form identical with the standard form. Note was also taken of the dialectal forms which were declared to be no longer in use, to be limited to special circumstances, to be archaic or to be recent innovations. In every case, care was taken to note the exact pronunciation. The following signs were used to show the reactions of the informant to the questioning:

- ! : answers laughing
- ? : shows some doubt
- ∴ : shows some shame
- # : after some pause
- * : corrects himself

3. THE QUESTIONNAIRE

3.1. Types of questions

(1) All the questions were written be-

1. AIM OF THE SURVEY

The Linguistic Atlas of Japan uses the geographical method and aims to clarify, as far as a limited questionnaire will allow, the two following problems:

(1) The formation of the modern Japanese standard language.

When the ancient city of Edo, at the end of the 19th century, became the capital of a modern state under the name of Tōkyō, its language became the core of the modern Japanese standard language. As a further evolution, in the first decades of the 20th century, the spoken language of Tōkyō was taken as the base of the modern written language. It is, however, not clear yet to what extent the dialect of the Kantō region (the region surrounding Tōkyō) furnished the basic linguistic material of the standard language, or to what extent elements of other dialects were incorporated in the process. The geographical range of the modern standard language, has yet to be defined exactly and its relationship with the surrounding dialects is unclear.

(2) the dialectal differences in Japan and their history.

The shaping of the different varieties of dialects in Japan and their evolution needs description. One would like to know, for in-

forehand, and the fieldworkers were instructed to avoid all modifications in the phraseology. Pictures and gestures were to be used as prescribed. This was to assure the necessary uniformity in the responses, in spite of the great number of fieldworkers, 65 in all.

Each question was supposed to elicit one single word or expression, as for instance:

question 70 : when you are tickled on the sole of the foot or under the armpit, you have to laugh; what do you say to express this feeling?

question 71 : when you fold your feet under yourself when sitting, like this (showing a picture), what do you say you are doing?

During the questioning, no suggestions were allowed of the standard language answer or of the dialect forms. Our survey could not use the translation technique for two reasons: first, as a result of the Japanese educational system, most speakers are bilingual, using the standard language or their dialect according to the situation; second, the standard language and a dialect may have the same linguistic form, with a different semantic range; for instance, *aza* (birthmark) and *hokuro* (mole) are called by identical names in some districts, while in others birthmark is *hoyake* and mole is called *aza*. It would never do in this case to ask simply for "the local name for *aza*".

(2) The S-questions. Besides the normal questions described above, some other form of questioning was chosen to investigate semantic problems. In the case of 45 items, marked in the questionnaire with the letter S (=semantic), the fieldworker furnished a linguistic form and asked the informant to give its meaning. Here two different kinds can be

distinguished, as is made clear by the following examples:

question 141 S : when one says "the *niasu* of the house", which part is meant?

(This type of question furnishes the word and asks for its meaning.)

question 142 S : speaking of the *doma*, namely the unfloored part of the house, do you use the word *niasu*?

(This type of question furnishes the meaning, and asks whether a given word is used.)

(3) A third type of question is the one presenting a choice to the informant. This was done to ascertain the range of some standard language expressions. These questions, five in all, have a C (=choice) attached. Here is an example:

question 258 C : when you eat something that pleases you, do you say "oisii", or "umai", or do you use another word?

(*oisii* is the standard for "tasty".)

(4) Finally a certain number of questions were meant to ascertain some phonetic characteristics. The question was put in the same way as in the first type above, but as lexical uniformity was known to exist, the aim was the phonetic aspects of the answer. As an example:

question 260 : this part of the body (showing the whole back) is called....?

(The word for back is *senaka*, with different degrees of palatalization of the initial *s*).

3.2. Surveys done in common

To assure a greater uniformity in the questioning, one of the members of the directing dialect bureau from Tōkyō, accompanied

the local fieldworkers during the survey of one or more of the assigned localities. The technique of selecting an informant and the method of questioning was then demonstrated. As a result no less than 221 localities were surveyed by one of the directors. Since these localities are equally distributed over the whole territory, their materials furnish a way of checking on the quality of the phonetic transcription of the fieldworkers.

3.3. Length

The questionnaire had 285 items. Because of budget limitations, our choice was severely restricted. Words of daily use and words with a great lexical variety make up the majority.

Main contents:

- (1) Man: human relations, human body, feelings and judgments, actions, life outside the house and inside the house, recreation.
- (2) Nature: time, weather, ground, animals, plants.
- (3) Verbs, adjectives and others.
- (4) Phonetic items.

3.4. Preparation of the questionnaire

The questionnaire used did not have from the start the whole set of 285 questions. Some questions were dropped and some were added. The first years the two books of the questionnaire had 230 items. From the fourth year, a third book was added with 27 items, and 11 items were dropped. From the fifth year, a fourth book was added with 28 more items. Fifty nine more items were dropped in the sixth year, when the second period of the survey started, and at that time the number of localities to be visited was restricted for 38 items.

This means that an unequal number of localities was surveyed for each item of the questionnaire. The number of localities is indicated on each map. The general situation is as follows: 128 questions were put in all of the 2400 localities; 36 questions in 2000 localities, 55 questions in 1700 localities, 62 in 1000 and 4 in only 400.

3.5. Selection of the questions

As was noted above, in order to cover a part of the daily lexicon, very common words were asked. For the same purpose some standard words were made the object of the C-questions. Among the other words asked, some were chosen because they were known to have peculiarities in their distribution, or in their history. Lexical association was also taken into account, so as to cover several lexical groups in which the words through lexical association were thought to share a common evolution. The phonetic items were expected to furnish material for both the linguistic study of the standard language and for the comparison between dialects. A few questions will probably contribute to our understanding of the grammar of the Japanese dialects, but specific morphological and syntactic questions had to be left out because of the limitations of the survey.

4. LOCALITIES

The number of surveyed localities is 2400, covering the whole territory of the Japanese dialects, from Hokkaidō in the north, to the most distant island of the Okinawa archipel in the south. On an average about 6 localities were surveyed in every 1000 square kilometers, or an average of about 12 kilometers separates each surveyed locality. One inhabitant was

interrogated from each 40,000 people, but since the survey chose only male informants born before 1903, and since we know that there were 4,800,000 males of that age in the whole of Japan (1960 figures), our survey actually reproduces the speech of one out of 2000 of that stratum of the population.

The list of all surveyed localities is given on page 47. To allow for comparison between our Linguistic Atlas and the main atlases published abroad, we give a comparative table on page 20. Another table furnishes details on the chief industries of the surveyed localities, see page 22; we may note here that 80% of all localities were purely agricultural communities.

4.1. Selection of the localities

During the first five years of the survey, 1665 localities were surveyed. Their final choice was left to the fieldworker himself, after the following factors had been taken into consideration by the central bureau:

- (1) Communities of a too limited type of occupation or social structure were avoided.
- (2) Newly built-up places, with an immigrant type of population were avoided, but not urban or commercial communities.
- (3) Communities presenting a too divergent linguistic type from the surrounding area (like gypsies) were avoided.
- (4) Small islands, even of very limited population, were not left out.

During the second phase of the survey which lasted three years, 735 localities were visited. These localities were chosen by the central bureau of the Linguistic Atlas, after

careful consideration of the dialect maps of the first five years.

5. INFORMANTS

For each locality we chose one male informant, born before 1903. Our purpose was to take down the living language of each region, and also to study the formation of the contemporary standard language. We chose an older person because the language of the older generation has a greater chance to present a well-balanced linguistic system. On the other hand, since the survey was done by questioning, some artificiality was introduced in the linguistic expression. The type of language registered in this atlas may be thought to represent a somewhat newer type than the daily conversation held privately by our informants.

To insure uniformity in the language samples, we had to choose representatives of the same sex. We tried to choose men because in Japan it is difficult to find in smaller communities women born and raised there; most of the women are married outside of their villages. Another reason for choosing men is, of course, that it is easier to keep up natural conversations with male informants, who have greater social poise. Even so, eight of our informants had to be chosen from among women.

The informants represent the following age brackets:

born between 1894 and 1903: 1384 or 60%;
born between 1878 and 1893: 936 or 39%;
a very small number were older or younger than these two groups.

5.1. Personal characteristics

The informants were chosen from those born in the given locality, or at least from those who spent the time from the age of 3 to 15

without interruption in the given locality. We avoided those whose residence in the locality had been interrupted by significant absences, that is by longer than 36 months, the military service included.

No professional or social limitations were imposed, but we tried to choose only people who represent the general trend of occupation of their locality. The occupation of the informants were mainly:

agricultural work:	63%
commerce:	21%

Their education level represents the general level of the Japanese population. Education has been compulsory in Japan since 1871, and as a consequence 99.9% of the people are literate. Most of our informants went to primary school (88.3%), a tenth went further (10.60%), and only a few had no formal education.

5.2. Selection of the informants

The final choice of the informant was left to the fieldworker. The latter was often a native of the prefecture and was always known professionally in the education circles of the region to be surveyed. He could therefore rely on acquaintances or colleagues to make the first contacts. Even after an informant was found who seemed to meet the necessary qualifications, a last precaution was taken. The questionnaire was printed in two books of unequal length. The first part contained only 30 items, and was used as a first trial of the chances of success with the chosen informant. If he did not live up to expectations, the fieldworker, reaching the end of the first book, declared the survey ended; the informant was thanked and sent home without losing face. Another informant was then found with whom the first book of

the questionnaire was used again.

5.3. Interviews

The interviews were held mainly in the informant's house (69%), while in 25.5% of the cases some kind of official building was used (school, village office, etc.). Some 4.7% took place at the local inn, and the rest outdoors. The time necessary to answer the questionnaire differed somewhat according to the length of the successive questionnaires; generally speaking it took most fieldworkers more than one and a half hours and less than two and half hours.

6. DIALECT MATERIAL AND CLASSIFICATION

After filling out the questionnaire, the fieldworker was asked to copy each answer on a separate card. The cards representing the materials of one locality were then sent to the central bureau in Tôkyô. 540,000 cards are kept there as the original material of the survey.

The phonetic recording used by the fieldworkers could not be made uniform because of their lack of instruction in the use of the International Phonetic Alphabet. Most among them did use this alphabet; however, a few used the Japanese kana-syllabary, to which a certain number of signs had been added under the direction of the central bureau. One must remember here that almost a tenth of all localities were surveyed by the members of the Linguistic Atlas bureau, who used exclusively a narrow transcription of the IPA. Their material was used successfully as a means of checking the exact values of the kana-transcription of the field-workers.

The linguistic forms shown on the maps of the atlas are written in capital letters to distinguish them from other transcription systems.

This system may be said to constitute a broad phonetic transcription. For each map, the editors chose the characteristic elements to be shown by the color scheme and by the shape of the signs. The opposition marked thus between the different linguistic forms will be sufficient to show to the user of the Atlas the phonetic value of the transcription. The choice of color and signs puts into a visual form the dynamism of the dialectal history, and the commentary appended to each map gives the first tentative interpretation.

A short example will not be out of place here, to show the reader how the phonetic values can be read from the map. For instance, let us consider the case of map 40, which gives the dialectal material corresponding to the word of the standard language: *karai* "sharp, pungent (taste)".

The red color represents the lexical form KARAI and its phonetic variants. A few aberrant lexical forms are represented by KARAKYA (island of Hachijō), KARAKA (western half of Kyūshū), by the various Ryūkyū forms KARASA, KARASAN, KARAMUNU, etc., which show a divergent morphology, and finally by a few special forms on the main islands, such as NANBAN-KARAI, TOOGARASI-KARAI, etc..

Coming back to the phonetic variants of the main form KARAI, we note that the ending -AI of the adjective is found in the dialects written in the following ways: KARAI, KAREE, KARE, KARYAA, KARYA, KARAA, KARUI, KARI, KARI, KAI, KAARE. The method we followed was to group, for instance, under the heading KARAA the notations of the fieldworkers: [kara:], [kara:], or the kana-

syllabary notation カラア. Similarly, under the heading KARAI, we grouped the following notations [kara:], [kara:], [kara:], etc., or the kana-syllabary notation カライ.

The central bureau's interpretation of the various notations is of course based upon an exhaustive phonetic experience of the various dialects, acquired during the survey itself. This interpretation is strongly vindicated by the clearly defined geographical distribution of each form shown by the map.

Further elements of interpretation are given by the informant's comment ("old word", "new form", etc.) or by the fieldworker's notes. These have been helpful for the map interpretation, and they will be published in a later volume. When two linguistic forms have been recorded in the same locality, they have been both marked on the map. When, however, one of the two is the standard language form, and when, in addition, this fact has been noted by the informant ("this is the new polite form", "this is the word used in the school", etc.), in this case only, we have omitted from the map the form marked in such a way.

6.1. Basic map

The map used in the Linguistic Atlas of Japan is the Basic Map shown at the beginning of volume I. The numbering of all localities has been planned in such a way that the geographical location on the map (latitude and longitude) of each locality can be read from the figures used. This system is meant to be used in all future investigations in Japan. Its advantage lies in the fact that the location on the map of the smallest human settlement in the country can be expressed by a sequence of eight numbers.

7. HISTORY

7.1. History of the linguistic geographical method in Japan.

We refer the reader first to a detailed account of the beginnings of linguistic map-making in Japan published in ORBIS (W.A. Grooters, *Les débuts de la géographie linguistique au Japon*, vol. VI, 2, 1957, 342-352). One will find there a detailed description of the first linguistic atlas of Japan (and one of the first to be published in the world). The author UEDA Mannen (1867-1957), studied three years (1890-1893) in Germany with Sievers, Paul and Brugmann, and he came back to Japan with an idea for a grammatical and phonetic survey by the correspondence method, similar to Wenker's *Deutscher Sprachatlas*. The phonetic atlas (29 maps) was published in 1905, the grammatical atlas (37 maps) in 1906, each with an explanatory volume. This work furnished Japanese linguistics with the first general description of the main dialect groups. The ORBIS article gives a detailed description of these works.

If Ueda represents the influence of the German school of dialectology, the Swiss-French school is represented by YANAGITA Kunio (1875-1968). Already the founder of the scientific study of folklore, Yanagita went to Genève in the nineteen-twenties where he followed the lectures of Eugène Pittard (1867-1962), from whom he learned about the map method. His famous work *Kagyū kō*, The names of the snail, first a series of articles (1927), was published as a volume in 1930, and in a revised version in 1943. This book is the first truly scientific study of dialect geography. For the first time, a dialect map

was analyzed, and the areas of word distribution provided the basis for a thorough historical study of the dialect forms.

The founder of modern Japanese dialectology, TOJŌ Misao (born 1884), has been introduced to the foreign reader in ORBIS (W.A. Grooters, *Tojō Misao's influence on Japanese dialectology*, vol. II, 2, 1952, 565-569). Tojō gave a great impulse to dialect surveys by the publication of his *Hōgen seishi techō* Questionnaire for dialect surveys, (1928). After Yanagita's book, however, one very seldom finds dialect studies using maps, and there are few maps which cover more than a small part of the country. Of scientific value was the work done in northern Japan by KOBAYASHI Yoshiharu (1886-1948), which was only presented to the public in his posthumous *Hōgen go'igakuteki kenkyū* Studies of Dialectal Lexicography (1950). With a thorough knowledge of European dialect geography, especially of the Gillieron method, Kobayashi published and analyzed many dialectal maps. His influence in the scientific community, however, was practically nil.

The situation of dialect geographical studies in Japan shows a great amount of progress after the end of the war. One of the first works to come out was TSUGHIKAWA Masao's *Gengo chirigaku* Dialect Geography (1948). His work mainly concerns the dialects of Nagano prefecture. A broad area of western Japan was explored with a correspondence survey by FUJIWARA Yoichi's *A Dialect Geographical Study of the Japanese Dialects* (in English), 1956, Folklore Studies, volume XV (see book review in ORBIS, vol. VI 2, 1957, 534-540). Finally ISHIGURO Takeaki's *Tottoriken hōgen bumpy no jittai* Geographi-

cal survey of the dialects of Tottori prefecture (1957) brings us immediately to the period when the present linguistic atlas of Japan was being prepared.

There is no space here for a detailed report of the scientific activity in this field since 1957. There were no less than five (Itōgawa, Shimpi, Sado, Shimokita and Setonaka) regional atlases completed, based on the most recent scientific methods. They cover every single locality of the surveyed regions, and they all stress the thorough analysis of distributional maps. They have innovated in many fields and their new methodological advances have already been brought several times to the attention of the international congresses of linguists and dialectologists. There have been almost one hundred articles published, mostly in Japanese, concerning the partial results of these regional atlases. Six universities have now regular courses of dialect geography and the activity of a dozen young scholars shows a great promise for the future of dialect geography in Japan. The most striking example of the progress made in this field is the recent publication of HIROTO Atsushi's *Chūgokuchihō goken gengeochizu* Linguistic Atlas of the Five Provinces of West Japan, Tōkyō, Kazama, 1965, with 350 well-executed maps.

We wish to mention here also the scientific activity of the Belgian dialectologist, Father Willem A. Grootaers, who since his arrival in Japan in 1950 has influenced publicly or privately the progress of dialect geographical studies

7.2. History of the Linguistic Atlas of Japan

The reader is referred to the detailed account of the preliminary work of the Atlas

project given in ORBIS (W. A. Grootaers, *Japanese Linguistic Atlas, End of the preliminary work*, vol. VI, 1, 1957, 68-85). It is shown there how this linguistic atlas fitted into the scientific activity of the National Language Research Institute (Ministry of Education of Japan). From its inception in 1948, the Institute was contemplating dialectal surveys as part of its studies of the modern Japanese language. The direct preparation of the atlas was started in 1955, and by 1957 the first questionnaire was ready and the fieldworkers started the first surveys. We have sketched above the differences in the survey's method between the first five year period (1957-1961) and the second three year period (1962-1964).

During the whole of the survey, the following were responsible for the general direction of the central dialectal bureau:

Head: SHIBATA Takeshi (now at the Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia-Africa, Tōkyō University of Foreign Studies, Tōkyō Gaikokugo Daigaku).
Members: NOMOTO Kikuo, UEMURA Yukio and TOKUGAWA Munemasu.

付録 1. 調査地点一覧

1. ここには、日本言語地図作成のための 2,400 か所の調査地点と、その地点に関する所要事項を示した。
2. 地点は、まず都道府県ごとに分類し、同じ府県内の地点は、「方言調査基礎図」の番号の順に配列した。第 1 巻巻頭の「参考地図 I 調査地点番号地図」と対照されたい(本巻 18 ページの脚注で付言した 3 地点は岩手県の末尾にならべた)。
3. 各欄は次の内容を示す(左から)。
 - イ 方言調査基礎図のシステムによる地点の番号。
 - ロ 調査時の地名(現在は変更されたものもある)。
 - ハ 被調査者氏名。
 - ニ 調査者を番号によって示した(本巻 20 ページ, 37 ページと比較対照されたい)。
 - ホ 調査年(暦年)を西暦の末尾 2 桁の数字で示した。
 - ヘ 各地点での使用調査票を示す。各欄とも
 - ▲ は開始当時のもの, b は第 1 次改訂のもの, c は第 2 次改訂のものを示す。
 - はその調査票を使わなかったことを示す(なお本巻 3 ページ調査票の項参照)。
 - ト A B C D E は被調査者に関する情報である。
 - A は生年(西暦の末尾 2 桁), B は職業(1 農業, 2 林業, 3 漁業, 4 工業, 5 商業, 6 鉱業, 7 勤め人, 0 無職), C は学歴(年数), D はよその土地で生活した期間(月数), E はその他, 兵は兵歴のあること, 女は女性であることを示す。
4. 福島における調査地点については、21 ページをも参照されたい。

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査区								
					第1調査区	A	B	C	D	E			
0716.46	北海道												
0716.46	釧路市北沢通10丁目	岩田直蔵	01	'57	a	a	o	91	3	8	3	兵	
0724.12	札幌市文京町深澤トナイ	上出三松	02	'62	c	e	b	b	94	5	13	60	
0724.58	利尻郡利尻町野瀬泊町	山上田松一	01	'62	c	e	b	o	03	3	9	3	兵
0724.95	利尻郡利尻町泉町	高西重吉	01	'62	c	e	b	b	98	7	11	36	
0737.94	天塩郡越前町字帆延2条1丁目	熊谷亘	02	'61	b	b	o	a	01	7	8	24	兵
0747.70	天塩郡天塩町新栄通9丁目	川瀬悦二	02	'61	b	b	o	a	98	1	8	9	
0776.89	苫前郡羽幌町	三浦時之助	01	'60	b	b	a	o	02	7	8	24	兵
0779.03	中川郡美深町字教島	中瀬豊寿	02	'60	c	e	b	a	02	1	9	12	
0799.95	上川郡東1条7丁目	渡辺喜美寿	02	'64	c	e	b	o	05	5	9	5	
0840.33	枝幸郡枝幸町字鶴ヶ枝町	島倉三郎	02	'60	b	b	a	o	01	7	9	60	
0851.43	紋別郡旭武町字新地築橋中通り	板谷栄春知	02	'62	c	e	b	b	97	3	8	36	
0873.94	紋別市本町6丁目	宮川二郎吉	02	'60	b	b	a	o	95	5	4	36	
0894.41	紋別郡遠軽町向道線	三沢武雄	02	'60	b	b	a	o	00	1	4	0	
0896.22	常呂郡常呂町字コロ	三沢武雄	02	'57	a	a	o	01	5	13	8	兵	
0897.91	網走市合町	川端滋	02	'57	a	a	o	08	5	13	8	兵	
0990.97	日東郡藤田町本町	西井義雄	02	'52	c	e	b	o	01	12	48	兵	
1699.14	檜尾郡藤岡町字梅花部	中井常太郎	03	'58	a	a	o	92	3	6	24	兵	
1706.82	菊毛郡菊毛町字菅別	大川友太郎	01	'59	a	a	o	96	3	6	48	兵	
1708.05	国富郡加内町	横川隆盛	01	'62	c	e	b	o	01	1	6	0	
1715.53	菊毛郡菊毛町字篠冬	加藤泰次	01	'64	c	e	b	b	73	3	4	16	
1719.17	上川郡太山村9丁目	近藤健一	01	'58	a	a	o	00	5	8	0		
1719.38	上川郡東旭川村字上兵村	斎藤玉次	02	'57	a	a	o	02	16	8	0		
1725.35	浜益郡浜益村字茂生	初田哲三	01	'61	b	b	a	o	02	3	6	0	
1727.75	藤戸郡新十津川町塚水町	中塚正久	01	'59	a	a	o	00	5	8	0		
1731.69	磯丹郡磯丹町字入網	渡辺春三	03	'61	b	b	o	a	96	3	6	18	
1735.84	藤戸郡月形町字中野	新岡権一	01	'57	a	a	o	91	2	8	0		
1738.19	戸別市野花南町金剛	林藤吉	02	'61	b	b	a	o	01	1	6	53	兵
1739.10	戸別市野花南町	島幸太郎	02	'61	b	b	a	o	03	1	8	0	
1739.85	空知郡富良野町字田1区東線	伊藤渡太郎	02	'59	a	a	o	98	1	6	0		
1742.24	磯丹郡磯丹町字美国町大字船渠	井澤次郎	03	'57	a	a	o	83	3	6	10		
1744.60	余市郡余市町字港町	阿部竹四郎	03	'57	a	a	o	96	3	6	13	兵	
1744.60	小樽市北高島町	小樽北高島	03	'60	b	b	a	o	92	3	8	3	
1745.54	石狩郡石狩町真船町	若月登太郎	01	'58	a	a	o	01	5	8	0		
1747.04	奥平市有為第2区	橋本俊	01	'58	a	a	o	01	5	8	24		
1747.95	三笠市多賀町	小林勝二	01	'60	b	b	a	o	99	1	6	0	
1754.16	小樽市美瑛町	秋田谷吉雄	01	'58	a	a	o	04	7	6	0		
1755.53	札幌市北9条西6丁目	五浦康一	01	'58	a	a	o	99	5	8	60		
1756.32	江別市6条5丁目	橋本一隆	01	'57	a	a	o	03	5	8	48	兵	
1757.61	夕張郡栗山町	上田幸作	01	'59	a	a	o	03	14	6	0		
1761.74	磯谷郡磯谷町字港	橋沢吉次郎	03	'64	c	e	b	b	97	3	4	12	
1762.10	岩内郡岩内町字津住	高沼初造	03	'60	b	b	a	o	01	5	8	0	
1762.60	室田郡供知安町南3条西2丁目	成瀬徳右衛門	03	'60	b	b	a	o	01	5	7	2	
1763.10	津別郡津別町字矢道町	川村鶴吉	03	'60	b	b	a	o	01	3	8	20	兵
1773.27	室田郡喜茂別町字末成町	佐藤逸郎	03	'60	b	b	a	o	03	2	11	60	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査区								
					第1調査区	A	B	C	D	E			
1776.45	湧根郡湧根町字榎別	中村新平	03	'61	b	b	a	o	99	7	11	24	
1781.95	山越郡北万部町	長沢教多	03	'60	b	b	a	o	01	2	8	24	兵
1786.13	苫小牧市	門脇松次郎	01	'59	a	a	o	04	6	5	24		
1791.33	山越郡北万部町字磯越	木村要一郎	03	'63	c	e	b	b	94	5	6	24	
1793.14	有珠郡伊達町鹿島町	小野節	01	'67	a	a	o	92	5	6	24		
1798.13	沙流郡月形町	前川勝助	01	'61	b	b	a	o	03	5	13	61	兵
1814.25	常呂郡留辺町字元町	永島清重	02	'58	a	a	o	03	5	8	60	兵	
1816.82	網走郡津別町字活汲	中西好文	02	'58	a	a	o	03	7	8	0		
1848.24	上川郡基町字鶴茶	川野喜蔵	03	'59	a	a	o	94	1	6	51	兵	
1854.24	中川郡本別町大字本別村字北4丁目	新津藤三	02	'59	a	a	o	99	5	9	13	兵	
1859.84	厚岸郡厚岸町字青渡町	北本喜一	02	'59	a	a	o	02	3	7	0		
1862.48	帯広市	高橋文雄	02	'57	a	a	o	01	5	13	70		
1862.52	河西郡穿笠町字毛根	中田石松	02	'58	a	a	o	93	1	7	24		
1863.48	中川郡池田町字西1条5丁目	奥田庄一	02	'58	a	a	o	99	5	6	0		
1867.15	網走市人舟町1丁目	岩山千代治	02	'57	a	a	o	98	4	8	60		
1993.10	広尾郡大橋町字根別	木村鶴吉	02	'63	c	e	b	b	97	1	6	3	兵
1942.03	根室市平内町2丁目	内山隆平	02	'59	a	a	o	97	7	12	25		
2008.90	奥尻郡奥尻村字奥尻	沢栄作	03	'62	c	e	b	b	02	3	8	4	兵
2017.68	奥尻郡奥尻村字青苗	宇音栄太郎	03	'61	b	b	o	a	96	3	8	9	兵
2019.28	留本郡熊石村字鳴神	佐藤秋作	03	'58	a	a	o	91	3	6	25		
2049.79	紋別郡奥町字江良	野田水展	03	'61	b	b	o	a	96	3	4	25	
2700.48	山越郡久部町字徳岩	山越久雄	03	'58	a	a	o	03	1	6	48	兵	
2700.48	神野義夫	神野義夫	01	'60	b	b	a	o	02	5	16	60	
2712.33	茅渚郡奥町字本町	根沢金四郎	03	'58	a	a	o	99	3	4	0		
2712.33	茅渚郡奥町字留部	根田常太郎	03	'58	a	a	o	99	3	6	20		
2720.75	雄山郡江刺町雄川町	雄中吾四郎	03	'57	a	a	o	79	5	4	20		
2722.67	亀田郡七飯町字本町	片山行治郎	03	'63	c	e	b	b	91	1	2	60	
2731.97	上磯郡本古内町字本町	小笠原正雄	03	'62	c	e	b	b	97	3	6	18	
2732.30	函館市若松町	山本金蔵	03	'57	a	a	o	03	5	8	0		
2733.45	亀田郡亀沢村字志布志	高野啓三郎	03	'57	a	a	o	70	3	4	20		
2734.02	亀田郡磯法華村字沢町	井島常次郎	03	'61	b	b	a	o	96	3	5	15	
2741.46	上磯郡知内村字本町	千葉幸之進	03	'59	a	a	o	02	3	6	0		
2750.43	松前郡松前町字火燗	藤小次郎	03	'59	a	a	o	80	3	3	0		
2750.44	松前郡松前町字唐津	武田勇作	03	'62	c	e	b	b	99	5	8	0	
2751.10	松前郡島崎町字福島	小松鉄治	03	'59	a	a	o	93	5	4	23	兵	
2800.52	三石郡三石町港町	木村安藏	01	'57	a	a	o	93	3	9	48	兵	
2803.27	尾道郡尾道町東通9丁目	橋沢三郎	02	'58	a	a	o	03	3	6	0		
2811.01	湖国郡湖国町加町	高橋清次郎	01	'58	a	a	o	94	7	4	38		
2812.96	札幌郡札幌市字札幌	五野井真樹	01	'63	c	e	b	b	03	3	11	30	
		青森県											
2899.89	岩手郡盛岡市大字森木字水戸崎	平沢平太郎	04	'61	b	b	a	o	01	5	6	24	兵
2743.86	下北郡大間町大字大間字大間	越子利三郎	04	'60	b	b	a	o	03	3	7	0	
2753.44	下北郡井村大字井村字大佐井	岡川亮介	04	'60	b	b	a	o	99	3	6	0	
2754.11	下北郡岡田村大字岡田町字奥畑	坪田行藏	04	'64	c	e	b	b	02	3	6	0	
2754.56	下北郡大畑町大字大畑字東町	坪林源助	04	'60	b	b	a	o	02	7	6	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査原								
					A	B	C	D	E				
2755.76	下北郡東通村大字岩里字往來	三国初太郎	04	'60	b	b	a	0	88	3	6	0	
2761.44	東津輕郡三厩村大字字敷字電見	柏谷吉直	04	'62	c	c	b	0	92	3	4	0	
2761.77	東津輕郡三厩村大字三蔵字算用村	柏谷茂三郎	04	'57	a	a	0	0	85	3	2	20	
2762.61	東津輕郡今別町大字月取月字母衣田	米田松造	04	'60	b	b	a	0	91	3	8	0	
2762.22	下北郡佐井村大字長後字牛渡	坂井三太郎	04	'63	c	c	b	0	86	3	4	24	兵
2762.28	下北郡内町大字川内字家之辺	上山石蔵	04	'63	c	c	b	0	88	7	7	0	
2763.89	下北郡川内町大字川内字川内	野里武蔵	04	'57	a	a	0	0	91	3	6	36	兵
2764.28	下北郡田名深町大字田名部字赤平	野里福松	04	'57	a	a	0	0	89	1	8	0	
2765.02	下北郡東通村大字野沢沢字石狩	畑中末五郎	04	'64	c	c	b	0	92	3	6	0	
2765.65	下北郡東通村大字小田野沢字浦	川田岩成	04	'64	c	c	b	0	90	3	5	0	
2765.71	むつ市大字奥内字奥内	島山孫四郎	04	'58	b	b	a	0	92	1	4	24	兵
2771.22	北津輕郡小泊村字小泊	加藤末太郎	04	'63	c	c	b	0	96	3	6	0	
2771.64	北津輕郡市浦村大字相内字相内	岡本末太郎	04	'58	a	a	0	0	96	1	4	24	兵
2771.83	北津輕郡市浦村大字十三字深津	福島吉成	04	'63	c	c	b	0	93	3	6	24	兵
2772.05	東津輕郡平瀬村大字堤原字湯の沢	福井長茂	04	'62	c	c	b	0	90	3	4	24	兵
2772.74	東津輕郡飯田町大字小島字山崎	且代金守	04	'61	b	b	a	0	96	1	4	0	
2773.13	下北郡飯野村大字小島野沢字本村	中田守蔵	04	'60	b	b	a	0	96	3	7	24	兵
2774.89	下北郡横沢町大字大豆田	中田栄三郎	97	'60	b	b	a	0	97	3	6	0	
2778.45	上北郡六ヶ所村大字泊守村内	中山村政廣	04	'61	b	b	a	0	99	3	4	0	
2781.34	西津輕郡車力村大字車力字東原	中村正徳	04	'58	a	a	0	0	98	1	8	0	
2781.58	西津輕郡金木町大字金木字若松町	太田多吉	04	'57	a	a	0	0	93	3	12	30	
2781.91	西津輕郡木造町大字出来島字鎌倉	新野善作	04	'62	c	c	b	0	99	1	7	24	兵
2782.16	東津輕郡藤田村大字阿奈松川字阿奈松川	八戸多吉	04	'62	c	c	b	0	92	1	4	12	
2782.67	青森市大字清水	川田敏一郎	96	'60	a	a	0	0	90	1	6	0	
2785.06	東津輕郡平内町大字東田沢字田沢	植村昂之松	04	'63	c	c	b	0	91	1	4	0	
2785.48	東津輕郡平内町大字小栗字栗沢	寺島申松	04	'58	a	a	0	0	85	1	4	0	
2785.73	東津輕郡平内町大字久栗原	鈴木幸一郎	96	'60	a	a	0	0	88	7	6	0	
2786.63	東津輕郡平内町大字持志沢字乳瀧	金津松太郎	04	'62	c	c	b	0	98	1	6	0	
2786.75	上北郡野辺町大字野辺字野辺	上原千石蔵	04	'57	a	a	0	0	89	1	4	0	
2788.31	上北郡六ヶ所村大字東平字久保の内	高山田三郎	04	'64	c	c	b	0	96	3	0		
2788.74	上北郡六ヶ所村大字平沼字二鹿沢	藤本太郎	04	'61	b	b	a	0	93	3	3	36	兵
2790.38	西津輕郡藤野町大字木町	尾崎吉雄造	04	'61	b	b	a	0	84	3	4	0	
2790.41	西津輕郡深津町大字田野沢字砂干浜	平長三郎	04	'61	b	b	a	0	87	3	6	0	
2791.15	西津輕郡木造町大字福取	加藤勝三郎	04	'58	a	a	0	0	98	3	8	24	兵
2791.80	西津輕郡藤野町大字長平字日笠山	花田榮作	04	'62	c	c	b	0	90	1	6	0	
2791.88	西津輕郡板橋町大字板橋字土井	木村親三	04	'59	a	a	0	0	93	3	7	30	
2792.07	青森市大字新成字平岡	佐藤幹之助	04	'62	c	c	b	0	88	1	4	31	
2792.40	五所川原市大字福山字福山	神野大太郎	04	'62	c	c	b	0	99	2	0	0	
2792.73	南津輕郡浪岡町大字浪岡字岡田	平野民十郎	04	'59	a	a	0	0	90	1	8	0	
2793.00	青森市松原町	村本業吉	04	'59	a	a	0	0	93	5	8	0	
2793.51	青森市大字雲谷字山吹	川越勝五郎	04	'62	c	c	b	0	92	1	6	24	兵
2794.85	上北郡七戸町大字前川原	中原清造	04	'58	a	a	0	0	96	1	8	0	
2795.01	上北郡甲地村中村	中村 賢	97	'60	a	a	0	0	98	5	4	24	兵
2795.66	三沢市大字三沢汎通字西代	大野西三	04	'64	c	c	b	0	97	3	6	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査原								
					A	B	C	D	E				
2795.73	上北郡浦野地村大字大浦字南水	小笠原菊次郎	04	'68	a	a	0	0	00	1	6	24	兵
2609.17	西津輕郡深津町大字深津字沢町	佐々木原一	04	'63	c	c	b	0	86	1	6	0	
2609.47	西津輕郡岩崎村大字岩崎字松原	西巻孝太郎	04	'57	a	a	0	0	84	3	4	30	
2619.08	西津輕郡岩崎村大字大田園	枝方富太郎	98	'60	b	b	a	0	98	3	4	0	
3700.19	中津輕郡岩手町大字常磐野字上黒沢	大森秀七	04	'63	c	c	b	0	91	3	3	36	兵
3701.37	中津輕郡岩手町大字轟崎字平田	斎藤健次郎	04	'58	a	a	0	0	96	1	4	24	兵
3701.49	弘前市富田丁目	大谷金次郎	04	'63	c	c	b	0	84	5	4	0	
3701.70	中津輕郡西目屋村大字藤川字藤の上	酒沢定吉	04	'60	b	b	a	0	96	1	8	0	
3702.34	黒石市大字浅瀬字津川	成田東太郎	04	'57	a	a	0	0	93	1	9	12	兵
3702.81	南津輕郡大鰐町大字三ツ目内	木田雲太郎	96	'60	a	a	0	0	89	7	10	36	
3702.89	南津輕郡平賀町大字紫川字折戸	小石唯四郎	04	'63	c	c	b	0	92	7	4	0	
3704.42	上北郡十和田町大字百目	石倉善次郎	04	'61	b	b	a	0	97	1	4	0	
3704.57	十和田市上切田字岡口	二森三太郎	97	'60	a	a	0	0	88	1	4	0	
3705.42	上北郡六戸町大字折茂字川原新田	長瀬大二郎	04	'64	c	c	b	0	90	1	3	0	
3705.47	上北郡白石町大字下野野	小角敏郎	04	'58	a	a	0	0	90	1	6	0	
3705.83	三戸郡三戸町字市川字十文字	川村栄吉	04	'58	a	a	0	0	94	1	6	0	
3706.91	八戸市大字東字藤原	榎木石蔵	04	'58	a	a	0	0	92	3	0		
3712.15	南津輕郡登内町大字院字岡字白沢	花岡善治	04	'58	a	a	0	0	91	7	8	0	
3714.22	三戸郡那珂村大字戸家字金ヶ沢	佐々木田次郎	04	'61	b	b	a	0	98	1	4	0	
3714.74	三戸郡三戸町大字貝森字赤沢	泰山重太郎	04	'64	c	c	b	0	96	1	4	0	
3714.96	三戸郡那珂村大字田子字田子	山本初太郎	04	'61	b	b	a	0	91	4	0		
3715.51	三戸郡那珂村大字向卜	留目健兵衛	97	'60	c	c	b	0	90	1	6	0	
3715.59	三戸郡那珂村大字島守字坂水	坂本豊次郎	04	'64	a	a	0	0	90	1	8	0	
3716.27	三戸郡上村大字東山字小舟渡	下野山松	04	'60	b	b	a	0	94	3	4	0	
3724.20	三戸郡那珂村大字東原字東坂	中村三郎	04	'61	b	b	a	0	90	3	4	0	
3716.58	九戸郡那珂町大字旗手	鍋久保綱吉	04	'60	b	b	a	0	90	3	8	0	
3717.90	九戸郡那珂町大字八木地御	日当石太郎	97	'60	b	b	a	0	98	3	24	兵	
3724.36	二戸郡福岡町上米字野月平	切明恒仁助	05	'63	c	c	b	0	85	1	3	36	兵
3724.96	二戸郡津波町	角田又次郎	05	'58	a	a	0	0	93	4	0		
3725.12	二戸郡金山一村	田中一郎	05	'57	a	a	0	0	90	7	8	0	
3725.72	二戸郡一戸町	因分定吉	05	'58	a	a	0	0	91	5	8	30	
3725.77	九戸郡九戸村伊保内	安達与一郎	05	'63	c	c	b	0	98	3	6	0	
3726.21	九戸郡那珂村小倉米	森本治	05	'58	a	a	0	0	95	5	4	0	
3726.25	九戸郡大野村	久藤久五郎	05	'57	a	a	0	0	92	1	6	16	
3727.21	九戸郡那珂村中野	水上亀次郎	05	'58	a	a	0	0	81	1	4	22	兵
3727.81	久高市久高	桑田保助	05	'58	a	a	0	0	96	1	6	24	兵
3728.18	二戸郡穴代町字田山	安保保次郎	07	'59	a	a	0	0	93	7	6	0	
3728.48	二戸郡穴代町荒沢字新野	松山万蔵	05	'63	c	c	b	0	91	1	4	0	
3729.42	二戸郡穴代町荒沢新町	大森善次郎	05	'57	a	a	0	0	96	1	8	0	
3730.50	二戸郡一戸町中山	佐木金次郎	05	'63	c	c	b	0	92	1	4	0	
3732.77	岩手郡葛巻町	横山直哉	05	'58	a	a	0	0	97	6	6	0	
3736.03	九戸郡山形村川井	長内重太郎	05	'63	c	c	b	0	89	1	4	0	
3736.58	久高市下野原	長倉大郎	05	'63	a	a	0	0	97	2	4	12	兵
3737.32	九戸郡野田村野田	新山寛吉	05	'58	a	a	0	0	91	5	8	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	A	B	C	D	E	
3737.95	下閉伊郡替村替代	熊谷 五郎	05	'63	c	e	b	b	01	2	6	24	兵
3743.49	岩手郡松尾村寄木字雄	中嶋 米吉 一郎	05	'63	c	e	b	b	01	1	6	0	
3744.18	岩手郡岩手町沼宮内	千 葉 善 三郎	05	'58	a	a	o	o	96	1	6	0	
3744.33	岩手郡沼鏡村平能	田村 三吉 門	05	'58	a	a	o	o	95	1	6	0	
3745.62	岩手郡岩手町川口字赤無	竹村 清次 郎	05	'62	c	e	b	b	93	1	6	兵	
3745.98	岩手郡玉山村柳川	山 本 兵 工 郎	05	'58	a	a	o	o	90	1	4	0	
3746.09	下閉伊郡岩島町安家	上 野 三 郎	99	'60	c	e	b	b	08	1	6	0	
3746.41	岩手郡葛巻町荒尻口	清水 初三 太	05	'62	c	e	b	b	03	1	6	24	兵
3746.76	下閉伊郡岩島町大字門	内 村 七 郎	05	'58	a	a	o	o	01	5	8	0	
3747.45	下閉伊郡田野畑村大字田野畑	佐 藤 貴 郎	05	'58	a	a	o	o	92	1	4	3	兵
3747.91	下閉伊郡岩島町	八重 藤 雄 平	05	'58	a	a	o	o	89	5	8	24	兵
3753.05	岩手郡宇石町橋巻	安 本 善 弥 郎	05	'62	c	e	b	b	99	1	6	24	兵
3753.88	岩手郡宇石町上町	杉 村 豊 大 郎	05	'61	b	c	a	a	94	1	6	24	兵
3754.13	岩手郡滝沢村柳沢	佐々木 中 松	05	'62	c	e	b	b	69	1	6	0	
3754.37	岩手郡玉山村大字川又	畑 中 長 吉	05	'59	a	a	o	o	01	1	6	0	
3754.76	盛岡市三ツ新字田畑	藤 吉 孝 吉	05	'61	b	b	a	a	87	1	8	0	
3755.32	岩手郡玉山村外山	三上 卯 大 郎	05	'58	a	a	o	o	03	1	6	43	兵
3756.26	下閉伊郡岩島町大川	長 崎 富 治	05	'58	a	a	o	o	93	4	0	0	
3756.40	下閉伊郡岩島町大川兼津田滝ノ上	川 村 富 治	05	'62	c	e	b	b	87	2	0	0	
3757.09	下閉伊郡岩島町茂部	三浦 次 郎	99	'60	b	b	a	a	93	1	9	0	
3757.32	下閉伊郡岩島町字上有芸	新 谷 忠 吉	05	'62	c	e	b	b	89	1	9	24	兵
3757.59	下閉伊郡岩島町	上 山 長 次 郎	05	'58	a	a	o	o	91	3	4	0	
3763.17	岩手郡宇石町字鷺巻	山 田 正 雄	05	'61	b	b	a	a	94	4	0	0	
3764.16	奥波郡南村長部	田 中 健 二 門	05	'58	a	a	o	o	78	1	4	0	
3764.86	奥波郡奥波町南日詰	吉 野 忠 兵 衛	05	'58	a	a	o	o	87	1	4	24	兵
3764.92	興安郡石島町岩部	佐々木 輝 三 郎	05	'64	c	e	b	b	88	1	0	30	
3765.03	盛岡市臨川第三地割	古 田 甚 大 郎	05	'62	c	e	b	b	95	1	4	0	
3765.28	下閉伊郡川井村田代	松 卓 守 之 丞	99	'60	b	b	a	a	99	1	0	25	兵
3765.74	興安郡大迫町内目銀久保	山 本 雄 次 郎	05	'58	a	a	o	o	87	1	6	0	
3766.47	下閉伊郡川井村小園東北	中 野 謙 三	05	'58	a	a	o	o	03	6	34	0	
3767.18	宮古市第17地割新町	高 森 善 次 郎	05	'62	c	e	b	b	91	1	4	0	
3767.22	下閉伊郡新里村古市	坂 下 幸 小 門	05	'57	a	a	o	o	94	8	0	0	
3767.87	下閉伊郡山田町豊原畑	佐々木 英 雄	05	'58	a	a	o	o	94	1	8	0	
3768.50	宮古市東茂	重 茂 為 治	05	'58	a	a	o	o	88	1	3	0	
3773.12	和賀郡沢内村舟倉	高 橋 善 三 郎	05	'62	c	e	b	b	01	1	8	24	兵
3774.44	花巻市西野宮目	佐々木 幸 二 郎	05	'64	c	e	b	b	59	1	8	24	兵
3774.61	花巻市田原の巻	佐々木 小 三 郎	05	'59	a	a	o	o	92	1	6	36	兵
3775.11	興安郡大迫町上の合	小 野 一 藏	05	'58	a	a	o	o	00	1	8	0	
3775.83	上閉伊郡宮守村下宮守葛原沢	菅 原 直 隆	05	'59	a	a	o	o	03	1	8	0	
3776.51	遠野市附平町上仰	石 田 善 次 郎	05	'57	a	a	o	o	88	1	4	13	兵
3776.97	磐石市青ノ水	佐々木 善 次 郎	05	'64	c	e	b	b	90	1	4	0	
3777.23	上閉伊郡大船町金沢	佐々木 善 吉 郎	05	'63	c	e	b	b	92	1	4	24	兵
3777.48	下閉伊郡山田町船越	菊 地 正 吉 郎	05	'58	a	a	o	o	99	6	0	15	兵
3777.86	上閉伊郡大船町	三浦 初 大 郎	05	'58	a	a	o	o	01	1	6	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	A	B	C	D	E	
3778.00	宮古市大字重茂字川代	川 村 山 松	05	'64	c	e	b	b	97	1	6	24	兵
3783.08	和賀郡和賀町藤川目足屋	嶋 崎 善 八 郎	05	'62	b	b	a	a	93	2	0	0	
3783.11	和賀郡湯田村川尻	菅 原 善 三 郎	05	'59	a	a	o	o	00	1	8	24	兵
3783.58	和賀郡和賀町岩崎新田本畑	高 橋 義 作 郎	05	'64	c	e	b	b	79	1	4	0	
3784.24	北上市沼沢町岩町町	菅 原 昌 大 郎	05	'57	a	a	o	o	88	5	8	18	
3784.87	江刺市岩谷堂町大字日町	及 川 豊 治 郎	05	'59	a	a	o	o	90	5	8	0	
3785.42	江刺市米里字人首	吉 田 興 三 郎	05	'59	a	a	o	o	83	1	4	0	
3785.68	遠野市小友町鹿野町沢	青 池 利 嗣 郎	05	'64	c	e	b	b	98	1	6	0	
3786.01	遠野市磯町	菅 原 仁 平 郎	05	'58	a	a	o	o	96	7	2	0	
3786.44	遠野市上郷町船越	高 橋 金 之 丞 郎	05	'58	a	a	o	o	97	1	6	24	兵
3787.45	盛石市薄石	藤 元 千 代 松 郎	05	'57	a	a	o	o	98	3	4	24	兵
3787.50	盛石市一ノ渡	佐々木 仙 松 郎	05	'58	a	a	o	o	96	7	6	0	
3793.37	胆沢郡胆沢村善野	阿 部 庄 一 郎	05	'59	a	a	o	o	94	1	8	0	
3794.55	胆沢郡前沢町古城	千 葉 广 市 郎	05	'61	b	b	a	a	89	1	4	0	
3795.19	気仙郡住田町大字世田来小字下大原	通 藤 和 三 郎	05	'59	a	a	o	o	92	1	8	0	
3795.33	東磐井郡大東町島崎字市ノ道	伊 里 直 大 郎	05	'64	c	e	b	b	95	1	4	0	
3795.86	東磐井郡大東町大原	中 沢 伊 太 郎	05	'59	a	a	o	o	89	1	8	24	兵
3796.05	大船渡市白旗町字石碓	鈴木 久 三 郎	05	'62	c	e	b	b	01	1	8	24	兵
3796.48	大船渡市前沢町八幡町	新 沼 七 郎 郎	05	'62	c	e	b	b	99	1	4	0	
3796.95	高田市高田町字下野	佐々木 利 吉 郎	05	'59	a	a	o	o	96	6	48	兵	
3797.32	気仙郡三陸町越来浦浜	花 崎 正 三 郎	05	'59	a	a	o	o	86	5	24	兵	
4703.18	一関市本寺	佐 藤 宗 五 郎	48	'63	c	e	b	b	88	1	2	0	
4704.04	西磐井郡平泉町平泉高部	鈴木 庄 作 郎	05	'64	c	e	b	b	96	1	4	0	
4704.45	一関市大町	千 葉 美 子 郎	05	'59	a	a	o	o	87	6	8	0	
4704.96	西磐井郡花巻町字町	佐 藤 文 人 郎	05	'59	a	a	o	o	94	5	4	0	
4705.20	東磐井郡千厩町太田川	佐 藤 茂 三 郎	05	'64	c	e	b	b	96	1	8	0	
4705.53	東磐井郡千厩町本町	熊 谷 軍 平 郎	05	'57	a	a	o	o	00	5	11	0	
3767.18	宮古市磯ノ崎町日影	黒 田 長 義 郎	99	'60	o	a	a	o	78	3	9	20	兵
3767.83	遠野市上郷町大杉	阿 部 宇 治 衛 門 郎	99	'60	o	a	a	o	76	3	3	0	
3787.35	盛石市磯町	沢 田 謙 兵 衛 郎	99	'60	o	a	a	o	71	5	4	0	
	宮 城 県												
4703.88	東磐井郡栗駒町松倉字殿治屋	小 野 寺 敬 一 郎	48	'60	b	b	a	a	02	1	8	36	兵
4704.53	気仙郡中之島	金 野 一 之 丞 郎	48	'59	a	a	o	o	94	3	8	0	
4706.84	気仙郡大島浦の浜	小 野 寺 謙 平 郎	48	'65	c	e	b	b	90	1	2	0	
4712.16	玉造郡野町子原	大 船 新 二 郎 郎	48	'60	b	b	a	a	89	1	4	37	兵
4713.02	栗原郡花山村山内	佐々木 幸 藏 郎	48	'63	c	e	b	b	95	1	4	0	
4713.45	栗原郡一迫町川口	佐 藤 永 次 郎	48	'60	b	b	a	a	89	1	6	24	兵
4713.60	玉造郡鳴子町川渡	吉 田 誠 一 郎	48	'59	a	a	o	o	99	5	6	24	兵
4714.22	栗原郡金沢町沢田	菅 原 勝 二 郎	48	'60	b	b	a	a	96	1	8	12	兵
4714.68	栗原郡中田町石巻	小 野 寺 敬 一 郎	48	'60	b	b	a	a	01	1	8	0	
4715.35	栗原郡東沢町磯原	旗 山 忠 一 郎	48	'59	a	a	o	o	91	8	3	36	兵
4715.98	本吉郡志津川町志津川	菅 原 和 一 郎	48	'59	a	a	o	o	91	8	3	36	兵
4716.20	本吉郡本吉町浪合	三 原 鶴 賢 郎	48	'59	a	a	o	o	92	1	10	0	
4716.72	本吉郡東津町湯島	菅 原 鶴 賢 郎	48	'65	c	e	b	b	00	1	6	0	
4722.55	加美郡小野田町字津野	佐 藤 榮 五 郎	48	'59	a	a	o	o	03	1	8	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票 第1部第3項第4	調査票						
						A	B	C	D	E		
4723. 14	王道郡岩山町字下野原	高 橋 徳 雄	97	'61	b	b	a	0	97	1	8	0
4723. 31	加東郡小野田町東小野田字下野目大下	浅野 久太郎	06	'57	a	a	0	0	89	1	8	0
4723. 58	古川市二の森	細川 忠太郎	48	'58	a	a	0	0	94	4	6	18
4724. 00	栗原郡高清水町高清水	木 田 田 運 平	48	'60	b	b	a	0	81	1	4	24
4724. 28	志木郡志木町西野	志田 寿三	48	'63	c	c	b	b	96	1	6	24
4724. 75	滝田郡湯崎町字新町	浅野 善吉	48	'59	a	a	0	0	96	5	8	0
4725. 01	志木郡志木町寺崎字鉄道町	新妻 三郎	06	'57	a	a	0	0	74	0	8	36
4725. 68	佐生郡河北町長面	三 柴 繁 三郎	48	'63	c	c	b	b	90	1	5	0
4725. 92	佐生郡河北町麻野川	坂原 三右衛門	48	'61	b	b	a	0	86	1	6	0
4726. 00	佐生郡雄勝町船越	高 橋 長太郎	48	'51	b	b	a	0	00	3	10	33
4732. 18	黒川郡大和町舟次	早 坂 吉 義	48	'64	c	c	b	b	99	1	4	0
4732. 86	宮城郡宮城町定童	庄 町 兵 治	48	'62	c	c	b	b	93	1	4	24
4733. 35	黒川郡大和町吉野字上町	吉田 豊之助	06	'57	a	a	0	0	90	1	8	24
4733. 91	宮城郡美町根白石	沼田 幸太郎	48	'62	c	c	b	b	74	1	1	24
4734. 20	黒川郡大郷村長後塚	林 家 部	48	'61	b	b	a	0	99	1	5	0
4734. 56	佐生郡雄勝町小野	平 田 政 介	48	'59	a	a	0	0	95	1	9	0
4735. 37	佐生郡女川町崎分津	木村 庄左衛門	48	'59	a	a	0	0	91	5	8	0
4735. 40	石巻市門田字坂田	佐 藤 吉 平	06	'57	a	a	0	0	97	7	6	0
4736. 03	牡鹿郡女川町江ノ島	中 村 寿 哉	48	'61	b	b	a	0	00	3	6	0
4742. 37	宮城郡宮城村上妻字赤生木	早 坂 安 之助	48	'62	c	c	b	b	99	1	6	0
4742. 43	名取郡秋保町野尻	宗 形 今 朝 吉	48	'62	c	c	b	b	99	1	6	0
4742. 55	栗田郡川崎町崎	小 山 源 吉	48	'61	b	b	a	0	0	1	7	0
4742. 34	仙台市長巻町	伊 山 健 吉	06	'57	a	a	0	0	03	2	11	0
4743. 44	仙台市礎郷第丁	内 田 進 得	48	'61	b	b	a	0	86	2	2	0
4743. 61	仙台市大字渡野字中の瀬	内 田 善 治	48	'62	c	c	b	b	97	1	8	0
4743. 95	名取市増田字田島	中沢 四郎左衛門	48	'58	a	a	0	0	94	1	4	0
4744. 10	塩釜市字町	五ノ 風 吾一	43	'62	c	c	b	0	01	5	8	24
4744. 32	宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜	大 寺 助 四郎	48	'61	b	b	a	0	86	1	8	0
4745. 27	石巻市代島仁斗田	阿 部 栄 治	48	'64	c	c	b	b	92	3	4	0
4746. 20	牡鹿郡牡鹿町船川	遠 藤 松 茂	48	'61	b	b	a	0	93	3	4	0
4752. 11	佐田郡川崎町青根	佐 藤 泰 治	48	'62	c	c	b	b	97	4	6	0
4752. 27	刈田郡蔵王町平沢	村 上 文 一郎	48	'58	a	a	0	0	91	1	8	0
4753. 36	名取郡岩沼町辨分字奥山	三 河 吉 義	97	'63	c	c	b	0	04	5	6	24
4753. 92	佐田郡佐田町機木新町	佐 藤 金 重	48	'58	a	a	0	0	96	5	8	0
4753. 76	塩竈郡塩竈町荒浜	木 村 孫 八	48	'58	a	a	0	0	90	1	4	36
4761. 07	刈田郡七ヶ浜町内田	佐 藤 大 太郎	48	'64	c	c	b	b	88	1	4	0
4762. 04	石巻市西ノ島	渡 藤 幸 太郎	06	'57	a	a	0	0	97	5	6	18
4762. 44	白石市船岡五文字馬舎台	佐 田 四 郎 左 衛 門	06	'57	a	a	0	0	92	1	1	24
4762. 56	伊具郡大森町野野川	小 野 久 治郎	48	'63	c	c	b	b	98	1	10	24
4762. 99	伊具郡大森町裏	引 藤 留 治郎	48	'63	c	c	b	b	87	1	4	0
4763. 11	刈田郡刈田町宇	平 塚 安 太郎	97	'61	b	b	a	0	96	5	11	0
4763. 45	塩竈郡山元町元ノ下	中 村 恭 治	48	'58	a	a	0	0	92	1	4	0
4763. 62	伊具郡大森町字金山	島 田 隆 広	48	'59	a	a	0	0	90	1	8	36
	秋 田 県											
3619. 58	山本郡八幡町岩倉	岡 本 広 治	07	'61	b	b	0	0	01	5	8	0
3639. 49	山本郡八幡町岩田字一本郷	岡 本 幸 吉	07	'59	a	a	0	0	93	1	6	30

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票 第1部第3項第4	調査票						
						A	B	C	D	E		
3648. 28	男馬郡戸尻町賀字戸尻	江 崎 亨 市	07	'57	a	a	0	0	92	0	7	30
3649. 16	青秋田郡等賀村駒木松木沢境	鈴木 夏五郎	07	'59	a	a	0	0	92	1	6	0
3649. 58	男馬郡等賀	加 藤 清 吉	07	'62	c	c	b	b	97	5	6	0
3649. 64	男馬郡船川船字船川	宮 澤 善 治	07	'58	a	a	0	0	91	7	6	18
3689. 38	由利郡仁敷保町平沢	藤 藤 光 次郎	07	'62	c	c	b	b	96	5	8	24
3689. 75	由利郡湯田町船越	渡 辺 眞 秀 郎	07	'57	a	a	0	0	92	7	11	30
3699. 25	山形郡金田町小砂川字中藏	土 門 長 右衛門	59	'63	c	c	b	b	91	1	6	0
3710. 91	山本郡八幡町字久入森	金 田 孝 一郎	07	'63	c	c	b	b	91	7	6	0
3711. 92	山本郡雄勝町藤等字早鳥沢	藤 藤 善 治	07	'64	c	c	b	b	87	1	4	68
3711. 98	北秋田郡田代町字早山	松 田 善 一 郎	07	'64	c	c	b	b	98	7	9	0
3712. 74	北秋田郡花矢町長池	藤 藤 善 之 助	07	'61	b	b	0	a	98	7	8	36
3712. 89	真岡郡小坂町湯川	沼田 喜代太郎	07	'59	a	a	0	0	89	1	4	0
3713. 75	真岡郡十和田町大湯字白沢	木 村 金 吾	07	'64	c	c	b	b	86	1	4	24
3720. 58	山本郡二ツ井町梅内	安 井 鶴 吉 郎	07	'61	b	b	0	a	92	5	8	0
3720. 71	雄代市郡町	藤 藤 千 代 吉	07	'59	a	a	0	0	88	1	6	24
3721. 30	山本郡雄勝村藤翠	越 田 大 吉	07	'61	b	b	0	a	98	2	6	8
3721. 37	北秋田郡田代町早口原地	岡 眞 一	07	'60	b	b	0	a	91	2	6	36
3721. 71	北秋田郡鷹巣町今泉	武 田 万 二 郎	07	'60	b	b	0	a	97	1	6	0
3722. 33	大館市金坂前	今 米 吉	07	'57	a	a	0	0	92	5	4	0
3722. 90	北秋田郡比内町小坪沢	高 橋 永 威	07	'64	c	c	b	b	97	1	7	0
3722. 97	大館市十二所別所合津	佐 藤 忠 吉	07	'59	a	a	0	0	88	1	4	0
3733. 21	真岡郡十和田町毛馬字山根長土路	沼 田 大 吉 郎	07	'59	a	a	0	0	90	1	6	0
3733. 39	山本郡二ツ井町田字木吉	清水 甚 吉	07	'64	c	c	b	b	98	2	6	24
3733. 46	北秋田郡森古町秋岡	菅 谷 義 直	07	'58	a	a	0	0	97	4	6	36
3733. 61	北秋田郡上今阿仁村小沢田	鈴木 千 一 郎	07	'61	b	b	0	a	98	1	4	0
3733. 62	北秋田郡北内町大基	島 田 久 治 郎	07	'61	b	b	0	a	96	1	6	0
3733. 73	北秋田郡森古町善の倉	大 田 功 治	07	'64	c	c	b	b	95	2	4	24
3733. 22	真岡郡八幡平村谷川字長堤	阿 部 定 治	07	'58	a	a	0	0	00	1	2	24
3733. 73	真岡郡八幡平村字短比内	石 川 三 郎 郎	07	'63	c	c	b	b	03	2	8	12
3740. 29	南秋田郡玉城町高根	畑 花 吉 郎	07	'63	c	c	b	b	89	2	4	36
3740. 33	南秋田郡玉城町大西野字四ヶ屋	加 藤 己 之 松	07	'57	a	a	0	0	90	1	6	24
3740. 82	南秋田郡昭和町久尻	菅 原 伊 治	07	'58	a	a	0	0	96	1	6	24
3741. 16	北秋田郡阿仁町大字真瀬字段ノ上	松 岡 平 治	98	'60	b	b	0	a	91	1	7	0
3741. 57	北秋田郡阿仁町字屋渡	佐 藤 三 郎 郎	07	'60	b	b	0	a	93	7	6	0
3742. 82	仙北郡西木村上梅木内戸尻	鈴木 文 治	07	'64	c	c	b	b	92	2	6	24
3750. 28	秋田市仁保	佐 木 木 雄 三	07	'60	b	b	0	a	92	2	4	0
3750. 43	秋田市上崎港町字琴平	加 藤 菅 彦 五郎	07	'62	c	c	b	b	99	5	7	0
3750. 75	秋田市東郷小畑町	菅 藤 彦 吉	07	'58	a	a	0	0	79	7	0	60
3751. 81	河辺郡河辺町岩見三内三内字内尻	田 口 正 治	07	'58	a	a	0	0	89	1	8	0
3752. 47	仙北郡田代町岩田式字沼田	千 葉 源 一郎	07	'63	c	c	b	b	86	7	6	24
3752. 53	仙北郡西木村大字下梅木内字高屋	武 藤 謙 治	96	'60	b	b	0	a	93	1	6	0
3752. 89	仙北郡田代町岩田式字沼田	田 口 八 五 郎	07	'59	a	a	0	0	79	7	6	0
3762. 33	秋田市下浜村字羽川	佐 藤 甚 太郎	07	'62	c	c	b	b	98	7	6	0
3762. 58	河辺郡藤和村字種沢	加 藤 喜 久 治	07	'58	a	a	0	0	97	1	6	0

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票										
					第1部	第2部	第3部	第4部	A	B	C	D	E		
3760. 93	山形郡岩城町龜田	菅木 常雄	07	'60	b	b	a	0	93	7	8	0			
3761. 22	仙北郡雄和町射野上ノ一渡	青野 正徳	06	'60	b	b	a	0	93	1	8	0			
3761. 74	仙北郡西仙北町刈野	伊東 芳治	07	'58	a	a	0	0	94	1	8	24	兵		
3762. 42	仙北郡角館町岩瀬町	佐々木竹五郎	07	'60	a	a	0	0	93	5	6	0			
3762. 71	仙北郡中田町長野	高橋 喜一郎	07	'60	c	c	b	0	02	1	6	0			
3762. 85	仙北郡太田村太田字築地古館	高 真 正	07	'60	b	b	a	0	88	1	8	24	兵		
3770. 49	由利郡大内村新田	鈴木 竜雄	07	'59	a	a	0	0	81	1	4	0			
3770. 62	本荘市上横町	小島 睦之助	07	'57	a	a	0	0	91	5	11	0			
3770. 96	本荘市大堤	佐藤 新三	07	'63	c	c	b	0	83	1	2	4	24	兵	
3771. 29	大崎市下栄町	近江 金三郎	07	'58	a	a	0	0	88	4	4	0			
3771. 44	仙北郡南外村松木田	加藤 豊治	07	'61	b	b	0	0	99	1	7	0			
3771. 97	平鹿郡大森町字大森	佐藤 正二	07	'62	c	c	b	0	02	1	6	0			
3772. 32	仙北郡千畑村中野	高橋 泰三	07	'61	b	b	0	0	91	1	4	0			
3772. 73	仙北郡金沢町字安島	川 越 美 吉	07	'60	b	b	a	0	92	1	4	0			
3780. 65	由利郡久島町館町	佐藤 善西郎	07	'59	a	a	0	0	94	5	6	0			
3781. 21	由利郡東山利町総合字家の下	遠藤 源一朗	07	'61	b	b	0	0	94	1	6	0			
3781. 49	平鹿郡平鹿町茂郷	佐竹 万治郎	07	'59	a	a	0	0	93	5	8	24	兵		
3781. 85	雄勝郡羽後町西馬音内字上川原	阿部 五郎	07	'62	c	c	b	0	98	5	8	0			
3782. 12	横手市大町上	加賀良 五郎	07	'60	c	c	b	0	98	5	6	0			
3782. 38	平鹿郡山内村高沢字薄坂	佐々木庄治郎	07	'60	b	b	a	0	94	1	4	0			
3782. 71	平鹿郡野田町野田	石田 平五郎	07	'61	b	b	0	0	98	1	8	0			
3782. 95	雄勝郡東成瀬村岩井川字東村	宮 藤 幸 吉	07	'63	c	c	b	0	03	5	6	24	兵		
3790. 27	山形郡海舟村百宅	菅 藤 新七	01	'64	c	c	b	0	93	1	2	4	0		
3791. 02	雄勝郡羽後町中仙道下ノ沢	宮 田 清 義	96	'60	b	b	a	0	89	1	1	0			
3791. 76	雄勝郡雄勝町下段内字安形町	高 崎 初 吉	07	'60	b	b	a	0	97	1	7	30			
3792. 23	雄勝郡雄勝町連町藤庭町中町	佐藤 平五郎	07	'67	a	a	0	0	83	0	6	12	兵		
3792. 96	雄勝郡雄勝町畑町字湯元	高橋 睦之助	07	'63	c	c	b	0	97	2	6	0			
4702. 10	雄勝郡雄勝町秋之宮造石	高 橋 長 吉	07	'62	c	c	b	0	87	1	2	0			
3688. 82	酒田市飛鳥字勝道	本 岡 重 麿	59	'64	c	c	b	0	97	5	4	150			
3699. 55	飽海郡遊佐町吹浦	相 庭 龍 一	08	'57	a	a	0	0	96	5	7	0			
4609. 07	飽海郡遊佐町大字豊満字大内	川 俣 仁 作	59	'63	c	c	b	0	96	1	5	120			
4609. 25	酒田市本郷町新田目	高 橋 次 治	97	'64	c	c	b	0	94	1	8	0			
4609. 54	酒田市大字浪田字福北	渡 康 徳 治	08	'59	a	a	0	0	99	5	9	24	兵		
4609. 68	飽海郡平田村大字山谷字三ヶ沢	東 本 健 三郎	08	'61	b	b	0	0	91	1	8	0			
4618. 49	鶴岡市大字加茂	花 沢 徳 造	59	'63	c	c	b	0	99	5	9	60			
4618. 87	鶴岡市大字三瀬	吉田 利吉郎	08	'59	a	a	0	0	89	1	8	0			
4619. 23	東田川郡三川村神花	上野 茂 夫	99	'61	b	b	a	0	02	1	8	0			
4619. 29	東田川郡立川大字狩川字荒瀬	伊藤 金 大	08	'60	b	b	a	0	94	1	6	0			
4619. 63	鶴岡市五日町	高橋 隆 一	08	'59	a	a	0	0	93	7	8	0			
4619. 96	東田川郡羽鳥町大字川代橋平	本 岡 丑 次	59	'63	c	c	b	0	01	1	8	36	兵		
4628. 28	東田川郡温海町大字常野代	本 岡 利吉郎	59	'64	c	c	b	0	01	1	8	0			
4628. 61	西田川郡温海町大字泉ヶ岡字新藤	佐藤 忠 治	08	'60	b	b	a	0	96	1	8	0			
4629. 43	東田川郡朝日村大字本郷字上ノ平	斎藤 五郎 郎	08	'59	a	a	0	0	91	1	0	0			
4639. 10	東田川郡朝日村大字大島字寿岡	三 浦 長 七	59	'64	c	c	b	0	01	1	6	0			

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票										
					第1部	第2部	第3部	第4部	A	B	C	D	E		
4639. 69	西村山郡西川町大字大沢沢字中村	志 田 朝 彦	59	'64	c	c	b	0	97	1	6	3	兵		
4659. 01	西置郡小国町字玉珠沢	青 藤 庄 江	59	'64	c	c	b	0	99	1	6	3	兵		
4659. 60	西置郡小国町大字北	伊藤 登左衛門	08	'67	a	a	0	0	90	1	4	0			
4659. 85	西置郡小国町大字津川字沼沢	青 藤 吉 代 治	08	'61	b	b	0	0	91	9	6	0			
4668. 27	西置郡小国町小字小玉川字長者原	佐 藤 重 夫	16	'62	c	c	b	0	99	1	6	0			
4669. 55	西置郡飯盛町大字下屋地	鈴木 仁 之助	08	'61	b	b	0	0	91	1	8	0			
4700. 37	北上郡真直川町大字差置字高坂	井上 ヘルム	08	'61	b	b	0	0	89	1	0	0	女		
4703. 78	北上郡真直川町大字沢	小 松 勝 次 郎	59	'62	c	c	b	0	88	1	6	0			
4701. 14	北上郡真直川町大字新及位	高 橋 幸 次	59	'62	c	c	b	0	97	1	2	6	0		
4701. 73	北上郡金山町大字金山字内町	神 崎 信 三 郎	59	'60	b	b	a	0	88	1	7	0			
4710. 18	北上郡朝川村大字中渡字岩の下	荒 木 仁 作	08	'60	b	b	a	0	89	1	2	24	兵		
4710. 55	北上郡沢村大字古口字岩合	内 川 金 作	08	'60	b	b	a	0	03	1	7	30	兵		
4711. 41	新庄市大字秋田	阿 部 門 兵 衛	08	'58	a	a	0	0	02	1	6	0			
4711. 42	新庄市北本町	鈴木 忠 次 郎	59	'63	c	c	b	0	98	5	9	0			
4711. 49	北上郡上町吉宮	伊 藤 今朝五郎	08	'57	a	a	0	0	95	1	8	24	兵		
4711. 82	北上郡角形町角形	星 川 五郎兵衛	08	'61	b	b	0	0	91	1	8	0			
4712. 54	北上郡上町野田	小 松 榮 次 郎	48	'59	a	a	0	0	92	1	4	0			
4720. 17	北上郡大蔵村大字南山字藤田	安 西 渡 次 郎	08	'61	b	b	0	0	93	1	4	0			
4721. 35	北村山郡花沢町大字花沢字鎌	匠 原 秀 雄	08	'58	a	a	0	0	95	1	8	24	兵		
4722. 40	雫石市母袋	近 藤 忠 三 郎	59	'62	c	c	b	0	90	1	3	36			
4730. 45	西村山郡西川町大字濁沢	長 木 重 臣	59	'59	a	a	0	0	98	1	6	24	兵		
4730. 96	西村山郡朝日町大谷	茂 岡 石 五 郎	97	'66	c	c	b	0	02	1	8	0			
4731. 15	村山市大字柳町	下 山 谷 重 夫	98	'61	b	b	a	0	98	5	6	0			
4731. 49	西村山郡河北町大字谷地	高 栗 直 也	08	'58	a	a	0	0	99	5	6	0			
4731. 59	東田川郡山	清 野 英 助	59	'62	c	c	b	0	86	1	5	0			
4731. 85	東村山郡天童町大字天童	大 沼 忠 三 郎	08	'58	a	a	0	0	07	1	8	24	兵		
4742. 26	西村山郡朝日町大字宮高字曾田沢	今 井 小 治 郎	08	'59	a	a	0	0	66	1	8	0			
4742. 93	西置郡原田町大字荒瀬甲字新町	黄 山 政 彦	08	'60	b	b	a	0	94	1	10	0			
4741. 43	山形市吉町	高 橋 惣 吉	59	'62	c	c	b	0	99	4	8	3	兵		
4741. 44	山形市印友町	深 澤 泰 隆	07	'57	a	a	0	0	88	1	8	0			
4741. 92	上の山市大字金沢字原	三 瓶 豊 雄	08	'59	a	a	0	0	94	1	8	0			
4750. 32	長井市小出	行 田 力 助	07	'67	a	a	0	0	01	1	8	0			
4750. 76	東置郡赤湯町大字婿家	竹 田 興 吉	08	'60	b	b	a	0	98	1	6	0			
4751. 42	上の山市西下	伊 藤 三 郎 右 衛 門	08	'59	a	a	0	0	92	1	10	0			
4760. 02	東置郡郡西町大字下奥田字須保	佐 藤 正 三郎	08	'61	b	b	0	0	03	5	9	0			
4760. 54	米沢市柳町辻西	小 泉 宗 孝	59	'64	c	c	b	0	88	5	11	0			
4760. 64	米沢市笠野町字下野野	大 木 秀 雄	08	'58	a	a	0	0	02	1	6	0			
4760. 98	米沢市大字沢	梅 津 勇 助	97	'62	b	b	a	0	93	2	4	24	兵		
4678. 77	耶麻郡西会津町大字飯坂字榎入	佐 藤 善 久	16	'62	c	c	b	0	97	1	6	0			
4679. 65	耶麻郡熱塩加納村大字熱塩字餅田	遠 藤 虎 一	53	'59	a	a	0	0	95	4	7	0			
4686. 45	耶麻郡西会津町野沢麻磁	青 野 隆 次 郎	53	'59	a	a	0	0	92	1	8	38			
4686. 90	耶麻郡山部町字能ノ原	五 藤 善 吉	54	'62	c	c	b	0	01	1	8	0			
4689. 14	喜多方市常物町	渡 部 儀 久	53	'59	a	a	0	0	03	4	8	0			
4689. 62	耶麻郡会津坂下町西南町裏	高 久 友 登	09	'57	a	a	0	0	01	7	8	18			

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部第3項第4	A	B	C	D	E			
4689. 06	会津若松市北町中地	長谷川 辰吉	99	'99	a	a	o	o	1	5	0		
4697. 92	南会津郡只見村大字只見字沖	日 風 雄 二	09	'57	a	a	o	o	82	1	6	0	
4698. 16	大沼郡三島村大字高下	酒 井 久	53	'59	a	o	o	o	89	1	6	24	兵
4698. 21	大沼郡三島村大字川口字森 / 上	加 藤 雄 雄	54	'64	c	c	b	b	97	1	6	0	0
4699. 07	会津若松市下野伏町	内 藤 謙 夫	54	'64	c	c	b	b	98	5	4	36	兵
4699. 22	大沼郡会津高田町大字尾崎字村中	佐 藤 謙 夫	54	'60	b	b	a	o	10	1	8	0	0
4761. 57	信夫郡飯坂町茂郷字秋郷	鈴木 良 助	54	'61	b	b	a	o	10	7	24	兵	
4761. 93	信夫郡飯坂町大字中野字大滝	岡 田 儀 史	54	'63	c	c	b	b	100	2	6	0	0
4762. 77	伊達郡梁川町大字山舟生字上坂本	斎 藤 茂	09	'58	a	a	o	o	99	1	8	0	0
4762. 90	伊達郡梁折町字北町	新 藤 三 郎	54	'63	c	c	b	b	101	7	8	0	0
4770. 62	耶麻郡北塚原村大字榎倉字金山	佐 藤 只 喜	53	'59	a	a	o	o	78	5	2	0	0
4771. 58	福島市御町	高 野 平 治 郎	09	'57	a	a	o	o	89	5	8	0	0
4771. 92	福島市土湯温泉町字川上	阿 部 隆 吉	09	'58	a	a	o	o	86	5	6	37	兵
4771. 98	須賀郡松川町大字後川字館	斎 藤 勇 二	54	'63	c	c	b	b	97	1	6	0	0
4772. 33	伊達郡梁川町大字田田字岡	菅 野 慶 忠	54	'61	b	b	o	a	93	1	8	24	兵
4772. 48	相馬市大字玉野字町	高 玉 忠 忍	09	'58	a	a	o	o	100	1	6	24	兵
4773. 15	相馬市小野築町堂	山 田 平 重	99	'61	b	b	a	o	96	1	8	0	0
4773. 27	相馬市大字中野字北沢町	佐 々 木 重 蔵	09	'58	a	a	o	o	103	1	8	0	0
4773. 70	耶麻郡飯坂町大字野野字宮内	中 川 辰 吾	54	'64	c	c	b	b	104	1	6	0	0
4773. 78	相馬郡東原町大字大島島字町	若 松 富 彦	09	'58	a	a	o	o	88	4	6	0	0
4780. 36	耶麻郡梁折町大字若宮字鬼田	佐 藤 富 美	54	'62	c	c	b	b	99	1	6	24	兵
4780. 60	耶麻郡梁折町字梁折	阪 井 喜 代 夫	54	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	0
4780. 64	耶麻郡梁折町中町	大 塚 由 治	53	'59	a	a	o	o	79	1	8	0	0
4781. 48	二本松市碓氷町 1 丁目	村 山 栄 五 郎	54	'60	b	b	a	o	92	4	8	0	0
4781. 66	安達郡本宮町神町	水 上 清 博	09	'58	a	a	o	o	95	5	12	0	0
4782. 04	伊達郡川俣町字鉄巻町	八 巻 忠 吉	09	'58	a	a	o	o	99	5	10	0	0
4782. 96	田村郡船引町大字上野字根岸	小 泉 喜 男	54	'61	b	b	o	a	96	1	8	0	0
4783. 28	原町市上太田字堀場	岡 清 清 記	54	'64	c	c	b	b	101	1	9	24	兵
4783. 74	双葉郡浪江町大字長倉根字屋倉根	佐 々 木 角 治	09	'58	a	a	o	o	100	1	8	0	0
4784. 41	原町市大字小浜字西内	遠 藤 秀 次	09	'57	a	a	o	o	85	1	8	0	0
4790. 30	会津若松市浪江町大字原字新橋	渡 藤 万 吉	54	'62	c	c	b	b	95	2	8	0	0
4790. 74	安積郡湖南村大字三代字御代	古 河 長 成	09	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	0
4791. 12	安積郡熱海町大字安子島字町	平 塚 仁 彦	54	'62	c	c	b	b	100	1	8	0	0
4791. 39	田村郡三春町字北町	早 川 辰 二 郎	54	'62	c	c	b	b	100	4	7	0	0
4791. 61	安積郡遠瀬村大字多田町字久保田	人 見 浩 吉	54	'62	c	c	b	b	96	1	6	0	0
4791. 65	郡山市本町	菊 池 久 之 助	54	'61	b	b	a	o	95	5	12	0	0
4792. 43	田村郡船引町船引町道	前 田 今 銀 太郎	99	'59	a	a	o	o	87	1	6	0	0
4792. 80	田村郡中田村大字中津川字登存	宗 藤 善 吉	54	'62	c	c	b	b	96	1	6	0	0
4792. 81	田村郡郡森村大字古道字柳坂谷	白 石 東 海 齋	54	'60	b	b	a	o	96	1	4	0	0
4794. 30	双葉郡双葉町新山字広町	新 工 勇 夫	54	'60	b	b	a	o	96	1	8	0	0
5007. 17	南会津郡只見村大字大倉字田向	機 田 肇 定	54	'64	c	c	b	b	101	1	8	24	兵
5008. 16	大沼郡昭和村大字丸字三島	渡 藤 武 雄	54	'64	c	c	b	b	101	1	6	24	兵
5009. 21	南会津郡郡森村大字福新字村中	渡 藤 武 雄	53	'59	a	a	o	o	101	1	6	24	兵
5009. 26	南会津郡下郷町大字田島字上野平	渡 藤 三 左 衛 門	98	'61	b	b	a	o	100	1	6	24	兵
5009. 81	南会津郡田島町大字田島字平町	渡 藤 三 左 衛 門	98	'60	b	b	a	o	96	1	6	24	兵

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票									
					第1部第3項第4	A	B	C	D	E				
5017. 20	南会津郡伊南村大字大原字居平	渡 藤 久 百 吉	54	'64	c	c	b	b	101	1	8	24	兵	
5017. 85	南会津郡楡枝村大字下 / 台	平 野 吾 春	09	'57	a	a	o	o	95	1	4	9	0	
5018. 43	南会津郡郡森村大字久懸字宮ノ前	阿 久 久 入 郎	09	'57	a	a	o	o	97	1	6	10	0	
5019. 28	南会津郡松島町大字長沼字吉町	久 保 久 久 彦	54	'60	b	b	a	o	99	1	6	24	兵	
5700. 32	岩手郡天来村大字田尻尾字居平	田 代 辰 吾 衛 門	54	'63	c	c	b	b	99	1	6	0	0	
5700. 36	岩手郡西郷村大字羽字吉谷田	白 田 啓 吉 作	54	'63	c	c	b	b	101	1	6	0	0	
5701. 25	岩手郡川市東 8 丁目	吉 田 勝 三 郎	09	'58	a	a	o	o	96	5	8	24	兵	
5701. 73	西白河郡大町大字久吹字西宅地	佐 久 間 隆 夫	54	'61	b	b	a	o	99	5	10	0	0	
5702. 07	田村郡滝沢町大字神保字和賀	佐 久 間 隆 夫	54	'60	b	b	a	o	94	1	8	0	0	
5702. 52	石川郡平田村大字上蓮田字上山	村 田 義 信	54	'60	b	b	a	o	96	1	4	0	0	
5703. 03	双葉郡川内村大字下川内字宮下	伊 勢 辰 夫	54	'63	c	c	b	b	100	1	6	24	兵	
5703. 19	双葉郡楡森町上栗岡二枚橋	坂 本 義 廣	54	'61	b	b	a	o	96	1	6	0	0	
5703. 48	双葉郡双野町大字上北道字二本橋	藤 岡 隆 太郎	97	'59	a	a	o	o	93	1	8	24	兵	
5703. 70	石川郡川井村大字川井字鶴立	永 山 虎 次 郎	54	'61	b	b	a	o	99	5	8	0	0	
5710. 29	白河市旭町 2 丁目	辺 見 洪 夫	54	'61	b	b	a	o	99	5	8	0	0	
5711. 18	石川郡石川町字北町	大 橋 宗 吉	09	'57	a	a	o	o	101	5	8	0	0	
5711. 85	東白川郡津町大字榎倉字鉄巻町	佐 藤 庄 一 郎	54	'63	c	c	b	b	96	1	4	9	0	兵
5712. 17	石川郡三和村大字下室字常楽 / 内	赤 木 俊 一 郎	96	'59	a	a	o	o	96	7	8	0	0	
5712. 70	東白川郡飯川村大字赤木中野字新街	小 沢 清 左 衛 門	54	'59	b	b	a	o	97	1	6	0	0	
5713. 68	石川郡津町大字上赤木字	江 尻 直 次	54	'61	b	b	a	o	100	5	6	0	0	
5714. 10	双葉郡久之浜町立	長 谷 川 清 吉	54	'61	b	b	a	o	96	3	8	24	兵	
5721. 26	東白川郡橋町字本町	木 村 喜 夫	54	'64	c	c	b	b	102	4	8	0	0	
5721. 27	東白川郡橋町大字菅世中野字鏡神田	金 川 光 史	54	'61	b	b	a	o	97	1	8	0	0	
5721. 77	東白川郡矢野村大字東郷字繪本	金 沢 忠 彦	54	'61	b	b	a	o	94	1	8	0	0	
5722. 37	石川郡藤田村大字猿人字宝塚	小 野 隆 次 郎	09	'58	a	a	o	o	101	1	8	0	0	
5723. 02	常盤市大字藤原町字田塚	高 木 孝 平	54	'64	c	c	b	b	104	1	8	0	0	
5723. 36	磐城市字横町	小 長 兵 衛 郎	09	'57	a	a	o	o	78	5	9	0	0	
5723. 60	勿来市勿来窪町字馬場	小 松 栄 彦	09	'57	a	a	o	o	89	1	8	0	0	
	茨 城 県													
5660. 88	古河市鍛冶町	巖 部 庄 八 郎	11	'60	b	b	a	o	91	5	10	0	0	
5669. 19	下館市末広町	沼 尻 正 吉	10	'57	a	a	o	o	93	5	8	4	0	
5669. 25	結城市白旗町	石 島 茂 一郎	55	'63	c	c	b	b	96	3	8	0	0	
5669. 96	結城郡八千代村沼森	小 祝 勇 三 郎	10	'58	a	a	o	o	100	1	8	24	兵	
5679. 31	福島郡境町上町	荒 木 新 三 郎	10	'58	a	a	o	o	101	5	8	0	0	
5679. 86	福島郡若井町田町	倉 持 文 次 郎	10	'57	a	a	o	o	99	1	4	0	0	
5731. 13	久慈郡大子町大字浅川小字井	武 士 陸 三 郎	10	'57	a	a	o	o	99	1	8	0	0	
5731. 29	久慈郡里美村大字柳田字山口	大 森 為 夫	55	'63	c	c	b	b	95	2	4	0	0	
5731. 67	久慈郡水府村大字上高倉字持方	齊 藤 茂 之 介	55	'61	b	b	a	o	99	1	4	24	兵	
5732. 13	高森市大字下君田字小野井	宇 野 兼 彦	55	'61	b	b	a	o	105	1	6	0	0	
5732. 17	北茨城市楡原町大字大塚字峰岸	赤 木 重 康	55	'62	c	c	b	b	101	1	8	0	0	
5732. 78	高森市大字中戸川字米平	弓 野 善 助	55	'62	c	c	b	b	101	4	0	0	0	
5733. 78	高森市町中	武 藤 高 三 郎	55	'60	b	b	a	o	95	4	8	0	0	
5733. 02	北茨城市大津町玉浦	渡 辺 千 代 次 郎	97	'59	a	a	o	o	84	5	8	0	0	
5741. 25	那珂郡山方町山方宿	中 嶋 恒 助	98	'58	a	a	o	o	91	1	6	0	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					A	B	C	D	E			
5741. 20	那珂郡龍川村油町内字北田	川上 秀 彦	55	'61	b	b	a	94	1	9	0	
5741. 66	那珂郡大宮町北3丁目	沼札新之介	55	'59	a	a	o	89	1	4	0	
5742. 23	常陸大田町明星町	根本準之介	55	'61	b	b	a	84	1	4	兵	
5742. 65	日立市藤野	石原 隆一	50	'57	a	a	o	84	1	8	0	
5750. 84	西茨城郡常陸町大字元岩瀬	伊藤 伊勢吉	11	'61	b	b	a	95	1	8	24	兵
5751. 24	東茨城郡常北町鹿見沢	岡谷信一郎	55	'63	c	c	b	91	1	8	0	
5751. 60	笠間市大字笠間字才木	成田 清 三	55	'60	b	b	a	89	1	8	0	
5751. 78	水戸市泉町3丁目	小真道之介	55	'62	c	c	b	95	1	14	36	
5752. 21	水戸市七街町	碓島 清 兵衛	59	'59	a	a	o	92	5	12	0	
5752. 22	沼河郡常陸村大字瀬和園	菅 幸 一	55	'61	b	b	a	95	1	8	兵	
5752. 94	沼河郡水戸町大字瀬和園	大和田 隆次郎	59	'59	a	a	o	88	5	4	0	
5752. 97	沼河郡水戸町大字瀬和園	井坂 邦 幸 門	58	'59	a	a	o	95	1	8	0	
5756. 27	真壁郡真壁町大字白井	平 幸 吉	10	'58	a	a	o	97	1	8	0	
5756. 37	新治郡八潮町錦田下宿	高野 晋 男	55	'60	b	b	a	95	1	8	0	
5756. 37	東茨城郡茨城町長瀬	堀江茂兵衛	55	'63	c	c	b	93	1	8	0	
5756. 77	鹿嶋郡餅田町大字紅葉	垣田 安 藏	58	'58	a	a	o	94	1	8	0	
5756. 91	石岡市石岡	石崎 一郎	55	'61	b	b	a	98	1	8	16	兵
5756. 91	鹿嶋郡鹿嶋村大字下大田大字谷川	坂本 清次郎	10	'58	a	a	o	98	1	6	0	
5770. 11	筑波郡大塚町大砂	宮崎 一 男	10	'58	a	a	o	92	1	11	0	
5770. 46	上浦市鹿田町	丸本 吉 助	55	'62	c	c	b	87	5	6	16	兵
5770. 57	土浦市外西町	丸本 吉 一	55	'64	c	c	b	93	1	8	36	
5770. 60	筑波郡谷田郡町高須賀	甲 津 謙 雄	55	'60	b	b	a	92	1	10	0	
5771. 42	新治郡出島村南根木	牛 神 伊 雄	10	'58	a	a	o	94	1	8	0	
5772. 00	鹿嶋郡餅田町餅田	渡辺 藤 雄	10	'57	a	a	o	92	5	9	24	兵
5772. 60	行方郡北浦村黒島	木 戸 重 吉	65	'63	c	c	b	92	1	8	24	兵
5772. 84	鹿嶋郡大野村榎木	生井 沢 徳 老	55	'61	b	b	a	91	1	8	0	
5780. 11	茨城郡伊余村小坂上中宿	小 川 雄 次 郎	10	'58	a	a	o	93	1	8	0	
5780. 57	竜ヶ崎市田町城下	藤 野 竹 三 郎	55	'64	c	c	b	97	1	6	0	
5780. 62	北相馬郡取手町吉宿	染 野 正 典	55	'68	a	a	o	93	1	8	24	兵
5781. 22	彌生郡江戸崎町大宿	福田 重 次 郎	10	'57	a	a	o	87	7	7	36	
5782. 25	鹿嶋郡鹿島町大字吉宿	木 滝 武 男	55	'60	b	b	a	92	5	9	15	
5782. 32	行方郡那珂町大字南条	小 林 義 正	55	'60	b	b	a	98	4	8	0	
5782. 77	鹿嶋郡神栖村知字野	小 西 義 正	98	'58	a	a	o	97	1	8	30	兵
5795. 20	鹿嶋郡茨城町大字矢田部 榎 水 郷	安 藤 晋 三 郎	11	'60	b	b	a	93	1	10	0	
5619. 67	那珂郡鹿嶋町鹿宿	室 井 政 一	55	'60	b	b	a	93	1	6	0	
5628. 23	茨城郡栗山村大字西川小字花和	山 島 佐 藤 次	55	'58	a	a	o	93	2	5	24	兵
5628. 66	茨城郡栗山村大字日向小字戸中	山 越 宗 五 郎	11	'61	b	b	a	91	1	6	24	兵
5628. 70	茨城郡栗山村大字川原	入 木 沢 光 一	11	'63	c	c	b	96	2	8	0	
5629. 17	那珂郡鹿嶋町高林	川 島 啓 一	11	'63	c	c	b	90	1	8	0	
5629. 23	那珂郡鹿嶋町大字下嵐原小字門前	鈴木 文 伸 一	11	'61	b	b	a	91	5	6	12	
5629. 98	大田原市下石上	森 島 良 一	11	'60	b	b	a	99	5	8	0	
5638. 53	日光市久次良町	高田 鶴 吉	11	'60	b	b	a	96	1	2	24	兵
5638. 54	日光市晴町	菊 田 義 之 助	11	'62	c	c	b	95	7	8	0	
5638. 67	今市市東町	茂 呂 昌 雄	11	'57	a	a	o	98	0	8	3	兵

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					A	B	C	D	E			
5639. 13	埼玉郡埼玉市上草薙	和 気 弘 造	11	'64	c	c	b	97	1	8	兵	
5639. 47	茨城市大字石岡	大 堀 政 崇	11	'50	b	b	a	95	1	10	0	
5639. 83	今市市大沼町	安 西 政 夫	11	'59	a	a	o	95	1	8	0	
5647. 27	上野原郡足利町赤沢	藤 野 英 夫	12	'60	b	b	a	96	5	4	0	
5648. 13	鹿沼市西大字大字久小字神橋	藤 野 英 夫	98	'58	a	a	o	92	1	8	0	
5648. 53	上野原郡足利町大字入野野小学水沢	大 友 徳 一郎	11	'63	c	c	b	91	1	8	0	
5648. 96	上野原郡足利町大字野	宇 賀 伸 一 郎	11	'58	a	a	o	98	1	8	0	
5649. 29	埼玉郡久津町宝鏡寺	樽 原 喜 一郎	11	'57	a	a	o	88	1	8	0	
5649. 53	宇都宮市御生町	杉 浦 延 雄	11	'58	a	a	o	81	1	0	18	兵
5649. 65	宇都宮市戸賀町	松 本 英 夫	11	'62	c	c	b	91	1	5	8	兵
5652. 78	足利市月宮町	田 島 豊 吉 郎	12	'61	b	b	a	98	4	8	3	兵
5658. 01	安藤郡那生町大字水木小学太田沢	水 島 啓 吉 一	11	'63	c	c	b	94	1	4	24	
5658. 54	安藤郡那生町大字碓生	石 川 市 大 平	11	'59	a	a	o	84	1	4	0	
5658. 89	栃木市沼和田町	片 藤 文 平	11	'58	a	a	o	94	1	7	0	
5659. 42	下野郡那生町大字壬生	松 本 徳 一	11	'58	a	a	o	96	1	8	24	
5659. 46	内務省上三川町大字上三川	貝 賀 染 吉 一	11	'58	a	a	o	96	1	8	0	
5659. 78	芳賀郡二宮町久下田	跡 本 信 一	11	'61	b	b	a	95	5	6	2	
5662. 08	足利市大塚	藤 名 市 郎	12	'63	c	c	b	92	4	6	0	
5668. 13	佐野市高砂町	煙 川 信 次 郎	11	'57	a	a	o	98	5	6	0	
5668. 38	下野郡那須町町蛭沼	大 橋 沢 次 郎	17	'64	c	c	b	99	1	8	0	
5669. 12	小山市藤巻上之町	岩 崎 沢 成 一	10	'58	a	a	o	98	1	8	0	
5710. 42	那須郡那須町大字高久西小字大沢	高 橋 沢 貞 一	11	'64	c	c	b	91	1	4	0	
5710. 84	那須郡那須町大字寺子西	大 森 末 吉 一	11	'60	b	b	a	96	5	36	兵	
5720. 34	那須郡那須町那須	跡 本 元 一	11	'58	a	a	o	96	5	8	24	兵
5720. 71	大田原市大田原	加 藤 公 彦	11	'57	a	a	o	95	1	8	24	兵
5720. 98	那須郡那須町大字彌生木	津 野 正 敬 一	11	'62	c	c	b	97	1	6	0	
5720. 97	那須郡那須町大字彌生	那 可 貴 之 助	11	'59	a	a	o	95	1	6	24	兵
5740. 16	那須郡喜連川町大字喜連川	黒 木 通 吉	11	'59	a	a	o	92	5	8	18	
5740. 20	那須郡山崎町	小 堀 忠 広 一	11	'58	a	a	o	91	0	5	4	0
5740. 43	芳賀郡芳賀町大字上船毛田	跡 本 栄 之 進	11	'63	c	c	b	95	9	1	24	兵
5740. 87	芳賀郡茂木町大字	廣 山 幸 夫 郎	11	'58	a	a	o	94	5	6	28	
5750. 30	真岡市田町	浅 野 隆 一郎	11	'62	c	c	b	98	1	8	0	
5750. 31	真岡市大字東郷字八切 群 鳥 巢	南 雲 孫 次 郎	11	'57	a	a	o	93	1	8	0	
5626. 92	利根郡水上町大字藤原字根田具	中 島 藤 四 郎	97	'59	a	a	o	87	1	4	0	
5626. 99	利根郡片島村戸倉	松 浦 斗 一	12	'62	c	c	b	95	0	1	7	0
5635. 48	利根郡水上町川上	中 島 広 寿	12	'58	a	a	o	89	1	4	0	
5635. 65	利根郡新治村旗ヶ京	林 富 市 郎	12	'57	a	a	o	77	1	6	24	
5636. 49	利根郡片島村根川中宿	青 木 助 多 郎	12	'58	a	a	o	91	1	2	6	兵
5636. 74	利根郡川俣村谷中地	中 村 篤 一 郎	12	'58	a	a	o	93	1	8	24	
5644. 24	吾妻郡津町大字草津	沖 津 啓 助	96	'62	b	b	a	93	7	6	12	
5644. 74	吾妻郡足利町根尾	新 沢 里 平 一	12	'57	a	a	o	93	1	6	24	
5645. 22	吾妻郡高山村大字中半判形	唐 沢 百 三 郎	12	'62	c	c	b	97	1	7	0	
5645. 43	吾妻郡中之条町西中之条	唐 沢 眞 隆 一	12	'59	a	a	o	90	1	8	24	
5645. 89	北群馬郡尾花村北敷治谷戸	島 田 光 一郎	12	'58	a	a	o	95	1	6	24	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票						
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E		
5646. 12	沼田市榑町	宮田 豊治	12	'58	a	a	o	90	1	4	0
5646. 39	利根郡利根村大字御宇西沢	小菅良太郎	12	'62	c	c	b	97	1	6	18
5646. 71	勢多郡赤松村津久田西宿	'58 a a o o	97	1	8	24	兵				
5647. 56	勢多郡東村沢久	'58 a a o o	00	1	6	0	兵				
5653. 00	吾妻郡磯志村田代	'61 b b a a	98	1	6	36	兵				
5654. 98	湯水郡松井田町坂本	'60 b b a a	01	1	6	0	兵				
5655. 41	群馬県倉岡村岩水	'60 b b a a	07	1	6	0	兵				
5655. 57	群馬県美郷町金敷平	'57 a a o o	79	1	4	0	兵				
5655. 97	安中市板鼻町	'63 c c b b	96	1	6	0	兵				
5656. 56	勢多郡大町町茂水	'58 a a o o	92	1	7	0	兵				
5656. 62	前橋市道楽町	'59 a a o o	94	5	7	24	兵				
5657. 06	桐生市梅田5丁目	'63 c c b b	97	1	4	0	兵				
5657. 53	桐生市東久方町	'63 c c b b	95	4	8	24	兵				
5657. 73	桐生市広沢町4丁目	'63 a e o o	90	1	4	36	兵				
5664. 58	甘梁郡下仁田町水宿	'61 b b o a	91	5	8	3	兵				
5665. 11	湯水郡松井田町行田	'59 a a o o	96	1	6	3	兵				
5665. 12	湯水郡松井田町上町	'63 c c b b	01	5	8	0	兵				
5665. 46	富岡市曾木	'58 a a o o	05	1	8	0	兵				
5665. 89	碓冰郡下日野大字駒留	'63 c c b b	96	1	6	0	兵				
5666. 10	高崎市吾元町	'58 a a o o	99	7	12	0	兵				
5666. 12	伊勢崎市今泉町1丁目	'57 a a o o	00	1	4	36	兵				
5666. 52	伊勢崎市飯野町田子町町	'62 c c b b	99	1	6	0	兵				
5667. 24	太田市大字	'59 a a o o	97	1	6	0	兵				
5667. 41	前田郡沼田町大字浪良田	'64 c c b b	96	1	6	0	兵				
5667. 72	邑楽郡千代田村大字塚本	'59 a a o o	00	7	8	24	兵				
5668. 51	越後市谷越	'59 a a o o	90	5	9	18	兵				
5674. 06	甘梁郡沼田町沢次羽根沢	'61 b b o a	00	1	6	0	兵				
5674. 59	多野郡上野村大字橋原	'64 c c b b	98	1	6	0	兵				
5675. 36	多野郡万寿町万寿	'60 b b a a	90	1	6	24	兵				
5676. 10	多野郡鬼石町大字三波川字月吉	'59 a a o o	88	1	2	0	兵				
5676. 12	埼玉 玉縄	'60 b b a a	02	5	4	0	兵				
5666. 85	児玉郡児玉町上町	'60 b b a a	00	1	8	20	兵				
5667. 81	深谷市町	'60 b b a a	00	1	1	36	兵				
5675. 87	秩父郡小栗野町大字三山字半平	'61 b b a a	99	1	1	36	兵				
5676. 28	大里郡寄野町大字板沢	'59 a a o o	00	4	8	0	兵				
5676. 52	秩父郡皆野町大字下日野沢字沢辺	'64 c c b b	01	5	8	24	兵				
5676. 84	秩父市大字大野原字大野原	'62 b b a a	00	1	8	0	兵				
5677. 14	熊谷市大字広原	'57 a a o o	99	1	8	24	兵				
5677. 28	行田市大字在田字第二佐間	'61 b b a a	84	1	6	0	兵				
5677. 60	比企郡小川町大字小川	'63 c c b b	95	5	8	0	兵				
5677. 85	東松山市大字上野本字金谷	'59 a a o o	92	1	8	0	兵				
5678. 23	北埼玉郡西町大字上高柳字船橋	'60 b b a a	99	1	11	0	兵				
5678. 29	北埼玉郡幸手町大字柳屋字小字下宿	'59 a a o o	84	1	8	0	兵				
5678. 71	北埼玉郡本宿村大字宮内	'57 a a o o	00	1	8	0	兵				
5678. 86	南埼玉郡白岡町大字白岡字東	'62 c c b b	03	1	8	0	兵				

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E				
5685. 02	秩父郡大滝村字中津川	山中 誠二	96	'59	a	a	o	83	1	4	0		
5685. 37	秩父郡大滝村大字大滝字稲打	鎌田 今吾	96	'59	a	a	o	83	1	4	0		
5686. 15	秩父郡横瀬村戸ヶ久保	村 越 伸 造	99	'61	b	b	a	a	87	4	7	0	
5686. 31	秩父郡栗川村大字上田野字事上	松田 題 平	96	'59	a	a	o	92	1	4	0		
5686. 67	入間郡名栗村大字上名栗字段辺	鈴木 知一郎	52	'59	a	a	o	96	1	11	12	兵	
5687. 32	入間郡毛呂山町大字毛呂木郷字宮	篠塚 光六	52	'59	a	a	o	97	1	8	1	兵	
5687. 59	川越市松郷下松江町	吉田 伊之助	99	'59	a	a	o	98	4	6	1	兵	
5687. 69	飯沼市大字花秀	井上 又 威	52	'63	c	c	b	b	84	1	6	35	兵
5687. 86	飯沼市八間川	小 高 金 三	52	'61	b	b	a	a	94	5	8	0	兵
5688. 01	上野市大字藤沢字天神前	萩原 清 隆	52	'60	b	b	a	a	97	1	6	0	兵
5688. 37	群馬市大字加茂字中島	丸 井 金 之 助	52	'60	b	b	a	a	94	7	6	0	兵
5688. 74	北足尾市野野町大字久玉子	結 崎 雄	13	'57	a	a	o	03	1	4	0	兵	
5688. 86	湯和町高砂町2丁目	岩崎 保 雄	52	'62	c	c	b	b	08	7	8	24	兵
5689. 10	春日部市大字榎田東	清水 元 之	57	'64	c	c	b	b	03	1	8	24	兵
5689. 24	北埼玉郡吉川町松遊軒	飯島 小三郎	57	'61	b	b	a	a	97	1	8	0	兵
5689. 29	大里郡元住山村二本木	清水 藤四郎	15	'57	a	a	o	96	1	4	36	兵	
5689. 19	川口市十二月町	鶴 垣 蒙 吉	58	'61	b	b	o	a	90	5	6	3	兵
5679. 41	東馬郡調宮町台町	千 葉 集											
5689. 34	野田市野田	増山 豊一	55	'65	c	c	b	b	96	7	8	0	兵
5689. 36	沼田町野田	瀬田 辰次郎	14	'61	b	b	a	a	85	5	4	15	兵
5689. 98	沼市豊町	岩崎 喜 助	14	'58	a	a	o	94	1	8	0	兵	
5689. 25	松平町磯野口	高橋 作次郎	14	'57	a	a	o	92	1	8	0	兵	
5689. 89	船橋市清町	大野 繁次郎	57	'64	c	c	b	b	92	3	8	24	兵
5781. 65	沼取郡神崎町松崎	岡野 大次郎	98	'59	a	a	o	97	1	6	0	兵	
5782. 94	香取郡小見川町小見川	花 坂 勇	98	'59	a	a	o	97	5	6	0	兵	
5790. 03	印旛郡白井村平塚	山 藤 勘 藏	14	'61	b	b	a	a	96	1	8	0	兵
5790. 39	印旛郡印旛村原	片 野 幸 吉	14	'61	c	c	b	a	89	1	8	24	兵
5790. 64	千葉郡八千代町大和田	片 野 幸 吉	14	'61	c	c	b	a	94	1	8	24	兵
5790. 79	佐倉市野田町高岡	坂 上 藏 治	14	'61	c	c	b	a	88	7	6	0	兵
5791. 07	香取郡大栗町柳山	吉 田 喜 平	57	'64	c	c	b	b	95	1	10	3	兵
5791. 25	茨城市幸町	加藤 金 兵 衛	14	'57	a	a	o	96	7	8	0	兵	
5791. 68	香取郡多古町林	平山 給 大 郎	96	'60	b	b	a	a	83	1	8	0	兵
5792. 18	香取郡小見川町油田	日 下 源 吾 郎	98	'59	a	a	o	94	1	6	0	兵	
5792. 65	香取郡那珂町大字東今泉東浜	坂 井 道 吉 衛	98	'59	b	b	a	a	05	1	6	0	兵
5792. 65	大日市市赤松町赤松島	高橋 英 大 郎	96	'63	b	b	a	a	96	1	11	0	兵
5792. 78	海上郡飯沼町高岡	加藤 定 吉	57	'63	c	c	b	b	05	1	6	0	兵
5793. 45	秩父市芝町	丸 山 國 威	57	'63	c	c	b	b	05	1	6	0	兵
5793. 74	秩父市高神東町	伊 東 長 左 衛 門	57	'61	b	b	a	a	88	1	6	0	兵
5793. 76	木更津市木更津	石 川 真 一	14	'58	a	a	o	97	7	11	0	兵	
6029. 24	香津郡大和田町千鶴新田	磯 部 虎 雄	14	'57	a	a	o	88	7	10	24	兵	
6029. 26	香津郡峰上村豊田組	茂 木 直 武	57	'61	b	b	o	a	97	1	12	0	兵
6029. 29	安房郡長狭町字平塚木田代	三 木 三 郎 三 郎	52	'62	c	c	b	b	96	1	6	0	兵
6030. 43	安房郡富山町久枝	伊 能 芳 治	14	'59	a	a	o	99	2	10	24	兵	
6030. 79	安房郡和田町大字中三原小字神田	戸 田 小 一	98	'58	a	a	o	00	1	12	0	兵	
6039. 13	熱海市芝名	熱 田 邦 之 助	14	'57	a	a	o	81	7	8	24	兵	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票					備考				
					第1部	第2部	第3部	A	B		C	D	E	
6649.28	安房郡千倉町北朝夷	鈴木佐雄	14	'59	a	a	o	o	99	5	8	0		
6649.35	安房郡白浜町白浜小字島崎	木曾仁三松	57	'62	c	c	b	b	02	5	6	0	兵	
6700.25	千葉県東山寺町	高山才次郎	14	'59	a	a	o	o	98	1	6	0		
6700.48	千葉県栗岡町	浦津長治	14	'59	a	a	o	o	88	7	5	24	兵	
6700.98	京都市市津町東田吉	西郷千雄	57	'63	c	c	b	b	88	1	11	36		
6701.01	向原郡八面町西林	中村 功	14	'58	a	a	o	o	03	1	8	0		
6701.46	山梨県成沢町聯合	田名 義典	14	'59	a	a	o	o	01	1	11	26	兵	
6702.21	福屋郡光木町	堀名 義典	96	'60	b	b	a	o	01	1	10	0		
6710.02	市原郡船方町今津南山	清水安太郎	14	'57	a	a	o	o	66	1	2	0		
6710.55	市原郡船越町幸島	藤代吉郎	14	'58	a	a	o	o	93	1	13	36		
6710.70	君津郡平川町横田	三 肇 雄	57	'62	c	c	b	b	97	1	8	0		
6711.12	厚生郡本納町本納	石渡孝三	14	'59	a	a	o	o	89	5	12	0		
6711.16	山梨郡大淵町白根四日本納屋	鎌田敬造	57	'63	c	c	b	b	94	5	7	0		
6711.60	日生郡長洲町大字坂本小字小堂	津原彰七	98	'58	a	a	o	o	95	1	8	36	兵	
6711.95	日生郡一宮町東渡見小字大村	峰島鉄貞	14	'57	a	a	o	o	81	1	2	6	兵	
6720.23	君津郡上地町市場	金沢元夫	14	'58	a	a	o	o	00	5	15	36		
6720.67	河原郡大多喜町小沢又	大沼清次郎	14	'58	a	a	o	o	87	1	6	4		
6721.31	河原郡河原町行川	渡辺 基一	57	'61	b	b	o	a	99	1	9	0		
6721.33	河原郡大原町高谷	池田 実夫	14	'58	a	a	o	o	94	1	8	0		
6730.27	安房郡天津小湊町字内浦	渡辺重治	57	'62	c	c	b	b	87	1	1	24	兵	
6730.33	安房郡鴨川町貝浦	船谷勝三	14	'57	a	a	o	o	93	7	10	36		
6731.03	河原郡勢多町部原	高 隆 徹	14	'59	a	a	o	o	86	3	0	0		
	東京都													
5696.13	西多摩郡奥多摩町大字川	小 塚 信 助	15	'57	a	a	o	o	96	2	8	0		
5696.54	西多摩郡奥多摩町小沢	峰 野 冠 司	58	'62	c	c	b	b	88	1	6	0		
5696.68	西多摩郡五日市町小和田	宮 崎 誠 治	58	'61	b	b	o	a	00	1	10	24		
5697.20	青箱市森下	野 崎 達 一	49	'58	a	a	o	o	94	5	4	0		
5697.23	西多摩郡福生町福生	村 野 長 治	58	'62	c	c	b	b	98	1	8	0		
5697.26	立川市柴崎町	野島 豊 作	49	'59	a	a	o	o	96	1	4	24	兵	
5697.30	北多摩郡清瀬町上瀬戸	高 島 隆 造	49	'59	a	a	o	o	96	1	4	36		
5698.54	練馬区下石井	藤 原 善 心	49	'59	a	a	o	o	96	1	4	0		
5698.69	文京区西町	塚 藤 次 郎	58	'62	c	c	b	b	81	5	8	0		
5698.91	三鷹市大沢	吉川 郁 夫	99	'59	a	a	o	o	95	7	7	0		
5699.42	足立区4丁目	阿 村 昭 吉	57	'61	b	b	o	a	97	1	4	0		
6002.03	八王子市八丁目	黒田 喜右衛門	49	'58	a	a	o	o	88	5	4	0		
6002.18	南多摩郡多摩村岡戸	小川 三 郎	58	'63	c	c	b	b	01	5	2	4	兵	
6002.48	町田市本町1丁目	矢沢清兵衛	58	'63	c	c	b	b	92	1	8	0		
6008.00	目黒区駒場町	川 井 栄 一	49	'58	a	a	o	o	91	7	12	16	兵	
6008.69	大田区程谷町	柴田 一郎	58	'63	c	c	b	b	99	4	8	0		
6009.02	江東区荏刈石割4丁目	木 多 辰 次 郎	99	'58	a	a	o	o	00	3	2	60	兵	
6009.05	江戸川区長島町	梅原辰次郎	15	'57	a	a	o	o	98	5	8	0		
6057.54	(大島支庁)大島町元町	青木松之助	49	'59	a	a	o	o	81	1	3	4		
6057.96	(大島支庁)大島町惣木地	小 沢 寛 一 郎	48	'65	a	a	b	b	83	3	4	24	兵	
6067.81	(大島支庁)利島村	西 村 マ ナ	99	'62	c	c	b	b	88	0	0	0	女	
6077.41	(大島支庁)新島本村大字若部	辨 田 孫 之 丞	58	'65	c	c	b	b	78	1	3	4	0	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票					備考				
					第1部	第2部	第3部	A	B		C	D	E	
6077.70	(大島支庁)新島本村大字本村	植 松 甚 助	58	'65	c	c	b	b	96	3	8	32	兵	
6086.75	(大島支庁)神津島村	小 川 乃 路 雄	58	'65	c	c	b	b	93	1	2	52	兵	
6097.39	(大島支庁)三宅村伊豆	島 沢 誠 雄	58	'61	b	b	o	a	93	1	8	3	兵	
6097.49	(三宅島支庁)三宅村伊分谷	山口 恭 三	58	'61	b	b	o	a	98	1	6	60		
6097.59	(三宅島支庁)三宅村阿古	村上平太郎	58	'61	b	b	o	a	88	1	8	39		
6098.20	(三宅島支庁)三宅村神津	佐藤 謙 之 助	58	'61	b	b	o	a	87	5	8	0		
6098.41	(三宅島支庁)三宅村神田	小 沢 多 之 一	99	'60	b	b	o	a	84	1	9	31	兵	
7659.31	(八丈島支庁)八丈町三田川向	野田 右 衛 門	99	'60	b	b	o	a	89	1	4	0		
7659.40	(八丈島支庁)八丈町大賀郷八戸	佐藤 田 三 郎	99	'60	b	b	o	a	81	1	4	0		
7659.51	(八丈島支庁)八丈町成川成蔵	神 山 豊 隆	99	'60	b	b	o	a	12	0	10	12		
7659.53	(八丈島支庁)八丈町吉志	菊 池 豊 隆	99	'60	b	b	o	a	96	1	8	0		
7659.62	(八丈島支庁)八丈町中之郷川向 神楽川集	藤 本 清 重	49	'58	a	a	o	o	87	1	6	36	兵	
6006.30	津久井郡相模町若御奥田	落合 仲 次 郎	49	'62	c	c	b	b	85	1	4	24	兵	
6006.89	愛甲郡津川村谷戸原合	萩 原 庄 作	49	'58	a	a	o	o	92	1	8	3	兵	
6008.22	川崎市登戸町	池田 定 明	15	'57	a	a	o	o	00	5	8	0		
6016.22	足柄上郡北町中川瀬沢	佐藤 仲 次 郎	49	'63	c	c	b	b	92	1	4	0		
6016.99	秦野市曾根	佐藤 藤 造	49	'60	b	b	o	a	97	1	6	3	兵	
6016.99	足柄上郡北町湯原	佐藤 吉 次 郎	49	'59	a	a	o	o	90	1	4	24	兵	
6017.34	厚木市厚木	福 山 伊 三 郎	49	'59	a	a	o	o	03	5	6	0		
6017.75	高橋郡津川町大字宮山字泉原	北 野 勝 博	15	'57	a	a	o	o	02	1	8	3	兵	
6017.99	津沢市津沢	堀 川 賢 隆	49	'62	c	c	b	b	02	4	6	24	兵	
6018.25	横須市神奈川区幸谷	佐藤 喜 次 郎	49	'64	c	c	b	b	97	5	4	0		
6018.46	横須市中区関門町	高 橋 千 麻 子	15	'57	a	a	o	o	91	5	11	24	兵	
6018.51	横須市戸塚区吉田元町	高 橋 仙 次 郎	49	'60	b	b	o	a	91	1	4	36		
6026.06	足柄上郡大井町上大井	渡 谷 淳 一	49	'64	c	c	b	b	91	1	4	24	兵	
6026.30	足柄上郡箱根町仙石原下向	橋 俣 門 三 郎	99	'58	a	a	o	o	92	1	6	0		
6026.46	小田原市藤町	小田 原 吉 郎	49	'59	a	a	o	o	94	5	4	0		
6026.71	足柄下郡箱根町元箱根	村 瀬 實 成	49	'61	b	b	o	a	94	7	4	12		
6027.15	伊豆大磯町南下町	岩 田 亮 三 吉	49	'58	a	a	o	o	96	5	6	3		
6028.23	足柄上郡	宮 崎 善 一	49	'58	a	a	o	o	93	7	8	24		
6028.59	秦野市鴨居	渡 谷 善 一	49	'58	a	a	o	o	96	7	11	2	兵	
6028.64	横濱市佐倉島	青 木 長 吉	49	'63	c	c	b	b	91	1	6	0		
6036.05	足柄下郡真鶴町大蓮寺	淵 木 久 三 郎	22	'64	c	c	b	b	93	3	4	0		
6038.14	三浦市三崎町花森	窪 木 金 太郎	49	'61	b	b	o	a	94	3	4	0		
	新潟県													
4637.20	岩船郡桑島浦村字内浦	木 塚 孝 一	16	'63	c	c	b	b	86	1	3	0		
4637.65	岩船郡山北村大字萱川	木 岡 健 治	16	'61	b	b	o	a	91	3	4	0		
4638.23	岩船郡山北村大字北田中	大 塚 聖 治	98	'62	b	b	o	a	98	1	6	0		
4638.42	岩船郡山北村大字大田	加 藤 宏 平	16	'61	b	b	o	a	93	1	6	0		
4643.47	渡波郡相川町大字五十浦	石 畑 久 三 郎	98	'60	a	a	o	o	04	1	6	36	兵	
4644.10	河津市大字壺崎	木 岡 作 次	99	'60	b	b	o	a	80	1	4	2	兵	
4647.69	村上市大字村上安楽町	木 戸 倉 政 隆	16	'62	c	c	b	b	98	5	8	2		
4647.87	村上市大字若部	鈴木 清 蔵	16	'57	a	a	o	o	93	5	10	0		

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者名	調査年	調査区									
					第1区	第2区	第3区	第4区	A		B	C	D	E
4648. 04	岩船郡朝日村大字高根	坂田忠七郎	16	'62	c	c	b	b	92	2	4	0		
4648. 42	岩船郡朝日村大字新根	尾 沼 準	16	'61	b	b	o	a	99	7	8	24	兵	
4648. 59	岩船郡朝日村大字三面	伊藤豊一郎	16	'62	c	c	b	b	02	1	6	0		
4652. 79	佐渡郡相川町大字神崎	伊藤豊吉	16	'59	a	a	o	o	97	5	11	26		
4652. 02	佐渡郡相川町大字北片辺	山 城 幸吉	98	'60	b	b	a	o	03	5	6	30		
4653. 47	阿津市大字真須田一	伊藤 啓助	16	'59	a	a	o	o	90	5	8	0		
4653. 84	佐渡郡金井町大字千種小字大和田	矢 田 吾一	98	'61	b	b	a	a	91	1	0	0		
4654. 52	阿津市大字水津	北 井 春一	16	'59	a	a	o	o	97	1	6	0		
4657. 64	北原郡桑地村大字築地	赤 塚 素一	16	'61	b	b	o	o	88	7	6	6		
4657. 88	北原郡黒川村大字坂井	赤 塚 元太郎	16	'61	b	b	o	a	97	1	6	0		
4658. 42	岩船郡関川村大字下関	伊藤初太郎	16	'61	b	b	o	o	99	1	6	0		
4653. 06	佐渡郡畑野村畑野	中 川 美 97	'58	a	a	o	o	89	5	13	7	兵		
4653. 49	佐渡郡畑野村松ヶ崎	青木長三郎	97	'58	a	a	o	o	98	5	13	72		
4653. 92	佐渡郡茨城町飯屋	中 川 美 98	'61	b	b	a	a	71	1	3	0			
4656. 87	西原郡内野町字内野6番町	影山善次	16	'59	a	a	o	o	94	1	6	0		
4656. 17	新潟市島見町	川島金三郎	16	'63	c	c	b	b	030	1	6	18		
4656. 42	新潟市宮庭町4丁目	渡辺長吉	16	'63	c	c	b	b	00	5	6	31		
4656. 51	新潟市陶屋下川原	神田又一	16	'59	a	a	o	o	96	4	6	0	兵	
4656. 99	北原郡水原町大字水原	五十嵐善吉	16	'61	b	b	o	a	98	1	6	0		
4657. 33	新発田市大字山内	吉 川 禮 蔵	16	'52	a	a	o	o	98	1	7	0		
4672. 19	佐渡郡小水町密根木	石 塚 忠太郎	16	'59	a	a	o	o	78	1	4	10		
4675. 45	西原郡岩手町	石田忠太郎	16	'59	a	a	o	o	90	1	6	0		
4676. 62	西原郡岩室村字開原	山川重作	16	'63	c	c	b	b	90	2	4	0		
4676. 39	北原郡安田町保田字宮町	安 沢 金 松	97	'65	c	c	b	b	94	1	4	8	兵	
4676. 42	中原郡小須戸町大字小須戸	高 橋 三治	16	'52	a	a	o	o	96	5	6	0		
4676. 60	白根市茨倉根	栗田四吉	16	'59	a	a	o	o	01	1	6	0		
4677. 67	五泉市大字五泉	瀧 井 一 郎	16	'60	b	b	a	o	00	5	6	0		
4677. 66	東原郡三川村大字岡沢	神田新吉	16	'61	b	b	o	a	96	1	7	12		
4678. 71	東原郡藤島町日出谷字中村	遠 藤 常 朝	97	'59	a	a	o	o	00	5	6	24		
4684. 77	三島郡出雲崎町石井町	小林俊次郎	16	'59	a	a	o	o	78	3	0	21		
4685. 10	三島郡寺泊町上荒町	長川勘次郎	16	'63	c	c	b	b	88	5	8	36		
4685. 28	三島市西四丁目	中 沢 富 次	16	'59	a	a	o	o	87	4	4	6		
4685. 72	三島市坂町南町	北 沢 次 存	16	'58	a	a	o	o	03	5	6	38		
4685. 88	見附市本町町	石 尾 正 吉	97	'59	a	a	o	o	88	1	5	36		
4686. 02	加茂市大字加茂第十二区	有 木 晋 策	16	'64	c	c	b	b	91	1	6	0		
4686. 52	南原郡下田村大字飯田	三 坂 晋 策	16	'60	b	b	a	o	98	1	9	36	兵	
4686. 96	南原郡下田村大字笠原	藤 倉 乙 雄	16	'64	c	c	b	b	98	2	4	12		
4687. 01	中原郡村松町大字笹目字高石	五十嵐与次郎	16	'64	c	c	b	b	98	2	8	12		
4687. 37	東原郡上川村大字広谷字入田藤	長谷川 勝	16	'61	b	b	a	o	03	1	6	0		
4694. 26	刈羽郡西上町大字下山	田 和 又 治	16	'62	c	c	b	b	02	1	6	3	兵	
4694. 81	柏崎市本町2丁目	小 籠 登 三	16	'57	a	a	o	o	95	5	8	36		
4694. 95	刈羽郡北条町字北条	寺 沢 善 三	16	'58	a	a	o	o	01	1	6	0		
4695. 19	新発田市扇形神社	植 村 来 存	16	'57	a	a	o	o	85	5	6	0		
4695. 21	長岡市岡原町3丁目甲	藤 田 豊 次	16	'58	a	a	o	o	89	4	6	0		

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者名	調査年	調査区									
					第1区	第2区	第3区	第4区	A		B	C	D	E
4695. 33	長岡市千手町3丁目	金 安 吉 次	16	'62	c	c	b	b	90	5	6	0		
4695. 87	古志郡山古志村大字横平原	坂 敬 吉 次	16	'64	c	c	b	b	02	1	6	0		
4696. 82	北条郡入刈原村大字沢	佐 藤 到 久	16	'60	b	b	a	o	81	2	3	0		
5092. 99	直江津市塩屋区	中 戸 翼 亮	16	'63	c	c	b	b	96	5	14	36		
5093. 35	中原郡神崎町大字神崎町町	山 田 泰一郎	16	'58	a	a	o	o	00	5	8	24		
5093. 88	中原郡吉川町大字直海字村屋	常 山 正 一	96	'58	a	a	o	o	00	5	14	36		
5094. 28	刈羽郡小国町大字新町	中 村 重太郎	16	'63	c	c	b	b	01	1	6	0		
5094. 52	刈羽郡高田村大字折町字御儀	高 橋 眞之助	16	'62	c	c	b	b	96	1	6	3		
5094. 65	刈羽郡高田町大字岡野町	石 塚 来 吉	16	'57	a	a	o	o	82	0	4	36	兵	
5095. 11	小千谷市横町	田 中 秀太郎	16	'59	a	a	o	o	93	5	8	0		
5095. 57	北条郡藤之内町加町	佐 藤 一 二	16	'57	a	a	o	o	01	5	8	24	兵	
5095. 70	中条郡郡川町町字原田	丸 山 照 作	16	'64	c	c	b	b	92	1	4	0		
5096. 83	北条郡藤之内町大字大湯	坂 井 高 五郎	16	'60	b	b	a	o	94	5	4	8		
5611. 39	西原郡藤生町大字藤生	菅 又 富 治	16	'64	c	c	b	b	01	5	8	0		
5611. 74	魚沼市大字一の宮	矢 島 善 久一	16	'57	a	a	o	o	91	1	8	0		
5611. 81	西原郡青海町本町2丁目	斎藤五太郎	16	'58	a	a	o	o	80	3	6	0		
5612. 23	西原郡藤生町大字藤生	久 保 田 庄 吉	16	'58	a	a	o	o	02	3	6	36		
5612. 39	高田市大町3丁目	大 島 久 二 郎	16	'57	a	a	o	o	84	5	8	36	兵	
5612. 98	新井市三反	栗 田 善 吉	16	'58	a	a	o	o	97	1	4	0		
5613. 33	中原郡藤三村字川津	岩 沢 千 代 治	16	'54	c	c	b	b	97	1	8	0		
5613. 48	東原郡安塚町大字小黒	岩 崎 眞太郎	16	'58	a	a	o	o	89	1	6	24		
5613. 53	中原郡藤原村大字菅原	木 多 寿 太郎	16	'58	a	a	o	o	03	1	8	0		
5613. 80	新井市大字新井町町	池 田 肇 三郎	16	'63	c	c	b	b	01	7	6	0		
5614. 24	東原郡藤原村大字松代	堀 口 庄 吉	16	'60	b	b	a	o	87	1	4	10		
5614. 62	東原郡藤原村大字浦田字中立山	東 原 政 平	16	'64	c	c	b	b	97	1	6	12		
5614. 68	十日町郡中里村大字田沢字田沢	村 山 義 平	16	'60	b	b	a	o	97	1	6	0		
5615. 20	十日町市大字十日町高田町	上 村 寿 平	16	'60	b	b	a	o	99	1	6	0		
5615. 28	南魚沼郡大和村大字大崎	中 島 英 一	16	'60	b	b	a	o	96	1	4	12	兵	
5615. 65	南魚沼郡六日町大字六日町	岡 藤 岩 雄	16	'62	c	c	b	b	87	5	10	24		
5615. 74	南魚沼郡湯沢町大字湯沢	角 谷 喜 大 郎	16	'60	b	b	a	o	80	1	4	23	兵	
5615. 78	南魚沼郡六日町大字野地	大 塚 義 孝	16	'64	c	c	b	b	91	1	2	4	兵	
5620. 16	西原郡青海町大字市原	建 部 常 孝	17	'58	a	a	o	o	88	4	9	10		
5622. 48	中原郡藤原村大字山	伊 藤 寅 一 郎	16	'58	a	a	o	o	90	1	4	24	兵	
5624. 42	新井市大字長沢	内 田 富 造	16	'58	a	a	o	o	98	1	8	3	兵	
5624. 05	中条郡藤原町大字赤沢	大 野 正 三	20	'66	c	c	b	b	03	1	9	0		
5625. 32	南魚沼郡湯沢町大字湯沢一の町	高 橋 利 徳	16	'57	a	a	o	o	89	5	4	34	兵	
5625. 91	南魚沼郡湯沢町二番	林 千 代 吉	16	'63	c	c	b	b	89	5	4	9		
	富 山 県													
5627. 89	次高市朝田北郡	岩 水 源 助	17	'59	a	a	o	o	80	1	2	4	兵	
5628. 31	次高市朝田	中 川 初 郎	17	'61	b	b	a	o	94	1	4	0		
5629. 77	福井市三日市三日市	菅 野 啓 一	17	'58	a	a	o	o	89	5	4	0		
5637. 34	西原郡藤原町大字沢川	村 口 義 次郎	17	'63	c	c	b	b	92	1	2	4	兵	
5637. 94	西原郡石巻町上野木	坪 野 次 存	17	'59	a	a	o	o	86	1	6	0		
5637. 99	西原郡藤原町大字	柴 田 大 四郎	17	'60	b	b	a	o	87	5	8	0		

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査期	調査年	調査票								
					第1部第2部第4部	A	B	C	D	E			
5333. 33	新洲市放生津東町	塩谷 善三	17	'62	c	e	b	b	91	7	8	12	氏
5333. 49	富山県御所原町	藤沢 忠次郎	17	'62	c	e	b	b	89	1	4	0	
5333. 50	高岡市横田町ノノ	吹田 善次郎	17	'57	a	a	o	o	87	4	4	0	
5338. 63	射水郡小杉町三ヶ	津田 晋三	96	'63	c	a	b	b	94	1	8	0	
5338. 88	富山県新町	荒川 重盛	17	'57	a	a	o	o	82	4	5	0	
5338. 90	東砺波郡中田町字中田	高橋 庄次郎	17	'60	b	b	a	o	82	5	6	12	氏
5339. 14	魚津市福向町	藤島 善次郎	17	'58	a	a	o	o	86	5	8	0	
5339. 43	魚津市神町	長谷川 善十郎	17	'57	a	a	o	o	83	4	6	0	
5339. 74	中新川郡上町市南町	権倉 保盛	17	'57	b	b	a	o	96	5	9	0	
5347. 25	西砺波郡藤中町津沢町上町	十井 芳雄	17	'57	a	a	o	o	95	4	6	0	
5347. 96	東砺波郡城崎町城崎	宮田 助雄	17	'57	a	a	o	o	95	5	9	0	
5348. 24	越前郡藤中町外島寄	武田 利雄	17	'61	b	b	a	o	90	5	4	0	
5348. 35	越前郡八尾町内高森寺	富田 利雄	99	'57	a	a	o	o	92	1	6	48	氏
5348. 58	上新川郡大沢町野八木山	林 直次	17	'59	a	a	o	o	80	1	4	0	
5348. 60	東砺波郡在田町字通山	山本 善次郎	17	'63	e	e	b	b	82	1	8	0	
5349. 09	中新川郡上市町伊折	山本 金太郎	17	'64	e	e	b	b	89	1	3	24	氏
5349. 33	上新川郡大山町上滝	藤井 栄一	17	'51	b	b	a	o	90	5	8	0	
5349. 58	中新川郡立山町芦崎寺	佐伯 利一	17	'63	e	e	b	b	99	1	4	24	氏
5357. 42	西砺波郡福光町中ノ河内	大見 貞次郎	17	'63	e	e	b	b	99	1	4	0	
5357. 48	東砺波郡平村下郷	山本 善次郎	17	'60	b	b	a	o	92	4	8	0	
5358. 09	越前郡船入村片渡	平井 外二	17	'61	b	b	a	o	81	5	3	0	
5358. 33	越前郡八尾町庵谷	多田 秀忠	17	'62	c	e	b	b	94	1	2	4	0
5620. 30	下新川郡入善町入藤町	渋谷 由次郎	17	'64	e	e	b	b	99	1	9	24	氏
5620. 32	下新川郡朝日町道下	竹中 徳太郎	17	'57	a	a	o	o	88	1	11	36	氏
5620. 80	下新川郡宇奈月町浦山 石川 康	入 藤 彦一	99	'57	a	a	o	o	01	7	12	36	氏
4888. 98	茨城市房総町	山田 才太郎	17	'63	c	e	b	b	90	1	4	16	氏
4889. 83	茨城市泉郷町	牧野 内清太郎	17	'61	b	b	a	o	90	1	6	33	氏
4997. 66	福島県河井町新田町	福島 義信	17	'57	a	a	o	o	69	5	8	0	
4997. 72	福島県大沢町大字室楽町	藤沢 次安	17	'62	c	e	b	b	94	7	4	30	氏
4998. 33	福島県河井町南町田	三井 常太郎	17	'61	b	b	a	o	79	1	4	12	氏
4998. 39	茨城市立町字藤刺	三井 正信	17	'61	b	b	a	o	89	5	8	30	氏
4998. 74	茨城市立町字分芳原	小西 又右三門	17	'63	e	e	b	b	84	1	4	24	氏
4999. 31	茨城市北茨城町	竹森 善太郎	17	'61	b	b	a	o	94	8	30	氏	
5056. 68	茨城市門前町字御地	山本 善次郎	17	'64	e	e	b	b	89	1	4	0	
5057. 09	茨城市鹿嶋町字大田原	森田 祐治	17	'64	e	e	b	b	02	1	8	30	氏
5057. 20	茨城市門前町字門前	森田 祐治	17	'60	b	b	a	o	88	7	6	0	
5057. 66	茨城市大町字中木	長木 徳四郎	17	'60	b	b	a	o	82	7	7	0	
5058. 16	茨城市鹿嶋町字田津津	川口 力太郎	17	'60	b	b	a	o	94	3	4	24	氏
5058. 19	茨城市鹿嶋町字小本	山崎 榮吉	96	'57	a	a	o	o	95	3	8	0	
5058. 43	茨城市鹿嶋町字龍川	角 八郎	17	'61	b	b	a	o	95	1	3	4	0
5116. 19	羽咋郡高田町地町	渡谷 吉康	17	'57	a	a	o	o	88	5	8	36	氏
5116. 99	羽咋郡高田町福浦港	渡谷 富治	17	'62	e	e	b	b	03	1	8	24	氏
5117. 24	真島郡中島町字中島	磯 吉次	17	'59	a	a	o	o	84	5	4	24	氏
5117. 87	七尾市石崎町	綿島 平吉	17	'62	e	e	b	b	02	3	6	0	氏

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査期	調査年	調査票									
					第1部第2部第4部	A	B	C	D	E				
5117. 78	七尾市塩谷江町	石井 和三郎	17	'57	a	a	o	o	73	7	11	0		
5117. 90	羽咋郡高田町字高英	藤田 辰作	17	'60	b	b	a	o	89	5	9	0		
5118. 20	真島郡能登町字南田	芹藤 栄太郎	17	'59	a	a	o	o	194	1	4	0		
5118. 71	七尾市竜町	菅原 久松	17	'59	a	a	o	o	193	3	6	0		
5127. 15	真島郡西宮町字能登上	丹後 理一	17	'59	a	a	o	o	85	7	6	6		
5127. 61	羽咋市川原町	高田 豊吉	17	'58	a	a	o	o	09	7	9	0		
5127. 94	羽咋郡志志町字所原	久保 善雄	17	'64	e	e	b	b	96	1	6	6	氏	
5136. 29	羽咋郡志志町字免田	上野 清治	17	'64	e	e	b	b	93	1	8	0		
5136. 78	河北郡宇ノ須町宇野野	森 俊吉	17	'62	e	e	b	b	92	5	6	0		
5136. 99	河北郡津幡町字清水	宮一松 太郎	17	'57	a	a	o	o	93	1	7	0		
5146. 34	金沢市大野町4丁目	藤島 孝作	17	'63	e	e	b	b	99	4	6	0		
5146. 36	金沢市巴町	村上 孝作	17	'58	a	a	o	o	97	4	8	0		
5146. 68	石川郡松任町東ノ番丁	青木 又二郎	17	'58	a	a	o	o	89	4	7	0		
5155. 09	石川郡美川町字新町	藤田 辰作	17	'62	e	e	b	b	91	7	12	36	氏	
5155. 58	小松市上恩町	宇原 末次郎	17	'58	a	a	o	o	97	4	8	30	氏	
5155. 84	加賀市伊切町	元 吉久蔵	17	'63	e	e	b	b	94	1	0	24	氏	
5156. 25	石川郡能登町本町4丁目	太田 文二	17	'58	a	a	o	o	91	5	8	0		
5156. 84	石川郡越前村字羽宮	宮中 正磨	96	'57	a	a	o	o	96	1	2	24	氏	
5156. 12	江沼郡大聖寺町新郷町	菊 知一	17	'57	a	a	o	o	96	4	8	0		
5156. 19	小松市打木町	森 多 実	17	'63	e	e	b	b	91	1	2	4	0	
5156. 55	江沼郡山中町藤野町	松村 辰一	17	'59	a	a	o	o	88	4	8	0		
5156. 63	石川郡樋口村字渡二口	林 甚八	17	'64	e	e	b	b	96	2	6	0		
5156. 61	小松市丸山町	竹三郎 三郎	17	'64	e	e	b	b	09	1	6	24	氏	
5156. 95	石川郡白峰村白峰	山下 茂五郎	17	'57	a	a	o	o	83	5	8	33	氏	
		福 井 康												
5164. 76	坂井郡三國町下西	鳳 川 志 郎	18	'68	a	a	o	o	00	5	6	24	氏	
5164. 79	坂井郡金津町十日区	三 谷 登 郎	18	'62	e	e	b	b	00	5	8	0		
5174. 42	丹生郡国見村三木木長原	田中 林 助	18	'58	a	a	o	o	00	1	6	0		
5174. 68	福井市香山町	牧 勇 夫 郎	18	'62	e	e	b	b	00	5	8	0		
5174. 79	福井市板根町	木 村 謙 郎	18	'57	a	a	o	o	00	1	8	0		
5174. 84	丹生郡清水町大森	多田 仁 助	18	'64	e	e	b	b	91	1	4	12	氏	
5176. 00	坂井郡丸岡町字丁目	林 健 造 郎	18	'63	e	e	b	b	97	3	8	0		
5176. 35	吉田郡上志比村山王	鈴木 藤次郎	18	'58	a	a	o	o	90	4	8	0		
5176. 93	勝島郡山形村市夜	藤本 勘 治 郎	98	'57	a	a	o	o	84	1	0	25	氏	
5176. 60	福井市下元郷	松 井 忠 治 郎	18	'57	a	a	o	o	96	5	8	0		
5176. 96	大野市上打波中村	大 津 三 大 郎	18	'63	e	e	b	b	83	1	0	19	氏	
5184. 22	丹生郡藤田町藤田	鳥 谷 英 治 郎	18	'50	b	b	a	o	97	7	8	0		
5184. 37	越前町本町丁丁目	松田 沢次郎	18	'64	e	e	b	b	90	2	6	24	氏	
5184. 57	武生市村岡町	高木 祐右衛門	18	'57	a	a	o	o	91	1	12	12	氏	
5185. 09	大野市中西	佐藤 幸 助 郎	18	'57	a	a	o	o	92	1	8	3	氏	
5185. 63	今立郡田村輪南	佐 田 文 郎	18	'60	b	b	a	o	85	1	7	30	氏	
5186. 56	大野郡和良村市川	新井 小太郎	18	'61	b	b	a	o	82	1	8	26	氏	
5186. 70	大野郡西谷村中島	林 又右衛門	18	'61	b	b	a	o	99	0	24	12	氏	
5189. 02	南条郡野村河野	中村 吉右衛門	18	'64	e	e	b	b	95	5	8	60	氏	
5189. 37	南条郡今庄町今庄	三田 村 治 平	18	'60	b	b	a	o	86	1	8	0		

調査地点番 号	調査地点名	被調査者名	調査年	調査区	調査区									
					A	B	C	D	E					
5995. 05	今立原池田村内	斎藤 隆一	18	'62	c	e	b	b	97	1	6	0		
5995. 20	南条郡今庄町上温谷	伊藤 二太郎	18	'60	b	b	a	o	74	1	0	0		
6503. 66	三方郡三方町三方	島下 友之助	18	'59	a	a	o	o	96	5	0	26		
6503. 73	小浜市田島	森 左利之助	18	'64	c	e	b	b	84	4	5	10		
6504. 01	敦賀市藤川	岩山 正太郎	18	'57	a	a	o	o	101	1	6	0		
6504. 03	敦賀市神楽2丁目	岸 久五夫	18	'63	c	e	b	b	81	5	8	0		
6504. 44	敦賀市道分	水 勘三郎	18	'63	c	e	b	b	90	1	8	0		
6512. 02	大飯郡高浜町若吉	山口 将三郎	18	'59	a	a	o	o	88	5	8	0		
6512. 09	小浜市伏原	今 村 金 茂	18	'57	a	a	o	o	70	1	3	0		
6512. 14	大飯郡大飯町水郷	渡辺 翠一郎	97	'62	c	e	b	b	99	1	6	0		
6512. 67	遠敷郡名田庄村久坂	小野 定右衛門	98	'57	a	a	o	o	102	2	11	24		兵
6513. 24	遠敷郡上中町三宅	玉 井 敬 吉	18	'59	a	a	o	o	86	1	4	0		
6513. 51	小浜市上根桑	齋 田 市 之 丞	18	'62	c	e	b	b	101	1	6	0		
	山 梨 県													
5683. 77	北巨摩郡高根村長沢	小 沢 正 助	19	'60	b	b	a	o	87	1	4	26		
5693. 13	北巨摩郡白川町吉水沢	細 田 照 近	19	'60	b	b	a	o	92	1	4	3		兵
5693. 78	南城市本町	清水 水久郎	19	'58	a	a	o	o	96	1	6	0		
5694. 31	中巨摩郡敷島町上声沢	長 田 旭 郎	19	'60	b	b	a	o	91	1	6	0		
5694. 79	塩山市上於曾	清 岡 秀 雄	19	'58	a	a	o	o	93	1	8	11		
5694. 82	甲府市和田町	水 田 湧 吉	19	'57	a	a	o	o	99	1	6	0		
5695. 10	東山梨郡三富村川浦字天科	岡 崎 文 重	19	'64	c	e	b	b	103	1	2	4		兵
5695. 47	北郡留那小菅村川田	青 野 敏 夫	99	'58	a	a	o	o	92	1	6	0		
5695. 61	塩山市小田原	宇 塚 学 之	19	'61	b	b	a	a	97	1	6	0		
6603. 08	中巨摩郡白根町百々	清水 卓 平	19	'57	a	a	o	o	88	1	0	3		兵
6603. 24	中巨摩郡芦安村吉田	深 沢 武 夫	19	'63	c	e	b	b	95	2	4	26		兵
6603. 32	南巨摩郡早川町奈良田	深 沢 武 夫	19	'58	a	a	o	o	81	1	4	28		兵
6603. 82	南巨摩郡早川町上藤島	深 沢 和 平	19	'62	c	e	b	b	89	3	4	6		
6604. 15	甲府市桑町	矢 花 精 三	19	'62	c	e	b	b	88	1	6	0		
6604. 38	東入代郡御坂町上里崎	松 岡 潤 三	19	'61	b	b	a	a	86	1	4	0		
6604. 60	西入代郡市川大門町	村 松 豊 吾	19	'58	a	a	o	o	99	5	0	20		兵
6604. 99	南都留郡足和田村西郷	朝 比 赤 子	19	'64	c	e	b	b	96	1	3	0		
6605. 37	大月市上町	南 川 市 朗	19	'59	a	a	o	o	82	4	0	0		
6605. 54	都留市奥留	伊 藤 茂 雄	19	'57	a	a	o	o	89	1	4	0		
6606. 35	北都留郡上野原町新藪	片 伊 木 源 吉	49	'58	a	a	o	o	89	1	4	0		
6613. 07	南巨摩郡上宮町藤	空 井 茂 男	19	'58	a	a	o	o	102	1	6	12		
6613. 54	南巨摩郡早川町藤袋	水 野 善 男	99	'58	a	a	o	o	97	1	6	0		
6613. 72	南巨摩郡身延町身延	遠 藤 文 三	19	'58	a	a	o	o	83	5	6	24		
6613. 97	南巨摩郡身延町又下	千 塚 和 忠	96	'66	c	e	b	b	103	1	6	0		
6614. 04	西入代郡上九一色村精進	小 林 国 忠	19	'61	b	b	a	a	93	1	4	0		
6615. 02	富士吉田市磯間町	堀 内 内 匠	19	'59	a	a	o	o	96	1	8	0		
6615. 09	南都留郡志茂村津ノ木	池 谷 壽 博	19	'63	c	e	b	b	102	1	4	0		
6623. 28	南巨摩郡南都留町南都	若 林 敏 雄	19	'59	a	a	o	o	101	1	8	0		

調査地点番 号	調査地点名	被調査者名	調査年	調査区	調査区									
					A	B	C	D	E					
5623. 27	奥野 郷	斎 藤 善 作	96	'58	a	a	o	o	85	1	8	26		
5623. 85	飯山市木島野原田	武 田 英 彦	20	'57	a	a	o	o	97	1	8	0		
5624. 85	下水内郡栄村小沢沢	福 原 康 吉	96	'58	a	a	o	o	78	1	4	0		
5631. 16	北安曇郡小谷村油原	田 原 康 栄	20	'61	b	b	a	o	95	1	8	20		
5631. 26	北安曇郡小谷村下ノ瀬	北 村 信 雄	20	'62	b	b	a	a	97	1	7	25		
5631. 75	北安曇郡白馬村北越塚島	堀 島 健 太郎	20	'64	c	e	b	a	98	1	8	24		兵
5632. 28	水上内郡御嶽町吉備	栗 井 貞 治	20	'58	a	a	o	o	101	1	8	15		兵
5632. 83	水上内郡平陽村新橋	今 井 栄 治 郎	20	'57	a	a	o	o	102	1	8	0		
5633. 45	中野市和田	竹 内 幸 好	20	'59	a	a	o	o	96	1	8	29		兵
5633. 81	水上内郡登野町登野伊豆毛	高 川 英 治	20	'59	a	a	o	o	101	1	8	0		
5633. 96	高山郡高山村深久保	伊 藤 英 彦	20	'63	c	e	b	b	93	1	4	3		兵
5641. 07	水上内郡小川村神山区	宇 沢 善 吉	20	'55	c	e	b	b	99	1	9	0		
5641. 13	北安曇郡白馬村神城沢渡	宇 沢 善 吉	20	'57	a	a	o	o	98	1	8	24		兵
5641. 73	大町市大字平字奈	横 渡 代 英	96	'62	b	b	a	a	89	1	8	0		
5641. 94	大町市大字大町高見町	横 渡 民 弥	20	'64	c	e	b	b	101	1	11	32		
5641. 99	更紗郡大沢村字宮平	寺 寺 金 吉	98	'62	c	e	b	a	94	1	8	24		
5642. 17	長野市東條町	守 寺 忠 吉	20	'60	a	a	o	o	90	6	10	0		
5642. 31	水上内郡中条村中条	上 条 喜 次 雄	20	'63	a	a	o	o	96	1	9	0		
5642. 67	埴科郡松代町榎野町	水 野 英 典	20	'60	c	e	b	b	96	1	12	0		
5643. 33	上高井郡東村大字仁礼岡谷	田 中 武 重	20	'59	a	a	o	o	99	1	8	24		兵
5651. 45	北安曇郡油田町	松 田 政 司	20	'61	b	b	a	o	86	7	6	0		
5651. 95	南安曇郡藤島町	東 条 兼 雄	20	'63	c	e	b	b	99	5	10	0		
5652. 06	埴科郡戸倉町今井	見 玉 元 男	20	'59	a	a	o	o	103	1	8	0		
5652. 22	東筑摩郡埴科村本町	井 上 龍 二	20	'60	a	a	o	o	89	1	8	24		兵
5652. 37	埴科郡辰城町中之条	油 田 善 助	20	'63	c	e	b	b	88	1	6	24		兵
5652. 81	東筑摩郡四賀村中川磯川	野 村 耕 之 進	20	'64	c	e	b	b	87	1	4	0		
5652. 96	小県郡塩田町大字羽所日影	竹 内 清 一郎	20	'59	a	a	o	o	89	1	8	24		兵
5653. 42	小県郡本原村火畑	福 沢 善 作	20	'57	a	a	o	o	92	1	8	0		
5653. 60	上田市天神町	宮 武 忠 夫	20	'63	c	e	b	b	100	1	8	0		
5653. 65	小県郡藤原町藤原	橋 原 正 通	20	'63	c	e	b	b	100	1	8	24		兵
5654. 94	北佐久郡軽井沢町長倉	北 佐 久 保 正 通	12	'61	b	b	a	o	101	1	8	0		
5661. 34	南安曇郡嶋倉村田多井	石 花 新 雄	20	'60	a	a	o	o	97	1	8	0		
5661. 48	松本市幅上町	坂 本 伸 茂	20	'64	c	e	b	b	104	5	8	0		
5661. 89	松本市南区百瀬	坂 本 隆 三	20	'57	a	a	o	o	99	1	8	24		兵
5662. 78	小県郡厚田村	小 合 武 英 作	20	'60	a	a	o	o	95	1	7	15		
5662. 01	小県郡丸子町上丸子	小 林 重 雄	20	'60	a	a	o	o	86	1	8	0		
5662. 09	北佐久郡御代田町地野	内 藤 仁 昭	20	'57	a	a	o	o	94	1	8	0		
5662. 64	北佐久郡夏目町春日地端	竹 花 友 一郎	20	'63	c	e	b	b	89	1	6	0		
5662. 68	佐久市大字原	飯 島 吉 武 善	20	'63	c	e	b	b	102	1	8	0		
5664. 51	北佐久郡東村大字志賀本郷	横 江 浩 吉	20	'60	a	a	o	o	101	1	8	0		
5670. 47	南安曇郡赤川村古宮	忠 田 大 七	20	'59	a	a	o	o	101	1	4	0		
5671. 00	南安曇郡安曇村龍法	龍 田 清 吉	20	'64	c	e	b	b	101	1	6	0		
5671. 36	東筑摩郡洗馬村戸ノ田	古 牧 賢 一	20	'59	a	a	o	o	96	1	8	24		兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査年 第1部2部3部4部	調査 票 区										
				A	B	C	D	E						
5571. 38	地民市地民町	国 武 清	20	'62	c	e	b	b	02	1	0	0	0	0
5571. 48	福島市北小野字古町	福 沢 潤 夫	'64	'62	b	b	a	a	02	1	0	36	0	0
5571. 94	西沢摩耶橋村貫川	田 太 田 善 雄	'60	'64	c	e	b	b	87	1	2	6	0	0
5572. 02	調査市小井川	大 宮 夏 茂	'60	'64	a	a	o	o	02	14	8	24	0	0
5572. 67	茅野市地原	藤 原 重 三	'60	'65	c	e	b	b	92	1	8	0	0	0
5572. 75	美訪市上美訪原町	宮 坂 一郎	'60	'60	a	a	o	o	90	5	12	0	0	0
5572. 78	南佐久那南牧村海尻	井 出 武 雄	'60	'61	b	b	a	a	95	1	8	3	兵	3
5573. 11	南佐久那佐久日大日向平川原	久 田 忠 雄	'60	'61	b	b	a	a	95	1	6	0	0	0
5574. 54	南佐久那北相木村白岩	山 口 好 平	'60	'65	c	e	b	b	02	1	2	6	0	0
5580. 24	西沢摩耶岡田村西野入江	小 林 光 治	'96	'58	a	a	o	o	95	1	4	0	0	0
5680. 98	西沢摩耶福島町下町	小 川 倉 新 入	'20	'58	a	a	o	o	92	5	8	0	0	0
5681. 41	西沢摩耶木祖村飯原	牛 久 津 吉	'30	'59	a	a	o	o	96	15	8	0	0	0
5681. 47	上伊那郡箕輪町上古田	大 槻 寛 一 郎	'20	'61	b	b	a	a	93	1	8	0	0	0
5682. 24	上伊那郡高遠町藤沢片倉	守 屋 吉 内	'20	'65	c	e	b	b	86	1	4	0	0	0
5682. 27	茅野市金武大沢	矢 島 正 毅	'60	'60	a	a	o	o	99	1	8	0	0	0
5682. 92	上伊那郡高遠町	山 田 忠 義	'20	'62	b	b	a	a	01	4	8	0	0	0
5683. 61	諏訪郡富士見町高森	小 林 隆 之 進	19	'61	b	b	a	a	83	1	4	0	0	0
5684. 11	南佐久那川上村御所平	山 井 益 雄	'20	'65	c	e	b	b	98	1	2	4	0	0
5684. 26	南佐久那川上村梓山	岡 与 重	'20	'61	b	b	a	a	02	1	6	24	0	0
5690. 12	西沢摩耶玉滝村下条	小 谷 純 治	'20	'64	c	e	b	b	87	1	6	24	0	0
5690. 27	西沢摩耶上松町本町	松 島 純 治	'20	'58	a	a	o	o	89	8	8	0	0	0
5690. 96	西沢摩耶大桑村鹿野ノ尖	柳 敦 平 平	'20	'57	a	a	o	o	87	1	8	0	0	0
5691. 27	上伊那郡西平沢村藤形赤木	野 澤 清 雄	'20	'57	a	a	o	o	91	1	8	24	兵	兵
5692. 53	上伊那郡長谷村青森	野 下 九 裕	'20	'62	b	b	a	a	99	2	6	0	0	0
6000. 53	西沢摩耶南未町栗葉	倉 嶋 隆 一	'20	'61	b	b	a	a	94	1	7	0	0	0
6000. 97	下伊那郡清内路村上清内路	藤 重 三	'20	'65	c	e	b	b	87	1	6	12	兵	兵
6001. 25	下伊那郡松川町上片桐上町	牛 久 保 幸 一	'20	'62	b	b	a	a	01	1	7	0	0	0
6001. 93	飯田市銀座	高 橋 英 雄	'20	'62	b	b	a	a	99	5	6	9	0	0
6002. 62	下伊那郡大鹿村大河原上車輪	岡 高 橋 英 雄	'20	'62	b	b	a	a	01	1	6	24	兵	兵
6010. 77	下伊那郡融合村中下町	近 藤 盛 治	'96	'58	a	a	o	o	93	7	6	24	兵	兵
6011. 61	下伊那郡下条村大字総武字親田	岩 倉 正 一	'20	'62	b	b	a	a	03	1	8	0	0	0
6011. 68	下伊那郡上村上町	山 崎 義 之 助	'20	'62	b	b	a	a	95	1	6	24	兵	兵
6020. 49	下伊那郡阿南町新野須洞	村 松 直 太郎	'20	'65	c	e	b	b	93	1	6	24	兵	兵
6020. 53	下伊那郡根羽村田島	原 正 一 雄	'20	'62	b	b	a	a	98	1	4	0	0	0
6021. 34	下伊那郡天竜村大字平岡満島	遠 山 正 一	'20	'57	a	a	o	o	92	1	6	24	兵	兵
5587. 85	大野郡白川村字小白川	飯 波 美 彌	17	'63	c	e	b	b	95	1	5	2	0	0
5588. 67	吉城郡吉川村字戸吉	山 口 芳 松	17	'59	a	a	o	o	85	2	4	0	0	0
5589. 61	吉城郡神岡町土	洞 泉 与 三 十 郎	21	'57	a	a	o	o	89	2	24	兵	兵	兵
5587. 46	大野郡白川村大字萩町字下ノヅ	黒 木 貞 久	21	'62	b	b	a	a	97	1	8	0	0	0
5588. 22	吉城郡河合村羽根	井 平 良 雄	21	'60	c	e	b	b	99	1	8	0	0	0
5588. 57	吉城郡吉川町中気多	荒 木 吉 兵 衛	21	'57	a	a	o	o	95	1	6	0	0	0
5588. 92	大野郡清見村油木	野 井 光 泉	21	'63	c	e	b	b	91	2	4	0	0	0
5589. 02	吉城郡神岡町津	美 登 秀 三 郎	21	'63	c	e	b	b	92	7	6	0	0	0
5589. 36	吉城郡上宝村大字長倉	石 山 正 一	21	'61	b	b	a	a	02	1	2	6	30	兵

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査年 第1部2部3部4部	調査 票 区										
				A	B	C	D	E						
5569. 99	大野郡洋生川村久手	村 上 伊 三 郎	99	'57	a	a	o	o	88	1	4	24	兵	兵
5577. 06	大野郡白川村藤原	大 塚 清 二 郎	21	'64	c	e	b	b	86	1	0	0	0	0
5577. 88	大野郡洋川村新淵	山 下 潤	21	'57	a	a	o	o	01	1	4	0	0	0
5578. 27	大野郡清見村大字牧ノ洞字徳野	中 田 常 造	21	'59	a	a	o	o	92	1	4	6	兵	兵
5579. 10	高山市在田町	橋 本 高 造	21	'59	a	a	o	o	85	4	4	0	0	0
5579. 42	大野郡久々野村小字小屋名	岩 本 作 良	98	'62	c	e	b	b	98	1	0	12	0	0
5579. 79	大野郡高根村上ノ洞	中 田 吉 憲	21	'61	b	b	a	a	03	5	6	27	兵	兵
5587. 74	郡上郡白鳥町為真	青 田 平 造	21	'62	b	b	a	a	98	1	4	0	0	0
5588. 02	大野郡深沢村松谷	吉 川 友 之 助	21	'64	c	e	b	b	01	2	2	18	兵	兵
5588. 78	益田郡森町森原	今 井 明 治	21	'59	a	a	o	o	93	1	8	24	兵	兵
5588. 81	郡上郡那方村二圃平	堀 越 栄 一	99	'57	a	a	o	o	93	1	8	0	0	0
5589. 30	益田郡小坂町大島	菅 井 仁 太 郎	21	'57	a	a	o	o	89	1	6	0	0	0
5589. 69	揖斐郡地山村本郷	北 村 公 造	21	'60	b	b	a	a	91	7	4	22	兵	兵
5589. 26	郡上郡大田村河辺	岩 谷 隆 三	21	'64	c	e	b	b	96	1	4	0	0	0
5597. 78	郡上郡八幡町相生町門原	武 藤 長 四 郎	21	'57	a	a	o	o	90	1	4	24	兵	兵
5598. 53	郡上郡和直村大字沢	大 沢 潤 一	21	'62	b	b	a	a	01	1	8	0	0	0
5598. 67	益田郡下呂町蔵戸	緒 江 慶 次 郎	21	'60	b	b	a	a	01	1	5	0	0	0
5599. 41	益田郡下呂町宮地	今 井 清 次 郎	21	'59	a	a	o	o	99	5	9	18	兵	兵
5599. 75	志那郡加子母村上桑原	林 武 男	21	'59	a	a	o	o	90	1	8	0	0	0
6005. 58	揖斐郡藤原村東山郷	岸 幸 之 助	21	'62	b	b	a	a	01	1	2	4	0	0
6005. 63	木曜郡根尾村大字長尾	久 田 幸 造	21	'62	c	e	b	b	99	1	6	0	0	0
6006. 55	木曜郡本基村日当	國 井 昭 基	21	'57	a	a	o	o	91	2	6	24	兵	兵
6006. 86	揖斐郡谷汲村上長尾	長 尾 秀 一	96	'62	b	b	a	a	95	1	8	0	0	0
6007. 13	武蔵郡戸沢村大字奥戸字高敷	武 蔵 吉 三 郎	21	'61	b	b	a	a	82	1	3	24	兵	兵
6007. 48	美濃市下河和	佐 藤 林 一	21	'61	b	b	a	a	02	1	5	0	0	0
6007. 72	山縣郡美山村岩住	山 本 貫 一	21	'63	c	e	b	b	81	5	8	24	兵	兵
6007. 79	武蔵郡武蔵村下之保字上野	森 又 次 郎	21	'61	b	b	a	a	77	1	0	3	0	0
6008. 06	益田郡金山町本町	杉 田 忠 二	21	'62	c	e	b	b	95	6	6	0	0	0
6008. 24	加茂郡白川町西東区野原	田 口 茂 七	21	'66	b	b	a	a	94	1	5	0	0	0
6008. 74	加茂郡七赤村上藤生本郷	今 川 清 平	21	'64	c	e	b	b	99	1	6	0	0	0
6009. 38	郡那郡藤原村田原	田 口 守 一	21	'57	a	a	o	o	03	1	9	8	兵	兵
6009. 43	加茂郡白川町高川大字中之平	中 田 吉 憲	21	'59	a	a	o	o	92	7	12	30	兵	兵
6009. 91	郡那郡中野村大字勢井後	新 藤 隆 男	21	'64	c	e	b	b	99	1	4	0	0	0
6016. 10	揖斐郡春日村大字小字郷	新 藤 隆 男	21	'63	c	e	b	b	96	1	6	0	0	0
6016. 15	揖斐郡大野町西方	牧 村 義 雄	21	'58	a	a	o	o	91	1	0	0	0	0
6016. 85	大田市越沢町	堀 田 武 彦	21	'63	c	e	b	b	93	7	8	24	兵	兵
6017. 31	岐阜市越良天神	正 木 清 作	21	'58	a	a	o	o	94	7	12	6	兵	兵
6017. 50	岐阜市安良寺町1丁目	野 村 基 次 郎	21	'62	c	e	b	b	94	1	4	0	0	0
6017. 65	岐阜郡輪田町三ツ池	石 島 角 治 郎	21	'57	a	a	o	o	94	1	3	0	0	0
6017. 72	羽島郡松笠町新町	伴 清 之	21	'62	c	e	b	b	89	4	0	0	0	0
6018. 15	加茂郡八宮町町旭町	佐 藤 宏 太 郎	21	'61	b	b	a	a	89	1	7	26	兵	兵
6018. 30	美濃郡加茂市下田町	則 竹 敏 夫	21	'58	a	a	o	o	93	7	11	0	0	0
6018. 87	土岐市本郷町	鈴木 友 次 郎	21	'58	a	a	o	o	98	1	8	0	0	0
6019. 43	恵那市武蔵町大字竹原小字上野	永 井 高	21	'58	a	a	o	o	96	1	8	0	0	0
6019. 67	恵那郡野村町大字飯野小字分根	高 橋 清 四 郎	21	'58	a	a	o	o	92	1	8	0	0	0

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票						
					A	B	C	D	E		
6526.04	大田市入方町	名和 真一	21	'57	a	a	o	00	5	8	0
6526.05	福山市竹森町上郷	加藤 善吉	21	'52	c	e	b	b	97	5	4
6526.05	海津郡平田町隈田町	根原 宗三郎	21	'57	a	a	o	91	1	6	8
6526.06	多治見市生田町	山田 謙雄	23	'59	a	a	o	96	4	8	0
6529.15	恵那郡明新町市場町	松原 利一	21	'57	a	a	o	96	5	4	0
6510.00	中津川市津川子野	佐藤 三郎	21	'59	a	a	o	91	1	8	0
6520.30	恵那郡上久作町本郷	山内 勝	21	'52	c	e	b	b	90	5	8
6621.57	磐田郡水信町奥栗家針間野	中万吉	22	'54	c	e	b	86	1	4	0
6621.94	磐田郡水信町長尾	森山今朝市	22	'50	b	b	a	96	2	5	0
6622.69	安宿郡井田村井田下島	荒尾 常作	99	'58	a	a	o	73	1	3	0
6623.53	安宿郡柳ヶ島村柳ヶ島	秋本 弘	22	'50	b	b	a	91	1	4	0
6624.13	富士郡白糸村原	渡辺 一郎	23	'57	a	a	o	97	1	4	24
6624.65	富士市阿草池	望月 源一	22	'51	b	b	a	04	11	36	兵
6625.17	海津郡市西山中	岸次 信雄	22	'57	a	a	o	97	1	6	0
6625.66	海津郡市神山小学尻尻	藤田 圭一	22	'50	b	b	a	96	1	6	0
6631.05	磐田郡水信町向島	片桐 賢治	99	'58	a	a	o	68	1	4	0
6631.53	磐田郡佐久間町山内地区落井	引水 賢次郎	22	'54	c	e	b	b	96	5	7
6631.60	磐田郡佐久間町浦川	大友 謙	22	'57	a	a	o	020	5	8	12
6631.69	海津郡赤野町小原丸	森 友次郎	22	'53	c	e	b	b	03	1	6
6632.15	海津郡木川町駒奥農	小野田勝造	99	'58	a	a	o	77	9	6	0
6632.64	海津郡木川町御田野口	中村 耕造	96	'56	c	e	b	b	03	1	8
6633.27	清水市清沢村中村	森 王 晋	22	'53	b	b	o	97	2	6	0
6633.27	清水市高岡内河内	木 月 実	22	'53	c	e	b	b	07	1	7
6633.33	安本 茂吉	秋本 茂吉	22	'58	a	a	o	93	1	8	0
6633.89	清水市上井	渡邊 茂村	22	'58	a	a	o	02	1	8	24
6634.07	吉敷市伝法	池野 芳春	22	'51	b	b	a	89	1	24	兵
6634.32	海津郡山北町	望月 善之助	22	'58	a	a	o	00	1	8	0
6634.33	海津郡海原町神沢	海野 平太郎	22	'53	c	e	b	00	1	8	0
6635.20	海津郡原町植田	大草 幸作	22	'54	c	e	b	92	3	7	24
6635.36	三島市三島	木村 茂	22	'53	c	e	b	04	5	14	0
6635.44	沼津市八幡町	菊池 泰作	22	'54	c	e	b	99	1	8	24
6635.54	沼津市下善貫	梅谷 泰次郎	22	'58	a	a	o	02	1	8	24
6625.87	田方郡伊豆長岡町温泉郷3丁目	渡辺 謙平	22	'57	a	a	o	54	5	4	0
6626.62	熱海市上多賀	海野 和 一	22	'59	a	a	o	96	1	8	0
6640.29	天竜市瀬字大地野	酒井 柁吉	23	'64	c	e	b	94	5	6	12
6640.76	引佐郡引佐町東馬田	田中 亮介	23	'51	b	b	a	96	1	6	0
6641.39	周智郡森町三合大内内	山田 万芳	22	'63	c	e	b	98	2	8	12
6641.43	天竜市横山町小川	若田 睦治	22	'60	b	b	a	00	2	8	0
6641.82	天竜市二俣町横町	鈴木 広文	22	'50	b	b	a	01	5	8	0
6641.97	周智郡森町	西 金 平	22	'58	a	a	o	97	1	8	0
6642.33	海津郡川根町富山	藤村 保作	22	'51	b	b	a	95	1	8	24
6642.58	海津市瀬戸谷中田	西村 春元	22	'57	a	a	o	98	1	8	0
6642.85	島田市上伊太	北川 祝 男	96	'55	c	e	b	94	2	8	36
6643.15	海津市森町	佐 武 次郎	22	'53	c	e	b	09	5	6	0

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票						
					A	B	C	D	E		
6643.16	海津市由命	橋田 林 蔵	22	'57	a	a	o	01	1	7	0
6643.72	海津市大村新田	森川 新造	22	'58	a	a	o	01	1	8	0
6645.01	田方郡田井村井田	天野 英吉	22	'55	c	e	b	09	1	8	20
6645.37	田方郡中野村太神木小学下神木	仁 榮 策	22	'59	a	a	o	02	1	8	0
6645.62	田方郡土肥町土肥	藤山 伊 一	22	'50	b	b	a	95	5	7	0
6646.23	伊東市糠田	渡口 信次郎	22	'59	a	a	o	92	1	8	0
6646.74	伊東市八幡野	山下 正 一	22	'59	a	a	o	02	3	8	0
6650.12	引佐郡三日月町三分日	北島 敏吉郎	23	'52	c	e	b	97	1	8	6
6650.70	浜名郡西郡町津津	松野 喜博次	22	'60	b	b	a	91	1	8	24
6650.79	浜名郡中島町	吉川 伊 三	22	'58	a	a	o	98	5	8	0
6650.94	浜名郡旗本町仲町	寺谷 昌 三	22	'62	c	e	b	80	3	4	36
6651.32	浜松市笠井町	川島 光治郎	22	'60	b	b	a	91	5	8	0
6651.64	磐田市見村町南町	鈴木 正 吉	22	'62	c	e	b	02	5	9	0
6652.06	島田市磯井町	橋本 太 一	22	'58	a	a	o	96	1	8	24
6652.30	浜州市下俣	持田 良 一	22	'57	a	a	o	00	1	4	0
6652.77	海津郡相良町中西	中山 清次郎	22	'51	b	b	a	94	1	6	0
6653.30	海津郡吉田町片岡	高 謙 一	22	'51	b	b	a	94	1	8	24
6655.39	海津郡河津町小鎮	土屋 山 藏	22	'62	c	e	b	91	2	8	0
6655.51	海津郡松崎町松崎	渡辺 勘 助	22	'59	a	a	o	93	1	4	0
6655.87	海津郡下田町	村山 正 平	22	'59	a	a	o	91	1	8	0
6655.97	海津郡下田町3丁目	井平 幸次郎	22	'52	c	e	b	99	5	8	0
6656.31	海津郡取取町西町	通 賢 三 南 門	22	'59	a	a	o	92	3	8	0
6661.02	磐田郡電津町駒崎	田村 忠 次郎	22	'50	b	b	a	97	1	4	30
6662.01	小笠郡大浜町沢野	熊 切 善 吉	22	'51	b	b	a	97	1	8	0
6662.38	海津郡御前崎町大石	増 田 善 一	22	'51	b	b	a	96	5	5	0
6665.01	海津郡伊豆町奥良	村田 寿太郎	22	'52	c	e	b	96	3	8	24
6665.25	海津郡伊豆町下流	山 方 吉 一	22	'59	a	a	o	99	3	8	24
6517.77	大田市大字大山	豊 谷 川 惣 一	21	'54	c	e	b	97	9	6	0
6526.99	津島市下新田町	坪 内 保 一	21	'51	b	b	a	00	7	12	兵
6527.22	一宮市本町8丁目	中 尾 清 夫	23	'59	a	a	o	00	5	13	0
6527.44	西條市井原西春村植通	河 村 泰 一	23	'57	a	a	o	96	1	8	0
6527.73	西條市井原津村	山 田 清 一	23	'62	c	e	b	98	1	6	0
6528.21	春日市井原下町	長谷 川 次 三	23	'59	a	a	o	98	1	8	24
6528.64	瀬戸市前田町	寺 尾 元 仲 次	23	'57	a	a	o	96	5	8	0
6529.63	西加茂郡小原村大字平畑	山 田 良 雄 三	23	'51	b	b	a	94	2	9	0
6529.88	北加茂郡御武町大字小田木	後 藤 善 雄	23	'64	c	e	b	03	9	9	18
6536.39	名古屋郡赤島町	若 山 包 一	55	'60	b	b	a	94	7	8	24
6537.06	名古屋市中区南伊勢町	大 塚 春 長 三	59	'59	a	a	o	94	5	12	12
6537.21	海都郡豊江町	高 坂 吉 三	23	'58	a	a	o	03	1	8	24
6537.58	名古屋市緑区瑞穂町字三皿	加 藤 義 三	23	'63	c	e	b	00	1	11	12
6538.02	愛知郡日進町大字北新田	播 吉 沖 一	23	'62	c	e	b	01	1	6	24
6538.46	豊田市長瀬井町	佐 野 真 七 松	23	'59	a	a	o	92	1	4	0
6539.12	東加茂郡足助町大字足助字石橋	小 山 松 太郎	23	'57	a	a	o	92	5	8	0
6539.60	東加茂郡松平町大津	中 泉 精 一 郎	96	'55	c	e	b	80	5	8	36

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査年 第1期2第3期4	調査票										
				A	B	C	D	E						
6539. 78	南設楽郡作手村大字菅沼字落合	竹 中 造	23	'63	c	c	b	b	47	1	4	0		
6547. 09	刈香市八幡町	河 内 重 吉	23	'65	c	c	b	b	04	7	13	12	兵	
6547. 24	知多郡知多町舞田字小石山	河 原 重 吉	23	'57	a	a	a	a	0	96	1	4	36	兵
6547. 67	1 平田市吉野町	柳 原 重 吉	23	'58	a	a	a	a	0	89	5	6	0	
6547. 79	2 若南市宇栗山	三 川 利 一	23	'64	c	c	b	b	00	27	11	0	0	
6548. 02	碧海郡知立町字田畑西屋敷	坂 田 一 吉	23	'57	a	a	a	a	0	03	1	6	0	
6548. 26	岡崎市康生通東1丁目	松 井 弘 吉	23	'61	b	b	a	a	50	8	11	36	兵	
6548. 82	西尾市鶴城町	山 内 正 義	23	'57	a	a	a	a	0	99	1	6	0	
6549. 03	額田郡額田町大字板形字字岩	鈴木 栄 三郎	23	'61	b	b	a	a	84	1	2	0	0	
6549. 60	岡崎市木宮町字広畑	香 村 治 助	23	'58	a	a	a	a	0	86	1	8	0	
6549. 69	南設楽郡新城町	川 合 慶 三	23	'58	a	a	a	a	0	97	4	6	0	
6557. 14	常滑市大字坂井字窪田	永 田 兵 吉	23	'60	b	b	a	a	0	0	1	6	0	
6557. 36	知多郡美浓町河和	久 保 康 吉	99	'57	a	a	a	a	0	84	1	4	0	
6557. 54	知多郡南知多町大字内海中前田	大 岩 初 蔵	23	'62	c	c	b	b	99	1	6	0	0	
6557. 77	知多郡豊浜町大字豊浜字高伏谷	廣 田 栄 太郎	23	'60	b	b	a	a	84	3	2	0	0	
6558. 09	深志郡深志町本町	宮 田 権 作	23	'63	c	c	b	b	86	3	8	0	0	
6558. 10	幡豆郡一色町大字赤羽下郷中	三 矢 恒 三	23	'58	a	a	a	a	0	98	1	8	12	
6558. 37	宝塚郡西郷町字南ヶ坪	丸 山 金 作	23	'60	b	b	a	a	0	87	3	7	0	
6559. 22	宝塚郡御津町大字舞野	石 燕 寿 一	23	'57	a	a	a	a	94	1	3	9	24	兵
6559. 67	1 豊浦市五町字蓮井	丸 地 清 次	23	'62	c	c	b	b	85	5	12	0	0	
6559. 67	2 豊浦市大岩町字東堀内	野 口 英 智 治	23	'60	b	b	a	a	99	1	8	0	0	
6568. 09	1 渚美郡田原町大字大久保字山下	中 神 栄 三郎	23	'57	a	a	a	a	0	02	1	6	6	兵
6568. 13	2 渚美郡渚美町大字中山字北郷	川 口 秀 七	23	'61	b	b	a	a	84	1	8	6	兵	
6568. 13	渚美郡田原町大字大浦四谷	西 山 隆 盛	96	'62	c	c	b	b	01	1	8	0	0	
6569. 12	北設楽郡豊原町大字中山字川角	金 田 栄 吉	23	'57	a	a	a	a	94	7	2	0	0	
6569. 12	北設楽郡豊原町大字大野字南万巻	竹 下 謙 三	23	'60	b	b	a	a	99	5	12	0	0	
6569. 82	南設楽郡鳳来町南老人野	井 下 到 三郎	99	'57	a	a	a	a	0	86	1	8	0	
6640. 34	南設楽郡鳳来町大字大野 三 重 溝	鈴木 嘉 市	23	'61	b	b	a	a	99	1	8	0	0	
6536. 00	員外郡北勢町勢木	佐 藤 保 一	56	'63	c	c	b	b	90	1	8	0	0	
6536. 32	員外郡員外町勢原	近 藤 民 一	47	'59	a	a	a	a	0	91	1	6	0	
6536. 68	桑名市外堀	伊 藤 吉 三郎	47	'58	a	a	a	a	0	00	8	30	0	
6545. 19	四日市市水沢町	清水 茂 三郎	56	'61	b	b	a	a	88	1	7	0	0	
6545. 64	鈴鹿郡岡町大字坂下	柏 木 喜 一郎	56	'65	c	c	b	b	02	1	8	0	0	
6545. 88	龜山市西町	野 岡 重 五郎	47	'59	a	a	a	a	0	85	5	8	36	兵
6546. 15	四日市市	保 位 保 一	47	'57	a	a	a	a	0	03	5	8	0	
6546. 73	鈴鹿市神戸本多町	武 井 健 一	47	'58	a	a	a	a	0	95	7	8	0	
6554. 03	阿山郡春日村新堂	中 川 忠 之	47	'57	a	a	a	a	0	99	1	6	0	
6554. 05	1 上野市安宕町	山 本 二 郎	47	'59	a	a	a	a	0	97	8	12	35	兵
6554. 05	2 名賀郡青山町勝地	水 井 口 健 五	56	'65	c	c	b	b	93	1	8	0	0	
6554. 31	阿山郡大山田村上河渡	川 瀬 清 一	56	'61	b	b	a	a	94	1	8	0	0	
6554. 65	安曇郡雲里村足坂	尾 崎 七 郎	47	'59	a	a	a	a	0	92	1	7	0	
6556. 03	鈴鹿市江島町	武 井 利 雄	56	'62	c	c	b	b	01	5	8	6	0	
6556. 60	津市板橋2丁目	坂 廣 吉 兵衛	24	'57	a	a	a	a	0	88	3	8	0	
6564. 33	名張市中町	松 本 喜 一	29	'58	a	a	a	a	0	97	3	8	0	

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査年 第1期2第3期4	調査票										
				A	B	C	D	E						
6565. 09	1 志那郡八咫町本定	北 出 有 多 郎	47	'59	a	a	a	a	0	05	1	8	35	兵
6565. 17	2 志那郡一志町川合	田 上 秀 男	47	'59	a	a	a	a	0	84	1	11	60	兵
6565. 22	1 志那郡山内南家城	松 井 忠 治 彦	47	'57	a	a	a	a	0	77	1	6	0	
6565. 56	1 志那郡野町天下	佐 田 才 松	56	'65	c	c	b	b	91	1	2	8	6	兵
6565. 90	1 志那郡杉村津渡	坂 本 義 藏	55	'65	c	c	b	b	00	1	4	0	0	
6566. 51	1 松原市日野町	松 原 幸 之 助	47	'58	a	a	a	a	0	91	1	6	0	0
6566. 89	伊勢市大湊町	原 本 甚 作	55	'60	c	c	b	b	96	3	6	0	0	
6567. 79	鳥羽市待島町	山 本 松 吉	98	'61	b	b	a	a	92	3	4	24	兵	
6567. 86	鳥羽市若志町	西 川 豊 太郎	56	'60	c	c	b	b	98	3	6	0	0	
6567. 17	松原市大石	村 本 伊 右 衛 門	47	'57	a	a	a	a	0	02	1	2	6	0
6575. 40	1 廣南郡高町兼野	岡 田 幸 助	56	'60	c	c	b	b	88	1	4	0	0	
6575. 66	2 多気郡大町川原	吉 田 庄 太郎	55	'61	b	b	a	a	0	1	2	8	0	0
6575. 82	3 多気郡高川村南郷	森 本 政 吉	55	'60	c	c	b	b	90	1	6	24	兵	
6576. 28	伊勢市宇治浦町	白 藤 隆 二	24	'57	a	a	a	a	0	90	7	4	24	兵
6576. 32	1 度会郡度会村蘇加江	廣 興 作	55	'60	b	b	a	a	0	98	1	2	8	0
6576. 56	伊勢市横橋町	上 田 金 之 丞	97	'59	a	a	a	a	0	81	1	3	0	0
6576. 93	度会郡度会村編出	森 田 利 之 忠	56	'60	c	c	b	b	94	1	6	24	兵	
6577. 13	鳥羽市鳥羽町大里	窪 田 權 作	47	'59	a	a	a	a	0	94	4	8	36	兵
6577. 21	志摩郡津町迫間	梅 元 甚 五郎	55	'60	b	b	a	a	89	1	4	4	0	
6577. 86	志摩郡阿児町安楽	沼 田 忠 三郎	56	'60	c	c	b	b	01	5	8	0	0	
6584. 28	多気郡宮川村大字権原	吉 田 松 治	56	'61	b	b	a	a	90	2	5	24	兵	
6585. 25	度会郡紀勢町白崎	小 齊 賢 大 郎	47	'57	a	a	a	a	0	02	8	8	24	兵
6586. 49	度会郡南島町力部	西 岡 安 市 市	56	'60	c	c	b	b	03	1	3	8	0	
6586. 83	北牟婁郡長島町中町	大 西 晋 大 郎	56	'60	b	b	a	a	0	03	3	3	36	兵
6586. 97	度会郡津町津津	山 本 在 大 郎	47	'59	a	a	a	a	0	02	3	6	0	0
6586. 99	度会郡南島町敷浦	田 中 晋 大 郎	56	'60	b	b	a	a	0	03	3	6	0	0
6587. 42	志摩郡志摩町和具	伊 藤 治 一	47	'57	a	a	a	a	0	02	7	13	66	兵
6594. 19	北牟婁郡海山町上里	西 村 文 之 助	56	'62	c	c	b	b	02	1	8	0	0	
6594. 67	尾張市	村 田 敬 夫	47	'57	a	a	a	a	0	00	5	8	0	0
6595. 32	北牟婁郡海山町島巻	玉 井 卯 兵 衛	47	'57	a	a	a	a	0	84	9	6	0	0
6595. 90	尾張市丸屋町丸浦	川 上 久 兵 衛	56	'60	c	c	b	b	03	5	8	36	兵	
7504. 11	1 尾野市玉坂町桃崎	下 垣 内 友 一	56	'61	b	b	a	a	95	4	6	0	0	
7504. 27	2 尾野市曾根町	佐 野 清 次 郎	97	'57	a	a	a	a	0	92	4	6	36	兵
7504. 64	1 尾野市木本町	武 上 千 代 之 丞	56	'61	b	b	a	a	97	5	8	30	0	
7513. 15	南牟婁郡紀和町和気	下 地 幸 松	99	'62	c	c	b	b	70	5	6	756	兵	
7514. 21	南牟婁郡御浜町大字阿田和 滋 賀 集	石 橋 勇 平	56	'61	b	b	a	a	87	1	3	8	0	
6504. 99	伊香郡本之木町水之本小字八木原町	川 隅 治 郎	18	'61	b	b	a	a	90	5	8	0	0	
6505. 60	伊香郡本之木町大字影野上村	杉 田 兵 治	98	'62	c	c	b	b	01	1	2	6	0	
6514. 25	伊香郡西渡井村菅浦	野 田 重 三	50	'64	c	c	b	b	99	1	4	0	0	
6514. 38	東渡井郡那志山字山本	集 田 照 五	97	'57	a	a	a	a	0	02	1	8	0	0
6514. 61	高島郡今津町大供	古 我 俊 一	50	'60	b	b	a	a	0	87	1	4	0	0
6515. 24	1 度田郡伊吹町吉根	立 沢 敏 十	50	'58	a	a	a	a	0	02	1	6	2	兵
6515. 70	2 長狭市南船町	村 瀬 忠 兵 衛	50	'58	a	a	a	a	0	78	3	4	0	0
6523. 06	高島郡朽木村吉川	藤 生 良 吉	50	'60	c	c	b	b	95	1	2	4	0	0

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査年	調査深	第1期調査結果								
					A	B	C	D	E				
6502.34	滋賀県聖田町坊村	葛野常吉	50	'60	b	b	a	0	93	1	4	0	
6502.36	滋賀県志賀町大字木戸	山村秀次	96	'57	a	a	0	0	99	1	8	24	兵
6504.01	高島県安曇川町小川	志村三四郎	50	'60	b	b	a	0	00	1	0	0	
6524.66	愛知郡豊秋町替光寺	宮路久次郎	50	'61	b	b	0	a	94	1	10	0	
6525.05	茨城県山家町神	日比佐蔵	50	'61	b	b	0	a	99	2	6	0	
6525.30	茨城県土浦町	池田大三郎	50	'59	a	a	0	0	93	5	6	0	
6525.75	大田郡多賀町大若小畑	吉川国孝	50	'61	b	b	0	a	96	2	6	24	兵
6525.90	愛知郡森町吉倉	上林九兵衛	50	'62	c	e	b	0	02	1	0	0	
6533.36	滋賀県聖田町久川	田中寅治郎	50	'58	a	a	0	0	90	1	8	0	
6533.89	栗太郡栗東町小栢	榎木大平	50	'60	b	b	0	a	95	1	6	0	
6534.13	近江八幡市玉木町2丁目	西脇金三	50	'55	c	e	b	0	98	5	4	24	兵
6534.37	八日市市金堂町	堀川辰之助	50	'60	b	b	0	a	02	5	6	0	
6534.41	野洲郡野洲町水原江部	上田吉次郎	50	'61	b	b	0	a	99	1	10	0	
6534.85	甲賀郡甲西町下田	山中徳吉	50	'61	b	b	0	a	97	1	5	0	
6535.24	神崎郡永源寺町寅川	谷田耕作	50	'63	c	e	b	0	92	0	8	13	兵
6535.73	神崎郡永源寺町甲津畑	田井忠助	50	'60	b	b	0	a	96	2	8	0	
6535.90	藤生郡日野町大畑	岸田武吉	50	'62	c	e	b	0	79	1	0	0	
6543.05	大津市藤原伊勢屋町	川崎久松	25	'58	a	a	0	0	94	5	0	0	
6543.56	大津市大石町	田中龜次郎	25	'61	a	b	0	a	01	1	6	0	
6544.26	甲賀郡水口町大字内實	倉田治郎平	50	'59	a	a	0	0	98	1	6	0	
6544.69	甲賀郡甲賀町大字上野	光前政次郎	96	'57	a	a	0	0	96	1	4	0	
6544.72	甲賀郡信楽町字長野	吉古忠兵衛	50	'59	a	a	0	0	83	7	0	24	兵
6545.41	甲賀郡土山町大字北土山京都府	東久吉	50	'59	a	a	0	0	92	2	8	24	兵
5499.98	竹野郡網野町堀江	山本庄次郎	60	'62	c	e	b	0	99	3	6	36	兵
5500.53	竹野郡丹後町個人小畑	中村晋蔵	25	'59	a	a	0	0	90	1	8	0	
5591.60	与那郡伊根町本庄上	矢野準治	25	'61	b	b	0	a	89	1	0	0	
5591.91	与那郡伊根町字平田	向井市治	60	'64	c	e	b	0	94	3	11	0	
6409.35	熊野郡久美浜町久美浜	愚崎金蔵	28	'58	a	a	0	0	89	6	4	0	
6500.22	中津峰山町字吉原	馬場定石門	25	'59	a	a	0	0	89	0	4	0	
6500.63	与那郡野田川町三河内	野村岡太郎	25	'61	b	b	0	a	72	4	0	0	
6500.88	宮津市惣	野村良四郎	98	'57	a	a	0	0	74	0	7	15	
6501.86	舞鶴市河辺由里	水野野田太郎	25	'61	b	b	0	a	86	1	4	0	
6501.92	舞鶴市西神崎	香川 隼	60	'60	c	e	b	0	97	3	0	0	
6510.65	加佐郡大江町新町	藤見久徳	25	'60	b	b	0	a	90	4	6	15	
6511.33	舞鶴市字音吉	田中作治郎	25	'58	a	a	0	0	84	1	8	0	
6511.49	萩原市奥上林	渡辺高則左衛門	60	'64	c	e	b	0	86	1	2	4	兵
6511.85	萩原市八津合町字西畑	萩井藤吉	98	'57	a	a	0	0	90	1	8	4	
6500.03	福知山市字十二	藤原庄吉	25	'57	a	a	0	0	81	1	4	24	兵
6502.79	天田郡三和町生丈	田中一三郎	60	'64	c	e	b	0	88	2	6	4	兵
6521.03	越前市十名台町	川島克己	25	'57	a	a	0	0	02	0	1	0	
6521.13	越前市藤井町字下藤野	江本和左門	25	'57	a	a	0	0	96	1	8	0	
6521.20	越前市味方町	西村長之助	97	'63	c	e	b	0	81	1	0	3	兵
6521.94	福井郡藤岡町横爪	竹本正次	25	'61	b	b	0	a	95	1	9	3	兵
6522.03	北条郡美山町大字盛都小字林	佐野貞一	60	'63	c	e	b	0	99	1	2	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査年	調査深	第1期調査結果								
					A	B	C	D	E				
6522.37	北条郡美山町字佐々里	藤山宮之助	25	'59	a	a	0	0	03	1	2	4	兵
6522.79	北条郡美山町大字上黒田小字森ノ木	林兵治	60	'63	c	e	b	0	92	1	2	6	0
6522.93	北条郡美山町大字大坪代	吉田大太郎	25	'57	a	a	0	0	84	1	2	4	0
6532.30	輪井郡藤原町字藤原	松本鶴之助	25	'60	b	b	0	a	91	1	6	0	
6532.70	亀岡市吉前町字東神前	人見源太郎	25	'59	a	a	0	0	87	1	6	0	
6532.89	京都市上京区元福寺町	加藤良之助	25	'58	a	a	0	0	02	4	6	0	
6532.93	亀岡市安町中島	関 匠之助	60	'62	c	e	b	0	92	1	4	0	
6533.31	京都市北区西馬場町	松本善次郎	25	'58	a	a	0	0	86	2	4	12	兵
6542.27	乙訓郡向日町物集谷	中山新一郎	25	'60	a	a	0	0	90	1	9	13	
6542.32	亀岡市東原町東原坊谷	石田三次郎	25	'60	b	b	0	a	00	1	4	0	
6542.58	京都市東山区渡町	吉 藏 宗 介	60	'60	c	e	b	0	93	5	8	12	
6543.52	宇治市五ヶ庄字上村	宇治元次郎	25	'57	a	a	0	0	88	1	8	24	兵
6553.22	鎌倉市井手町大字井手小字野神	長谷川 健太郎	29	'61	b	b	0	a	93	1	8	0	
6553.47	相模郡笠置町大字南笠置小字栗原	森井八十八	29	'59	a	a	0	0	97	1	8	0	
6553.52	相模郡津町小寺	堤 実 太郎	29	'63	c	e	b	0	87	1	11	0	
6541.27	豊能郡能勢町下田民北端	泉 啓 之 進	27	'57	a	a	0	0	90	1	8	4	
6542.71	茨木市泉原	寺 野 忠 雄	96	'62	c	e	b	0	95	7	12	336	
6551.18	高槻市平町	奥村治一郎	26	'59	a	a	0	0	92	1	6	0	
6552.03	高槻市富田町	中井定助	26	'59	a	a	0	0	89	4	4	0	
6552.46	北河内郡交野町字星田	中井良太郎	26	'63	c	e	b	0	02	7	4	0	兵
6552.71	大阪市東区南日町4丁目	农村史郎	29	'64	c	e	b	0	98	5	11	57	
6552.90	大阪市東区南本町1丁目	北尾来吉	26	'58	a	a	0	0	03	1	6	0	
6561.49	堺市今津町2丁目	石田三郎	26	'57	a	a	0	0	98	7	11	0	
6562.22	大阪市東区住吉平野新町5丁目	池崎孝太郎	26	'57	b	b	0	a	89	0	2	0	
6562.64	羽曳野市吉市町	高 中 久 雄	26	'51	a	a	0	0	84	2	4	0	
6570.89	泉南郡南海町鳥取	井上権吉	26	'58	a	a	0	0	91	5	9	0	
6571.15	堺和泉市泰水町南浜	藤田久平	29	'63	c	e	b	0	99	4	8	0	
6571.34	貝塚市南	神 藤 健 二 良	98	'57	a	a	0	0	91	1	11	24	兵
6571.63	泉佐野市日根野町4地蔵	井谷七五郎	26	'57	a	a	0	0	88	2	4	0	
6572.04	富田林市字甲田	杉田徳治郎	26	'63	c	e	b	0	86	5	8	0	
6572.22	河内郡吉野町	藤田友三郎	26	'59	a	a	0	0	89	1	4	0	
6572.55	南河内郡千早赤松村千早	田川休吉	96	'62	c	e	b	0	92	1	8	0	
6580.06	泉南郡岬町深田	南 藤 定 0	30	'62	c	e	b	0	99	4	5	6	0
6407.28	美力郡飯坂町飯坂	松崎登治	28	'57	a	a	0	0	84	5	3	0	
6408.15	城崎郡吉住町吉住	寺田松太郎	28	'58	a	a	0	0	00	1	0	36	
6408.72	美力郡村御味取	名田野 彦	99	'61	b	b	0	a	01	2	0	0	
6408.88	城崎郡竹野町小字中村	山尾松五郎	28	'63	c	e	b	0	87	1	4	28	兵
6409.00	城崎郡竹野町竹野	安部 豊 一	28	'62	c	e	b	0	91	5	8	0	
6409.72	登野市大南通	岡田三代治	28	'58	a	a	0	0	00	5	8	0	
6418.13	美力郡村御味取	岡田初藏	28	'58	a	a	0	0	79	1	3	0	
6418.75	美力郡岡崎町岡崎	岩崎真太郎	28	'58	a	a	0	0	95	6	36	兵	
6419.09	出石郡田原町中山	加藤 眞 彦	28	'61	b	b	0	a	90	5	6	27	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票									
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E					
6419. 25	出石郡出石町出石水町	米沢 貞治 郎	28	'58	a	a	o	o	95	5	12	0		
6419. 50	美濃郡大野町八幡	岡本 作太郎	28	'58	a	a	o	o	85	5	6	20	兵	
6419. 69	出石郡東町小坂	後 政 吉 郎	28	'62	c	c	b	b	83	1	0	0		
6428. 13	美濃郡大野町横行	奥 達 雄 治 郎	28	'62	c	c	b	b	80	2	1	0		
6428. 26	美濃郡大野町和田	山本 豊太郎	28	'58	a	a	o	o	63	1	6	0		
6428. 76	穴原郡一宮町上岸田	山上 意治 郎	28	'58	a	a	o	o	63	1	6	4		
6428. 91	穴原郡波賀町横見	中上 洋一 郎	28	'62	c	c	b	b	61	2	8	12		
6429. 15	朝来郡山束町矢名郷	竹 島 清 蔵 郎	28	'57	a	a	o	o	88	4	2	24		
6429. 30	美濃郡美濃町長野小字尾ノ上	松 下 正 二 郎	28	'68	c	c	b	b	61	1	8	28	兵	
6429. 61	朝来郡朝来町山口	荒川 栄一 郎	28	'68	a	a	o	o	58	1	9	7	0	
6429. 65	朝来郡生野町黒川小字黒川	竹 村 昌 三 郎	28	'63	c	c	b	b	60	1	6	8		
6429. 66	朝来郡生野町口巖谷	岡本 英 雄 郎	28	'59	a	a	o	o	91	9	9	11		
6429. 17	多可郡加美町吉原	森 安 野 一 郎	28	'62	c	c	b	b	98	1	9	0		
6429. 61	神崎郡神崎町蟹賀町	大野 寿一 郎	28	'62	c	c	b	b	73	5	10	0		
6429. 77	多可郡中町森本	福 岡 勇 治 郎	27	'57	a	a	o	o	62	1	8	6		
6447. 08	在田郡三日月町本郷	船 岡 定 吉 郎	27	'57	a	a	o	o	96	1	10	24		
6447. 39	揖保郡新宮町千本	桑 原 晋 治 郎	27	'68	c	c	b	b	98	1	8	12		
6447. 84	赤松郡上郡町大神	中 村 晋 治 郎	27	'60	a	a	o	o	88	5	8	0		
6448. 23	穴原郡安富町榑木野	榑 木 政 治 郎	27	'62	c	c	b	b	96	1	8	33		
6448. 61	揖保郡新宮町高立	高 林 政 有 郎	27	'68	a	a	o	o	63	7	8	33	兵	
6449. 19	西條郡上本町	末住 角之助 郎	27	'58	a	a	o	o	59	1	8	0		
6449. 20	神崎郡神崎町福田	大杉 太八郎 郎	27	'57	a	a	o	o	91	4	0	0		
6449. 33	加西郡北条町北条	奥 田 栄 次 郎	27	'64	a	a	o	o	90	4	3	30		
6449. 84	加西郡北条町千ノ沢峠	奥 田 栄 一 郎	27	'57	c	c	b	b	61	1	0	0		
6457. 18	相生市那波	元 佐 甚 治 郎	27	'63	c	c	b	b	63	0	6	36	兵	
6457. 45	赤松郡塩屋内	山中 千太郎 郎	27	'59	a	a	o	o	96	7	4	30		
6458. 08	姫路市1丁目	尾 田 佐 大 郎	27	'58	a	a	o	o	80	7	0	0		
6458. 26	姫路市舞鶴町御幸	大野 英 藏 郎	27	'62	c	c	b	b	82	4	3	36		
6458. 40	揖保郡海陽町堂津	小 西 勝 次 郎	27	'68	a	a	o	o	83	4	0	36	兵	
6458. 91	舞野郡家島町真浦	秋 山 市 松 郎	27	'63	c	c	b	b	97	7	4	0		
6459. 29	三木市福井	藤 原 廉 治 郎	27	'57	a	a	o	o	98	4	5	0		
6459. 52	高砂市高砂町田町	藤 谷 利 英 郎	27	'59	a	a	o	o	63	5	8	0		
6459. 87	明石市大久保町大塚	増 本 亮 三 郎	28	'61	b	b	o	o	82	1	6	0		
6469. 19	明石市東島町	林 太 三 郎	28	'62	c	c	b	b	85	8	0	0		
6469. 77	津名郡淡路町富島西之丁	岡 林 吉 二 郎	27	'59	a	a	o	o	88	5	3	3		
6479. 26	津名郡津名町生籠中之内隈乙	打 越 吉 一 郎	27	'57	a	a	o	o	95	5	8	2		
6479. 51	津名郡五色町徳志川	岡 本 岡 三 郎 郎	27	'57	a	a	o	o	62	1	6	0		
6479. 95	洲本市外通町5丁目	岡 本 英 治 郎	27	'57	a	a	o	o	68	5	6	0		
6483. 48	三原郡淡路町植木町	長 谷 大 藏 郎	28	'61	b	b	a	a	97	7	6	24	兵	
6489. 01	三原郡神戶庄田	長 谷 次 郎 郎	28	'62	c	c	b	b	80	1	4	0		
6489. 27	洲本市由良町新屋町字天神町	竹 村 虎 之 助 郎	27	'57	a	a	o	o	89	7	8	36		
6489. 81	三原郡淡路町藤土生	北 川 安 吉 郎	27	'65	c	c	b	b	96	3	4	3	兵	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票										
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E						
6500. 60	水上郡有田町佐治	中 本 茂 一 郎	28	'63	c	c	b	b	95	5	6	0			
6500. 94	水上郡春日町井原	松 原 次 藏 郎	28	'57	a	a	o	o	98	1	8	0			
6520. 23	水上郡柏原町柏原水町	田 使 之 助 郎	28	'57	a	a	o	o	82	7	10	0			
6530. 58	多紀郡藤山町下三郎町	藤 本 一 雄 郎	28	'58	a	a	o	o	62	5	8	36	兵		
6531. 53	多紀郡多紀村福住	堀 口 肇 一 郎	28	'57	a	a	o	o	61	5	8	12			
6540. 16	三田市大字船木字波田	下 家 地 一 義 郎	27	'62	b	b	a	a	92	5	11	20			
6540. 32	加東郡東条町天神	西山 兵 藏 郎	28	'61	b	b	o	o	99	5	8	0			
6540. 79	三田市三田通町	桥 谷 利 治 郎	28	'61	b	b	o	o	67	5	8	0			
6541. 82	宝塚市大野東部島田	島 田 兵 治 郎	27	'65	c	c	b	b	60	1	9	0			
6541. 66	川西市山下大字磯	田 中 利 吉 郎	27	'57	a	a	o	o	91	1	8	1			
6550. 13	畿東郡淡河村淡河町	武 野 晋 吉 郎	27	'57	a	a	o	o	87	1	6	0			
6550. 96	神戸市生田区磯崎4丁目	橋 本 浩 次 郎	27	'57	a	a	o	o	89	7	6	9			
6551. 20	神戸市兵峰区有馬町中之町	西 田 徳 治 郎	27	'64	c	c	b	b	94	5	8	6			
6551. 62	芦屋市岩通町	坂 家 地 悅 藏 郎	26	'58	a	a	o	o	94	1	4	0			
6551. 77	尼崎市大通町2丁目	松 川 富 七 郎	29	'63	c	c	b	b	95	5	11	0			
6560. 22	神戸市豊水區西豊水町宮本	舞 野 常 太郎 郎	27	'57	a	a	o	o	88	1	3	6	36	兵	
6560. 40	津名郡淡路町若原川浜	山 谷 宇 三 郎 郎	27	'64	c	c	b	b	63	3	6	0			
6560. 85	生駒郡生駒町香田	田 中 栄 治 郎	28	'57	a	a	o	o	99	1	8	24	兵		
6560. 83	奈良市北市町	山 本 吉 次 郎	27	'57	a	a	o	o	98	1	12	2	兵		
6560. 99	山辺郡山崎村大字峰寺	今 中 政 之 郎	29	'64	c	c	b	b	98	1	8	0			
6562. 48	北城郡三寺町王寺	寺 田 甚 大 郎	26	'58	a	a	o	o	89	1	4	0			
6563. 43	天理市大字寺堂	大 塚 武 雄 郎	27	'57	a	a	o	o	98	7	11	0			
6563. 58	山辺郡御村村大字地山	加 木 進 治 郎	26	'57	a	a	o	o	94	1	8	24	兵		
6563. 64	萩市市大字深塚	野 藤 文 太郎 郎	26	'57	a	a	o	o	97	5	9	30			
6564. 11	宇陀郡生利村大字三本松	野 井 庄 三 郎	29	'59	a	a	o	o	98	1	9	36	兵		
6572. 29	御所市	酒 井 庄 大 郎	29	'62	c	c	b	b	95	1	11	0			
6572. 97	宇智郡五条町大字新町	伊 木 圭 三 郎	27	'57	a	a	o	o	99	5	8	3	兵		
6573. 17	宇陀郡大宇陀町喰生内屋内	廣 義 彦 三 郎	29	'68	a	a	o	o	97	5	8	36	兵		
6573. 71	吉野郡下吉野大字下市	加 藤 藤 造 郎	29	'60	b	b	a	a	87	5	3	0			
6574. 06	宇陀郡御杖村大字宮野	平 田 幸 造 郎	27	'57	a	a	o	o	94	1	10	24	兵		
6574. 52	吉野郡吉野村大字杉谷小学中村	萩 原 藤 吉 郎	29	'64	c	c	b	b	99	2	4	0			
6583. 19	吉野郡山上村宇武木	田 垣 内 道 治 郎	29	'61	b	b	a	a	84	2	4	18	兵		
6583. 41	吉野郡西吉野村大字西日浦	上 垣 義 寿 郎	29	'60	b	b	a	a	89	2	4	0			
6583. 45	吉野郡天川村大字羽川	吉 田 鶴 松 郎	29	'63	c	c	b	b	60	2	8	0			
6583. 93	吉野郡大堰村藤原	田 内 定 光 郎	28	'61	b	b	a	a	87	2	6	33	兵		
6584. 90	吉野郡北上山村大字四原	大 谷 幸 作 郎	28	'61	b	b	a	a	81	1	6	0			
6592. 35	吉野郡野辺川村大字新町	上 野 篤 雄 郎	29	'63	c	c	b	b	60	1	6	0			
6593. 30	吉野郡三津川村谷瀨	佐 田 時 治 郎	29	'62	c	c	b	b	85	2	6	24	兵		
6593. 98	吉野郡下北山村大字寺垣内	小 倉 政 三 郎	29	'61	b	b	a	a	97	2	24	兵			
7503. 11	吉野郡三津川村大字小原	中 谷 正 春 郎	29	'57	a	a	o	o	62	2	6	0			
6580. 33	海草郡加太町加太	加 大 庄 司 郎	30	'57	a	a	o	o	93	0	0	0			
6580. 66	和歌山県北田町町2丁目	月 野 雄 三 郎	30	'58	a	a	o	o	62	5	6	0			
6581. 36	那賀郡磐前町河町	日 置 浩 治 郎	30	'57	a	a	o	o	95	1	4	24	兵		

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	A	B	C	D	E	
6581. 02	那賀郡岩田町宮	北井 年一	30	'59	a	a	o	0	02	1	6	0	
6581. 08	那賀郡高野町観音中の組	今 井 次郎	30	'63	c	e	b	b	93	1	4	36	兵
6582. 12	伊都郡高野町町名倉	伊 藤 謙吉	30	'59	a	a	o	0	93	7	4	6	兵
6582. 48	伊都郡貴村東高貴天神社内	宮 藤 梅之助	'57	'a	a	o	0	96	1	4	0	0	
6582. 73	伊都郡高野町高野山	半田 福松	30	'57	a	a	o	0	84	5	4	24	兵
6590. 08	海南市日方	丸山 庄次郎	30	'58	a	a	o	0	98	5	6	0	0
6590. 35	海南郡下津町下津	中村 栄次郎	30	'65	c	e	b	b	01	0	6	24	兵
6590. 87	有田郡湯浅町湯浅	崎山 角太郎	30	'57	a	a	o	0	93	5	6	0	0
6591. 02	海南郡野上町島木	西川 秀雄	30	'58	a	a	o	0	97	1	6	0	0
6591. 57	有田郡清水町清水	中川 敏	30	'61	b	b	o	a	95	1	6	0	0
6591. 81	有田郡金屋町修理川	竹 内 豊一	30	'65	c	e	b	b	89	1	4	0	0
6592. 10	伊都郡花園村築紫	大 野 次郎	30	'65	c	e	b	b	00	1	8	0	0
7500. 24	日高郡山内町横浜	大 江 正吉	30	'59	a	a	o	0	85	5	6	0	0
7500. 43	日高郡日高町北井	野 野 信一	30	'65	c	e	b	b	03	1	6	0	0
7500. 66	磐前市磐前	畑 中 栄太郎	30	'57	a	a	o	0	94	9	4	0	0
7501. 14	日高郡美山村川原河	西川 武夫	30	'61	b	b	o	a	91	2	6	0	0
7501. 68	日高郡電神村福井	西本 芳太郎	30	'61	b	b	o	a	92	1	8	0	0
7501. 72	日高郡南町田の畑内	熊 代 峰 藏	30	'64	c	e	b	b	99	1	6	0	0
7502. 22	日高郡南町神神	若 井 廣	97	'57	a	a	o	0	93	9	7	36	兵
7502. 89	東牟婁郡本吉町三歳	五 浦 喜次郎	99	'62	c	e	b	b	95	6	6	0	0
7502. 91	西牟婁郡中辺町町小松原	岡 崎 景次郎	30	'63	c	e	b	b	02	1	4	0	0
7503. 48	東牟婁郡北山村大字大沼	橋 田 為 彦	98	'61	b	b	a	o	01	2	8	30	兵
7510. 18	日高郡南町南町	中 島 隆松	30	'59	a	a	o	0	91	4	6	0	0
7511. 66	田辺市津	木 下 虎雄	30	'57	a	a	o	0	01	1	6	0	0
7512. 43	西牟婁郡白浜町白浜	鏡 夏 彰七	30	'63	c	e	b	b	97	3	6	0	0
7512. 43	東牟婁郡大寺村平瀬	小 原 平四郎	30	'61	b	b	o	a	96	1	4	0	0
7513. 01	東牟婁郡本吉町瀧川	宇 原 岩五郎	30	'61	b	b	o	a	01	1	6	36	兵
7513. 43	東牟婁郡熊野町町上長井	中 村 文 雄	30	'63	c	e	b	b	95	1	4	0	0
7513. 69	新宮市新宮	大 石 哲士	30	'57	a	a	o	0	99	0	12	0	0
7521. 16	西牟婁郡白浜町富田	山 本 兼三郎	30	'60	b	b	a	o	91	1	7	0	0
7521. 79	西牟婁郡ささみ町寸さみ	吉 田 昌一	30	'64	b	b	o	a	89	5	7	24	兵
7522. 48	東牟婁郡吉川町田在宇地下	龜 田 政一郎	30	'67	b	b	a	o	02	2	6	0	0
7522. 94	西牟婁郡江住町江住	山 形 晋 松	30	'57	a	a	o	0	87	0	4	0	0
7523. 05	東牟婁郡那智郡那智山	野 田 政 彦	30	'58	a	a	o	0	91	1	8	0	0
7523. 27	東牟婁郡那智郡那智湯	二 河 勘 松	30	'63	c	e	b	b	00	3	6	24	兵
7523. 30	東牟婁郡吉川町長列尾字滝坪	根 木 福一	30	'60	b	b	a	o	98	2	8	0	0
7523. 74	東牟婁郡吉川町下田原	高 尾 平九郎	'97	'57	a	a	o	0	92	1	6	72	兵
7533. 11	西牟婁郡串本町串本	堤 津 甚 吾	30	'60	b	b	a	o	93	7	6	0	0
7533. 12	西牟婁郡串本町大島	東 畑 千太郎	30	'62	c	e	b	b	99	0	6	0	0
6404. 63	西伯郡中山町大字赤坂	福 水 福 重 郎	31	'57	a	a	o	0	96	1	9	24	兵
6405. 95	東伯郡羽合町大字宇野	村 中 多三	31	'63	c	e	b	b	93	1	4	0	0
6406. 77	鳥取郡東郷町	沢 村 徳五郎	31	'65	c	e	b	b	92	1	8	0	0
6406. 99	筑紫郡筑紫町筑紫	勢 不 興 雄	31	'57	a	a	o	0	89	1	4	0	0
6407. 43	岩美郡美由町福富	植 内 沢 治	28	'58	a	a	o	0	94	5	6	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	A	B	C	D	E	
6413. 10	米子市和田町大字上和田	美 倉 万 壽 雄	31	'59	a	a	o	0	96	1	6	0	0
6413. 29	西伯郡大山町宮内	坂 本 米 造	99	'61	b	b	a	o	94	7	0	0	0
6413. 45	米子市町町1丁目	原 修 一郎	31	'62	c	e	b	b	99	5	6	0	0
6413. 76	西伯郡岸本町大字大蔵字大寺	若 田 平四郎	31	'57	a	a	o	0	95	1	7	0	0
6414. 17	東伯郡東町大字大津	吉 田 愛 治	31	'61	b	b	a	o	03	1	6	36	兵
6414. 25	東伯郡赤崎町宮木	大 田 四 郎 郎	97	'63	c	e	b	b	06	1	6	0	0
6415. 23	倉吉市大字海田	角 根 康 吉	31	'59	a	a	o	0	99	1	6	24	兵
6415. 78	東伯郡三朝町戸戸	小 根 島 吉	31	'62	c	e	b	b	89	1	6	24	兵
6415. 80	東伯郡金町金町金宿	吉 田 庄 司	31	'61	b	b	a	o	92	5	6	24	兵
6415. 83	東伯郡三朝町助谷	山 本 耕 一	31	'62	c	e	b	b	02	1	6	0	0
6416. 09	鳥取市立川町	藤 越 田 成 美	31	'58	a	a	o	0	86	5	4	30	兵
6416. 31	筑紫郡鹿野町大字紫峰	田 中 多一	31	'61	b	b	o	a	88	1	8	0	0
6416. 58	八頭郡河原町字袋河原	森 原 文 一	31	'58	a	a	o	0	93	1	6	0	0
6417. 14	岩美郡国府町大字新本	石 井 隆 一	31	'61	b	b	o	a	93	1	9	0	0
6417. 72	八頭郡八東町大字安井宿	西 尾 勝 美	31	'60	b	b	a	o	03	1	8	24	兵
6417. 85	八頭郡若桜町字赤松	中 島 定 二	31	'64	c	e	b	b	94	4	6	30	兵
6422. 77	日野郡日南町阿地松	岩 田 栄 藏	32	'63	c	e	b	b	93	1	4	0	0
6423. 25	西伯郡西伯町字下中谷	若 田 栄 藏	31	'64	c	e	b	b	93	1	4	0	0
6423. 75	日野郡日野町大字黒坂	青 戸 晋 治	31	'59	a	a	o	0	93	4	6	24	兵
6424. 20	日野郡江府町大字良田	福 井 岩 雄	31	'59	a	a	o	0	02	1	6	12	兵
6426. 04	八頭郡赤松町字小字畑	西 村 文 十郎	99	'60	b	b	a	o	95	1	4	0	0
6426. 47	八頭郡赤松町字多	福 本 英 彦	99	'61	b	b	a	o	93	2	6	44	兵
6427. 27	八頭郡若桜町町屋	山 島 重 大 郎	31	'60	b	b	a	o	95	4	24	兵	
6428. 04	八頭郡日南町大字那原	後 藤 正 市	31	'60	b	b	a	o	94	2	9	0	0
6433. 34	日野郡日南町上石見	東 藤 正 一	33	'61	b	b	o	a	94	1	6	0	0
	鳥 取 県												
5462. 29	徳島郡五豊村大字北方	金 坂 勝 男	32	'57	a	a	o	0	96	1	4	0	0
5462. 57	徳島郡那万村大字油井	山 本 米 太	32	'62	c	e	b	b	92	5	4	24	兵
5463. 12	高松郡中村大字中村字露	藤 野 元 平	32	'52	a	a	o	0	50	1	6	18	兵
5463. 64	高松郡西脇町大字大久	若 藤 三 善	32	'62	c	e	b	b	96	5	9	12	兵
5463. 73	高松郡西脇町西町	長 沢 知 大郎	32	'57	a	a	o	0	91	3	4	0	0
5471. 89	知夫郡西ノ島町赤江	長 村 伊 勢 大郎	32	'57	a	a	o	0	81	2	4	0	0
5472. 31	知夫郡西ノ島大字別府	山 本 秀 夫	32	'62	c	e	b	b	03	4	8	24	兵
5472. 94	海士郡海士村大字海士	佐 々 松 若 雄	32	'57	a	a	o	0	87	1	3	60	兵
5473. 91	知夫郡海士村大字大江	嶋 新 大 郎	96	'61	b	b	a	o	93	1	6	12	兵
6338. 99	津门市大字那田字後浜新開	山 栗 要 二郎	32	'60	b	b	a	o	02	7	9	0	0
6339. 35	瀬野郡温泉津町道里中組	林 芳 芬	32	'58	a	a	o	0	02	7	9	0	0
6339. 37	大田市大字西町の足区	石 原 作 三	32	'63	c	e	b	b	01	7	8	0	0
6339. 44	瀬野郡温泉津町温泉津大字小浜	吉 村 喜 三郎	32	'63	c	e	b	b	98	4	8	0	0
6339. 86	大田市大字代町字大家	森 信 一	32	'61	b	b	o	a	05	5	6	36	兵
6346. 62	浜田町高田町	浜 田 前 高 田 町	31	'64	c	e	b	b	84	7	12	24	兵
6348. 71	浜田市日野町	北 谷 勝 吉	32	'57	a	a	o	0	70	1	6	48	兵
6348. 72	那賀郡金城村大字今福字五十石	上 田 勝 太郎	32	'61	b	b	a	o	78	1	6	0	0
6349. 09	色智郡川本町大字川本	松 島 幸 三	31	'54	c	e	b	b	99	7	6	24	兵
6349. 23	色智郡板江町川戸	日 都 田 源 助	32	'59	a	a	o	0	97	1	6	24	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					A	B	C	D	E				
6349.67	邑智郡石見町矢下字京	渡辺 豊	32	'58	'a	'a	'0	'0	981	5	7	3	兵
6349.80	那賀郡加茂大字宇市小谷城	津原 健之助	36	'61	'b	'b	'1	'8	'1	0	1	6	0
6356.98	益田市飯浦	小松 剛	32	'59	'a	'a	'0	'0	99	1	8	0	
6357.38	那賀郡三須町大字三須	中村 通市	32	'61	'b	'b	'0	'0	97	7	9	16	兵
6357.74	益田市道田	矢富 幸一郎	32	'59	'a	'a	'0	'0	90	1	4	0	
6358.43	那賀郡赤松村大字赤松	佐々木 茂吉	32	'61	'b	'b	'0	'0	90	1	4	0	
6367.09	美濃郡桑原町大字桑原	菅原 廉	32	'63	'c	'c	'b	'b	'00	1	8	35	
6367.73	美足郡日原町大字枕原	村上 安吾	32	'58	'a	'a	'0	'0	88	1	8	26	
6368.60	美濃郡匠見町大字飯笠字荒木	岡本 保吉	36	'61	'b	'b	'1	'8	'8	1	4	0	
6377.11	美足郡津和野町大字後田	岡田 庄次郎	32	'59	'a	'a	'0	'0	87	1	8	3	兵
6377.65	美足郡大日市町大字七日市	藤井 俊康	32	'58	'a	'a	'0	'0	00	1	8	0	
6401.89	八東郡藤島町藤島	青山 弥一	32	'50	'b	'b	'a	'a	'92	3	4	3	
6402.53	八東郡藤島村大字野波	相見 兵之助	32	'53	'c	'c	'b	'b	'91	1	7	0	
6402.94	松江市上末町字川原	森 本 茂雄	32	'59	'b	'b	'a	'a	'05	1	8	0	
6403.60	八東郡桑原町町大字福徳	宮本 龍雄	32	'62	'c	'c	'b	'b	'95	-3	6	0	
6403.62	八東郡桑原町町大字美保岡	福谷 兼	31	'64	'c	'c	'b	'b	'91	3	4	0	
6404.45	福川郡大社町大字大鹿	木村 幸一	32	'62	'c	'c	'b	'b	'01	-2	8	12	兵
6410.77	福川郡大社町大字中死木字四軒家	石田 善右門	32	'61	'b	'b	'0	'0	92	1	8	0	
6411.33	宇布市中之島町	森 隆 吉	32	'57	'a	'a	'0	'0	95	1	4	0	
6411.66	八東郡大須町大字佐々布	木野 正彦	32	'59	'a	'a	'0	'0	96	1	9	0	
6411.80	出雲市今市町	米田 直市	32	'62	'c	'c	'b	'b	'84	5	8	6	兵
6412.12	松江市舞町	石村 孝花	32	'59	'a	'a	'0	'0	00	4	8	0	
6412.48	安来市荒島町	清水 文賢	32	'59	'a	'a	'0	'0	09	-4	6	0	
6412.91	大原郡大東町大字北村	高島 清左衛門	36	'61	'b	'b	'1	'8	'84	1	8	00	兵
6420.24	那賀郡多岐村大字小田字山之空	安井 忠次郎	32	'59	'a	'a	'0	'0	00	1	6	12	
6420.58	那賀郡住田村大字坂辺字町	安食 廣十郎	32	'62	'c	'c	'b	'b	'91	1	8	24	兵
6420.60	大田市久手町坂根西	吉 谷 源二	32	'57	'a	'a	'0	'0	85	5	11	30	
6421.26	大原郡大東町大字木次	森山 伸助	32	'57	'a	'a	'0	'0	89	5	15	60	
6421.79	仁多郡仁多町大字三沢	浅井 幸四郎	31	'64	'c	'c	'b	'b	'94	1	5	18	
6422.62	那賀郡掛合町西御地区	影山 準市	36	'61	'b	'b	'1	'8	'86	1	5	0	
6422.16	那賀郡那賀町大字布都那字下布都	熊鷹 卯之次郎	32	'61	'b	'b	'0	'0	99	1	9	36	
6422.93	仁多郡那賀町大字横田字角	和 島 宗 市	32	'59	'a	'a	'0	'0	84	1	4	0	
6430.26	那賀郡那賀町大字角井	三島 善次郎	31	'64	'c	'c	'b	'b	'90	1	6	3	兵
6430.43	邑智郡邑智町大字船通町	山田 正一	32	'61	'b	'b	'0	'0	98	1	4	0	
6431.41	那賀郡那賀町大字花菜	木村 文次	32	'58	'a	'a	'0	'0	98	1	9	0	
6432.22	仁多郡那賀町大字大馬	戸屋 金蔵	32	'60	'b	'b	'1	'0	'02	1	5	8	24
6433.25	邑智郡大和村大字赤木本郷	西島 吾人	34	'60	'b	'b	'1	'0	'91	5	8	24	
6440.01	邑智郡津和野町大字向山田	野 山 盛	31	'64	'c	'c	'b	'b	'01	1	6	3	兵
6424.75	真庭郡川上村福田	立 田 富之助	33	'61	'b	'b	'0	'8	'95	1	8	24	
6424.99	真庭郡那賀町下湯原	池田 謙夫	33	'61	'b	'b	'0	'8	'04	1	7	0	
6424.99	真庭郡那賀村字松治屋	若 田 義 夫	33	'64	'c	'c	'b	'b	'89	1	0	24	兵
6425.41	真庭郡中和村大字和小守野辺	入 沢 茂 武	33	'64	'c	'c	'b	'b	'99	1	4	0	
6425.47	吉田郡美津村大字長尾小字原口	水 田 武 兵	33	'60	'b	'b	'a	'a	'99	1	8	0	
6426.83	吉田郡加茂町加茂	山本 喜久一	33	'60	'b	'b	'a	'a	'96	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					A	B	C	D	E				
6427.93	栗田郡西条倉村大字影石小字谷口	中 島 三郎兵衛	31	'64	'c	'c	'b	'b	'81	1	4	0	
6433.97	新見市市井村	佐々木 井 洋造	33	'57	'a	'a	'0	'0	84	1	6	0	
6434.52	阿智郡大住町永富	高 藤 謙 彦	33	'57	'b	'b	'0	'0	80	1	6	0	
6434.57	真庭郡藤山町藤山	山藤 真太郎	33	'61	'a	'a	'0	'0	99	5	8	24	
6435.03	吉田郡那賀村高西谷小字宮原	吉 川 港 雄	33	'64	'c	'c	'b	'b	'99	1	6	0	
6435.68	津山市院庄	岸川 武 雄	33	'60	'b	'b	'a	'a	'03	1	8	0	
6435.73	真庭郡那賀町中河内	柴田 正 隆	33	'60	'b	'b	'1	'0	'00	1	6	24	兵
6436.33	津山市藤野寺王地	高山 真一	36	'63	'c	'c	'b	'b	'99	1	8	33	兵
6436.57	那賀郡藤田町真加部	小林 七 蔵	33	'57	'a	'a	'0	'0	90	1	8	0	
6436.60	津山市藤下高	柴田 貴 純	33	'60	'b	'b	'a	'a	'00	9	1	4	0
6436.98	那賀郡那賀町	藤倉 隆 文治	33	'63	'c	'c	'b	'b	'84	1	8	12	兵
6437.23	茨田郡大取町古町	有 元 一 隆	33	'60	'b	'b	'a	'a	'03	7	8	0	
6443.03	阿智郡那賀町大字神代字日長谷	福田 万太郎	32	'63	'c	'c	'b	'b	'a	92	1	8	0
6443.88	川上郡成羽町吹屋	長 尾 久 平	33	'59	'a	'a	'0	'0	84	8	8	0	
6444.25	上野郡北河町下吾部	大月 善 夫	33	'61	'b	'b	'0	'0	83	1	8	0	
6444.62	新見市草間井森野	三 村 晋 松	33	'63	'c	'c	'b	'b	'92	1	4	0	
6444.89	上野郡安藤町田上	幸田 利 治	33	'57	'a	'a	'0	'0	82	1	8	0	
6445.11	真庭郡那賀町上	杉山 元 四郎	33	'59	'b	'b	'a	'a	'06	1	6	0	兵
6446.03	久米郡久米南町下二ツ	松 本 大 三	33	'59	'a	'a	'0	'0	83	7	11	21	兵
6446.05	那賀郡那賀町藤原	島 越 三 三	33	'60	'b	'b	'a	'a	'01	1	11	24	
6446.45	小宮山字三六	余藤 吉市次郎	33	'59	'a	'a	'0	'0	88	4	0	0	
6446.69	和氣郡吉永町那賀郡	小 宮 賢 夫	33	'62	'c	'c	'b	'b	'90	1	6	0	
6453.59	津山市上町地蔵	三 村 方 一	33	'61	'b	'b	'a	'a	'99	1	8	0	
6453.64	後月郡那賀町大字西原小字西村入	山 室 一 郎	33	'63	'c	'c	'b	'b	'95	1	6	0	
6454.24	高梁市松山	森 定 二 吉	33	'59	'a	'a	'0	'0	87	2	8	0	
6454.88	那賀市市下	河 西 健 太郎	33	'58	'a	'a	'0	'0	83	1	4	0	
6455.27	那賀郡那賀町金川	水 河 隆 治	33	'58	'a	'a	'0	'0	99	9	1	11	0
6455.31	吉備郡那賀町大字間直字上横田	河 田 政 一	36	'60	'c	'c	'b	'b	'91	5	6	0	
6455.62	吉備郡那賀町上見守	投 松 隆 夫	33	'58	'a	'a	'0	'0	89	7	13	24	兵
6456.28	那賀市高島新屋敷	梅 島 善 正	33	'57	'a	'a	'0	'0	01	1	8	16	
6456.33	那賀郡那賀町沢尻	久 大 静 次	33	'59	'a	'a	'0	'0	05	5	8	18	兵
6456.57	和氣郡那賀町四片上	尾 川 大 四郎	33	'58	'a	'a	'0	'0	91	7	8	0	
6456.73	上道郡上道町西川	時 長 寿 寿 平	33	'61	'b	'b	'a	'a	'94	1	8	0	
6462.51	和氣郡那賀町中生	松 島 善 次郎	33	'61	'b	'b	'1	'8	'84	1	4	0	
6463.38	那賀市井原町中町	吉 田 桂 吉	34	'61	'b	'b	'0	'0	80	4	10	0	
6464.23	小田郡那賀町矢張	片山 親 吉	33	'59	'a	'a	'0	'0	03	5	8	0	
6464.77	玉島市玉島	岩 田 宗 吉	33	'59	'a	'a	'0	'0	93	5	8	0	
6465.09	空洞市空洞	中 藤 正 平	33	'62	'c	'c	'b	'b	'00	5	11	24	兵
6465.97	岡山市下町	小 林 隆 次	33	'63	'c	'c	'b	'b	'97	4	0	0	
6466.40	倉敷市元町	森 茂 次郎	33	'58	'a	'a	'0	'0	91	7	10	18	
6466.82	児島市林	萩 元 次郎	33	'63	'c	'c	'b	'b	'96	1	6	24	兵
6466.01	西大寺町西大寺	大 森 藤 治	33	'58	'a	'a	'0	'0	00	5	9	0	
6466.16	邑久郡那賀町海	島 岡 吉 次郎	33	'58	'a	'a	'0	'0	83	3	4	0	
6466.36	邑久郡那賀町牛巻	岡 崎 忠 志	33	'62	'c	'c	'b	'b	'96	3	4	0	
6466.41	岡山市小早	岡 崎 忠 志	33	'62	'c	'c	'b	'b	'03	5	6	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査区								
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部				
					A	B	C	D	E				
6474. 03	渡口郡寄島町寄島	岡本 隆 三	33	'57	a	a	o	02	1	6	24		
6474. 00	笠岡市白石島	山 川 平 一	33	'65	c	e	b	b	95	3	4	24	兵
6474. 03	笠岡市真鍋島	志 村 康 吉	33	'65	c	e	b	b	03	3	8	0	
6475. 07	玉野市玉	近 藤 秀 吉	'59	'59	a	a	o	0	97	7	6	6	
6475. 27	玉野市向日比	久 富 宗 松	33	'62	c	e	b	b	01	3	6	0	
6475. 32	尾島市田之浦	柏 山 清 三	33	'57	a	a	o	00	8	8	12		
広島県													
6358. 67	山形郡芸北町大字東入幡字宮原	反 田 肇	32	'63	e	c	b	b	03	1	6	0	
6359. 38	山形郡大町町大字大朝	原 水 亀 次	34	'58	a	a	o	0	97	1	6	24	兵
6359. 62	山形郡芸北町新見	中山 喜久太郎	34	'62	c	e	b	b	87	1	4	0	
6368. 69	山形郡戸内町本郷土居	栗 本 健 三	34	'57	a	a	o	00	80	7	6	36	兵
6369. 22	山形郡加前町道の本	栗 岡 寿 三	34	'59	a	a	o	00	09	1	8	3	0
6369. 37	山形郡豊字字長沢	青 戸 寿 一	34	'62	c	e	b	b	79	1	4	0	
6378. 05	佐伯郡吉和村市道内	山 崎 喜 代 一	34	'62	c	e	b	b	95	0	2	0	
6378. 67	佐伯郡佐伯津田赤七ヶ川	正 木 取 市	34	'58	a	a	o	0	85	1	6	24	兵
6379. 31	佐伯郡湯浅町伏谷川内	深 川 誠 三郎	34	'57	a	a	o	0	94	1	6	24	兵
6379. 67	広島市己斐本町	橋 本 剛 次	34	'58	a	a	o	0	84	1	6	24	兵
6379. 68	広島市播磨町	熊 野 敏 男	34	'64	c	e	b	b	99	5	10	0	
6379. 74	佐伯郡五日市町玉玉市	木 原 良 雄	34	'62	c	e	b	b	01	1	6	0	
6388. 49	大分県大津町新内	橋 本 友 二 郎	35	'60	b	b	a	o	00	1	8	24	兵
6389. 22	佐伯郡吉島町吉島	尾 田 芳 松	34	'62	c	e	b	b	02	8	8	31	兵
6389. 56	佐伯郡神美町吉吉字古平	大 塚 十 郎	34	'62	c	e	b	b	98	1	4	0	
6389. 59	安芸郡江田島町本浦向原	鈴木 大 太郎	34	'59	a	a	o	0	71	1	4	0	
6389. 98	佐伯郡大神町大原	山 野 井 藤 子	34	'59	a	a	o	0	89	1	6	3	0
6431. 85	比婆郡高野町中田	大 友 久 藏	34	'60	b	b	a	o	87	1	4	0	
6402. 74	比婆郡西城町大字油木	小 豆 原 小 巳	34	'60	b	b	a	o	001	0	2	0	
6402. 67	又三郡作木村大字大津	林 勘 一	32	'60	b	b	a	o	94	1	4	0	
6441. 19	比婆郡比和町比和	岡 田 忠 夫	34	'63	c	e	b	b	01	7	6	0	
6441. 55	比婆郡口羽村向泉日南	深 井 良 造	37	'57	a	a	o	0	93	1	4	0	
6441. 71	又三郡布野村上布野二井	広 田 勝 右衛門	34	'63	c	e	b	b	95	1	6	3	兵
6442. 35	比婆郡西城町中野	原 達 雄 七	34	'58	a	a	o	0	98	1	6	24	兵
6442. 80	庄原市紅屋町	竹 中 栄 吉	34	'58	a	a	o	0	79	1	6	24	兵
6442. 00	比婆郡東城町内町	名 越 又 一	34	'63	c	e	b	b	91	0	2	0	
6443. 61	比婆郡東城町藤中町	名 越 和 四郎	33	'61	b	b	a	o	72	0	0	0	
6443. 45	高田郡美土里生田中北	原 田 七 大 郎	34	'57	a	a	o	0	92	0	2	12	
6451. 14	三次市三次町寺戸	原 杉 次 郎	34	'58	a	a	o	0	81	1	2	1	
6451. 79	又三郡吉合町	栗 村 福 美	34	'60	b	b	a	o	09	8	14	30	兵
6451. 63	又三郡三和町下根木吉藏	栗 村 福 美	34	'60	c	e	b	b	99	1	4	10	兵
6452. 17	神石郡神石町中郷	山 根 義 太郎	34	'57	a	a	o	0	93	1	4	10	兵
6452. 80	早岐郡早岐町本郷	新 生 堂 一	34	'61	b	b	a	o	92	1	4	0	
6452. 98	神石郡三和村高葉	広 瀬 操	34	'63	c	e	b	b	96	1	4	10	兵
6453. 31	神石郡油木町油木	木 井 敏 次郎	33	'61	b	b	a	o	83	1	7	0	
6460. 10	高田郡吉田町1丁目	岡 崎 喜 助	34	'58	a	a	o	0	01	1	4	24	兵
6460. 10	山形郡千代田町本郷石原	増 茂 次 二	36	'61	b	b	a	o	99	1	4	24	兵
6460. 76	高田郡白木町秋山	渡 辺 実 夫	34	'61	b	b	a	o	04	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査区									
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部					
					A	B	C	D	E					
6461. 27	世羅郡世羅町小原	宮 田 隆 一	34	'60	b	b	a	o	98	1	5	6	0	
6461. 53	美及郡佐々町清武谷	菅 正 二 郎	34	'57	a	a	o	0	97	1	4	24	兵	
6462. 03	世羅郡山内町西上原	山 崎 幸 一	34	'60	b	b	a	o	00	1	5	0		
6462. 59	府中市府中	川 瀬 一 夫	34	'60	b	b	a	o	03	4	6	24		
6463. 02	神石郡三和町坂原川	宮 井 新 一	34	'63	c	e	b	b	84	1	3	0		
6463. 73	芦品郡聖家町方尾倉	富 忠 雄 三	34	'61	b	b	a	o	01	1	9	25	兵	
6470. 11	安佐郡高陽町中深川中の壁	川 合 仁 一	39	'62	c	e	b	b	86	1	4	0		
6470. 59	安佐郡西条町字御鷹字	水 野 克 己	34	'60	b	b	a	o	00	7	13	24		
6470. 71	安芸郡海田町海田市上市	藤 本 末 三 郎	34	'58	a	a	o	0	02	1	8	6		
6471. 26	安佐郡海田町大字下河内下門田	藤 野 寿 恵 三	34	'60	b	b	a	o	85	7	6	0		
6471. 59	豊田郡本郷町本郷字西下門	府 本 寿 三	34	'61	b	b	a	o	03	1	8	0		
6471. 99	竹原市忠海町高家	岩 村 崇 三 郎	34	'64	c	e	b	b	99	1	4	0		
6472. 05	御調郡御調町丸河南	藤 井 隆 一	36	'61	b	b	a	o	99	1	8	0		
6472. 53	三原市西町大黒町	村 上 朝 太郎	34	'64	c	e	b	b	81	1	4	3		
6472. 58	尾道市久保町杵子小路	沼 尾 易 藏	34	'61	b	b	a	o	95	7	6	0		
6472. 68	御調郡向島町田尻中組	上 田 敏 次	34	'61	b	b	a	o	98	5	6	12	兵	
6473. 04	福山市空割町	青山 正 二 郎	34	'61	b	b	a	o	02	1	8	24	兵	
6573. 65	福山市朝町石井	常 田 岩 吉 三	34	'57	a	a	o	0	93	1	4	18		
6480. 29	豊田郡安藝町内海平本	山 本 忠 雄 三	34	'59	a	a	o	0	02	1	8	24		
6480. 41	呉市吉浦本町4丁目	尾 崎 喜 代 松	34	'58	a	a	o	0	79	0	9	29	兵	
6480. 91	安芸郡赤戸町赤多見宮田	西 河 内 悦 太郎	34	'52	a	a	o	0	93	1	5	0		
6481. 15	竹原市吉町西地区柏下	吉 村 龍 吉	34	'59	a	a	o	0	93	1	5	0		
6481. 50	世田郡本之江町5丁目	高 村 喜 一	34	'59	a	a	o	0	96	4	9	6		
6481. 90	安芸郡阿島町大字大浦	奥 村 一 人	34	'64	c	e	b	b	99	7	8	24		
6481. 94	豊田郡藤田大字	川 口 秀 男	34	'64	c	e	b	b	04	1	8	0		
6482. 04	三原市雲浦町向田野浦	藤 田 文 之 助	34	'54	a	a	o	0	96	1	6	24	兵	
6482. 23	豊田郡赤戸町福田	小 西 一 夫	34	'59	a	a	o	0	91	1	6	24	兵	
6482. 26	尾道市福原町東	岡 野 久 武 三	34	'59	a	a	o	0	96	5	8	20		
6483. 30	安芸郡赤穂町赤穂	岡 野 久 武 三	34	'59	a	a	o	0	93	1	4	0		
山口県														
6354. 46	表市見島本村	長 谷 川 鶴 碩	35	'64	c	e	b	b	94	1	8	24	兵	
6355. 91	表市祖島中	中 野 富 作	35	'62	c	e	b	b	00	1	6	0		
6366. 16	阿武郡川万町大字江崎式町	宅 野 富 彦	35	'62	c	e	b	b	93	3	6	0		
6366. 24	阿武郡熊住町大字銀川字水原	村 田 治 雄 吉	35	'62	a	a	o	0	89	1	7	0		
6366. 67	阿武郡熊住町大字鈴野川字大原	三 明 繁 次	35	'59	a	a	o	0	94	1	8	0		
6373. 59	大津郡池谷町大字向津具下本郷	高 倉 隆 次	35	'59	a	a	o	0	97	1	8	0		
6374. 84	豊浦郡豊北町角島元山	高 倉 四 郎 三	35	'64	c	e	b	b	94	1	3	6	24	兵
6374. 64	大津郡日置村大字日置上宇吉市	光 井 輝 鏡	35	'57	a	a	o	0	94	1	8	0		
6374. 68	長門市仙崎船泊町	藤 井 隆 一	35	'59	a	a	o	0	92	1	6	24	兵	
6375. 08	阿武郡阿武町大字赤吉浜	大 谷 伊 平	35	'62	c	e	b	b	93	3	4	0		
6375. 40	長門市11区	中 谷 米 松	35	'62	c	e	b	b	00	3	6	0		
6375. 65	表市青森	羽 島 時 松	35	'62	a	a	o	0	93	1	6	0		
6376. 33	阿武郡つむ村大字吉部上宇市下	吉 村 勤 一	35	'60	b	b	a	o	97	7	8	24	兵	
6376. 69	阿武郡阿東町佐能地区下市	水 津 四 十 二	35	'60	b	b	a	o	97	1	8	0		
6378. 70	呉市御調町佐能地区	森 上 政 一	35	'57	a	a	o	0	001	5	6	0		

調査地点 番 号	調査地点名	被調査者名	調査者姓名	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E			
6383. 28	豊浦郡豊北町大字深都字高根	木 下 正 一	35	'59	a	a	o	o	94	1	8	0
6383. 77	豊浦郡豊浦町大字箕小字湯玉	西 田 伴 四郎	99	'63	c	c	b	b	81	1	6	0
6384. 25	長門市侯山郡	藤 田 健 一	96	'61	b	b	a	a	86	1	8	0
6384. 73	豊浦郡豊田町大字西市字下市	龜 中 善 七	35	'59	a	a	o	o	100	7	8	0
6385. 10	美祿郡秋芳町葛万八代中辺	前 田 原 大 作	35	'62	c	c	b	b	03	1	8	0
6385. 28	阿武郡熊取町大字佐々	佐 々 文 幸 次	35	'64	e	c	b	b	99	1	8	3
6385. 63	美祿郡美東町大田地区下新町	吉 木 大 樹	35	'59	a	a	o	o	93	1	5	0
6385. 98	山口市大字上宇野令流区伊勢町前	佐 々 善 友 介	35	'57	a	a	o	o	87	1	8	0
6386. 32	阿武郡阿東町大字藤部字藤目	藤 井 清 蔵	97	'62	b	b	a	a	86	1	4	36
6386. 66	佐波郡雄地町大字八敷字三谷川	吉 屋 愛 吉	35	'60	b	b	a	a	02	1	2	12
6387. 48	玖珂郡瀬戸町大字広瀬字下向	餅 田 則 助	35	'61	b	b	o	a	89	5	3	24
6387. 62	郡彦郡瀬戸町大字鹿野上字上市	角 保 大 郎	35	'60	b	b	a	a	91	1	8	24
6388. 52	玖珂郡美和町大字下畑字神谷	久 保 七 介	35	'61	b	b	o	a	92	1	6	0
6393. 26	豊浦郡豊浦町鳳井地区原	大 江 依 十	35	'59	a	a	o	o	91	1	8	0
6393. 41	下関市大字善井島	岡 野 誠 五郎	35	'63	c	c	b	b	94	3	4	0
6394. 43	美祿市伊佐町牛明	吉 屋 長 一	35	'58	a	a	o	o	96	1	5	0
6394. 78	下関市吉田町編辻	藤 岡 又 六	35	'57	a	a	o	o	86	1	4	0
6394. 78	厚狭郡福町大字船水字下田町	河 野 太 介	35	'58	a	a	o	o	89	1	8	0
6395. 21	下関市小郡町東津津	窪 川 政 代	35	'58	a	a	o	o	98	1	6	24
6395. 46	下関市小郡町東津津	宮 藤 平 次郎	35	'58	a	a	o	o	93	5	8	0
6395. 61	下関市二原区松木田	吉 村 金 蔵	96	'65	e	c	b	b	04	5	8	0
6395. 97	下関市秋徳町東	岡 川 源 治	35	'63	e	c	b	b	97	5	8	0
6396. 08	佐波郡雄地町大字島地字市	石 丸 義 治	35	'63	e	c	b	b	92	5	8	24
6396. 42	防府市大字三田民村	藤 本 貞 三	35	'58	a	a	o	o	93	5	13	24
6396. 83	防府市大字向島字郷々輪	美 濃 長 一	35	'63	c	c	b	b	01	3	6	8
6397. 24	郡彦郡瀧町大字須賀本郷字下市	藤 井 秀 太郎	35	'60	b	b	a	a	96	1	6	0
6397. 62	徳山市大字池字西今宿	福 谷 甚 一	35	'61	b	b	o	a	94	7	12	0
6398. 07	岩国市西宮国木町1丁目	岡 成 光 蔵	35	'61	b	b	o	a	93	5	8	0
6398. 42	玖珂郡東町高森上庄	安 水 大 吉	35	'60	b	b	a	a	99	7	8	0
6398. 78	玖珂郡山崎町横町区	藤 本 武 治	35	'64	e	c	b	b	98	5	36	8
7303. 17	下関市武久	藤 木 貞 山	40	'61	b	b	a	a	98	1	8	0
7303. 37	下関市上田町8丁目	加 見 弘 太郎	40	'63	c	c	b	b	87	5	4	8
7304. 26	小野田市上屋	山 縣 重 雄	35	'63	e	c	b	b	96	4	15	24
7304. 29	下関市上屋	浜 田 善 亮	35	'58	a	a	o	o	00	4	8	0
7305. 13	下関市大字東鼓波字磯地	伊 藤 兼 治	35	'58	a	a	o	o	01	1	10	0
7307. 14	下関市大字空戸島本道	橋 本 修 治	35	'63	c	c	b	b	94	4	7	0
7307. 18	光市大字島田町	石 川 久 次	35	'57	a	a	o	o	93	1	8	0
7307. 48	光市大字室積浦上西之浜	小 村 守 作	35	'63	c	c	b	b	96	3	12	0
7308. 33	熊毛郡生野町大字生村字沼	西 木 吉 太郎	35	'61	b	b	a	a	02	1	8	0
7308. 48	大島郡大島町大字小松字北方石丸	岩 本 安 一	35	'61	b	b	o	a	00	1	6	0
7309. 37	大島郡東町伊保田字吉賀	大 沼 水 衛	96	'61	b	b	a	a	81	7	8	72
7309. 61	大島郡福町大字西宮下庄字正分	中 村 伊 作	35	'64	e	c	b	b	94	1	7	0
7317. 29	熊毛郡上関町大字尻島	出 田 政 次	35	'61	c	e	b	b	02	5	6	0
7318. 04	熊毛郡上関町大字津津	鈴 木 源 一	35	'64	e	c	b	b	94	1	8	0

調査地点 番 号	調査地点名	被調査者名	調査者姓名	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	A B C D E			
徳島県												
6485. 65	鳴門市鳴門町土佐治字大谷	笠 井 時 雄	36	'57	a	a	o	o	03	1	8	0
6495. 82	三好郡池田町吉町	橋 本 善 太郎	36	'61	b	b	o	a	99	7	12	0
6495. 88	三好郡三加茂町	立 花 徳 彦	36	'61	b	b	o	a	98	5	15	0
6496. 56	美馬郡福下町吉江	佐 藤 晴 一	35	'61	b	b	o	a	93	1	7	0
6496. 72	美馬郡貞光町北町	栗 原 剛 吉	36	'61	b	b	o	a	01	8	8	0
6497. 00	阿波郡市島町大影相楽	吉 本 久 六	36	'64	e	c	b	b	89	1	4	22
6497. 36	阿波郡上坂町高瀬	村 山 善 一	36	'60	b	b	a	a	90	1	6	0
6497. 41	阿波郡市島町大字市島町新	大 清 常 太郎	36	'60	b	b	a	a	93	7	13	0
6497. 77	徳島市八田町空木	細 川 武 雄	96	'62	c	e	b	b	99	1	8	0
6497. 90	麻郡美波郡村大字中枝字下浦	中 山 清 一	36	'64	e	c	b	b	94	1	4	0
6498. 00	阿波郡大塚町坂東字北条	菅 野 晋 一	36	'62	c	e	b	b	86	1	8	0
6498. 33	阿波郡市島町久	新 井 茂 三	36	'59	a	a	o	o	90	1	8	0
6498. 41	徳島市伊予町3丁目	郡 有 信 一	36	'62	e	c	b	b	97	7	9	0
6498. 93	小松島市二条通1	今 村 清 彦	36	'61	b	b	o	a	00	7	13	0
7425. 21	三好郡池田町大和込	喜 多 六 吉清	36	'64	e	c	b	b	86	2	4	0
7425. 35	三好郡西祖谷山村小祖谷	豊 田 孝 三門	36	'52	a	a	o	o	84	1	4	0
7425. 85	三好郡東祖谷山村大西	豊 田 孝 三門	36	'59	a	a	o	o	02	1	0	0
7426. 25	美馬郡次歌町吉宮字暮生	小 山 勇 雄	36	'59	a	a	o	o	02	1	0	0
7426. 63	美馬郡一村大字川又美平	真 平 栄 雄	96	'61	b	b	a	a	02	2	22	兵
7427. 24	名西郡神山町神領字中津	原 金 一 郎	36	'59	a	a	o	o	89	5	8	0
7427. 36	勝浦郡上勝町大字正木字榎地	瀧 田 昭 大 三	36	'59	a	a	o	o	01	1	8	0
7428. 25	那賀郡那賀町大字中ノ庄	田 中 鶴 藏	36	'60	b	b	a	a	02	1	9	3
7428. 50	阿南市大井町	岡 田 政 太郎	36	'63	e	c	b	b	94	1	4	0
7428. 75	阿南市福岡西浜	東 条 伊 之 助	36	'60	b	b	a	a	99	5	8	0
7416. 34	那賀郡本田村大字北川字大地平	谷 津 吉 幸	98	'61	b	b	a	a	89	2	4	3
7417. 22	那賀郡上那賀町平谷字福野尾	家 設 昌 八	36	'63	e	c	b	b	89	1	4	0
7417. 27	那賀郡相生町井野	東 野 勘 治	36	'58	a	a	o	o	90	1	2	6
7417. 72	海部郡海南町町ノ瀬	谷 井 洸 藏	36	'63	e	c	b	b	93	7	4	0
7418. 07	海部郡日佐町山内河内字木村	坂 本 清 美	36	'58	a	a	o	o	03	1	2	0
7418. 07	阿南市梅町横尾	丸 尾 光 太郎	36	'62	e	c	b	b	02	1	7	0
7418. 33	海部郡由岐町ノ地	小 谷 宗 太郎	36	'58	a	a	o	o	92	1	6	0
7427. 24	海部郡海南町浅川字栗の浦	福 本 周 吉	36	'60	b	b	a	a	84	1	6	0
香川県												
6467. 73	小豆郡内海町福田	山 口 孫 平	96	'62	e	c	b	b	89	7	4	36
6475. 61	丸亀市本島町	横 田 繁 太郎	97	'61	b	b	a	a	91	5	7	36
6476. 13	小豆郡土庄町豊島居原	梶 野 吉 夫	37	'63	e	c	b	b	90	1	4	0
6476. 17	小豆郡土庄町	川 口 四 郎	37	'60	b	b	a	a	99	5	6	15
6476. 22	高松市丸亀町	三 好 吉 太郎	37	'62	e	c	b	b	95	8	8	26
6476. 93	高松市東町	長 村 高 次郎	37	'57	a	a	o	o	96	1	8	3
6477. 02	小豆郡内海町草壁	長 村 高 次郎	37	'61	b	b	a	a	03	1	6	3
6484. 43	三豊郡阿南町大字	竹 上 善 太郎	37	'64	e	c	b	b	99	1	6	26
6484. 78	三豊郡三野村大字字崎崎	佐 藤 林 吉 三	37	'57	a	a	o	o	01	1	6	0
6485. 14	坂出市松ノ枝町	藤 井 幸 吉	37	'59	a	a	o	o	00	4	6	6
6485. 30	仲多度郡多度津町大通町	餅 田 忠 太郎	37	'62	e	c	b	b	92	7	3	0

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査者	調査年	調 査 票										
					第1期	第2期	第3期	第4期	A	B	C	D	E		
6485. 66	綾歌郡綾南町大字南宮	西山 元敬	37	'61	b	b	a	a	01	1	6	2			
6485. 62	仲多伎郡摩亨町道明	竹川 龍次	37	'59	a	a	0	0	02	5	9	21			
6486. 07	大川郡志茂町大字志茂	王 越定 喜興	37	'58	a	a	0	0	02	5	30	6			
6486. 50	香川郡香南町大字由佐	'58	a	a	0	0	1	9	1	6	6	兵			
6486. 93	香川郡塩江町塩江	堀 井 秀一	37	'63	c	c	b	b	95	2	4				
6487. 43	大川郡大内町三本北北町	九 嶋 市 男	37	'59	a	a	0	0	98	5	20	兵			
6487. 66	大川郡引田町南後松	齋 原 重一	37	'60	b	b	a	a	98	1	4	0			
6494. 08	三豊郡豊中町笠田字笠田	大 西 昌八	37	'61	b	b	a	a	98	1	8	兵			
6494. 21	巖倉寺市伊吹町	三 好 春 吉	37	'64	c	c	b	b	01	3	8	0			
6494. 55	三豊郡豊浜町大字和田浜	武 下 禮 市	37	'60	b	b	a	a	99	5	8	0			
6495. 18	仲多伎郡摩亨村中道本村	西 村 好 太郎	97	'61	b	b	a	a	85	1	6	0			
粟 嶺 集															
6482. 82	越智郡上浦村大字甘藷字口狭	浅 海 保一	38	'57	a	a	0	0	89	1	8	0			
6482. 75	越智郡白方町大字木浦字瀬戸浜	西 田 俊 隆	38	'62	c	c	b	b	02	5	8	32			
6491. 49	今治市大浜字松木	村 上 定 次郎	38	'59	a	a	0	0	97	1	8	0			
6491. 61	越智郡新岡町大字佐方	八 家 善 太郎	38	'58	a	a	0	0	91	1	9	0			
6492. 11	越智郡吉海町字新田	八 家 善 太郎	38	'58	a	a	0	0	99	1	8	24	兵		
6492. 50	今治市米里町4丁目	八 家 善 太郎	38	'55	c	c	b	b	08	4	6	7	兵		
7329. 39	喜多郡長浜町仁久	浜 上 友 伸	35	'65	c	c	b	b	02	5	6	36			
7329. 57	喜多郡長浜町藤生	宝 生 盛 朗	35	'61	b	b	a	a	94	5	7	13			
7328. 48	西字郡和瀬戸町大字川之浜	阿 部 敏 朗	38	'62	c	c	b	b	98	1	7	12			
7328. 55	西字郡三崎町二名浜	浜 西 庄 松	38	'57	a	a	0	0	02	1	6	0			
7329. 27	八幡濱市旭町	渡 油 忠 雄	38	'59	a	a	0	0	92	7	12				
7329. 67	東字郡明浜町大字高山	二 宮 善 平	38	'59	a	a	0	0	78	1	3	0			
7349. 06	北字郡那智和梅村大字西洞字豊浦	三 好 善 造	38	'63	c	c	b	b	97	1	3	0			
7349. 91	北字郡那智和梅村大字巨鹿島字明海	油 田 榮 造	38	'63	c	c	b	b	99	1	6	24	兵		
7329. 78	南字郡内海村家中	池 田 謙 彦	38	'63	c	c	b	b	01	1	6	24	兵		
7400. 11	温泉郡中島町元昭和	窪 岡 岩 太郎	38	'62	c	c	b	b	03	1	8	0			
7400. 15	温泉郡中島町大浦	山 田 賢 一	38	'57	a	a	0	0	01	1	8	38	兵		
7401. 11	北条市大字比字朝日町	西 山 長 五郎	38	'59	a	a	0	0	93	4	7	24			
7401. 18	越智郡玉川村大字鈍川字中道	角 田 善 太郎	97	'61	b	b	a	a	93	1	6	48	兵		
7401. 60	松山市福内町中筋	榎 川 武 雄	38	'65	c	c	b	b	03	1	8	24	兵		
7401. 92	松山市東野町	渡 川 四 郎	38	'61	b	b	a	a	87	1	5	24	兵		
7402. 42	岡谷郡生土川町新町	大 野 金 作	38	'59	a	a	0	0	01	1	8	0			
7402. 47	西条市東町1丁目	高 橋 重左衛門	38	'59	a	a	0	0	98	5	6	0			
7403. 16	宇摩郡土原町大字上天浦字寺の下	寺 尾 留 吉	38	'58	a	a	0	0	93	1	8	0			
7403. 21	新原浜市新原浜本町	白 石 三 代 太	38	'60	b	b	a	a	91	5	7	0			
7403. 86	宇摩郡別子山村保土野	近 藤 基 平 太	38	'62	c	c	b	b	95	1	6	0			
7404. 12	伊予三路市三島町字上町	森 田 菊 隆	38	'58	a	a	0	0	97	4	8	0			
7404. 56	宇摩郡新宮村字瀬瀬川字土居	石 川 龍 三 郎	38	'57	a	a	0	0	82	1	8	12	兵		
7410. 27	伊予市大字御幸字住蓮	西 村 健 三	38	'60	b	b	a	a	89	1	4	2	兵		
7410. 52	温泉郡川内町大字堀之内字一ヶ谷	近 藤 敏 雄	38	'61	b	b	a	a	96	7	8	24			
7411. 61	伊予郡砥部町大字大字大谷	藤 原 浩 吉	38	'60	b	b	a	a	81	1	5	2	0		
7412. 96	西条市西之川山字吉瀬谷	伊 藤 正 吉	97	'61	b	b	a	a	91	2	4	0			
7412. 31	周桑郡丹原町大字明河保野井字日浦	渡 藤 重 太郎	38	'62	c	c	b	b	92	2	0	3	兵		

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被調査者名	調査者	調査年	調 査 票									
					第1期	第2期	第3期	第4期	A	B	C	D	E	
7412. 17	上浮穴郡西河村大字祐野字西之谷	正 藤 平 吉	38	'60	b	b	a	a	87	1	2	4	24	兵
7420. 18	伊予郡中山町桑町3丁目	西 田 義 雄	38	'60	b	b	a	a	98	5	6	24	兵	
7420. 91	大浜市大浜本町2丁目	栗 田 太 治郎	38	'61	b	b	a	a	73	5	4	24	兵	
7421. 38	上浮穴郡美川村上黒岩字現	西 田 治 雄	38	'60	b	b	a	a	69	1	7	3	兵	
7421. 62	上浮穴郡小田町町字村	梶 屋 太 三	38	'61	b	b	a	a	92	5	8	0		
7420. 15	大浜市直山字直谷	横 尾 佐 太郎	38	'61	b	b	a	a	95	7	4	3	兵	
7420. 75	東字郡那智町野村本町3丁目	本 泉 竹 枝	38	'61	b	b	a	a	03	1	6	0		
7420. 80	東字郡那智町黒庄	河 野 英 雄	38	'65	c	c	b	b	00	5	8	0		
7421. 08	上浮穴郡岩谷村岩谷字古味	森 岡 仁 助	38	'63	c	c	b	b	89	1	4	0		
7421. 13	東字郡那智町小原字大久保	水 山 吉 光	38	'65	c	c	b	b	02	1	6	0		
7421. 82	東字郡那智川村大字高野字大田原	小 田 原 伊 太郎	38	'59	a	a	0	0	95	1	4	0		
7440. 69	北字郡那智野町大字吉野字豊登	藤 崎 寺 政 太郎	38	'59	a	a	0	0	94	1	12	0		
7440. 72	宇和島市大工町	眞 山 新 介	38	'59	a	a	0	0	98	5	6	22		
7450. 20	北字郡那智島町若松	浅 野 政 美	38	'59	a	a	0	0	03	7	24	兵		
7450. 44	北字郡那智島町新内	日 南 栄 作	97	'61	b	b	a	a	03	1	6	0		
7460. 23	南字郡那智町長野	畑 田 東 平	39	'57	a	a	0	0	93	1	24			
7460. 30	南字郡西海町輪越	伊 藤 正 芳	39	'63	c	c	b	b	01	5	6	24		
高 加 集														
7413. 29	土佐郡川村輪戸橋が谷	西 村 義 治	39	'64	c	c	b	b	02	1	7	0		
7413. 62	土佐郡川村長浜	村 田 茂 三	39	'62	c	c	b	b	01	2	8	0		
7413. 69	土佐郡土佐川原石原	坂 本 重 彦	39	'62	c	c	b	b	03	1	6	18	兵	
7414. 06	長岡郡大豊村立川下名成川	清 野 善 次	39	'62	c	c	b	b	95	2	6	24		
7414. 43	長岡郡本山町太山町	前 田 武 巳	39	'62	c	c	b	b	98	1	7	1		
7414. 82	長岡郡大豊村高茂谷	佐 藤 寿 堂	39	'61	b	b	a	a	03	1	8	4		
7415. 01	長岡郡大豊村岩倉111番里敷	小 笠 原 金 雄	39	'59	a	a	0	0	81	1	4	3	兵	
7415. 47	香美郡那智村久保堂の岡	佐 中 芳 治	39	'62	c	c	b	b	92	2	6	0		
7415. 85	香美郡那智村大新	山 中 芳 治	39	'60	b	b	a	a	94	1	0	3	兵	
7422. 26	吾川郡池川町東川の谷	山 中 松 彦	39	'62	c	c	b	b	91	1	4	0		
7422. 12	吾川郡吾川町小川龍山	清水 北 三郎	39	'60	b	b	a	a	02	1	6	0		
7422. 77	吾川郡伊野町大和町	町 田 藤 三 郎	39	'58	a	a	0	0	88	5	6	38	兵	
7423. 00	高岡郡越前町	坂 本 篤 彦	39	'59	a	a	0	0	99	8	3	兵		
7424. 60	高知市福井町	榎 瀬 潤 美	39	'59	a	a	0	0	81	7	6	1		
7424. 61	高知市江ノ口	小 川 清 彦	39	'63	c	c	b	b	91	5	9	0		
7424. 67	香美郡野市町西野	近 藤 善 亀 知	39	'58	a	a	0	0	86	5	11	0		
7425. 02	香美郡在所村杉の本	小 松 正 明	39	'57	a	a	0	0	03	1	9	12		
7425. 22	安芸郡石田大字野	小 松 善 吉	39	'64	c	c	b	b	88	1	0	0		
7425. 82	安芸郡芸西村和倉	松 本 啓 一郎	39	'59	a	a	0	0	96	1	8	2		
7426. 61	安芸郡那賀村日浦	岩 城 立 吉	39	'60	b	b	a	a	94	7	7	8		
7426. 74	安芸郡北川村高	上 村 英 太郎	39	'62	c	c	b	b	99	5	6	0		
7427. 71	安芸郡平浦町	森 島 真 吉	36	'57	a	a	0	0	81	5	4	0		
7427. 90	安芸郡那賀村大字野根	岡 初 男	36	'61	b	b	a	a	87	5	10	0		
7428. 47	高岡郡那賀村大字野根	中 越 隆 太郎	39	'61	b	b	a	a	02	1	6	0		
7428. 44	高岡郡那賀村大字野根	西 谷 昌 三郎	39	'58	a	a	0	0	92	1	6	0		
7428. 95	高岡郡大見村大字春路	石 村 友 太郎	98	'61	b	b	a	a	80	1	0	0		
7433. 37	土佐市佐西の丁	吉 市 信 之 助	39	'59	a	a	0	0	90	3	0	0		

調査地点 番	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	A	B	C	D
7433. 02	静岡市多の郷神田	井上 業 男	39	'57	a	a	a	0	92	6	9	12
7434. 02	高知市浦戸	藤内 健一	39	'62	c	c	b	b	98	5	11	0
7435. 07	安芸市伊豆木	有沢百千万	39	'59	a	a	a	0	84	9	4	1
7436. 04	安芸郡田町町東町	川田 新太郎	39	'57	a	a	a	0	80	7	12	4
7436. 06	安芸郡佐喜浜町舟場中里	小笠原 繁	39	'58	a	a	0	97	1	3	6	0
7436. 73	宝戸市羽田中野大岸	町田 歩	39	'64	c	c	b	b	03	1	7	0
7441. 19	高岡郡藤原村松原字大岸	久岡 良 晴	39	'64	c	c	b	b	03	1	2	2
7441. 63	穂多郡十和村川口	武本 元太郎	39	'59	a	a	0	94	1	6	0	
7441. 69	穂多郡大正町野々	武内 増吉	39	'59	a	a	0	96	1	8	0	
7442. 39	高岡郡中土佐町上の加江	岸本 元太郎	39	'60	b	b	a	0	92	3	6	0
7442. 75	高岡郡窪川町窪川	河野 虎太郎	39	'59	a	a	0	86	9	8	24	
7446. 26	安芸郡室戸町室家	川田 勝次	39	'59	a	a	0	91	1	4	0	
7451. 22	穂多郡西土佐村瀬の川中屋敷6番屋敷	高田 作真	39	'61	b	b	0	93	1	2	氏	
7451. 77	中村市廣岡	渡辺 周夫	39	'61	b	b	0	96	1	8	1	
7452. 08	高岡郡窪川町興津津分	山崎 吉太郎	39	'64	c	c	b	b	92	3	4	18
7452. 20	中村市常六	谷 祐太郎	39	'63	c	c	b	b	92	1	9	0
7452. 54	穂多郡佐賀町佐賀	川 西 英 雄	39	'60	b	b	a	0	92	7	8	0
7460. 39	舊毛市舊毛	高橋 忠三郎	39	'57	a	a	0	91	1	2	氏	
7461. 03	中村市有馬	金沢 芳太郎	39	'61	b	b	0	91	1	8	0	
7461. 33	土佐清水市下の加江町小方	和田 勝太郎	39	'61	b	b	0	94	5	9	12	
7461. 77	穂多郡大月町坂の井	塩 石 兵 太郎	39	'61	b	b	0	98	1	1	氏	
7470. 29	窪毛市沖の島風	金子 松吉	39	'63	c	c	b	b	88	3	1	24
7471. 33	土佐清水市下川口部	岩井 菊之助	39	'62	c	c	b	b	90	1	4	18
7471. 38	土佐清水市越2番屋敷	門田 次太郎	39	'58	a	a	0	88	3	1	0	
	窪 限 屋											
7301. 67	宗像郡大島村字西区	遠藤 卯太郎	40	'63	c	c	b	b	98	5	8	24
7302. 66	遠賀郡芦屋町第一船場町	長野 賢二郎	40	'63	c	c	b	b	97	0	8	0
7302. 71	宗像郡玄海町大字越崎	西田 太平	40	'63	c	c	b	b	94	3	4	0
7302. 87	遠賀郡水巻町大字頃末字定田	久保田 辰次	40	'58	a	a	0	86	1	8	0	
7303. 29	門司市大字下ノ浦	西田 金藏	40	'57	a	a	0	88	5	8	0	
7303. 38	門司市八幡町3丁目	柴崎 正治	40	'63	c	c	b	b	92	8	0	0
7303. 61	若松市藤ノ木森町	平野 政成	40	'59	a	a	0	99	1	3	24	
7303. 75	北九州市小倉区御天宮	長住 千 美	40	'64	c	c	b	b	85	4	1	0
7311. 68	相模郡吉賀町吉賀栄町2丁目	魚崎 朝薫	40	'59	a	a	0	81	1	7	24	
7312. 11	宗像郡宗像町字田原	力 大 輔一	40	'57	a	a	0	93	1	8	2	
7312. 67	直方市大字下境字辻屋	和田 峰三郎	40	'56	a	a	0	91	1	4	24	
7312. 83	鞍手郡若宮町大字扇田	大 村 敬	40	'64	c	c	b	b	94	1	8	0
7313. 34	小倉市大字木ノ下	溝口 達	40	'61	b	b	a	0	98	1	8	0
7313. 68	行橋市市津漁	堤 勇 太郎	40	'61	b	b	a	0	91	1	8	24
7320. 59	糸島郡那珂町大字桜持字妻老	田 渡 重助	40	'58	a	a	0	89	1	4	24	
7320. 95	糸島郡二丈村字笹江	堀田 長次郎	40	'62	c	c	b	b	92	1	8	3
7321. 46	福岡市(博多)片土原町	中西 金次郎	39	'58	a	a	0	96	5	6	0	
7321. 87	筑紫郡那珂川町片岡字下片岡	坂井 清	37	'65	c	c	b	b	01	1	8	0
7321. 93	早良郡平良町字東入部	安田 秀七郎	40	'57	a	a	0	88	8	8	24	

調査地点 番	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	A	B	C	D
7322. 17	原市大字立岩字笠松	花元 千代松	40	'60	a	a	a	0	96	1	4	0
7322. 21	船屋郡森栗町中町	藤 本 茂	37	'62	b	b	a	0	06	1	4	0
7322. 79	嘉穂郡嘉穂町大字大隈字上町	中 島 裕一	40	'54	c	c	b	b	87	5	8	0
7322. 81	筑紫郡大宰府町大字大宰府字大町	吉 賀 孝 雄	40	'58	a	a	0	90	5	10	24	
7323. 02	田川市大字下伊田	中 川 敏二	40	'60	a	a	a	0	98	1	4	0
7323. 17	京都郡厚川町上本庄	中 村 秀一	40	'60	a	a	a	0	96	7	8	0
7323. 64	田川郡藤田町大字明田	中 村 俊次	40	'64	c	c	b	b	88	1	4	0
7324. 24	豊前市松江	大 森 政 雄	40	'61	c	c	b	b	90	1	4	0
7331. 27	筑紫郡那珂川町不入道字中水戸	渡 田 隆	40	'59	a	a	0	95	1	4	0	
7332. 27	甘木市秋月町	田 尻 一 郎	40	'62	c	c	b	b	98	7	8	0
7332. 46	甘木市大字甘木恵比須町	高 良 金三郎	40	'59	a	a	0	98	5	6	0	
7332. 52	三井郡小郡町字大保	佐々木 良藏	40	'62	c	c	b	b	89	1	8	0
7332. 97	浮羽郡田上丸町上新町	林田 健次郎	40	'57	a	a	0	89	5	8	0	
7333. 51	甘木市高木町大字黒川字馬場	島 原 熊吉	40	'59	a	a	0	97	1	4	24	
7341. 47	三浦郡城島町字城島	権 藤 広 吉	41	'59	a	a	0	91	4	8	0	
7342. 10	久留米市藤野町5丁目	小川 栄次郎	40	'62	c	c	b	b	89	4	8	0
7342. 12	久留米市御井町字灯ノ町の東	大 石 万 蔵	40	'58	a	a	0	93	5	8	0	
7342. 72	八女市藤平	泉 兼 盛 蔵	36	'63	c	c	b	b	98	5	6	26
7342. 76	八女郡黒木町黒木	泉 兼 盛 蔵	40	'58	a	a	0	97	5	7	0	
7343. 14	浮羽郡浮羽町大字小蓮字小松原	井 井 美 英	44	'61	b	b	a	0	97	1	8	0
7351. 06	川门市堺町	遠 藤 聖 彦	40	'62	c	c	b	b	93	7	12	0
7351. 66	山門郡藤崎町下ノ庄恵比須町	高 須 美 太郎	40	'57	a	a	0	96	5	8	24	
7351. 68	大牟田市大字坂木上	江 戸 栄 治	40	'60	a	a	0	96	1	8	24	
7352. 14	八女郡花石町上道字李立石	野 中 重 信	43	'64	c	c	b	b	03	1	8	26
7353. 03	八女郡久保村大字矢部字石巻	佐 賀 信 吉	37	'60	c	b	b	a	00	7	8	0
7359. 50	東松浦郡那珂町大字洲波島新村中野部	牧 山 高 治	41	'62	c	c	b	b	03	1	6	0
7359. 75	東松浦郡呼子町字小谷町	柴 田 定	41	'61	b	b	a	0	95	5	8	12
7359. 24	東松浦郡玄海町牟形	寺 田 吉 治	39	'60	b	b	a	0	85	1	8	72
7359. 29	唐津市城西内	戸 川 隆 一	41	'60	b	b	a	0	83	5	14	26
7359. 85	伊万里市並多津町大字知津	金子 鉄之助	41	'58	a	a	0	91	1	7	24	
7359. 35	伊万里市伊万里町上井町	多 久 島 聖 吉	41	'55	a	a	0	96	5	8	0	
7359. 95	西松浦郡有田町外尾町	森 永 徳 新	41	'60	a	a	0	98	6	8	5	
7359. 31	東松浦郡那珂島町貞崎東区	岩 正 夫	41	'62	b	b	a	0	92	8	6	0
7359. 77	佐賀郡土井字貝野	貝 野 勘一	41	'64	c	c	b	b	90	1	4	15
7359. 91	東松浦郡相模町大字田原	黒 木 吉 藏	41	'57	a	a	0	96	1	4	0	
7360. 26	博多郡三浦村字押高	田 渡 良一	41	'60	b	b	a	0	92	1	8	4
7360. 27	多良木市多良木町多良木	武 川 明 一	41	'63	c	c	b	b	05	1	8	4
7360. 27	小城市小城町北小路	山口 卓二	41	'63	c	c	b	b	97	1	8	4
7360. 50	武雄郡若木町大字古山古中	山 口 卓二	41	'61	b	b	a	0	94	1	7	0
7361. 42	佐賀市井原町下村	西 村 進 久 治	41	'59	a	a	0	98	5	10	30	
7341. 51	佐賀市伊勢屋町	柴 野 野 夫	41	'62	c	c	b	b	99	5	9	0
7359. 21	藤津郡塚田町字本谷	峰 松 信一	41	'59	a	a	0	90	1	8	0	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部				
					A	B	C	D	E				
7350.44	鹿島市浜町南舟津	小 柳 勝一	41	'64	c	e	b	b	96	3	0	0	兵
7350.46	鹿津郡太良町大字赤松小字河内農崎集	川 崎 篤一	41	'60	b	b	a	o	76	1	4	0	兵
6267.16	上臈郡上野町佐須	山 本 栄吉	42	'57	a	a	o	73	0	8	12	兵	
6267.69	上臈郡上野町早	米 田 眞 男	96	'65	c	e	b	b	97	1	11	兵	
6267.34	上臈郡上野町榎岡	川 田 藤 久	96	'65	c	e	b	b	88	1	12	兵	
6277.62	下臈郡彦根村大字仁仁	河 内 清	41	'61	b	b	a	a	92	1	4	12	兵
6286.68	下臈郡鹿原町大字小皮田	澤 藤 肇	97	'63	c	e	c	b	96	1	3	12	兵
6287.42	下臈郡津島町大字彌知	吉 野 上 敏 大	41	'61	b	b	a	a	84	7	4	0	兵
6287.71	下臈郡鹿原町天道渡	平 川 武 実	41	'61	b	b	a	a	91	7	12	16	兵
6296.27	下臈郡鹿原町大字豆股	小 森 入 兵 衛	41	'61	b	b	a	a	00	3	4	0	兵
7208.97	赤松郡藤本町藤本浦	土 肥 貞 木	41	'62	c	e	b	b	00	9	6	0	兵
7218.09	赤松郡芦刈町四神町の尾越	日 高 栄 大 郎	99	'60	b	b	a	o	88	7	0	0	兵
7218.26	赤松郡藤本町南里集	山 口 藤 大 郎	99	'60	b	b	a	o	91	0	6	84	兵
7218.58	赤松郡藤本町油町水田集	池 元 篤 吉	99	'60	b	b	a	o	99	1	0	24	兵
7237.47	北松浦郡生月町一彦浦	志 水 晋 次 郎	41	'62	c	e	b	b	89	2	0	0	兵
7238.12	北松浦郡大島村神の浦	平 松 栄	41	'62	c	e	b	b	97	6	0	0	兵
7238.40	平戸市鹿島町鹿島浦	西 原 久 一郎	41	'62	c	e	b	b	97	1	3	0	兵
7238.82	平戸市赤島町	松 原 久 三 郎	41	'62	c	e	b	b	91	7	18	2	兵
7238.86	松浦市御前町山内	中 山 義 一	42	'60	a	a	o	98	1	4	0	兵	
7238.90	平戸市中野町(町中免)	松 水 重 之 次	42	'57	a	a	o	94	1	4	0	兵	
7239.41	北松浦郡藤島村神崎	近 藤 善 彦 夫	41	'61	b	b	a	a	78	1	2	30	兵
7239.82	北松浦郡藤島村須賀	木 寺 福 次 郎	41	'61	b	b	a	a	87	1	0	0	兵
7239.90	松浦市今福町柳原	坂 口 勇 太 郎	41	'62	c	e	b	b	89	1	4	24	兵
7246.45	北松浦郡久町平字佐原里	岩 本 五 郎	97	'61	b	b	a	a	85	3	7	36	兵
7246.82	北松浦郡小値賀町富吹	野 元 五 郎 作	99	'60	b	b	a	o	69	1	0	0	兵
7247.86	平戸市志々伎町	山 田 善 三 郎	97	'61	b	b	a	a	01	5	0	30	兵
7248.15	北松浦郡江刺町大字長坂字鏡野村	山 浦 英 大 郎	97	'61	b	b	a	a	88	1	0	0	兵
7248.49	北松浦郡志知原町木津原免	陣 野 重 一	41	'61	b	b	a	a	94	1	0	24	兵
7248.64	北松浦郡小佐々町田原	山 本 亮 大 郎	41	'63	c	e	b	b	02	1	4	0	兵
7248.99	佐世保市山手町	藤 井 栄 治	42	'58	a	a	o	93	7	6	30	兵	
7252.64	南松浦郡新魚町立串	小 倉 清	42	'60	a	a	o	95	7	10	51	兵	
7252.94	西松浦郡芦町江島郡	富 田 依 治	41	'64	c	e	b	b	98	1	3	0	兵
7252.98	西松浦郡瀬川村横瀬本郷	土 石 増 吉	42	'57	a	a	o	92	1	4	18	兵	
7258.64	西松浦郡大島町幸町	大 石 太 郎	42	'60	a	a	o	98	7	4	12	兵	
7258.82	西松浦郡芦町船の浦郷	井 上 近 次 郎	41	'64	c	e	b	b	83	1	2	18	兵
7258.99	西松浦郡寄役村八木原郷白浜	橋 本 圭 一	41	'64	c	e	b	b	92	1	6	36	兵
7259.22	佐世保市早町	松 崎 輝 雄	42	'63	c	e	b	b	95	0	11	3	兵
7259.54	東松浦郡川瀬町中郷郷	松 崎 精 二	42	'59	a	a	o	94	5	3	30	兵	
7259.98	東松浦郡東松浦町平良田郷	森 林 英 大 郎	41	'63	c	e	b	b	95	1	7	0	兵
7266.09	西松浦郡芦町平島	林 田 吉 治	41	'64	c	e	b	b	03	1	6	0	兵
7266.34	南松浦郡有川町船の浦	浦 田 小 吉	42	'58	a	a	o	92	1	3	0	兵	
7266.60	南松浦郡若松町若松郷	山 本 一 鬼 夫	41	'64	c	e	b	b	98	3	4	0	兵
7266.92	南松浦郡奈良岡町奈良岡	橋 本 文 太 郎	97	'61	b	b	a	a	91	3	7	48	兵
7268.45	西松浦郡大瀬町瀬戸瀬浦	森 崎 長 次 郎	42	'58	a	a	o	03	1	8	0	兵	

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部				
					A	B	C	D	E				
7265.87	西松浦郡外海町字神の浦小字下大野	沢 口 寛 助	41	'64	c	e	b	b	03	1	8	40	兵
7269.49	大村市油田郷	井 川 徳 三 郎	42	'57	a	a	o	90	7	1	4	0	兵
7269.51	西松浦郡早海村長浦	小 佐々文一	97	'61	b	b	a	a	97	1	0	27	兵
7269.96	西松浦郡長与村木川内郷大越	尾 崎 隆 茂	41	'63	c	e	b	b	97	1	0	3	兵
7274.57	南松浦郡三井浜町本浜須/野郷	真 方 沢 大	42	'57	a	a	o	93	5	12	36	兵	
7275.07	南松浦郡奈良宿村夏井	藤 本 利 則	42	'60	a	a	o	99	9	3	11	60	兵
7275.24	南松浦郡久賀島村久賀	藤 田 伝 吉 衛	42	'60	a	a	o	99	0	8	1	0	兵
7275.84	福江市上大字	佐々野晋吉	42	'57	a	a	o	90	1	8	60	兵	
7279.01	西松浦郡三重村多良良	益 田 直 大 郎	42	'59	a	a	o	90	7	1	4	36	兵
7279.93	長崎市大浦元町	藤 塚 泰 造	42	'59	a	a	o	96	7	8	0	兵	
7279.95	長崎市平の浦町	藤 山 寅 次	41	'63	c	e	b	b	96	1	6	24	兵
7284.16	南松浦郡志玉の浦町中須郷	中 里 晋 助	97	'61	b	b	a	a	03	7	10	100	兵
7289.31	西松浦郡野田崎町高峯	三 浦 政 喜	97	'61	b	b	a	a	96	1	4	0	兵
7290.47	北高家郡小長井村原浦	倉 本 茂 雄	42	'59	a	a	o	97	1	4	12	兵	
7290.92	津島市吉見町1丁目	西山 庄 三 郎	42	'58	a	a	o	94	0	8	0	兵	
7361.82	南高家郡野見町多比良馬場	大 田 清 三 郎	99	'60	b	b	a	a	02	9	2	24	兵
7370.16	南高家郡野見町中島	松 原 秀 一	41	'63	c	e	b	b	94	1	6	24	兵
7370.41	北高家郡藤島村江浦下釜	松 原 勝 治	42	'59	a	a	o	02	1	11	84	兵	
7370.58	南高家郡小浜町北野	中 村 福 松	42	'58	a	a	o	92	1	4	12	兵	
7371.54	島根市安中	福 島 吉 次 郎	42	'58	a	a	o	85	1	2	30	兵	
7380.26	南高家郡有家町原尾名	松 原 純 孝	41	'63	c	e	b	b	91	1	4	0	兵
7380.26	南高家郡加津佐町大和町	藤 井 茂 雄	42	'58	a	a	o	91	3	8	0	兵	
7382.38	鹿本郡鹿本村大字四丁字中間	鹿 松 義 行	97	'60	b	b	a	o	91	1	6	0	兵
7382.61	玉名郡南関町阿瀬池浦	池 田 茂 人	43	'57	a	a	o	03	1	8	0	兵	
7382.97	山鹿市日吉町	堀 元 次 郎	59	'59	a	a	o	94	5	8	0	兵	
7383.51	鹿本郡鹿本村大字矢谷字下矢谷	湖 上 吉 茂	43	'61	b	b	a	a	97	1	4	24	兵
7384.23	阿蘇郡小国町大字上田字藏園	北 里 重 吉 夫	43	'61	b	b	a	a	91	1	4	0	兵
7386.17	荒瀬市大字荒瀬	前 田 松 茂	43	'60	b	b	a	a	86	1	4	24	兵
7386.42	玉名市高瀬	高 田 久 士	43	'60	b	b	a	a	05	7	0	0	兵
7386.67	鹿本郡鹿本町榑木3丁目	友 枝 敏 弘	43	'59	a	a	o	93	5	8	0	兵	
7386.12	南松浦郡池崎町榑木浦	今 坂 啓 康	43	'59	a	a	o	88	4	4	0	兵	
7386.39	阿蘇郡阿蘇町大字赤水	中 田 篤 彦	43	'62	c	e	b	b	90	1	5	0	兵
7386.83	南松浦郡阿蘇町内	上 岡 晋 雄	43	'59	a	a	o	92	1	8	36	兵	
7386.34	阿蘇郡一之宮町大字宮地字田島	田 上 村 重 三	43	'60	b	b	a	a	01	1	9	24	兵
7372.03	鹿本郡内房町大字和津	池 田 隆 茂	42	'62	c	e	b	b	95	1	5	24	兵
7372.27	鹿本市古市組上町	清水 茂 三 郎	42	'61	b	b	a	a	95	1	5	24	兵
7372.95	宇土市新1丁目	松 本 常 茂	43	'59	a	a	o	91	4	7	26	兵	
7373.23	上松浦郡志保町水山大字寺迫	登 島 政 雄	43	'58	a	a	o	94	1	4	0	兵	
7373.66	上松浦郡志保町大字中島字北中島	渡 辺 敬 明	43	'64	c	e	b	b	90	1	4	36	兵
7373.92	上松浦郡中佐野町大字上早川字大田	田 上 末 康	43	'60	b	b	a	a	89	1	4	3	兵
7373.99	上松浦郡志保町大字須賀町	井 上 哲 治	43	'61	b	b	a	a	94	5	8	24	兵
7374.15	阿蘇郡高森町	瀧 潤 清 治	43	'61	b	b	a	a	93	5	7	19	兵
7374.75	阿蘇郡藤島町菅尾字久保	阿 岡 健 平	43	'57	a	a	o	87	1	4	24	兵	
7380.74	天草郡五和町大字二江字通洞	横 本 定 政	43	'58	a	a	o	99	1	9	0	兵	

調査地点 番 号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部			
					A	B	C	D	E			
7381.38	宇土郡三角町三角浦字本村	緒方 和作	43	'61	b	b	o	a	94	7	6	24
7381.47	天草郡大矢野町建立新田	小野 栄作	43	'57	a	a	o	o	96	1	5	4
7381.97	天草郡松島大字合津小字古蹟	本 多 彦	43	'58	a	a	o	o	89	1	4	2
7382.01	宇土郡田浦下田浦西原	山口 蓮	98	'63	c	c	b	b	03	1	6	12
7382.58	下益城郡小川町大字小川	岩本 逸次	43	'59	a	a	o	o	98	5	9	0
7382.93	八代市東塩屋町	堀 先 吉次郎	43	'63	c	c	b	b	91	3	6	24
7382.97	八代市東町本宿	藤 武 虎松	43	'57	a	a	o	o	90	2	6	0
7383.92	八代郡泉村大字原水字南内	藤 方 第一郎	43	'59	a	a	o	o	94	3	6	0
7383.98	八代郡泉村大字榎木	伊 藤 福 藏	43	'62	c	c	b	b	94	1	4	36
7390.26	本渡市本渡町大字本渡字内袴	田 中 太 重	43	'61	b	b	a	o	03	1	6	0
7390.70	本渡市天草町高浜地区内野区	小崎 善三七	43	'58	a	a	o	o	00	1	6	0
7390.75	本渡市宮地岳町中岳	松 川 栄 吉	43	'64	c	c	b	b	96	1	6	0
7391.01	天草郡有明町上津浦字横浜	赤 野 玉 造	43	'62	c	c	b	b	84	1	6	0
7391.44	天草郡有明村大字浦字中浦	藤 野 吾 吉	43	'58	a	a	o	o	03	1	6	0
7391.94	天草郡御所村風呂	中 村 助 次郎	43	'62	c	c	b	b	92	1	6	0
7392.33	八代市日奈久町 / 内町	西 村 政 喜	43	'50	b	b	a	o	87	1	7	36
7392.45	八代郡坂本村大字荒瀬字油利	宮 川 市 郎	43	'61	b	b	o	a	89	1	6	0
7392.94	球磨郡球磨村大字神瀬字上部	島 田 徳 寛	43	'63	c	c	b	b	02	1	6	24
7393.62	球磨郡球磨村大字神瀬字下部	久 保 田 万 作	43	'61	b	b	o	a	94	1	6	24
7394.60	球磨郡水上村大字江代川口区字飯敷	半 仁 田 政 策	43	'63	c	c	b	b	94	1	6	24
8300.11	天草郡河浦町大字麻津	宮 本 榮 太郎	43	'54	c	c	b	b	02	2	6	24
8300.26	天草郡河浦町宮野内字本郷	池 田 善 男	97	'50	b	b	a	o	94	1	6	0
8300.80	牛深市牛深町真直	越 田 吉 松	43	'58	a	a	o	o	89	3	6	0
8301.19	熊本郡熊本大字野石	山口 伊 勢 松	43	'59	a	a	o	o	95	1	7	36
8302.16	水俣市大字浜	深 水 善 彦	43	'58	a	a	o	o	98	1	7	24
8302.19	球磨郡山江村大字万江字屋形	中 村 一 男	43	'63	c	c	b	b	98	4	6	0
8302.55	球磨郡球磨村大字一馬地字初宿	船 越 佐 太郎	43	'61	b	b	a	o	03	6	6	0
8302.91	水俣市大字久木野字下郷	田 鶴 春 治	43	'64	c	c	b	b	96	1	6	0
8303.13	球磨郡相良村大字田浦字初神	山 田 新 吾	97	'60	b	b	a	o	97	1	6	0
8303.47	球磨郡多良木大字町地蔵堂	土 肥 清 作	43	'57	a	a	o	o	84	1	4	12
8303.70	人吉市本町	浜 田 大 蔵	43	'61	b	b	a	o	94	1	6	0
8303.84	球磨郡錦村大字一真字本別府 大 分 集	水 峰 亀 市	43	'63	c	c	b	b	98	1	6	0
7316.65	熊本郡那珂郡北浦	江 上 繁 太郎	44	'63	c	c	b	b	01	0	6	24
7316.93	熊本郡那珂郡大字伊美	野 田 隆	44	'60	b	b	a	o	99	1	6	0
7324.47	中津市大字上水	高 野 岩 吉	40	'61	b	b	a	o	76	1	6	0
7324.96	下毛郡本那原村字磯田	平 原 賢 吉	40	'64	c	c	b	b	97	0	24	兵
7325.37	豊後高田市大字具崎中朝前	森 若 若 次郎	44	'63	c	c	b	b	91	1	6	24
7325.54	宇佐郡宇佐町南字佐	浅 田 正 四郎	44	'60	b	b	a	o	90	1	6	24
7326.41	西国郡真玉町大字黒土中村	栗 山 信 一	98	'60	b	b	a	o	01	1	6	0
7326.69	熊本郡那珂郡安国寺田野	葉 松 森 作	44	'60	b	b	a	o	92	1	6	0
7333.29	下毛郡山国町大字隈 / 本字新谷	新 谷 光 男	44	'63	c	c	b	b	94	2	6	0
7333.75	下毛郡大町	石 井 登 男	44	'61	b	b	a	o	91	2	6	0
7334.44	下毛郡那珂郡大字大島	梅 本 新 吉	44	'61	b	b	a	o	98	1	6	24
7334.78	下毛郡那珂郡大字深部那小山村	藤 高 松 太郎	44	'61	b	b	a	o	88	1	6	0

調査地点 番 号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票							
					第1部	第2部	第3部	第4部	第5部			
					A	B	C	D	E			
7335.19	遠見郡山崎町大字立石小字上町	宝 塚 碩 太	44	'60	b	b	a	o	84	1	8	0
7335.34	宇佐郡安心院町大字新原字峰 / 前	新 岡 寿 一	44	'57	a	a	o	o	85	1	8	0
7335.93	宇佐郡安心院町大字榎木	江 藤 藤 造	44	'63	c	c	b	b	90	1	6	0
7336.28	熊本郡安楽町大字下原	池 水 春 男	44	'63	c	c	b	b	96	1	4	0
7336.54	件豊市西下町小字常木	石 室 伸 太郎	44	'60	b	b	a	o	84	1	4	0
7336.71	遠見郡日出町大字日出字泰山	赤 山 定 治	41	'57	a	a	o	o	89	1	6	0
7343.17	日田市島崎町大字原道	武 内 次 郎	44	'57	a	a	o	o	93	1	6	0
7343.76	日田市前津江村大字野木村	吉 田 了 二	96	'63	c	c	b	b	01	5	8	0
7344.30	日田市桑村合田字柳 / 木	江 田 正 夫	44	'61	b	b	a	o	97	1	11	0
7344.45	球磨郡球磨町大字山田字谷口	梅 本 忠 臣	44	'57	a	a	o	o	88	1	8	36
7344.99	球磨郡九重町大字田野字北方	崎 松 藤 彦	44	'64	c	c	b	b	98	1	6	0
7345.47	大分郡藤田町大字川北字木末	衛 藤 敬 之 助	44	'60	b	b	a	o	93	1	6	10
7345.98	別府市東山一區小杉	田 中 虎 雄	44	'61	b	b	a	o	96	1	6	0
7346.54	大分市中央区	大 津 一 平	44	'56	c	c	b	b	01	4	10	18
7346.58	阿南 藤 田	阿 南 藤 田	44	'54	c	c	b	b	93	5	4	0
7346.93	大分市中央区	阿 藤 健 生	44	'58	a	a	o	o	86	1	8	12
7347.25	北朝郡深衣村大字横田	阿 藤 啓 明	44	'61	b	b	a	o	01	1	11	0
7347.55	北朝郡深衣村大字横田	戸 次 清 三郎	44	'59	a	a	o	o	87	5	8	0
7347.93	白河市大字志生藤田	小 野 清 九郎	44	'62	c	c	b	b	96	1	6	0
7353.19	日田市中津江村大字新野字下郷	森 下 護 夫	44	'61	b	b	a	o	03	1	6	0
7353.22	大分郡庄内町阿蘇野地区高津原	田 川 崇 男	44	'64	c	c	b	b	94	1	8	12
7353.48	大分郡津和野町大字高野小字高沢	田 浦 義 男	44	'58	a	a	o	o	96	7	6	0
7355.81	直入郡久住町久住	田 中 崇 夫	44	'58	a	a	o	o	01	1	6	0
7356.05	大分郡大町町中戸次字市	高 村 慶 男	44	'58	a	a	o	o	97	1	6	0
7356.55	大野郡大野町大字大野二部区	藤 田 米 夫	44	'58	a	a	o	o	91	1	6	0
7356.70	大野郡大野町大字田中村小字鶴尾	足 立 昌 男	50	'60	b	b	a	o	98	1	6	0
7356.98	大野郡津和野大字清原字今波	坂 本 信 好	44	'62	c	c	b	b	02	1	6	0
7357.31	白河市大字祖良	北 山 満 夫	44	'59	a	a	o	o	93	1	8	0
7357.64	津久見市大字津久見字西の内	津 久 見 市 大 字 津 久 見 字 西 内 村	44	'68	64							
7357.69	津久見市大字四浦字落 / 浦	加 藤 亮 吉	44	'62	c	c	b	b	99	1	6	0
7358.25	竹田市大字玉来字玉来	渡 部 源 一	44	'57	a	a	o	o	99	5	12	9
7358.51	直入郡那珂大字柳原字原	渡 部 源 一	44	'62	c	c	b	b	99	1	8	0
7358.67	大野郡津和野大字小原字小原	工 藤 健 雄	44	'58	a	a	o	o	91	1	4	0
7358.87	大野郡三重町大字赤瀬字下赤瀬	佐 藤 清 平	44	'58	a	a	o	o	83	1	8	0
7358.91	南海郡那珂村大字千束字豊康	高 橋 松 夫	44	'59	a	a	o	o	95	1	8	0
7359.25	南海郡那珂村大字浦内西山	小 野 一 吉	44	'64	c	c	b	b	87	1	4	0
7359.49	佐伯市西中区中央通	保 田 精 一	44	'59	a	a	o	o	94	5	6	0
7359.61	南海郡那珂水津村浦代	高 宮 五 一	44	'62	c	c	b	b	95	1	8	0
7359.62	南海郡那珂市村大字上見見字下 / 下	佐 竹 作 太郎	44	'59	a	a	o	o	93	1	9	30
7359.32	南海郡那珂市村大字丹波字丹波	山 崎 隆 一	44	'57	a	a	o	o	90	1	3	18
7359.71	南海郡那珂市村大字江川字高野	中 野 昭 二	44	'59	a	a	o	o	86	3	4	18
7359.72	宮 崎 県											
7375.30	西臼杵郡高千穂町大字河内	佐 藤 隆 信	45	'63	c	c	b	b	90	1	8	0
7375.37	西臼杵郡日之影町大字立字川之詰	工 藤 隆 信	45	'63	c	c	b	b	96	1	4	36
7375.71	西臼杵郡高千穂町大字河内	興 福 潤 治	45	'58	a	a	o	o	02	1	6	3

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票								
					第1種調査票								
					A	B	C	D	E				
7375-96	西白竹郡日之影町大字七新字大宮	池田富一郎	45	'57	a	a	o	o	92	1	4	0	
7376-62	東白竹郡北川村松子川	滝井益水	45	'64	c	c	e	b	188	1	4	0	
7376-60	東白竹郡北川村大字内名字川	小竹竹治	45	'60	b	b	a	o	85	1	4	30	兵
7377-72	東白竹郡北浦村大字	木原治吉	45	'60	b	b	a	o	86	1	4	18	兵
7384-16	西白竹郡五方町大字飯沼字新立	山良田藤一	45	'58	a	a	o	o	98	1	6	0	
7385-38	東白竹郡北方字下	甲斐美奈	45	'60	b	b	a	o	90	1	2	24	兵
7385-61	東白竹郡藤原村大字七上山字木村	甲斐茂樹	45	'57	a	a	o	o	95	1	2	36	兵
7385-84	東白竹郡藤原村大字家代木村	堀達高村	45	'62	c	c	e	b	95	1	7	0	
7386-55	延岡市松山町	黒木黒次郎	45	'58	a	a	o	o	94	1	6	0	
7386-55	延岡市松山町	甲斐晴造	45	'53	c	e	c	b	86	5	4	30	兵
7386-63	延岡市西元町	甲斐利作	45	'58	b	b	a	o	88	1	4	24	兵
7394-14	東白竹郡藤原村大字下福良字八重	堀兼三郎	98	'55	a	a	o	o	100	1	2	6	0
7394-85	東白竹郡藤原村大字大河内木郷	堀野一	45	'52	c	e	c	b	101	1	4	0	
7395-09	東白竹郡北郷村大字入下字榎原	堀田福次	45	'58	a	a	o	o	91	1	4	0	
7395-25	東白竹郡西郷村大字小堀字田島	中島治	45	'51	b	b	o	a	101	1	0	0	
7395-63	東白竹郡南郷村大字大門町	田原万治	45	'54	c	e	c	b	90	1	2	24	
7396-16	東白竹郡門川町大字上納屋	鈴木原伴治	45	'62	c	e	c	b	102	3	0	30	0
7396-53	日向市大字東見字奥野	宮本政治	45	'57	a	a	o	o	99	1	9	24	
8304-66	兒湯郡西米良村大字村所	佐藤清一	45	'61	b	b	a	o	86	1	6	0	
8305-40	西郷市大字磯崎	浜砂三郎	45	'64	c	e	c	b	97	1	8	0	
8305-73	兒湯郡東米良村大字隈入重字小八重	中武忠助	45	'57	a	a	o	o	97	1	2	46	
8305-76	兒湯郡木城村大字石内	十住常一	45	'63	c	e	c	b	95	5	7	0	
8306-04	日向市奥・津別町附村	河野清一	45	'63	c	e	c	b	96	1	6	0	
8306-42	兒湯郡藤原町下茂生	黒木清一	45	'61	b	b	a	o	98	1	6	0	
8312-73	西郷郡加久藤町水山	川原田久八	45	'59	a	a	o	o	92	1	8	2	兵
8313-84	西郷郡藤原町大字末永字田代	上野儀右衛門	45	'64	c	e	c	b	96	1	8	0	
8313-85	小林市大字北西方字久次津	飯屋三左衛門	45	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
8314-52	西郷郡藤原村大字水田	佐藤一二	45	'59	a	a	o	o	92	1	4	0	
8315-42	西郷市三好字水嶋	中武重光	97	'65	c	e	c	b	92	1	6	24	兵
8315-46	西郷市大字石松	高松武一	45	'61	b	b	a	o	96	1	4	0	
8315-89	吉崎郡土原町下田島	田正文隆	45	'59	a	a	o	o	89	1	5	0	
8316-30	兒湯郡高嶺町上江字北平原	柴田正一	45	'58	a	a	o	o	88	1	4	2	
8323-59	西郷郡高嶺町大字南中田字狹野	日高彌義	45	'57	a	a	o	o	98	1	6	0	
8324-25	西郷郡高嶺町大字高嶺字上原	道田勇	45	'60	b	b	a	o	96	1	4	0	
8324-83	北郷郡高嶺町大字大舟田	大丸武重	45	'61	b	b	a	o	95	1	4	30	兵
8325-05	西郷郡高嶺町大字庄字八幡	井上高吉	45	'60	b	b	a	o	91	1	6	0	
8325-56	吉崎市上町1丁目	日高吉治	45	'62	c	e	c	b	102	5	7	0	
8325-77	吉崎市大字田吉	塚合平三郎	45	'59	a	a	o	o	90	1	8	0	
8324-25	北郷郡高嶺町大字大井手	渡敷敦孝	45	'60	b	b	a	o	92	1	8	0	
8324-63	藤原市町4丁目	藤本新之助	45	'61	b	b	a	o	89	1	4	0	
8325-05	吉崎市大字鏡田	渡辺史之助	45	'63	c	e	c	b	95	1	8	24	兵
8325-11	吉崎郡野田町甲馬草	横山年行	98	'60	b	b	a	o	97	1	8	0	
8325-48	吉崎市大字内藤	横山文三郎	45	'60	b	b	a	o	84	3	4	18	兵
8325-63	西郷郡藤原町大字北河内字坂元	高崎新作	45	'61	b	b	a	o	94	1	4	2	兵

調査地点番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票									
					第1種調査票									
					A	B	C	D	E					
8345-10	日向市大字酒谷字深瀬	緒方政義	45	'62	c	c	e	b	89	1	4	27	兵	
8345-18	日向市大字吉浦字吹毛井	綾原沢渡	45	'62	c	c	e	b	92	9	4	30		
8345-24	日向市大字敷敷字礼	佐山盛彦	45	'57	a	a	o	o	96	1	4	0		
8345-74	南郷郡藤原町中村乙	酒井末藏	45	'59	a	a	o	o	97	1	8	0		
8354-29	甲郷市福島町上原元	西村三吉	46	'58	a	a	o	o	94	1	8	30	兵	
8355-23	甲郷市大字市木	右松久一	45	'59	a	a	o	o	89	1	4	0		
8355-62	甲郷市大字都井字追	坂本貞義	45	'64	c	c	e	b	97	1	6	3	兵	
		藤見貞雄												
8229-96	藤原郡里村里	岸重男	46	'61	b	b	a	o	96	9	6	30	兵	
8299-31	藤原郡藤島村岡中田	神川若之助	46	'62	c	c	e	b	98	7	30	30	兵	
8299-38	藤原郡下郷村字打	江口禮和	46	'61	b	b	a	o	94	1	4	0		
8300-87	出水郡東町大字藤原小字上揚	東兼種輔	46	'58	a	a	o	o	99	1	6	0		
8310-26	出水郡東町大字山門野小字上	三反田武雄門	46	'58	a	a	o	o	99	1	6	0	兵	
8310-87	阿久根市等町	坂田英雄	46	'59	a	a	o	o	94	5	9	1	30	兵
8311-41	出水郡高尾野町田番所	小坂竜典	46	'62	c	e	c	b	99	11	6	6	兵	
8311-59	出水市大字上大川内木流部落	谷口直則	46	'57	a	a	o	o	99	2	8	0	兵	
8311-63	出水市大字太本	山守省兵次	46	'59	a	a	o	o	98	1	2	0		
8312-33	大口市大字山野小字下・照番	森永吉太郎	46	'57	a	a	o	o	92	1	10	30		
8312-75	伊佐郡藤島町大字田中	一松時志	46	'61	b	b	a	o	99	8	20			
8320-59	藤原郡高城町大字西方	小倉武志	46	'62	c	e	c	b	99	3	8	0		
8320-98	川内市津町吉泊	大磯太三郎	46	'59	a	a	o	o	94	1	8	24	兵	
8321-58	藤原郡宮之城町屋地	吉原政志	46	'63	c	e	c	b	94	1	8	0		
8322-43	藤原郡藤原町水野	成見利郎	46	'61	b	b	a	o	91	9	18			
8322-68	給良郡横川大字中	立石金太郎	46	'62	c	e	c	b	93	1	6	0		
8330-58	甲木市町羽島小字白沢	笠山印吉	46	'62	c	e	c	b	91	1	8	0		
8331-12	川内市平佐町加治屋原部落	藤原直安	46	'59	a	a	o	o	90	5	8	36	兵	
8331-17	藤原郡上町町	肥後徳二	99	'62	c	e	c	b	87	7	11	9	兵	
8331-98	日原郡藤山町藤山	肥後仁助	46	'63	c	e	c	b	83	1	8	3	兵	
8332-07	給良郡藤原町大字有川石原	石神安次	46	'57	a	a	o	o	92	5	11	30		
8332-42	給良郡藤原町大字上久道	藤山栄治	46	'59	a	a	o	o	92	1	6	36	兵	
8332-59	給良郡平人町大字内山田	山本政則	46	'63	c	e	c	b	93	1	6	30	兵	
8332-84	給良郡給良町藤元	山口常吉	96	'60	b	b	a	o	92	1	8	0		
8333-03	給良郡藤原町大字田口字侍世	浜田嘉兵衛	46	'58	a	a	o	o	92	1	4	0		
8333-79	藤原郡藤原町南伏小字阿那里	西村義久	46	'57	a	a	o	o	85	5	36	0	兵	
8333-92	給良郡藤山町大字福山	守田慶之助	96	'60	b	b	a	o	85	1	3	8	兵	
8341-12	日原郡東市来町大字伊作田字江口	藤原隆之助	46	'59	a	a	o	o	87	1	6	24	兵	
8341-46	日原郡上野郡附村大字入庄	若元末雄	46	'59	a	a	o	o	91	7	0	0		
8342-25	鹿兒島郡西牟婁村中郷	若元末雄	46	'59	a	a	o	o	98	1	8	0		
8342-51	鹿兒島郡西牟婁村中郷	鹿原川寛	46	'58	a	a	o	o	90	9	6	24	兵	
8342-69	鹿兒島郡西牟婁村中郷	富木重彦	98	'63	c	e	c	b	92	1	6	42	兵	
8342-69	鹿兒島郡西牟婁村中郷	川畑武夫	46	'63	c	e	c	b	91	1	4	36	兵	
8343-06	給良郡藤山町大字佐俣川小字築建	福重重吉	46	'61	b	b	a	o	93	1	8	12		
8343-74	藤原郡北郷町上野	川崎常吉	96	'60	b	b	a	o	82	7	8	16		
8343-97	藤原郡大崎町野方荒佐野	田之上良幸	46	'58	a	a	o	o	91	1	2	24	兵	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票									
					第1項	第2項	第3項	第4項	A	B	C	D	E	
8344. 71	豊敷郡有明町大字伊崎田小字磯藏	藤原 秀 剛	46	'63	c	e	b	b	02	1	6	0		
8350. 69	川辺郡笠砂町大字赤木	大 迫 栄 太	46	'59	a	a	0	0	09	6	4	36		
8351. 07	谷山市下福町町山小字藤原	藤 元 俊 行	46	'63	c	e	b	b	98	1	6	3		
8351. 41	加賀田市万世町唐仁里小字大崎	中 村 敬 吉	46	'62	c	c	b	b	90	4	8	24	兵	
8351. 65	川辺郡川辺町大字田原田	中 野 太 次 郎	46	'59	a	a	0	0	87	5	4	0		
8352. 29	墨水市大字豊原	石 藤 善 右 衛 門	46	'59	a	a	0	0	02	1	8	32		
8352. 40	阿南郡喜入町大字彌々申小字中	今 村 徳 二	46	'58	a	a	0	0	07	3	10	0		
8352. 92	阿南郡喜入町前之浜	内 廣 栄 雄	98	'63	c	c	b	b	04	1	6	0		
8352. 63	黒崖市西原町	馬 庭 浩 右 衛 門	46	'57	a	a	0	0	87	1	8	33	兵	
8352. 68	肝煎郡早良町大字池之瀬	富 田 泰 盛	46	'61	b	b	a	a	02	5	8	34		
8354. 14	豊後郡志布志町大字志布志	又 木 栄 三 郎	46	'57	a	a	0	0	98	6	8	36		
8356. 39	川辺郡坊津町坊	股 島 源 雄	46	'62	c	c	b	b	97	5	8	0		
8361. 38	阿南郡阿南町大字上別所青戸	西 中 塾	46	'61	b	b	a	a	05	1	12	0		
8362. 34	阿南郡大字牧崎	田 中 塾	46	'57	a	a	0	0	09	1	8	3		
8362. 34	阿南郡大字新西方	東 川 高 左 衛 門	46	'58	a	a	0	0	09	1	8	0		
8362. 81	阿南郡園岡町大字十町小字松原田	村 村 寅 市	46	'58	a	a	0	0	92	1	8	7	兵	
8362. 85	阿南郡山田町福元	原 久 一	46	'62	c	c	b	b	96	5	7	0		
8365. 51	肝煎郡大垣古町大字城元小字神之浜	吉 元 伊 治	46	'63	c	c	b	b	91	5	4	3	兵	
8365. 64	肝煎郡大垣古町大字馬場原	菅 原 忠 太郎	46	'61	b	b	a	a	01	1	6	12		
8364. 33	肝煎郡内之浦町大字南万	吉 地 武 哉	46	'57	a	a	0	0	01	1	8	0		
8372. 47	肝煎郡佐多町大字伊坐敷	持 倉 賢 吉	46	'61	b	b	a	a	02	1	8	27	兵	
8372. 87	肝煎郡佐多町大字西込小字大迫	日 高 金 義 隆	46	'63	c	c	b	b	91	1	4	0		
8373. 08	肝煎郡内之浦町辺塚	船 造 元 次	46	'63	c	c	b	b	92	1	4	0		
8373. 43	肝煎郡佐多町辺塚字中村	浜 川 吉 之 助	96	'60	b	b	a	a	90	3	4	0		
8373. 69	西之表市西表小字小牧	日 高 慶 彦	46	'60	b	b	a	a	97	7	9	0		
8394. 61	西之表市西上小字浦田	渡 松 次 吉	99	'62	c	c	b	b	93	3	8	24		
9303. 88	熊毛郡中藤子町大字野間小字畑田	石 松 秋 也	46	'61	b	b	a	a	97	1	7	0		
9310. 27	熊毛郡上屋久町水良島島本村	有 馬 藤 吉	48	'65	c	c	b	b	91	3	6	0		
9312. 42	熊毛郡上屋久町古之浦中町	島 本 勇 助	46	'61	b	b	a	a	97	1	6	36	兵	
9313. 55	熊毛郡南種子町大字上小字中西	藤 田 彦 哉	46	'60	b	b	a	a	09	1	5	0		
9322. 52	熊毛郡屋久町尾之浦中町	日 高 武 哉	46	'61	b	b	a	a	97	1	8	24	兵	
0228. 96	大島郡登利町佐仁	岩 元 忠 雄	46	'64	a	a	b	b	97	1	6	0		
0232. 79	大島市入船町	久 保 良 忠 雄	46	'60	a	a	0	0	98	5	9	36	兵	
0232. 84	大島郡大村大字大金久	元 野 村 和 喜	46	'60	a	a	0	0	93	1	4	36	兵	
0238. 55	大島郡奄部村赤尾本	能 山 政 太郎	46	'64	a	a	b	b	02	1	6	0		
0246. 48	大島郡宇佐村阿豆	森 秀 聖 吉	46	'64	a	a	b	b	97	1	6	0		
0246. 97	大島郡瀬戸内町美久	森 秀 聖 吉	46	'60	a	a	0	0	89	1	6	0		
0247. 31	大島郡宇佐村田原	安 田 清 盛	46	'64	a	a	b	b	96	1	8	33		
0247. 55	大島郡在田村山田	市 田 實 哉	46	'60	a	a	0	0	09	1	8	36		
0248. 00	大島郡在田村藤町	森 清 哉	46	'64	a	a	b	b	96	1	6	36		
0249. 17	大島郡喜賀町酒	大 山 一 雄	46	'50	a	a	0	0	93	1	6	0		
0254. 08	大島郡瀬戸内町藤武	山 田 謙 也	46	'64	a	a	b	b	02	1	6	0		
0256. 76	大島郡瀬戸内町年輪	森 福 盛	46	'64	a	a	b	b	97	1	8	24	兵	
0256. 89	大島郡瀬戸内町池地	庄 山 徳 良	46	'64	a	a	b	b	02	1	8	36	兵	
0282. 12	大島郡瀬戸内町吉仁里中央区	栗 当 賢	46	'60	a	a	0	0	01	4	8	24	兵	

調査地点 番号	調査地点名	被調査者名	調査者	調査年	調査票									
					第1項	第2項	第3項	第4項	A	B	C	D	E	
0257. 43	大島郡瀬戸内町藤武	吉 川 隆 吉	46	'60	a	a	0	0	02	1	8	0		
0265. 96	大島郡天城村大字阿留小字新野	沢 佐 大 郎	46	'64	a	a	0	0	99	1	8	30	兵	
0275. 36	大島郡天城町瀬尾	岡 井 実 吉	46	'64	a	a	b	b	93	1	6	0		
0285. 97	大島郡伊仙村伊仙小字伊仙	吉 岡 徳 盛	46	'58	a	a	0	0	99	1	8	33	兵	
0286. 50	大島郡池之島町大字亀津小字里洞	高 城 誠 茂	46	'58	a	a	0	0	05	1	4	35		
0294. 66	大島郡泊町大字和泊	西 光 治	46	'58	a	a	0	0	83	1	7	0		
0294. 93	大島郡知名町大字利根瓦	中 木 利 高	46	'57	a	a	0	0	00	5	6	3		
0340. 00	大島郡喜賀町早町	菅 茂 治	46	'60	a	a	0	0	93	1	8	15		
1213. 76	大島郡宇輪村大字花庄	町 納 規	46	'57	a	a	0	0	93	1	10	0		
1148. 59	島尻郡国村字榎	赤 濱 マチ 一	61	'64	a	a	b	b	91	1	0	20	女	
1156. 89	島尻郡具志川村(久米島)字仲地	山 里 昌 徳	51	'58	a	a	0	0	81	1	8	0		
1162. 01	島尻郡種子村字比嘉	平 田 朝 雄	51	'58	a	a	0	0	73	1	0	0		
1169. 84	島尻郡嘉敷村字波嘉敷	末 田 春 雄	51	'59	a	a	0	0	98	1	4	0		
1211. 69	島尻郡伊平屋村字田名	末 吉 カ マ ド	61	'55	a	a	b	b	98	1	0	0	女	
1221. 47	島尻郡伊島名村字勝徳	名 嘉 マ シ イ	61	'58	a	a	b	b	88	1	0	24	女	
1223. 05	島尻郡田原村字奥	福 善 真 次 郎	51	'61	b	b	a	a	95	1	9	0		
1231. 72	国頭郡伊江村字東江上	宇 部 健 忠 正	51	'62	b	b	b	b	95	1	5	0		
1231. 88	国頭郡今仁村字宇波瀬	村 宍 健 雄 二	51	'58	a	a	0	0	73	1	4	0		
1232. 29	国頭郡国頭村字辺野	東 原 新 寛 三	51	'61	b	b	a	a	97	5	4	36		
1232. 75	国頭郡大塚村字喜如嘉	緒 田 幸 大 郎	51	'61	a	a	a	a	97	7	11	72		
1233. 61	国頭郡国頭村字安波	吉 城 義 吉	61	'64	a	a	0	0	93	1	4	0		
1241. 05	国頭郡本郷町字渡久地○更	長 豊 彦 一	51	'62	b	b	a	a	84	5	0	0		
1241. 40	国頭郡本郷町字城一並	比 嘉 高 造	51	'61	b	b	a	a	85	1	4	0		
1241. 96	国頭郡本郷町字名嘉真	村 村 好 吉	51	'61	a	a	a	a	82	1	0	0		
1242. 00	国頭郡原尻村字藤平名	長 田 長 次 郎	51	'62	b	b	b	b	94	1	3	0		
1242. 22	国頭郡原地村字御河	観 川 政 永	51	'61	b	b	a	a	97	1	4	46		
1242. 26	国頭郡東村字平良	宮 城 定 吉	61	'64	a	a	0	0	95	1	6	80		
1242. 72	国頭郡久志村字南美	城 間 盛 吉	61	'64	a	a	0	0	00	1	0	12		
1250. 59	中頭郡豊後村字平良	比 嘉 良 弘	51	'63	b	b	b	b	80	1	1	60		
1251. 04	中頭郡豊後村字忍納	大 城 保 助	61	'63	a	a	0	0	95	1	8	24	兵	
1251. 27	中頭郡豊成村字金武	吉 田 吉 吉	61	'64	a	a	0	0	03	1	8	24	兵	
1251. 73	中頭郡具志川村字兼盛段	玉 城 松 寿	51	'63	b	b	b	b	03	1	10	72	兵	
1251. 98	中頭郡与那村字平安座	田 又 吉 雄 三	51	'61	a	a	a	a	94	1	4	0		
1260. 78	那覇市南町1丁目	日 野 盛 功	51	'63	b	b	b	b	95	1	7	0		
1260. 87	島尻郡小樽村字小樽	上 原 亨	51	'63	b	b	b	b	85	1	2	0		
1261. 01	中頭郡北谷村字吉原	津 嘉 山 實 芳	61	'65	a	a	b	b	93	1	4	0		
1261. 16	中頭郡勝連村字平敷型	吉 里 清 助	61	'65	a	a	b	b	05	1	6	24		
1261. 32	中頭郡中城村字伊舍堂	比 嘉 嘉 清	51	'61	b	b	a	a	82	1	0	0		
1261. 70	中頭郡西原村字福原	安 存 屋 弘 英	61	'64	a	a	0	0	95	1	6	72	兵	
1261. 80	島尻郡本部町浜田区	上 原 真 康	51	'62	b	b	a	a	03	1	4	0		
1270. 26	島尻郡糸原町	坂 野 夫 夫	51	'62	b	b	a	a	03	1	0	0		
1270. 29	島尻郡東平村字吉盛	野 原 兼 次	51	'63	b	b	b	b	90	1	4	36		
1271. 05	島尻郡知念村字久高	安 泉 義 次	61	'63	a	a	0	0	93	7	11	36		
1271. 20	島尻郡玉城村字奥武	大 城 雄 牛	51	'59	a	a	0	0	84	1	4	0		

調査地点 番 号	調 査 地 点 名	被 調 査 者 名	調査者	調査年	調 査 票					A	B	C	D	E
					第1部	第2部	第3部	第4部						
2067. 52	石垣市宇平久保	大 松 知 良	61	'64	a	a	b	b	08	1	6	0		
2068. 03	(宮古)多良間村堀川	川 平 ハ ル	61	'65	a	a	b	b	14	1	8	120	女	
2072. 20	(八重山)与那国町祖内	吉 元 敦 吉	61	'64	a	a	b	b	11	5	13	216	民	
2074. 69	(八重山)竹富町宇船納	前 大 用 全	51	'60	a	a	a	a	03	1	4	0		
2075. 22	(八重山)竹富町宇船納	加 治 工 伊 佐	51	'60	a	a	a	a	03	0	6	0		
2076. 25	(八重山)石垣市宇川平	仲 木 英 重	51	'60	a	a	a	a	01	1	4	72	民	
2076. 96	(八重山)石垣市宇新川	宣 野 盛 安 嗣	51	'60	a	a	a	a	06	1	4	24	民	
2076. 97	(八重山)大沢町宇平得	田 本 留 輝	51	'60	a	a	a	a	02	1	6	24	民	
2076. 98	(八重山)大沢町宇吉良	川 田 久 吉	51	'60	a	a	a	a	00	1	6	36	民	
2076. 99	(八重山)大沢町宇白保	米 盛 松	51	'60	a	a	a	a	05	1	4	24	民	
2085. 69	(八重山)竹富町風崎村本	木 成 尊 資	51	'60	a	a	a	a	03	1	6	0		
2085. 03	(八重山)竹富町宇布高親地間	古 良 良 知	51	'60	a	a	a	a	00	1	4	0		
2095. 03	(八重山)竹富町武原町落瀬	酒 島 本 基 一	51	'60	a	a	a	a	09	1	6	0		
2140. 49	(宮古)平良市宇池間	与 那 兼 善 一	51	'59	a	a	a	a	0	24	3	0	24	
2140. 96	(宮古)伊良部村宇長浜	島 尻 実 永	51	'59	a	a	a	a	00	7	10	72		
2141. 61	(宮古)平良市宇勢原	池 間 兼 信	51	'59	a	a	a	a	0	97	1	6	24	民
2141. 71	(宮古)平良市宇島尻	花 境 金 八	51	'59	a	a	a	a	01	1	6	24	民	
2150. 06	(宮古)伊良部村宇保仲	支 利 慶 勝	51	'59	a	a	a	a	0	84	1	4	24	民
2150. 07	(宮古)伊良部村宇仲地	川 瀧 昌 平	51	'59	a	a	a	a	0	82	1	4	0	
2150. 17	(宮古)伊良部村宇伊良部	横 田 恵 金	51	'59	a	a	a	a	0	05	7	4	156	
2151. 11	(宮古)平良市宇東村宗根	山 崎 恵 季	51	'59	a	a	a	a	0	88	7	11	72	
2151. 20	(宮古)平良市宇久松松原	松 原 金 蔵	51	'59	a	a	a	a	0	88	1	4	0	
2151. 51	(宮古)下地町宇上地	上 地 長 造	51	'59	a	a	a	a	0	99	1	4	0	
2151. 64	(宮古)城辺町宇支利	砂 川 武 任	51	'59	a	a	a	a	0	97	1	6	24	民
2151. 67	(宮古)城辺町宇保良	下 地 勝 道	51	'59	a	a	a	a	0	81	1	4	48	民

付録2. 調査票 その他

- ここには、日本国土地院作成のための調査に使用した調査票の全文と、付図(絵)88面、および調査の手引を示した。
- ただし、スペースの関係で実物そのままの形式を再現することはできなかった。
 - 調査票は、実物もB5版であるが、各冊1ページに7~8冊が印刷され、記入欄が広くとってあった。
また、実物には、巻頭に報告用の経歴記入用紙、巻末に項目の索引が付けてあったが、ここでは省略した。
 - 絵の実物は、約10×15cmの大きさであった。
 - 手引きは、後期計画において補足した部分も、あわせて示した。

調査者番号	調査者氏名	調査地点番号
(フリガナ)		
調査地点	道 郡 村	
調査地点のおもな産業	調査した場所	
調査の日時	19 年 月 日	

お名前は何と言いますか。	男 女	お生まれは明治— 明治 年
お住まいはどちらですか。		
お仕事はどんなことをしていますか。		
(経歴) お生まれはここ(この町・村・部落)ですか。		
小学校はここ(この町・村・部落)ですか。小学校は何年でしたか(4年か6年か・学校名)。		
小学校を卒業してから、ずっと今のお仕事ですか(職歴、最終学歴—学校名—を聞く)。		
よその土地で生活なさった経験はありませんか(どこで、いつのとき、どれぐらい、なんのために)。		
兵隊に行きましたか(どこ、隊名、何年間)。		
御両親はどちらのお生まれですか。		
おとうさんは—		
おかあさんは—		

備考 (調査地点の経歴・歴史・交通・被調査者の特徴・調査の印象など)

第1調査票

調査を始める前に念をおしておくこと—これから聞きたいのは、

- 被調査者自身の使うことば、あるいは被調査者自身が若いころ使ったことのあることばであり、しかも
- くつろいだときか親しい人と話すときかに使うことばについてである。だから、
- 今は使わない・昔のことばや、自分は使わないほかの人のことばなどは、そのように注意してほしい。

※ 初めに、虫の名前をいくつか聞きます。

- 001 絵 こういう虫を何と言いますか。前足が草を刈るかまに似ています。おこるとそれを振り立てて向かってきます。色は緑とか茶色など kamakiri
- 002 絵 これは何と言いますか。しりから糸を出して網を張ってほかの虫をつかまえて食べます。足は八本あります。いろいろ種類がありますが、ひっくりめた名前は何ですか。 kumo
くもの巣をまめること。
- 003 絵 その[タモ]がしりから出す糸のことを何と言いますか。 kumo no i to
- 004 絵 [タモ]の作る網のことを何と言いますか。ほかに、こんな形でなく、天井のすみなどを足掛ける目の細かい網もあります。 kumo no su
- 005 絵 これを何と言いますか。からを背負ってのろろはって歩きます。夏、ことに雨のころ多く見掛けます。 katatumuri
- 006 絵 これを何と言いますか。[カタツムリ]に似ているけれど、からは背負っていない。暗いじめじめした所に住んでいます。雄をかける体が溶けるということです。 namekuzi
- 007 絵 これを何と言いますか。夏の初め、水の中に群がって泳いでいます。大きくなるにつれて手足が生えてきます。 otamazyakusi
芋原の稲穂などで遊ぶことがあつたらう。遊樂をまめること。
- 008 絵 [オタマジャクシ]が大きくなるとこうなりますが、これを何と言いますか。いろいろ種類がありますが、ひっくりめた名前は何ですか。 kaeru
かえるの遊樂をまめること。
- 009 絵 これを何と言いますか。体が大きくてのろろしています。背中は茶色腹は白くて黒い線があります。 hikigaeru
- 010 絵 これを何と言いますか。いろいろ種類がありますが、ひっくりめて何と言いますか。 hebi
へびの遊樂をまめること。
- 011 絵 毒を持っている種類ですが、何と言いますか。色は茶色で黒い菱形の紋があります。 mamusi
- 012 絵 これは何と言いますか。長さは五寸ぐらい。ひなたの土の上をちよろちよろ走り回ります。色は黒くてつやつや光って、艶かな青い線があります。水の中にははいりません。 tokage
いも・やもりなどともちがいはないよう。
- 013 それと形は似ているけれど、色が土色のがいます。やはり経間足掛けるもので、水の中にははいりません。何を言いますか。 kanahebi
- ※ いも・やもりとは違ふ。なお、012と013のうち一方しかいないか、またはこの二種を区別しない地方がある。
- 014 虫の名前をこれぐらいにして、別のことばをいくつか聞きます。 ikutu
何歳など形などから自分で決めた若い方はないか尋ねる。
- 015 物の産産を尋ねるときには何と言いますか。「このまんじゅうはいつと〜」それから何と言いますか。 ikura

016	物の数を尋ねるときは何と言いますか。箱の中にある物の数を尋ねるとき「この中にまんじゅうがー」それか何と言いますか。 <small>何個などと答えた場合は、使った言い方では使い小難しく。</small>	ikutu
017 絵	んどは色のことについてですが(黄紙をさし)、「黒い」とか「白い」とかいうふうに言うとき、この紙はどんなだと言いますか。 <small>形容詞の終止形があれば、それを求めること。</small>	kiroi
018 絵	(赤紙をさし)こんな色の紙だったら、どんなだと言いますか。 <small>形容詞の終止形を求めること。</small>	akai
019 S	「[アカイ]という言葉を、明かりのこを張るときに使いますか。ろうそくよりも電燈の方が [アカイ]というふうに……。」 <small>018 でアカイあるいはそれに準ずる語が用いられる。()の中をアカイと読む。</small>	使う 使わない
020 S 絵	「あおい紙」と言ったら、どの紙のことですか。 <small>絵に示した番号を、等として記入する。黄紙をあおい紙と書き黄紙は、その番号を覚えて書くこと。</small>	usootuku
021	本当でないことを本当のこのように言うのを、どうすると言いますか。 <small>大げさなことを言う(たとえは、ほらを吹くなど)。あるいは、だます・あざむくの類似ともなり。</small>	kyosueru
022 絵	こういうふうにするのを、どうすると言いますか。よく小さな固まりに火をつけて皮膚を焼くことです。	tukuru
023	工場というものがありますが、工場では物をどうするのでしょうか。たとえば時計の工場では時計をどうすると言いますか。	tukuru
024	お酒を醸造している家があります。その家ではお酒をどうすると言いますか。 <small>醸造するなどと答えた場合は、使った言い方では使い小難しく。</small>	tukuru
025 S	物を「なおす」と言ったら、物をどうすることですか。	
026 S	「なおす」ということを、片付けるとか戸の中に入れてしまうことを表わす時に使いますか。	使う 使わない
027 S	「なおす」ということを、こわれた物を修理して元通りにすることに使いますか。	使う 使わない
028 S	「おどろく」ということを、目が覚めるという意味に使いますか。夜などになくまで起きていても朝五時半には必ず「おどろく」といふように。 <small>目覚めることとは別類にしない。</small>	使う 使わない
029 S	この人はぐっすり眠っているの、いくら呼んでも「おどろかない」というふうに使いますか。 <small>目覚めることとは別類にしない。</small>	使う 使わない
030 S	急にわっと大きな声をかけられておどろいた」というふうには、びっくりする。たまげるといふ意味を使いますか。 <small>動詞であることは別類にしない。</small>	使う 使わない
ここで被調査者について判定する。この人は不適当だと考えたら、調査はここで打ち切って、別の人を探し、新しい第1調査票の第1項から始める。この人で適当だと考えたら、続いて第2調査票へ移る。		

第2 調査票

※	人の体のあちこちの名前や、それに関係のあることを聞きます。上の方から始めましょう。	
031 絵	ここ全体のことを何と言いますか。ここが顔むと、どうもここが重いかかどうもここが重いかか…… <small>鼻が鼻のちから鼻をさすこと。</small>	atama

032 絵	[アタマ]の上に、毛がうずになっている所があります。このことを何と言いますか。 <small>位置・数・色と方法による種類の区別は存在。年齢などの髪の毛の色はとらない。</small>	tumuzi
033 絵	こういううづつるようになった[アタマ]を何と言いますか。髪(アタマ)の毛の抜けが止まった[アタマ]です。 <small>毛が抜けたり生ったりは区別。髪は髪はアタマについて特別な名はとらない。</small>	hageatama
034 絵	これを何と言いますか。この、物を見るものですか。 <small>顔にあらたな形はとらない。「目が見えない」は別。</small>	me
035 絵	[メ]の上に生えている、これのことを何と言いますか。 <small>まつげとまぶたは別。</small>	mysyuge
036 絵	まぶたのへりにぶつってできる小さなできものですか。何と言いますか。うみを持って赤くはれると、むずむずしてかゆいのですが開も直りません。 <small>開はのでもとの・開けとまぶたは別。</small>	monomori
037 絵	これを何と言いますか。ここを鼻をします。 <small>にかいのこととは鼻の下に出るからとらないよう区別。</small>	hana
038	梅の花のそばに寄るとぶらんと何か[ハナ]に感じます。この、[ハナ]に感じるものを、梅の花の何と言いますか。 <small>よいかい・の類として梅の花をあげた。</small>	noi
039	髪(アタマ)の毛が次の中にはいて膨げると、やはりぶらんと[ハナ]に感じます。感じるものを、髪(アタマ)の毛の膨げると言いますか。 <small>髪(アタマ)の毛として髪(アタマ)の毛の膨げるとは別。</small>	noi
040	市切れなど火の中にはいると妙な[ニオイ]がします。どんな[ニオイ]がすると言いますか。	kinakusai
	<small>形容詞の終止形を求める。</small>	
041	腹をたい膨らしたときどんな[ニオイ]がすると言いますか。 <small>形容詞の終止形を求める。</small>	kogekusai
042	物の[ニオイ]を知ろうとして[ハナ]でぐんぐんかぐまねをする。こういうふうにするのを[ニオイ]をどうすると言いますか。 <small>[ニオイ]は(臭)と読みかどうかが別。</small>	niolokagu
043 絵	これを何と言いますか。この、物を見るものですか。 <small>くま(両眼)のことではない。「目が見えない」は別。</small>	mimi
044 絵	これを何と言いますか。物を割ったり食べたりします。	kuti
045	赤ん坊がよく[タチ]から水のようなものをたたらしていることがありますが、その水のようなものを何と言いますか。	yodare
046	切手をはるときべつとなめることがあります。そのときつける水のようなものを何と言いますか。(指先)少しつけてみせてこれを何と言いますか。	tuba
047 絵	このことを何と言いますか。女の人が髪をつけるところです。 <small>上の方(ちびる)をひつくるのは別。</small>	kutibiru
048 絵	これを何と言いますか。 <small>唇などの唇は別。</small>	sita
049	今度、物の味のことです。塩の味はどんなと言いますか。塩は「甘い」とも言いますが、そんな言い方で言うとは思……。	karai
050	それでは唐辛子の味はどんなと言いますか。	karai

- 051 しろ(つゆ)などを作ったとき塩の味は足りないのを言うのに、しろ(つゆ)の味がどんなだと言いますか。
usui
アマイというが普通は甘い方から、それをとりあげることは減らすまでもない。
- 052 砂糖の味はどんなだと言いますか。
amai
053 梅干の味はどんなだと言いますか。
suppai
梅干が干物から乾いたかんまをたまたまとてい。
- 054 ちよっと顔がかわります。眼でいるときを息をするたびに(いびきのまねをする)こういうふうになることがあります。(まねる)こうすることをどうすると言いますか。
shikiokaku
「イビキ(息)一服(一息)という形が近い。舞台、劇にせむに対する名前も同じである。
- 055 かぜをひいたときなどに、のを癒めて(ごほんごほんのまねをする)とすることがあります。(まねる)こうすることをどうすると言いますか。
sekiosuru
せまばらいとは違う。(せま(息)一服(一息)という形の近い。舞台、劇にせむに対する名前も同じである。
- 056 絵 このへんの雲か雨のこのを何と言いますか。
hobo
057 絵 この全体のことを何と言いますか。朝起きたときに泣いて。
kao
季節には日記。
- 058 生れつき体の一部の色が変わって、赤くなった青黒くったりしていることがあります。その、いつまでも消えない色が変わった所のことを何と言いますか。
aza
大きな、色、血などでいっけい通う部分の出血は紅斑、紫斑も同じで聞く。
- 059 ひどくなくられたときなどに、そこが青黒くなって二三日あがと残ることがあります。そういうふうに色が変わることを、どうなる、何が出来ると言いますか。
azagadekiru, azaninaru
060 体に黒いごまつぶぐらいの点があることがあります。その点のことを何と言いますか。
hokuro
061 にごりがあるかどうか。そばかす、にきびなどともうがたいよう。
- 061 ごまつぶよりも大きい、豆つぶぐらいの大きな黒い点のことを何と言いますか。少しふくらんでいます。
hokuro
そばかす、にきびなどともうがたいよう。
- 062 S (ここまでにアザという形が出ないとき「あざ」というのはどんなものことですか。「アザ」が出ていたら、その内容をくりかえし)そのほかにも(アザ)というものがありますが、どんなものことですか。
otoko onna
063 絵 今度は指の名前についてですが、この指は何と言いますか。
oyayubi
064 絵 この指は何と言いますか。
hitosansyubi
065 絵 この指は何と言いますか。
nakayubi
066 絵 この指は何と言いますか。
kusuruyubi
067 絵 この指は何と言いますか。
koyubi
068 手の指や足の指などが、寒、凍のために赤くはれてかゆくなったり、ひどくなるごとく腫れたりすることがあります。そんなときどきになった、何ができたと言いますか。
simoyake
069 絵 足のこのへんのことを何と言いますか。
kakato
070 足の裏とかわきの下などにそっと触れると妙な笑いたくなるような感じがします。その感じをどんなのだと言いますか。
kusuguttai
071 絵 それでは、こういうふうにはびきを折って産につくことを、どうすると言いますか。
suwazu
もちろん、ちんちんなどの肉質の厚いふくらみとありけ。
- 072 絵 こういうふうにはびきを産につくことを、どうすると言いますか。
agurakaku
「アザ(か)一服(一息)という形を覚える。
- 073 絵 胸の骨の下の真中にあたり、柔かいこのあたりを何を言いますか。
minuot
骨と骨の間に隙間がある部位とありけ。
- 074 風呂のことを洗わないで休むとすると、汚いものがぼろぼろ落ちます。その汚いものを何と言いますか。
aka
あか(軽度な状態)にびつたりあか(赤)についての色には日記。
- 075 [アタマ]をかくと白い粉のようなものが落ちてくることとあります。その白いものを何を言いますか。
huke
076 絵 ちよっと別のことになりましたが、魚の皮の上に並んでいるすきとおった薄い爪のようなもの、これを何と言いますか。
uroko
077 S (ここまでにコケという形が出ないとき「こけ」というのはどんなものことですか。「コケ」が出ていたらその内容をくりかえし)そのほかにも(コケ)というものがありますか。
078 S 絵 (きのこのことだと習わなかったら)まつだけやしいたけなど、こういうものをひっくりかして「こけ」と言うことはありますか。
習う 習わない
079 絵 (078 でコケと習わないことがわかったとき)それでは、まつだけやしいたけなど、そのほかの毒のものもありますが、こういうものをひっくりかして何と言いますか。
kinoko
きのこの毒物を覚える。
- 080 またちよっと顔が赤りますが、眼や鼻については「おす・めす」という区別があります。でも、このことばは人間には使いません。人間については何と言いますか。
otoko onna
081 年齢について日記、年齢に関係のない事象を区別を覚えるべきである。081に男に当たる形を、081におに当たる形を記入する。
※ 今後は、このも遊びに興味のあることばです。
082 絵 このおもちゃを何と言いますか。いろいろな形があってそれぞれ名前があるのでしょうが、ひっくりかして何と言いますか。空高く飛ばして遊びます。
takko
動物を覚える。
- 083 絵 この男の子は何で遊んでいると言いますか。
takeuma
遊び道具としての竹馬を覚える。遊びの名ではない。
- 084 絵 女の子の遊びです。何と言遊びですか。このこどもは何をして遊んでいると言ったらよいでしょう。
otodama (asobi)
085 080 との区別を覚える。
085 絵 そのとき使った小さな袋のことを何と言いますか。あずきや小石などを入れます。
otodama
086 084 との区別を覚える。
086 絵 こういうふうには、こどもを首にまたがせて肩に乗せることを何と言いますか。
katagurums
「カタグル(む)する」といって、背のついでない。動物は日記。
- 087 絵 こういうふうには片方の足だけで飛びこえ、何を、どうすると言いますか。
kataasitobiosuru
「カタアソビ(む)一服(一息)」という形に近い。舞台、劇にせむに対する名前も同じである。また、石けりやふりて舞いあう遊びの名はいろいろ。ただ「カタアソビ」といふこと。
- 088 ひとりのこどもが鬼になってほかのこどもを追いかけ。鬼につかまったこどもが代って鬼になる。そんな遊びのことを何と言いますか。
onigokko
鬼いれゲームの鬼いれあそびという、この質問の範囲で覚える。
- 089 鬼でないこどもはみつからぬようにあちこちに隠れる。みつかったこどもが次に鬼になる。そんな遊びのことを何と言いますか。
kakurenbo
鬼いれゲームの鬼いれあそびという、この質問の範囲で覚える。
- ※ こどもの遊びはこのくらいにして、今度は物のやりとりや受け渡しに興味のあることばをいくつか覚えます。

090 絵	最初はこれです。店で何が物を買るとき支払う。こういう物をひっくりめて何と言いますか。 <small>紙幣・硬貨・円札のみを必ず印に注意。種類別のものについても同じ。</small>	okane
091	30 円の物を買ったとき100円札を出す。品物と同じしに70円返してくれます。この返してくれる [オカネ]のことを何と言いますか。 <small>oturi</small>	oturi
092	70円をみんな10円玉で返してくれとします。70円あるかどうか10円、20円と(手つきを示す)属べる ことをどうすると言いますか。 <small>kazoeru</small>	kazoeru
093	[オカネ]でなく、たとえば監視なら記録を一本二本と(手つきを示す)属べることをどうすると言いますか。 <small>kazoeru</small>	kazoeru
094	[オカネ]を出さないで、ただで物を受け取ることを物をどうと言いますか、たばこを一本、わたしが 友達から、どうすると言いますか。[オカネ]を出すなら「買う」と言うところですが……。 <small>morau</small>	morau
095	ただでやることを物をどうすると言いますか。わたしが、友達に、たばこを一本、どうすると言いま すか。[オカネ]と引き換えなら「売る」と言うところですが……。 <small>yaru</small>	yaru
096	それでは、よその人が自分に物を渡すことをどうすると言いますか。友達が、わたしに、たばこを一本 どうすると言いますか。 <small>kureru</small>	kureru
097 S	「あずける」ということをこんなふうに使いますか。こどもが落しているから、そのこどもにおも ちゃを買って、「あずける」。おもちゃをやるるときにです。 使う 使わない	
098 S	こんなふうに使いますか。よく働いたからほら目に[オカネ]を「あずける」。[オカネ]をやるるときに です。 使う 使わない	
099	くぎを打ちたいが金づかりがない。そんなときに隣の家で金づかりをどうしますか。どうすると言いま すか。 <small>kariru</small>	kariru
100	借りてくるなど取戻し場合は、取戻で借りると言う言い方があから、確める。 [カリン]の反対は何と言いますか。金づかりを[カリン]に取戻らどうしますか。どうすると言いますか。 <small>kaan</small>	kaan
101 S	戻してやるなど取戻し場合は、取戻で出すという言い方があから、確める。 物を「かってくる」と言うのは[オカネ]を支払って品物を手に入れることですか。それとも借して くることですか。 買ってくる 借ってくる	
※	どちらを使っても構いません。 こんどはひにちの名前です。	
102 絵	<small>kyôjiki</small> 本日は○月○日(調査当日を言う)ですが、その本日ということばをふだんのことばで言う何と言いま すか。 <small>kyô</small>	kyô
103 絵	[キ・ネ]の前日のことは何と言いますか。[キ・ネ]から言えば○日(調査当日を言うのことです)。 <small>kinô</small>	kinô
104 絵	その前日のことは何と言いますか。 <small>ototai</small>	ototai
105 絵	その前日のことは何と言いますか。 <small>sakiototai</small>	sakiototai
106 絵	それでは[キ・ネ]が暮れてからくる夜のことを何と言いますか。[キ・ネ]のすぐ前の夜のことです。 <small>sakuban</small>	sakuban
107 絵	その前の夜のことを何と言いますか。[オトイ]が暮れてからくる夜のことです。 <small>isanakuban</small>	isanakuban
108 絵	[キ・ネ]の次の日は何言いますか。 <small>asita</small>	asita

109 絵	その次の日のことは何と言いますか。 <small>asatte</small>	asatte
110 絵	その次の日のことは何と言いますか。 <small>siasatte</small>	siasatte
111 絵	その次の日のことは何と言いますか。 <small>yanosatte</small>	yanosatte
112 絵	[キ・ネ]が暮れてからくる夜のことは何と言いますか。 <small>konban</small>	konban
113 絵	その次の夜のことは何と言いますか。 <small>asitanoban</small>	asitanoban
※	今度は天気や気候などに関係のあることです。	
114	朝東の方から出て、夕方の方へ沈む、あの昼間空に輝いているものを何と言いますか。 <small>taiyô</small>	taiyô
115	[タイヨウ]を見るとあまり明るいので目のあけていられないような感じがします。その感じがどん だと言いますか。 <small>mabusii</small>	mabusii
116	夜、空で輝く丸くて大きいもの、あれは何と言いますか。一か月のうちに欠けたりまた丸くなら ります。 <small>tuki</small>	tuki
117	悪い天気るとき空から水の降ってくるのを、何が降ると言いますか。 <small>ame</small>	ame
118	夏の初めごろ[アメ]の長く降り続く時期があります。その[アメ]のことを何と言いますか。 <small>tuyu</small>	tuyu
119 絵	夏の日。いままで日が照っていたのに急に大粒の[アメ]が降ってくる場合があります。この[アメ]の ことを何と言いますか。 <small>yûdati</small>	yûdati
120 絵	[ユダチ]が降るときなどに黒い雲の中でひかりと光って降ることがあります。それを何か 言っていると言いますか。 <small>kaminari</small>	kaminari
121	[カミナリが鳴く]という形で使われる場合は注意。 [カミナリ]の音をまねて言うとき、どう言い表わしますか。 <small>gorogoro</small>	gorogoro
122 絵	そのときひかりと光る、その光のことを何と言いますか。 <small>inabikiri</small>	inabikiri
123	雷鳴を使わないののために雷い水がひどく震かれていることがあります。どうすると言いま すか。 <small>kaminari ga otiru</small>	kaminari ga otiru
124 絵	[カミナリ(雷)]という形で使われる場合は注意。 空にかかる七色の帯のようなものです。これを何と言いますか。[ユダチ]のあとなどに見られます。 <small>nizi</small>	nizi
125 絵	冬の寒い日に、空から白いものがちから降ってきます。何が降ると言いますか。 <small>yuki</small>	yuki
126	冬の寒い夜などに池の水が凍ることがあります。その冷たい水とおたがガス版のようなものを何 と言いますか。 <small>kôri</small>	kôri
127	霧や氷粒状など、あの霧や氷粒による霧の形については注意。 水が[コオリ]になることを水がどうすると言いますか。 <small>kôru</small>	kôru
128	水気のあるもの、たとえば濡れたてぬいなどが寒さのためにからからになることを、どうなると言 いますか。 <small>kôru</small>	kôru
129 絵	やはり冬のことですが、軒先などにさがる[コオリ]の棒です。これを何と言いますか。 <small>turara</small>	turara
130 絵	枯葉などを巻き上げるふうを何と言いますか。軒先などでぐるぐる回っているのを見掛けます。 <small>tumuzai kaze</small>	tumuzai kaze

- 131 風が強く吹く日など[A]に何かはいることがあります。[B]に何がはいったと言いますか。 gomi
ごみの箱を日にかいたものごとをいふ。
- 132 そうじするときほうきで掃き集めたものを、掃くと集まってくるものを何と言いますか。 gomi
ほうきで、掃き集めた具体的なものごとをいふ。家の中のごとや外のごとを区別するかどうか。
- 133 畳を起して掃んだてたこと、中から細かい汚いものも出てきます。何が出てくると言いますか。 hokori
川の流れる岸にいて、あらぐずとか氷屑の切れたもの、場合によっては野菜の切りくずなどいろいろ汚いものがひっかかることがあります。そういろいろ汚いものを何と言いますか。 gomi
わらかず、掃き集めた具体的なものごとをいふ。
- 134 ちょっと面がわかりますが、地面が固くならぐらぐらと揺れて、ひどいときには大木や家が倒れたりすることがあります。その地面の揺れること、それを何と言いますか。 zisin
木が一歩も二歩も生えている場所のことを何と言いますか。そこへ行ってきたぎを拾ったりします。 hayasi
ヤマが普通の方いせで、それをとりあげることになるまでをいふ。
- 137 S (136が「ヤマ」だったら)平地でも木が広く生えている所も[Ya]ですか。 ヤマである ヤマでない
(136が「ハヤシ」だったら)平地でも傾斜地でも同じように[ハヤシ]と言いますか。 ハヤシである ハヤシでない
136がヤマでもハヤシでも木がつかつたら整理してよい。
- 138 お宮の境内などに木が一方所に集まってこんもりと生えている場所のことを何と言いますか。 mori
139 S (ここまでハヤシが出ないとき)「はやし」というのはどんな場所のことですか。
140 S (ここまでモリが出ないとき)「もり」というのはどんな場所のことですか。
※ 今度は、家のまわりについてのことばや、いろいろの道具に関係のあることばです。
- 141 S 家の「にわ」と言ったらどんな所のことですか。
142 S 土間、つまり家の中の床の張ってない所のことを「にわ」と言いますか。 言う 言わない
143 S 家の前の仕事場、つまり庭敷したり、豆を平干りする所のことを「にわ」と言いますか。 言う 言わない
144 S 「かど」と言ったらどんな場所のことですか。
145 S 家の外、つまり屋外のことを「かど」と言いますか。 言う 言わない
146 S 家の前の仕事場、つまり庭敷したり、豆を平干りする所のことを「かど」と言いますか。 言う 言わない
- 147 庭に雁いづかを播って、つるべやポンプで飲み水などを汲み出す所があります。それを何と言いますか。 地面に水がわいてきます。 ido
雑草や雑物のものについては注釈。
- 148 米をおかまに入れてから水にかけて飯にする。こうすることを飯をどうすると言いますか。 taku
149 それでは大根をなべに入れて、みそやしょうゆを入れて火にかけます。こうすることを、大根をどうすると言いますか。 niru
150 かまどでたきぎ(まき)をたいたあとに残る白いもの、あれのことを何と言いますか。 hai
151 いろいろ火鉢の中に水をいけるために入れる粉のようなものを何と言いますか。 hai
152 絵 この薬のようなもの、湯を沸かすとき水と表面から立ちあがるものを何と言いますか。 yuge
153 絵 [メイト]ばかりの御飯から立ちあがるこういうものを何と言いますか。 yuge
154 絵 これを何と言いますか。 野菜や魚を料理するときに使う板です。 mansaita
野菜と上乗りの区別がある場合は「ハム」といふ。その場合は魚も聞く。
- 155 絵 この鉢のことを何と言いますか。ごま中、みそをすりつぶすのに使います。 suribati
156 絵 棒の方は何と言いますか。 surikogi
157 絵 こういう土(どろ)で作ってかまで焼いたもの、いろいろありますが、ひっくり返して何と言いますか。 setomono
火器・雑器・薪炭の灰田用に出は注釈。
- 158 絵 二つの箱ですが、両方を比べて(大きい方をさし)こちらの方が(小さい方をさし)こちらよりもどろだと
言いますか。 okii
両側に大きいことを表わす口部に注釈。157と158でこれに準ずる。
- 159 絵 それでは(小さい方をさし)こちらは(大きい方をさし)こちらよりもどろだと言いますか。 tsiiai
160 絵 二本の棒がありますが、長さは同じですが、両方を比べて(太い方をさし)こちらの方が(細い方をさし)こ
ちらに比べてどろだと言いますか。 hutoi
161 絵 それでは(細い方をさし)こちらの方が(太い方をさし)こちらよりもどろだと言いますか。 hosoi
162 絵 二つのふるいがあります。大きさは同じですが、ただ網の目が違います。両方を比べて(太い方を
さし)こちらの方は(細かい方をさし)こちらよりもどろだと言いますか。 arai
163 絵 それでは(細かい方をさし)こちらの方は(太い方をさし)こちらよりもどろだと言いますか。 komakai
164 今度ば、別のことですが、ふんの中に入っている白いふふふかしたものを何と言いますか。 wata
165 その[ワタ]でない、薬のまゆから作ったものを何と言いますか。薬物を入れたりします。 mawata
166 絵 薬物を織るとき針に通す、これを何と言いますか。 ito
167 その[イト]のうち、薬のまゆから作るものを何と言いますか。 kinuito
生糸とまゆから生糸という注釈。
- 168 [ワタ]から作る[イト]は何と言いますか。 momen'ito
169 薬物を織るとき使うのでなく、織物を織るとき使うものは何と言いますか。 oritito
170 S 薬物を「せんたく(せんたく)する」というのは、薬物をどうすることを言いますか。 言う 言わない
171 S 織機することを「せんたく(せんたく)する」と言うことはありませんか。 言う 言わない
「ほう」と言ふたときに、左で「る・織り・織り・織機するをどうのう。どに使うか・織しその使い方を讀んで。
- 172 S 雨に降られて薬物がくさったというふうに、「くさる」ということばを、濡れるという意味に使いますか。 使う 使わない
- 173 農業に関係のあることば、それから草や中木の名をいくつか聞きます。 kome
174 その[コメ]のうちふだんの食用用のものを、もちや赤飯用に用いるものと区別して何と言いますか。 uruti
175 もちや赤飯用のものは何と言いますか。 moigome
176 農業で自分の家の食用にする[コメ]のことを何と言いますか。 hannmai
米が作る農具は注釈に附ける。177も同じ。
- 177 [ハソマイ]をしまっておく入れ物のことを何と言いますか。 komehitu
木箱。かめどりの配が正確。
- 178 [コメ]のみろみから、からを取ったものは玄米ですが、その玄米にしたとき残るからのことを何と言いますか。 籾やりんごを腐づめるときに使います。 momigara
179 玄米をついて白くするとき出るかすの粉のことを何と言いますか。 nuka

180 絵	楯を作る場所ですが、こういう所を何と言いますか。	tanbo	200 絵	いばらやさんしょうの木(そのほか、ばら、からたち)などの枝についているとがった針のようなのを何と言いますか。	toge
	<small>水田などという草の群は、田のつと普通の方いがないから異なる。なお、181と同語。菰の葉のカードには180に一定の名を、181に広い場所の名を(その場合、必ず草の形を記入すること。180と同じ名とは書かない)</small>		※	今度は、一つ一つとばを出してその使い方を憶えます。	
181 絵	それは一區画(一校)のことですか。それとも、いくつものつながった広い場所のことですか。(その答によつて) それでは一區画(一校)のことは何と言いますか。		※	多式の質問のため、最初の二問はその裏に入らない。	
182 絵	こういう[タンポ]の横のことを何と言いますか。小さな土手のようになっています。	aze	201 S	汽車から降りることを汽車から「おちる」というふうに言うことはありませんか。——東北の仙台あたりではそういう言い方をすることがありますが、ここではそう言うことはありませんか。 言う 言わない	
	<small>地方によつて距離、地形によつていろいろ種類がある。いろいろあるときは、それぞれに注意。</small>		202 S	「する」ということを捨失する・なくすという意味に使いますか。——西国ではそういう言い方をすることがありますが、ここではそう言うことはありませんか。 使う 使わない	
183 絵	[タンポ]に対して大根や芋などを作る、こういう場所のことを何と言いますか。	hatake	203 S	それでは「こい」ということばはどんなとき使いますか。	
184	とりいれに近いつ[タンポ]や[ハナ]に、きらきら光るものやむもにつけたり、風で揺れるものや音をはたてるものを立てたりします。鳥や獣の寄って来るのを防ぐためにです。そんなものをひくるめて何と言いますか。	toriodosi	204 S	された・くたれたという意味に使いますか。重い荷物を背負って歩いたので「こい」というふうに。	
	<small>鳥身をとめる。</small>		205 S	固いという意味に使いますか。もちが古くなって「こく」になったというふうに。	
185 絵	そんなものうち人間の形をしたものについては何と言いますか。	kakasi	206 S	恐しいという意味に使いますか。あの家の穴は大きすぎて、よくほれるので「こい」というふうに。	
186 絵	こういう芋を何と言いますか。夏の初めと秋と一年に二度とれます。	zyagaimo	207 S	今度は、けちということばですが、「けち」とか「けちだ」ということをどんなときに使いますか。	
	<small>品種が多いが、種類を定める。</small>		208 S	不都合だ・けしからんという意味に使いますか。ことおなしに人の物を使ってあの男は「けちだ」というふうに。	
187 絵	それでは、これは何と言いますか。茶色の毛が生えていて[ニル]とぬるぬるしますいろいろな種類があつて蓋の食べられるものもありますが、ひくくもて何と言いますか。	satomoi	209 S	不思議だ・妙だという意味に使いますか。あの男がさういふことを振るといつも穴が出る。「けちだ」というふうに。	
	<small>品種が多いが、種類を定める。</small>		210 S	物惜しみをするという意味で「けちだ」ということばを使いますか。	
188 絵	これは何と言いますか。秋の終りに取り入れます。茎はつるになって地面に広がります。	satumaino	211 S	今度は、はそんならということばですが、物は「そんなら」というのは物をどうすることですか。	
	<small>品種が多いが、種類を定める。</small>		212 S	これおれた物を標榜する・元通りになすことを「はそんなら」と言いますか。 言う 言わない	
189 S	このあたりで普通「いも」と言ったらどの芋のことを言うのですか。芋が食べたいと言ったらどの芋のことですか。 じゃがいも さといも さつまいも		※	最後に敵中名を総ていくつか聞いて終りにしましょう。	
	<small>芋でこの質問に似た答が返つていたら、質問しなくてもよい。以上の三問は終りの部分もありうる。</small>		213 絵	こういう動物のことを何と言いますか。	uma
190 絵	これは何と言いますか。夏の終りごととれます。薄緑色の皮があつて[アカイ]毛のふさがついてます。	tōmorokosi	※	このあたりでは[ウマ]を飼っていますか。	
	<small>品種が多いが、種類を定める。</small>			<small>馬も飼つていない地方では189-192は質問しなくてよい。なお、この質問の報告は213のカードに記入する。飼つていない地方は答の下の所に中央名、飼つていない地方は名を記入する。</small>	
191 絵	これを何と言いますか。夏とれる、つるになる大きな実です。	kabotya	214	おすの[ウケ]のことを何と言いますか。	ouma
	<small>形によつての報告は、それぞれ記入する。とうがんとやうがんとを区別する。</small>		215	めすの[ウケ]のことを何と言いますか。	meuma
192 絵	何という草ですか。春、紫色の花を咲かせます。	sumire	216	ことし生まれたばかりのこどもの[ウケ]を何と言いますか。	kouma
	<small>草の名と花の名と区別がある場合は草の名をとりあげ、花の名は注意する。</small>			<small>種類を定めるが、おす・めすの別はあは注意。</small>	
193 絵	これは何と言う草ですか。花の色は黄色か白です。花が積ると白い毛のついた実ができて、風に吹かれて飛んで行きます。	tanpopo	217 絵	[ウケ]の首に生えている毛のことを何と言いますか。	tatogami
194 絵	これは何と言いますか。春先、川の手などの日当たりのよいところに出てきます。	tukusi	218 絵	こういう動物を何と言いますか。	usi
195 絵	[ウツク]が出たあとからこういう草が生えてきます。何と言いますか。	sumina	※	このあたりでは[ウツク]を飼っていますか。	
196 絵	この草を何と言いますか。一番の葉は[ニオイ]があります。日陰に生える葉がかった緑い緑色の草で、夏の初めに白い花が咲きます。	dokudami		<small>牛を飼つていない地方では217-222は質問しなくてよい。なお、この質問の報告は218のカードに記入する。飼つていない地方は答の下の所に中央名、飼つていない地方は名を記入する。</small>	
197 絵	枝の実ですが、これを何と言いますか。	matukasa	219	おすの[ウツク]のことを何と言いますか。	ousi
198 絵	これを何と言いますか。ざるやかごを作つたり魚釣りのさおや竿ざおにしたりします。いろいろな種類がありますが、ひくくもて何と言いますか。	take	220	めすの[ウツク]のことを何と言いますか。	meusi
	<small>種類を定める。</small>				
199 絵	[タケ]を削っているときや、よく削つてない板をこすつたときなどに何か手に刺さることがあります。何が刺さつたと言いますか。	togo			

221	ともし生まれたばかりのこどもの(ウツ)を何と言いますか。 <small>雛鳥を家のらぶが、おす・おすの羽が白ければ自然。</small>	kousai
222	【ウツ】の鳴き声を言い表わすのに何と言いますか。 【コウシ】の鳴き声を何と言いますか。 <small>コウシに類する鳴き声があれば、自然してでも記入する。</small>	mômô
223	絵 土の中に穴をあけて土を持ち上げる動物です。農作物に害があります。何と言いますか。	mogura
224	絵 こんは鳥ですが、こういう鳥を何と言いますか。 <small>みみずくなどを区別する。</small>	hukurô
225	この鳥の鳴き声を言い表わすのに何と言いますか。	hâhâ
226	この鳥を何と言いますか。水の上にいる小さな鳥で唇を動かします。 <small>せとせとれい・ませとれいなどを用いる地方それぞれを聞き直しを記入する。ただしこの語は正確に録音する。</small>	sekirei
227	この鳥の鳴き声を表わすのに何と言いますか。	tittit
228	絵 こういう鳥を何と言いますか。ごく普通の小さな鳥で、家の屋根などに巣を作ります。群がって飛んできて農作物に害を与えます。	suzume
229	この鳥の鳴き声を表わすのに何と言いますか。	tyuntyun
230	絵 におりの頭の上にある赤いもの、これを何と言いますか。おんどりのほめんどりのに比べて大きいようです。	tosaka

※ これで全解終了しました。誤いことありがとうございました。

第3 調査票

231	絵 こういうふうになるつるつるになることをどうなると言いますか。 <small>靱皮によるはずではない。(はずがある)というよう形ではなく、一つの動物を定める。</small>	hageru
232	絵 このこと(手振り)を示す)を何と言いますか。 <small>A. 口の下の部分がつかうところ、B. 耳の下の部分がつかうところ、C. 下あご全体で区別してはば、合せて書く。</small>	ago
233	絵 このことを何と言いますか。 <small>内くぶらと外くぶらしとの違いがあれば自然。その間に区別があれば自然。</small>	kurubusi
234	【クスグツタイ】(項目070を参照)感じをおこさせるために、足の裏とかわきの下などにそって触れることをどうすると言いますか。	kusuguru
235	息なくなったものを、ごみためへ持って行って、どうすると言いますか。	suteru
236	息がうしろから大きな声をおかれてドキンとすることを、どうすると言いますか。	hikikuri suru
237	大きな犬が何匹もはえかかって、へいまにかみつきそうになる。そんな時の感じをどんだたと言いますか。	kowai
238	目を教えて、よっか(4日)、いつか(5日)、むいか(6日)その次は何と言いますか。	nanoka
239	【ナノカ】の次はよっか(8日)。その次は何と言いますか。	kokonoka
240	絵 孫の子供は何と言いますか。	himago
241	絵 【ヒマゴ】の子供は何と言いますか。	yashago
242	絵 男親の男親を何と言いますか。 <small>呼び名ではなく、名称を家の、親類による区別、職業による区別があれば自然。</small>	ozisan
243	絵 【オジサン】の男親を何と言いますか。 <small>項目242と同じ注意をすること。</small>	hiiozisan
244	絵 何が3軒あると言いますか。	uti
245	S あそこは子供が多い(ウチ)だ(や)、というふうに言いますか。	言う 言わない

246	S (言わないとしたら)では、何と言いますか。	
247	絵 牧内に比べてのいい水を植えたり、池を作ったり石どうろうを置いたりしてあるところがありますが、そういうところを何と言いますか。 <small>内堀外堀か、ある溝について自然。</small>	niwa
248	絵 へやとへやとの境にする、こういう、紙を張った引き戸を何と言いますか。	husuma
249	C 虫敷をそらじしたあとで、「ああ、キレニエになったと言いますか。「ああ、ウツクシク(ウツクシムウ)になったと言いますか。それとも別の言い方をしますか。	kiireni
250	C 【ミジド】(項目124を参照)を見て、「ああ、キレニエ(ヤ)と言いますか。「ああ、ウツクシイ」と言いますか。それとも別の言い方をしますか。	kiireida
251	C 「遺物を使おうと別にモンダクする」、「モンダクする」、そのどちらを使いますか。 <small>「モンダク」とも「モンダツ」とも言わない場合は、自然して、共通語としてどちらを使うかを調べる。「モンダク」、「モンダツ」を使う区別で使わない場合も記入する。</small>	
252	絵 こういう、赤くなって、辛いものを何と言いますか。	tôgarasi
253	C 珠のいい煮べたを煮べて、「ああ、オイシイ」と言いますか。「ああ、ウマイ」と言いますか。それとも別の言い方をしますか。	oisii
254	絵 イワシとかタイとか、コイとか、水の外で泳いでいる、こういう生き物を何と言いますか。 <small>大魚と小魚、淡水魚と海水魚で区別があるか、魚の種類も自然。</small>	sakana
255	S (254でサカナが出たら)「ウオ」ということばを使いますか。どういう場合ですか。 使う 使わない <small>魚合巻では家来のい(ウオ)などのように</small>	
256	S (254でウオが出たら)「サカナ」ということばを使いますか。どういう場合ですか。 使う 使わない <small>魚合巻では家来のい(サカナ)など</small>	
257	絵 夏たくさん出て、食物にたから、いういう虫を何と言いますか。	hai

第4 調査票

258	絵 こういうふうに見えるものを、何と言いますか。《音声・ヒ》	hige
259	絵 狭い時に、からだから流れ出る(水のような)ものを、何と言いますか。《音声・セ》	ase
260	絵 このこと(肩)を何と言いますか。《音声・セ》	senaka
261	絵 赤ん坊をこうすることを、どうすると言いますか。	onbauru
262	絵 荷物をこうすることを、どうすると言いますか。 <small>肩でかぶるしを指さす。</small>	syou
263	絵 こうすることは、どうすると言いますか。 <small>片方の肩でかぶるしを指さす。</small>	katugu
264	絵 こうすることは、どうすると言いますか。 <small>肩をさす。</small>	katugu
265	絵 これはどうすると言いますか。 <small>てんびんをさす。</small>	katugu
266	絵 これは、どうすると言いますか。 <small>ふたでさす。</small>	katugu
267	絵 からだが中せる、その反対に肉がついて目方のふえることを、どうすると言いますか。 <small>減らすことではない。</small>	hutoru
268	C あそこ人が「イル」と言いますか。「オル」と言いますか。それとも、あそこ人が「アル」と言いますか。	iru

269	鈴瀬がある。その反対を何と言いますか。ここには鈴瀬は〜。	nai
270	空が晴れて日が照っている。そんな時、きょうの天気はどんな天気だと言いますか。 「日ま照れや」「上気じや」をどはとらない。「よかりじや」をどはとる。	itenkida
271	絵 こういうふうに、煙突から出るものを何と言いますか。	kemuri
272	絵 この[ケムリ]が流れているのは、何が吹いているからですか。《音声・ゼ》	kaze
273	太陽の出る方向を、何と言いますか。西の反対です。《音声・ヒ》	higasi
274	一年の最初の月を、何と言いますか。《音声・グワ》	syōgatu
275	その月の最初の日を何と言いますか。一年の最初の日。《音声・ガンジツ》	ganzitu
276	四月・五月・六月、その次を何と言いますか。《音声・シ》	sitigatu
277	家に火がついてぼうっと燃えたとします。「何だ(ジャ・ヤ)」と言いますか。《音声・クワ》	kazi da
278	国(家)が国民から取り立てるお金のことを、何と言いますか。《音声・ゼ》	zeikin
279	絵 こういうふうにつつまのを、何と言いますか。《音声・キ》	kage
280	絵 顔をつつための、こういうものを何と言いますか。《音声・ミ》	kagami
281	絵 こういうものを、何と言いますか。中は赤いです。《音声・クワ》	suika
282	絵 こういうものを何と言いますか。濃い紫色です。	nasu
283	絵 この箱は、どんな箱だと言いますか。	sikakui (hako)
284	絵 いろいろの種類がありますが、こういう虫をひっくりかえして何と言いますか。	tonbo
285	絵 [トンボ]の中で、特に大きいものを、何と言います。	yanna

付 図

001



002 • 003 • 004



005



006



007



008



009



010



011



012



017 • 018 • 020 S



022



031 • 032



033



034 • 035 • 037 • 043 • 044 • 047 • 056 • 057



036



048



053 • 054 • 055 • 056 • 057



069



071 • 072



073



075



078 S • 079



082



083



084 • 085



088



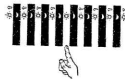
087



090



102~113



119 • 120 • 122



124 • 125



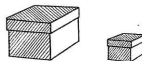
125



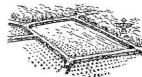
153



158 - 159



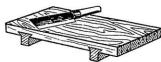
160 - 161 - 182 - 185



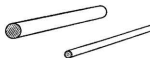
129



154



160 - 161



186



130



155 - 156



162 - 163



187



152



157



166



188



190



194 • 195



199 • 200



224



191



196



218 • 217



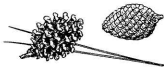
226



192



197



218



228



193



198



223



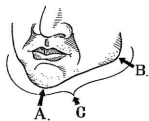
230



221



222



223



240 • 241 • 242 • 243



244



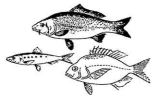
248



252



254



257



258



261



262



263



264



265



266



271 - 272



279



280



281



282



283



284



285



手 引 き

1 尋らまし 調査者が現地におもひて、所定の調査票と調査預け筒を使い、この平引きを使って面接調査を行う。

2 調査することば 調査の対象とすることばは、被調査者(被調査者については、3のところで説明する)自身が現在使っていることば、あるいは少年時代に使ったことのあることばで、しかも、くつろいだとき、話し人たち(家族たちや幼なじみなど)と話し合うとき使ったり(いわゆる方言)とする。

被調査者が使ったことばの言いことばや、現在使わなくても、被調査者自身が使ったことばの言いことばとは、はっきり区別する必要がある。これらのことばを参考として用いることは望ましいが、それはあくまで参考であり、記入するときにはそのことを注記する必要がある。被調査者が使うことばでも、あらたまたまた使うことばとか、知らない人(話すとき使ったり(いわゆる共通語))と区別する必要があることももちろんある。

3 被調査者 調査者が候補者を選び、調査であるかどうかを判定し、決定する。

3-1 数 調査地点1地点について1名。その同じ人について項目全部を調査することとする。
特別の事情で調査途中で打ち切る場合は、別の被調査者について第1項から調査し直すこと。

3-2 条件 1909年(明治38年)以前に生まれた男子で、いわゆる言語形成期(満3歳~15歳)をすでにその地点(その集落)ですごし、それ以後もそこ(その市・町・村のそと)での生活が(異言生活など一切を含めて)35か月を越えない人とする

職業・学歴・階層などについては特に基準を定めないが、できるだけその地点を平均的に代表する人であることが望ましい(80名集落の集落で会社の経営者とか、その土地でとりふりふりしないような人、学歴・階層の特に高い人などは望ましくない)。なお、明治38年以前という指定だから、文久・元治・慶応の生まれの人でもよいわけだが、あまり高齢な人は調査の対象として適当でない場合が多い。全国の水準をそろえる上からも、明治20年以降生まれの人が望ましい。なお、1、2か月の短期間の旅行は、よそのでの生活とは見ないこととする。

さらに、次のような条件を備えている人を、被調査者として適当と考える。

a. 言語感覚が(意味のニュアンスの違いに敏感で、質問に対して適切な答えをする。方言と共通語、敬語と卑語、日本語とあまり使わない語・現在使われない語などの区別がはっきりしている。ただし、これは方言に特定の意見を持っているという意味ではない)。

b. ふだん、その土地のその年齢層の人としてじょうぶな程度に方言を使っている(その土地の方言をはとんど使わない生活をしている人は、調査に向かない)。

c. 精神的・肉体的に欠陥がない(さうそうして、歯が抜けたり発音がはっきりしない、耳が聴けない人などは、被調査者として適当でない)。

d. そのほか、調査に協力的である。反応が早い。むだ語をしないなど。
これらの条件を満たす人であるかどうかは、実際には面接調査した上でなければわからないことが多い。そこで、被調査者として適当かどうかは、ともかく調査して、第1調査票がまったところを判定する。なお、5-7参照。

4 調査地点 調査地点とは、被調査者が言語形成期を通した集落(地名)を最も細かく分けたいその地名。ただし、都市は丁目とす。この地名をどのようなあたりにとか、何地点調査するなどの全体の構想は、調査センターで立てる。具体的には、どの集落で調査するかは、調査者が決める。

5 調査の実施

5-1 準備 調査者は、あらかじめ調査地点を決める。現地では、被調査者(正確には候補者)に面接して調査のあらましを説明し、どういう答えを求めるとか、その大體を理解してもらう。

現地の被調査者や協力者(紹介者)などに対して、希望があれば所定形式の依頼状(公文書)を出すことができる。希望者は、あて先の氏名・住所・調査予定日を甲日に連絡してほしい。事務手続き上、連絡を受けて

から発送まで、ほぼ1週間かかるものと予定されたい。研究所から本人あて直接発送する。

また、「日本語部地点を作る調査について」(調査のあらましを説明した印刷物)と「方言を話す人を御紹介下さい」(紹介者に被調査者の条件を説明した印刷物)を用意したり、利用されたい。

5.2 経歴表 項目の質問を始める前に、まず経歴表の記入に関する事項を説明する。最初から、個人的な立ち入りしたことを聞くのはごうの悪いことだが、その人が条件に合わないことになって発見すると、それまでの調査がむだになってしまうので、ぜひ項目の質問を始める前に尋ねておきたい。

経歴表の1枚は記入(調査者保存)用、もう1枚は調査センター(研究室)への報告用である。

各欄について説明(記入)するところ、

g. で囲んだ部分については、質問し記入する。項目の質問に先立って書く必要のあるのはこの欄である。

h. で囲んだ部分は、調査者だけで記入できる。しかし、記憶・印象の薄れないうちに書き入れておく必要のあることは言うまでもない。

i. 調査地点番号は、正式には報告が来たらから、調査センターでつける。研究員は、書き入れない。

k. 調査地点(調査現在の地名)のふりがなは、町や村の字などにもつけること。チュウカマチか、ソウカムラカ(これは現地で被調査者に聞いておいた方がいい)。

e. 調査地点名は、集落(小字または丁目など)まで記入すること。

f. 調査地点のおもな産業は、農業とか工業など。細目についても、できれば記入する。

例 農業(米作・粟麦・りんご)

g. 調査した場所とは、被調査者宅とか、小学校・寺院などのこと。

5.3 項目の質問を始める前に それまでいじりかた説明し、納得してもらってあるはずだが、もう一度調査の対象とする質問について念をおしておく。

質問を始める直前に、開始時刻を記入する。調査開始時刻は、どのときと考える。なお、調査票の支戻にある終了時刻なども、その都度記入すること。

5.4 質問の形式 項目を調査する際は、次のようになっている。左に項目番号と村名の有無をあらわす記号(輪)がある。次に、質問文・その注意書き(小さい字)、質問文に対する答えを東京語の形(ローマ字)で示す。余白は、答えの記入欄である。ところで、質問文には2つの形式がある。

5-4-1 なぞぞ式質問 項目番号001~018などの質問の形式を、なぞぞ式の質問とよぶ。この調査では、共通語を覚えて方言で翻訳させるという方法とはらない。日本における共通語のめざましい現状から、翻訳法はいくらの点で不利と不利とされたことがその理由の1。共通語形と方言形との意味分析が必ずしも一致しない(極端な例だが、九州などでアザを何と何と尋ねて「やはアザと言います」と答えると、それが東京方言でのホクホに当たるものとして答えているという事象が起りうる)から、翻訳法のみによることは避けるべきだと考えたことがその2。また、なぞぞ式質問であれば、調査者相互の間で質問内容の差(たとえば、項目を「i」C?とだけしておくと、ある調査者は聴覚障害者としての「i」C?がここえの「i」だけを開きと、ある調査者はみみたぶ(耳たぶ)に当たる「i」だけを開きとすることによって生ずる)を小さくできると考えたことがその3。要するに、このなぞぞ式質問は、意味分析を一定の質問文によって説明し、それに当たる方言形を求めることを原則としているわけである。

5-4-2 S式質問 項目番号019、020、025、026などの質問の形式をS式(SemanticsのS)質問とよぶ。ある程度を示し、方言での意味・用法を尋ねる質問である。

S式質問には2種類ある。その1は「にはどういう意味・用法があるか」という質問である(たとえば026、144など)。この類の質問は、その方言での意味・用法をすべて聞き出すことをめざしている。共通語と一致するものも、被調査者の方言であればとりあける。

ある一定の語形に対する意味・用法は、他の方言と多少か少かれずれがあるから——完全に一致することはほとんどないと言っよう——特色があれば用例による説明が必要である。

ただし、この類の質問は、被調査者とのやりとりだけで完全な答えを期待することはむずかしいだろう。今回の調査では、被調査者の答えを範囲や満足しなげばならない。なお、この類の質問にはいってそれに伴ういくつかの質問があるから、それらに関連して効果をおぼることが望ましい(たとえば、203、204、205、209と進んでみて、ふたたび203にもどってみるなど)。

S式質問の形は「へにはこれこれの意味・用法があるか」という質問である(たとえば、019-020-027など)。この類の質問では「使う」「使わない」のどちらかの答えしかない。例を説明しよう(たとえば、項目番号202の質問で、その方言でスワルが「笑う」の意味であるなら、答えは「使う」である。別の方言で、スワルという形がなく、それに対してフアルと近いそのフアルに「笑う」の意味があるなら、フアルは語形としてスワルに当たると考えるから(詳しくは後述)、これも答えは「使う」である。しかし、スワルあるいはフアルなどという形がなく、捨てるという意味にはウプチャールという形しかない方言では、たとえウプチャールに「笑う」の意味があるにしても、語形がスワルに当たるとは言えないから、答えは「使わない」である。それをその語形に当たると認めると、他の語形とするかについては、実際の場ではいろいろな問題が出てくるであろう。これについては、次のように決める。

a. 示した語形と極めて類似した形は、その語形に当たると認める。たとえばスワルに対してアテル、アカイに対してアキヤなど。また、語幹が同根の用語は、その形に当たると認める。たとえばアカイに対してアカカなど。これらは、記入のときに、その形を「使う」の次に示しておく必要がある。

b. 被調査者・被調査語を除けば、同根の形は、その語形に当たると認める。たとえばニワに対してニウ、スワルに対してウッスル(ウツスワル)など。これらの場合も、その形を「使う」の次に示す必要がある。

c. 示した語形がその一部になっている語形は、その形に当たると認めない。たとえばニワに対してウスニ、カドに対してカドナなど。この場合は、その形を「使わない」の次に示す必要がある。

d. 以上の基準で決めることのできない場合は、調査者の判断にまかせる。この場合も、その語形を「使う」または「使わない」の次に示しておく必要がある。

なお、蛇足ながら、このS式質問では共通語の場面でも使う、方言の場面でも使わないという場合が多いから、調査の際に注意する必要がある(『調査することば』参照)。

5-43 印字は、次の質問への導入文である(001の前、014の前など)。

5-45 質問のしかた 調査は、注意書きを参照しながら質問文を(付録のある場合はそれを示して、さらに必要なときは、質問の求めるところを指し)、それに対する答えを求めながら進んで行く。

調査は質問文とよって行い、ほかのことは発音しないことを原則とする。ただし、質問文を自然な話しことばに言いかえること、適当に方言言葉を加味することはさしつかえない。なお〔 〕内の語形についてはすでに方言語を導くはずだから、その語形に直し直してよい。

項目は質問しないうやう、また答えやすいようには考えて並べたが、調査者の考えで順序を変えることはさしつかえない。

書合によっては、付録のかわりに実物を使ってよい(たとえば顔の名を問う書合など)。

5-51 質問中に起こるいろいろの場合の処理

これについては、次のように決める。

a. 答えがなかなかないとき——質問文をくりかえし、また、質問文の範囲内で解説してみる。
b. 共通語で答える、あるいはその方言がでないとき——別の言い方はあるかないか、方言(土地のことば)ではどう言いますかと聞いてみる。共通語や予想される方言を考え、答えを再導してはならない。答えが被調査者自身のことばであることが確かめられない限り(再導の方法によって得た答えは、被調査者の聞いたことのあることばであって、自分で使ったことのないことばである場合が多い)。その区別ははっきりしない限り)、あとで解釈にさしつかえをせず、一般に役に立たない。なお5-52、5-52参照。

c. 質問の実施に示した共通語形と違う語形で答えたとき——同じ品詞での答えはないか追及してみる。適当な答えがない場合は、別の品詞でもとりあげる(その場合は、品名を注記する)。用語については終止形を答えてとりあげる(終止形の用法がない場合は、代りの形にそのむね解説をつける)。

d. 答えが2つ以上出たとき——それぞれ答える間の、意味上・用法上の違いをかみかきながら注記する。これは2つの必要などである。民間語彙も一見無意味のようであっても記入しておく。これらの注記は、地図の解釈にとって大切な資料となる。

e. 質問の対象となっている事物が被調査者の生活圏内でない(と思われる)とき——それを確かめて注記する。たとえば、馬を飼わない地方があり、さつまいもとれないところがある。都市では畜産関係の項目の答えが得られないことがある。

f. 質問の実施に示した共通語形とかけ離れた見当違いの答えをしたとき——質問文をくりかえし質問文の範囲内で解説し、誤解を解くようにつとめる。

g. 以上いずれの方法でも適当な答えが得られないとき——別の質問によって尋ねる(この場合は、その質問を注記する必要がある)。誘導法を避けるべきであることは、b. で述べた。

5-52 被調査者をなせさせるには 調査者はこのような質問文になれていないから、はじめのうちは質問にびつたりした答えをなかなかしてくれないかもしれない。また、その方があたりまえとも言える。誘導法を用いない調査法はむだな努力のように思えることもある。しかし、調査を進めて行くに従って、はじめはよく初めのうちに、調査をどうしようか進めようか、質問はどんな形式でなされるか、被調査者もそれに対してどういふ答えをすべきかをじゅぶん納得させ、なせさせ、いかに積極的に関与して行く必要がある。最初の部分にたっぷり時間をかけた方が、かえってあとへ行ってスピードがあがることも多い。5-51の調査を200項目すべてに使うことは、考えてもおそろしいことだが、多くの場合は、調査の初期にだけ用いればじゅぶんであろう。第1調査票30項目をすませたころから、まだこの調査になれていない人は、この調査に適当な被調査者または考えられない。

5-6 記入の方法 経歴表の記入については、すでに5-2で述べた。項目の質問に対する記入欄には、被調査者の答えを忠実に記入する。参考となる発音もその程度記入しておく。

5-61 表記法 音声の表記は、原則として国際音声字母とし、都合によってカタカナを用いることも妨げないこととする。音声表記は簡略表記でよから、国際音声字母の使えない研究員はできるだけ使おうと望ましい。国際音声字母は、岩波全訳「音学」(第8刷以後)の発音表を参照してよい。なお、補助記号も国際音声字母のを使う。

音記号としてカタカナを使うときは、次のきまりに従うこと。次に示す音以外の特殊な表記は、適当にくりかえしついでないが、その説明を必ず添えること。

(1) よう音・つまる音・長音の表明方法は、次のようにへの印を使う。

例 オタマ^マダ^ダクシ
ツア^アツナ
ト^トモロコジ

長音を表すのに、ト^トモロコジのように、かなづかい式に書かないよう注意する。

また、ト^トモロコジのようにへの印も使わない。

(2) はれる音はへの印を使わない。

例 サクパン (サクパン)としない

(3) 方言によっては、共通語のアイ、カイ、サイに当たるところに、アよりは狭く、エよりは広い母音を含む音節(ツクパン)が出る。英語の man の a に似た母音で、国際音声字母で [æ] [œ] [sæ] などのように書く音節である。これらを、

$\widehat{ア}_m$ $\widehat{カ}_m$ $\widehat{サ}_m$ ……

のように表わす。

例 アカム [akam] 赤い (岡山方言)

- (4) 方言によっては、共通語のアイ、カイ、サイに当たるところに $\widehat{ア}_m$ よりは狭く、 $\widehat{エ}_m$ よりは広い母音が出る(国際音声字母で[e][ke][se]……。これを

$\widehat{エ}_T$ $\widehat{ケ}_T$ $\widehat{セ}_T$ ……

のように表わす。

例 アケツ [ake] 赤い(新潟市方言)

- (5) 北関東から東北地方にかけて、共通語のイとエとに当たるところに、同じ一つの母音が出る。これを。これは、イよりも広く $\widehat{エ}_m$ よりも狭い母音で、国際音声字母では[e]で書く音である。これを

$\widehat{エ}_i$

で表わす。

例 エイト [eto] 糸(白河市方言)

- (6) 新潟県中部地方に開かれる、 $\widehat{ア}_m$ よりも広く、 $\widehat{ア}_m$ よりも狭い母音(国際音声字母で[ɔ])を含む音節は

$\widehat{ア}_x$ $\widehat{カ}_x$ $\widehat{サ}_x$

のように表わす。

例 アキサ [ɔ] 餅(泊)

- (7) 九州地方その他で、共通語のエに当たるところに出る[e]の音は

$\widehat{エ}_m$

で表わす。

- (8) 一般に、かな2字またはそれ以上で1音節(シラブル)を表わすときは、記号へを使う(はねる音の例外、82を参照)。

例 ウイ [wi], イアム [jɔm], イエアア [je:]

- (9) いゆるが行鼻音は次のように表わす。

カガ $\widehat{グ}$ …… $\widehat{カ}_m$ $\widehat{ウ}_m$ ……

例 カガミ [kaɡami] 鏡(東京方言)

- (10) 母音の無声化は、次のように表わす。

例 キタ [kita] 北(東京方言)

5-62 状況符号など 音声の表記以外の記入については、次のような符号を用いることとする。

被調査者が答えたときの状況は、次の符号によって表わすこととする。

! おもしろい(笑)いながら答えたとき。例 !ゴアツテ(項目111)

? 疑いながら(自信なさそうに)答えたとき。例 ?ネホク(項目061)

* はずかしそうに答えたとき。例 *ケツアリオホメ(項目220)

思い出さなくて、だいたい考えてから答えたとき。1回目の質問で答えず、もう一度尋ね直してやっと答えたとき。例 #マツリカヂ(項目130)

* 答えを訂正したとき

例 コシタル(前の答え)、*コナル(新しい答え)(項目024)

NR 質問文をくりかえしても、解説しても、代りの質問をしても答えの得られないとき、記入欄に書く。

とばで説明した注記は、被調査者のものと調査者自身のものとを区別する。

<……> 被調査者の説明は、< >で囲む。

(……) 調査者自身が加えた説明は、()で囲む。

[……] 調査の場にいあわせた第三者が、有益な説明を加えた場合は、調査者の判断で、とりあげてもよ

い。これは()で囲む。

() [] には、上にあげた符号がはいりうる。[*] $\widehat{ヌ}$ $\widehat{ワ}$ とあれば、第三者が被調査者の答えを訂正して答えたものであることを示す。(?)は、調査者自身がこの答えは疑わしいと判断したことをあらわす。被調査者自身に関する場合は < > を使わない。

また、< > () [] の中に、次の點語を使ってもよい。例 デンデンムタ(郷)

古 今は使われない、自分が音使った。

新 新しいことば。音は使わなかった。

ユ ユーモアのある言い方。おどけた言い方。

上 上品なことば。

下 下品なことば。ののしることば。

共 共通語的場面で使う。

隠 隠語として使う。

子 子どもに対して使う。

希 たまにしか使われない。

希 さらに、必要があれば次の符号を使う。

~~~~ この部分のはっきりしない、はっきり聞きとれなかった。

例 マナダ(項目034)

—— これ間違いない、誤記でない。

例  $\widehat{ウ}$   $\widehat{ウ}$   $\widehat{マ}$ (項目030)

5-7 被調査者の決定 3-2の終りのところで述べたように、調査者は調査を進め、第1調査票が終わったところで、その人がこの調査の被調査者として適当かどうかを判断する。判断の基準は3-2で説明した。また、5-6で述べたことも参考となる。

ここで適当と認められた被調査者については、引き続き第2調査票に移る。不適当と判定した被調査者については、調査を打ち切り、あらためて別の被調査者を探して、第1調査票から調査を始める。

不適当と認めて調査を打ち切る場合、相手に調査を途中でやめたという印象を存えることはおもしろくない。第1調査票を分列したのは、そこを考えたためである。こうすれば、とにかく1回の調査票を全部すませたことになるから、相手に悪い感じを存えないで済む(そのためには、付録も第1調査票の分と第2調査票の分を、あらかじめ分けておく方がよい)。経歴表についての調査で不適格であることがわかった場合も、その場ですてず、第1調査票だけはいちおう調査してみてよい。時間のむだは火にしたことでないし、せっかく調査に協力する気持で会ってくれた人に、礼を失いたくないで済むと考えられる。調査者の側については、第1調査票の終わったところで判定しなければならぬのだから、ぼくぞんとした不満を持ちながら調査を続ける状態に、区切りをつけられて好都合だと思う。

5-8 状況 現地の被調査者や協力者(紹介者など)に対して、希望があれば所在地式の札状(公文書)を出すことができる。希望者はあて先の氏名・住所を連絡してほしい。研究所から本人まで直接送附する。

### 6 調査センターへの報告

6-1 提出期限 11月30日

6-2 提出するもの

- ・各調査地点の経歴表(報告用)
- ・国土地理院5月分の1地形図
- ・各調査地点での調査結果カード(付・表記の説明)
- ・調査者の感想

6-21 経歴表 記入(調査者保存)用の記録を整理して記し、調査票から切り離して提出する。各標の説明

は、記入用のそれに準ずる(5-2 参照)。なお、調査所要時間は、第1項の開始から最終項の終了までの時間をさす(途中に長い休止時間があれば、その分は差し引く)。

#### 6-22 国土地理院5万分の1地形図

6-221 地形図は、本年度調査に関係のあるものも、そうでないものもすべて一括して提出する。すなわち、送付したものをすべて返送するわけである。

6-222 本年度調査した地点は、集落を単位として着色塗りで塗りつぶし、その地名に傍線を引く。集落を単位としてといっても、便宜上、被調査者が音節形成期を過ぎた地点を中心に、最大1cm<sup>2</sup>程度を塗りつぶす。あまり細かくしてもいけない。

6-223 地形図の取り扱ひ法 地形図を使う便宜上、県界・郡界などは必要に応じて着色してもさしつかえない。また、地形図は別の折り方をしない。今後、調査の終わるまで続けて供りから、大切に扱うこと。

6-23 調査結果カード 調査地点ごとに一葉にし、調査地点名を記入した紙(研究所から用紙を送る)をつけて提出する。

#### 6-231 カード各欄の説明(本編 31 ページ参照)

(1) 項目番号を記入する。

(2) 答えや状況符号などを記入する。

(3) 解説注記を記入する。

(4) 地点番号記入欄。ただし、この欄は調査センターで記入する。

6-232 記入の一般的注意 要領は5-6に準ずるが、カードには被調査者の答えや説明をそのまま機械的に記入するのではない。明らかに誤りだと認められる答えなどは、記入するに及ばない。説明は、被調査者が方言で言ったものは共通語に翻訳し、言はずの表現はわかりやすいように補うこと。また、調査票に記入してないことでも、誤解を招きそうな答えには解説を加える(たとえば、雑草をオスとのみ書くと、オスウシあるいはオウシなどと音わない地方では、オスと記入するだけでなく、オスウシと音わない。オスと音えは牡牛のことです、牡馬などとまがえることはないなどと注記しておく)。

2つ以上の答えがある場合は、相互の意味上・用法上の違いについて説明が必要であることは、5-31 d. 1. のべた通り。

6-233 表記法の説明 5-61, 5-62に示した表記法以外の表記をする場合は、「表記法の説明」を提出すること。

6-24 調査の感想 内容は、調査・報告一般についての感想、調査センターへの注文など。特に必要ある場合提出する。分量は自由。

6-3 その他 報告用紙は、すべて研究所から送る。調査票(保存用経歴表も)、調査票付図は提出しなくてよい。調査票はカードの原簿とし、調査票付図は翌年度の調査に必要なから、大切に保存すること。なお、第1調査票だけで調査を打ち切った場合の調査結果は提出する必要はない。この「手引き」も提出しなくてよい。なお、1960年度以降の調査にあたっては、手引きを補った点がある。

7 c式質問 調査のしかたなどは、第1・第2調査票と全く同じであるが、項目のうち、Cの印をつけたものについては、説明する必要がある。これは、質問の文章のなかに、二つまたは三つ以上の答え(語形)を出して、どれを使っているか選び出してもらう形式をとっている。答えは、あげた語形のうち、選ばれたものを質問文中のカナ表記そのまま引き写す。その音声は正確に記入する。もちろん、質問として出す語形以外のものをふだん使っていれば、それも記録する。Cは choice のCである。

8 音声に関する項目 項目には、できるだけ全国共通の語形が出ると予想されるものを選んだが、別の語形の出ることも考えられる。その時には、もし、質問文のあとにローマ字で示した共通語形として言うときにはどう言うのかをふつうであるかを確かめる。別の語で示した注目点を確かめることは避ける。

たとえば背中を、沖縄では[ku]あるいは[naapɔ]などと答えるであろう。その時には、共通語でセナカを言うときの発音も、かならず確かめ、共通語としてでしか音わないことを注記する。セウエー(傘)について

セーのところをどう言うか調べるのではない。

正月を [iɪjigwata] などと答えた場合は、いちおう注目点(グワ)に関連のある答えを得たことになるが、これも共通語の形と一致しないから、この場合も、かならずシューガクを言うときの発音も確かめる。

音声に関する項目は、注目点を調べるのが第1の目的であるが、できるだけそれ以外にも気を配る。たとえば七月は [iɪjijɔnɔ] か [ɕijijɔnɔ] か以外に、[iɪjijigwata] か [iɪjijɔpɔ] かなども気を配る。税金は [ɕɛnkiŋ] か [ɕɛnkiŋ] か以外に [ɕɛnkiŋ] か [ɕɛnkiŋ] にも注目する。

日本語地図①付録A

昭和41年3月初版発行

昭和56年10月縮刷版発行

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3丁目9番14号

電話 東京(03)900-3111(代)

Introduction  
to  
The Linguistic Atlas of Japan

— Methodology —

The National Language Research Institute

TOKYO

1 9 6 6 First Print

1 9 8 1 Reduced Scale Reprint